

第3章 クロス集計

A 就学前の子どもを育てている世帯の生活と子育て 第1調査（調査票Ⅰ）

1 回答者と家族の状況

本調査の調査票Ⅰにおける回答者の特徴としては、母親の回答が75.4%で最も高かったが、父親も22.2%回答してくれていること<図2-1参照>、また居住年数が1年（20.9%）、2年（16.1%）といった浅い年数の世帯の回答も高かったことがあげられる<表2-4参照>。父母の回答の差については2章Bに示されているが、これらの状況も踏まえつつ、ここでは特に条件別の有意な差がみられた特徴をみていく。

（1）居住年数別にみた特徴

居住地域については、父親・母親回答ともに、

「1・2年」「3・4年」といった居住年数が浅い世帯では「麻布」「高輪」「芝浦港南」地区に2～3割程度ずつ住んでおり、「5～9年」では「芝浦港南」地区が半数を占める。さらに「10年以上」になると、「麻布」「赤坂」「高輪」地域が2～3割と高くなっている<表3-1>。

住宅の種類については、父・母回答ともに、「1～4年」では「民間の賃貸住宅」が多く、「5年以上」になってくると「持ち家」が7割弱と高い。また「社宅・公務員住宅」は転勤もあるため「1年～9年」に渡って1割程度となっている。「都営・区営・UR等」の割合は全体的には少ないものの、「1・2年」と「10年以上」が1割弱とやや高く、長年住んでいる者と近年住み始めた者がいる<表3-2>。

表3-2 居住年数×住宅の種類

■回答者は父

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1・2年	73	39.5%	80	43.2%	15	8.1%	13	7.0%	4	2.2%	185	100.0%
3・4年	62	48.1%	40	31.0%	9	7.0%	15	11.6%	3	2.3%	129	100.0%
5～9年	107	67.3%	29	18.2%	7	4.4%	14	8.8%	2	1.3%	159	100.0%
10年以上	33	68.8%	7	14.6%	3	6.3%	2	4.2%	3	6.3%	48	100.0%
	275	52.8%	156	29.9%	34	6.5%	44	8.4%	12	2.3%	521	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=46.387 自由度=12 p=0.000* * p < 0.05

■回答者は母

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1・2年	202	29.8%	377	55.6%	41	6.0%	45	6.6%	13	1.9%	678	100.0%
3・4年	212	48.3%	179	40.8%	19	4.3%	27	6.2%	2	0.5%	439	100.0%
5～9年	361	69.4%	88	16.9%	25	4.8%	41	7.9%	5	1.0%	520	100.0%
10年以上	81	66.4%	20	16.4%	10	8.2%	2	1.6%	9	7.4%	122	100.0%
	856	48.7%	664	37.7%	95	5.4%	115	6.5%	29	1.6%	1,759	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=275.821 自由度=12 p=0.000* * p < 0.05

家族構成の「父母+子」は居住年数に関わらず高い割合であるが、「父母+子+祖父+母」については居住年数が長い「10年以上」において高くなっている（父回答：20.8%、母回答：14.8%）。また母回答の「母+子」世帯は全体でも5.1%で

あるが、居住年数の浅い「1・2年」と反対に「10年以上」で若干高くなっている<表3-3>。

子どもの年齢については、父・母回答ともに居住年数「1・2年」では「0歳」と「1歳」を合わせて4割前後となっている。居住年数が長くな

第3章のクロス集計表は数が多いため別冊として掲載した。

ると子どもの年齢階層も上がり、居住年数「10年以上」では「5・6歳」と「4歳」を合わせて4割半となっている<表3-4>。

また子どもの通園先についてみると、母回答における「(保育園にも幼稚園などにも)通園していない」という回答が、居住年数の浅い「1・2年(46.7%)」「3・4年(32.2%)」で特に高くなっているが、これは上述の子どもの年齢も関係していると思われる<表3-5>。

家族の健康や障害の有無については、子どもについては差がみられなかったが、「子ども以外の家族の健康や障害」について不安がある世帯は、父・母回答ともに、居住年数「10年以上(父回答:18.8%、母回答:13.9%)」で高くなっているのが特徴的である<表3-6>。

(2) 世帯年収別にみた特徴

世帯年収別の住宅の種類では、年収が高い方が「持ち家」率が高く、「民間の賃貸住宅」に居住している世帯は年収に関係なく2～4割半程度存在しており、これは父・母回答ともに共通している。その中で父親回答では、「年収400万円未満」層の「民間の賃貸住宅(46.7%)」の割合が高く半数近くになっている。「都営・区営・UR等」については、父回答では「500～700万円未満(12.1%)」「700～1,000万円未満(14.7%)」と500万円以上の比較的高い年収階層での割合が1割を超えて高くなっているが、母回答では「400万円未満」層が16.8%と高い<表3-7>。

家族構成では特に、母回答における世帯年収「400万円未満」層で、「母+子(21.6%)」世帯が

表3-7 世帯年収×住宅の種類

■回答者は父

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
400万円未満	14	31.1%	21	46.7%	4	8.9%	2	4.4%	4	8.9%	45	100.0%
400万円～500万円未満	9	30.0%	9	30.0%	1	3.3%	10	33.3%	1	3.3%	30	100.0%
500万円～700万円未満	23	39.7%	14	24.1%	7	12.1%	12	20.7%	2	3.4%	58	100.0%
700万円～1,000万円未満	57	49.1%	25	21.6%	17	14.7%	15	12.9%	2	1.7%	116	100.0%
1,000万円～2,000万円未満	133	67.2%	55	27.8%	4	2.0%	4	2.0%	2	1.0%	198	100.0%
2,000万円以上	34	54.8%	27	43.5%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	62	100.0%
合計	270	53.0%	151	29.7%	33	6.5%	44	8.6%	11	2.2%	509	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=114.977$ 自由度=20 $p=0.000^*$ * $p<0.05$

■回答者は母

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
400万円未満	56	33.5%	67	40.1%	28	16.8%	13	7.8%	3	1.8%	167	100.0%
400万円～500万円未満	46	41.1%	39	34.8%	10	8.9%	14	12.5%	3	2.7%	112	100.0%
500万円～700万円未満	86	41.5%	64	30.9%	14	6.8%	36	17.4%	7	3.4%	207	100.0%
700万円～1,000万円未満	177	51.2%	112	32.4%	19	5.5%	32	9.2%	6	1.7%	346	100.0%
1,000万円～2,000万円未満	331	56.5%	224	38.2%	14	2.4%	11	1.9%	6	1.0%	586	100.0%
2,000万円以上	117	48.8%	116	48.3%	2	0.8%	4	1.7%	1	0.4%	240	100.0%
合計	813	49.0%	622	37.5%	87	5.2%	110	6.6%	26	1.6%	1,658	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=179.183$ 自由度=20 $p=0.000^*$ * $p<0.05$

2割を超えて高くなっている<表3-8>。母方の親との同居率についても、「400万円未満」層で「同居している（8.5%）」が1割近くとなっている<表3-9>。

父親の年齢については全体の平均年齢で38.4歳であったが、母親回答の「父親年齢」についてみると、年収「400万円未満層」で「30歳未満（11.8%）」すなわち20歳代以下の若い父親が1割を超えている<表3-10>。

一方、母親の年齢については、全体の平均年齢は35.8歳であった。年齢が若い20歳代以下の母親についてみると、父親回答の「母親年齢」では「400～500万円未満（13.3%）」「500～700万円未満（17.2%）」「700～1,000万円未満（10.5%）」の所得階層で若い母親の割合が1割を超えていた。母親回答の「母親年齢」では、「400万円未満（18.7%）」「400～500万円未満（20.0%）」といった低い所得階層で20歳代以下の母親が2割前後と高くなっている<表3-11>。

子どもの人数については、特に父親回答の世帯年収「400万円未満層（91.3%）」「400～500万円未満層（80.0%）」で「1人」の割合が高い<表3-12>。

健康面では、家族の健康や障害について、母親回答の年収「400万円未満（12.7%）」層で、不安を抱えている者が比較的多い<表3-13>。

親の働き方では、母親回答の「400万円未満（55.2%）」「400～500万円未満（57.3%）」「500～700万円未満（56.5%）」に「共働きではない」世帯が多くなっている。この中で、特に年収「400万円未満」層は、上述のように母子世帯も2割を超えており、「専業主婦で共働きではない」世帯だけではなく「ひとり親家族のために共働きではない」世帯も含まれている<表3-14>。

表3-20 居住年数1年以下の居住地区

	実数	%
芝地区	66	13.4%
麻布地区	107	21.7%
赤坂地区	70	14.2%
高輪地区	128	26.0%
芝浦港南地区	117	23.7%
無回答	5	1.0%
合計	493	99.0%

子どもの通園先では、母親回答の「幼稚園」は年収「400万円未満（18.5%）」で少なく、「通園していない」子どもは、年収「400万円未満（38.1%）」「400～500万円未満（39.3%）」「500～700万円未満（39.3%）」と700万円未満より下の階層で、それぞれ4割近くと高い。「保育園」は特定の階層に関係なく、全体的に3割～4割が通園している<表3-15>。

世帯年収別にみた父母学歴の全体的傾向は、世帯年収が高くなるほどに「4年生大学卒業」が高くなり、反対に年収が低くなるにつれて「高校卒業」と「専門学校卒業」が高くなっている。母親学歴の「短大卒業」は、年収による傾向はみられない<表3-16>。

これを回答者と世帯年収別でみると、「父親の学歴」について、母親回答では年収「400万円未満（31.6%）」「400～500万円未満（23.1%）」の「高校卒業」も2割を超しているが、父親回答では14%前後である<表3-17>。「母親の学歴」についても、母親回答では「400万円未満」層の「4年生大学卒業（32.3%）」は3割台に落ち込み、その分「高校卒業（24.1%）」や「専門学校卒業（22.8%）」が2割を超えて高くなっているが、父親回答では、そうした傾向はみられない<表3-18>。本調査での父親回答の世帯は、父親自身も母親も、より高い学歴傾向にある。

(3) 1年以下居住者の特徴

回答者全体の20.9%を占める「1年以下居住者」の状況をおさえておく。

回答者は、「母親」が76.3%、「父親」が23.7%で、全体の傾向と大差はない<表3-19>。

居住地域は、「高輪（26.0%）」「芝浦港南

表3-21 居住年数1年以下の住宅の種類

	実数	%
持ち家	158	32.0%
民間の賃貸住宅	249	50.5%
都営・区営・UR等	33	6.7%
社宅・公務員住宅	40	8.1%
その他	11	2.2%
無回答	2	0.4%

(23.7%)」「麻布 (21.7%)」が高く<表3-20>、住宅諸種類では「民間の賃貸 (50.5%)」と「持ち家 (32.0%)」で8割を占めている<表3-21>。

世帯構成は「父母+子 (90.7%)」で9割を超え<表3-22>、父母の年齢平均は、父親が36.9歳、母親が34.4歳と全体よりも若く、特に20歳代の母親は2割弱と高い(「30歳未満 (17.2%)」)<表3-23>。

子どもの数は「1人」が79.5%と一人っ子が多く<表3-24>、年齢も「0歳児」が29.8%と高い<表3-25>。

親の働き方では「共働きではない (51.1%)」<表3-26>、母親の職業では「就労していない (46.7%)」<表3-27>と約半数が専業主婦で子育てをしていると思われる。そのため子どもの通園先も、「通園していない」が46.0%と半数近い<表3-28>。

2 親族と社会的ネットワーク

(1) 親族とその援助

親族、特に祖父母からの援助について、母親回答からの特徴をみていく。

今回の調査では父母子世帯が多数であったので、同居していない祖父母の居住地についてみていく。父方の祖父母も、母方の祖父母も、居住年数「10年以上」では「港区内 (父方：12.8%、母方：16.8%)」に居住しており、反対に居住年数の浅い「1・2年」では「都外 (父方：75.5%、母方：75.6%)」に居住している場合が相対的に高い<表3-29>。

祖父母からの援助は、全体では「子どもを預かるなどの援助」と「食料品などの物での援助」が高かったが<図2-9参照>、所得階層「700万円未満」から下の階層では「住宅の提供」が1割～2割弱と相対的に高く、「1,000万円以上」では「子どもを預かる」が6～7割と高いのが特徴である<表3-30>。

親の働き方で比較すると、「共働き世帯」は「子どもを預かる」や「掃除・家事の援助」がより高く、「共働きでない世帯」は「食品などの援助」「金銭的援助」「住居の提供」が共働き世帯よりも高くなっている<表3-31>。

こうした祖父母の援助を8割近くの母親が「頼りになる」と評価している<表3-32>が、そう

表3-31 共働きの有無×祖父母からの援助 (複数回答)

■回答者は母

	金銭的援助		子どもを預かるなどの援助		住宅の提供		食料など物での援助		掃除・家事などの援助		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
共働きである (n=602)	94	15.6%	366	60.8%	48	8.0%	266	44.2%	119	19.8%	64	10.6%
共働きではない (n=594)	114	19.2%	327	55.1%	65	10.9%	294	49.5%	84	14.1%	58	9.8%
合計	208	17.4%	693	57.9%	113	9.4%	560	46.8%	203	17.0%	122	10.2%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=20.142$ 自由度=6 $p=0.003^*$ * $p < 0.05$

した「頼りになる」と回答した母親と、「頼りにならない」と回答した母親とは、何によって差が生じてくるのであろうか。

祖父母の居住地については、父方についても母方についても、祖父母が「区内 (父方：88.2%、母方：87.2%)」や「都内 (父方：86.1%、母方：88.5%)」に居住している方が「頼りになる」と回答していた。しかし、「都外」に住んで

いる場合は、「頼りになる」という回答は、父方で76.1%、母方で74.9%と低くなっていた。やはり近くに住んでいる方が頼りになるのであろう<表3-33>。

「子どもの健康や障害の心配」と「子ども以外の家族の健康や障害の心配」についても、祖父母が「頼りにならない」と回答した母親の方が、健康や障害を心配する子ども (5.7%) や家

族（10.0%）が「いる」割合が高くなっている（表3-34）。障害や健康に関わる他の施設や機関に繋がっていることが影響している可能性もある。

親の働き方の違いでは、どちらも「頼りになる」と思っているが、「共働きでない世帯」の方が、「頼りになる（80.8%）」という割合がより高かった。「共働き世帯」は他の社会的資源も使うためか「頼りにならない（24.1%）」が2割を超えている（表3-35）。

祖父母の援助は、「共働きではない世帯」、すなわち多くが家庭で子育てをしていると思われる母親たちの方が、より「頼りになる」という評価をしていたが、それは母親たちの「働いていない理由」にも表れていた。

祖父母の援助が「頼りになる」グループの「働いていない理由」は、「子どもに十分に関われなくなる（68.0%）」「自分が働かなくても生活できる（47.4%）」「家事ができなくなる（36.7%）」「子どもを人に預けるのが不安（18.3%）」「夫が反対する（7.8%）」といった家庭での子育てを志向する母親の意見が比較的多くあり、反対に祖父母の援助が「頼りにならない」と感じているグループでは、「子どもを預けるところがない（56.4%）」「仕事と育児を1人でやることになる（42.3%）」「かえってお金がかかる（31.4%）」「仕事が見つからない（18.6%）」というように、就

労意欲はあるが働けない状況にある理由が高くなっていく（表3-36）。

こうしてみると、専業主婦の方が祖父母の援助を頼りにしている割合は高いが、このことは働いている母親が祖父母の援助の恩恵を受けていない、という事を意味するものではない。「仕事と子育ての両立のしやすさ」について、「父親の仕事」の場合も「母親の仕事」の場合も、祖父母が「頼りになる」と回答しているグループの方が、「両立しやすい（父の仕事：35.9%、母の仕事：69.7%）」と感じていく（表3-37）。

働き方の違いでも、「共働き」の母親ほど「祖父母以外の援助者がいない（52.6%）」と回答している（表3-38）。祖父母の存在で、「共働き」が成り立っている部分が多いのであろう。

祖父母の援助が子育てにとって大きな位置を占めていることを確認してきた。では、「祖父母以外で」困ったことがあるときに頼れる人の存在については、どうであろうか。「祖父母が頼りになる」と回答している母親たちは、祖父母以外の頼りになる人も「いる（57.4%）」と回答し、反対に「祖父母が頼りにならない」母親たちは、それ以外の頼る人も「いない（76.6%）」と答えていた（表3-39）。様々なサポーターがいる母親と、親族もそれ以外のサポーターもいない母親とで二極化している。

表3-39 祖父母は頼りになるか×祖父母以外の援助者の有無

■回答者は母

	いる		いない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
頼りになる	789	57.4%	585	42.6%	1,374	100.0%
頼りにならない	89	23.4%	291	76.6%	380	100.0%
合計	878	50.1%	876	49.9%	1,754	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=13.691 自由度=1 p=0.000* * p < 0.05

（2）社会的ネットワークと地域活動

親族を超えたネットワークの状況について、ここでも母親の回答を中心にみていく。

ア 子育てにおけるネットワーク

日頃の子育てを通しての付き合いを「世間話」のレベルから「自分が病気の時の預け先」までた

ずねてみた。

2章のAやBにあるように、ふだん世間話や子どもの話をする家族以外の相手の有無では、「たくさん」と「数名」で8割弱であり、「いない」という母親は1割を切っていた（表3-40）。これが、子どもを預け合う関係となると反対に「い

表3-43 子どもの年齢×家族以外に預け合う相手の有無

■回答者は母

	いる		いない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	38	11.9%	282	88.1%	320	100.0%
1歳	43	14.9%	246	85.1%	289	100.0%
2歳	38	12.9%	257	87.1%	295	100.0%
3歳	81	26.0%	230	74.0%	311	100.0%
4歳	98	35.5%	178	64.5%	276	100.0%
5・6歳	131	49.2%	135	50.8%	266	100.0%
合計	429	24.4%	1,328	75.6%	1,757	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=170.505$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

ない」が7割半を占める<表3-41>。また母親が病気時の預け先は、「同居の家族(49.5%)」と「親戚(31.7%)」で8割を超え、具体的な援助を伴うネットワークは、家族・親族で占められている<表3-42>。

しかしここには、子どもの年齢なども大きく関連しており、単に母親たちがネットワークを構築できていないというものでもない。子どもの年齢別に「子どもの預け合い」をみると、「預ける相手がいない」は、子どもの年齢が小さい「0歳(88.1%)」「1歳(85.1%)」「2歳(87.1%)」では9割近いが、年齢とともに「預ける相手がいる」が増加し、「5・6歳(49.2%)」では半数近くが「預け合える相手がいる」と回答している<表3-43>。

子どもの人数でも、「一人っ子」の場合は預け合いの相手が「いない(80.7%)」と回答し、きょうだいがある場合は「いる(38.7%)」が高くなっている<表3-44>。

世間話の相手についても、子どもの年齢が「0歳」では、まだ外に出歩く事も少ないためか「いない(9.7%)」が1割近く、子どもの年齢が上がるに連れて「たくさんいる」が増え、「4歳(35.0%)」「5・6歳(39.5%)」では4割近くになっている<表3-45>。

居住年数では、年数の浅い「1・2年」では、ネットワークも小さい、あるいは形成されていない場合が多く、日頃の話し相手が「1・2名いる(17.6%)」「いない(8.3%)」といった状況にある。

居住年数が長く「5～9年(35.3%)」「10年以上(33.9%)」となってくると、「たくさんいる」も3割を超してくる<表3-46>。

「子どもの預け合い」や「緊急時の預け先」についても、特に居住年数「1・2年」では、預け合う人は「いない(82.2%)」<表3-47>、緊急時の預け先も「誰もいない(12.3%)」が高くなっている<表3-48>。

母親の年齢階層では、預け合う人が「いる」と回答した割合は「30歳未満」で13.1%、「30～35歳未満」で21.2%と1～2割だったが、35歳以上になると2割半から3割となり、割合が高くなってくる<表3-49>。

世帯年収別では、「日頃の話し合い」において有意な差がみられ、特に「400万円未満」層の「1・2名いる(21.0%)」と「いない(11.4%)」において、また「400～500万円未満」層の「いない(10.0%)」の回答が高くなっていることが特徴である<表3-50>。

働き方の違いからみたネットワークでは、日頃の話し合いの相手が、「共働き」の場合は「たくさんいる(31.3%)」「いない(7.0%)」において、「共働きではない」母親は「数名いる(49.9%)」「1・2名いる(16.8%)」において相対的に高く、共働きであるからネットワークが大きいというものでもない<表3-51>。

それは「預け合い」の関係においても同様で、「家族以外に預ける相手がいない(77.8%)」母親は、「共働き」の方が高くなっている<表3-52>。

これを裏付けるように、「預ける相手がいない」母親は、幼稚園（18.3%）よりも子どもを保育園に通わせている場合が多い（37.2%）。働いている母親たちは、保育園に繋がっていることで、ま

た仕事の制約もあり、母親たちの子育てを介した個人的なネットワークは広がっていないのかもしれない<表3-53>。

先には、祖父母の援助をはじめとしたネット

表3-54 家族以外に預け合う相手の有無×祖父母以外の援助者の有無

■回答者は母

	援助者がいる		援助者はいない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
預け合う相手がいる	332	78.5%	91	21.5%	423	100.0%
預け合う相手はいない	540	40.8%	785	59.2%	1325	100.0%
合計	872	49.9%	876	50.1%	1,748	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=182.601 自由度=1 p=0.000* * p < 0.05

ワークの二極化について触れたが、ここでもネットワークに関する質問どうしの関連をみていく。子育て関係でも、より深い関係をみることができる指標として「子どもの預け合い」があるが、その質問で、「家族以外に預ける相手がいない」と回答している母親たちは、祖父母以外に頼れる人も「いない（59.2%）」<表3-54>し、緊急時に子どもや身の回りの世話を頼む人も「誰もいない（11.4%）」と答えている<表3-55>。

日常の世間話をする相手についても、「家族以外に子どもを預けられる」母親は、話し相手が「たくさんいる（47.6%）」のに対して、「預ける相手がいない」母親は、話し相手が「1・2名（17.9%）」「いない（7.9%）」と回答している<表3-56>。

イ 地域活動への参加

地域の社会的な活動への参加について、全体では、父親の8割、母親の6割以上が「参加しておらず」、2割ほどの母親が「PTA・子育て活動」に参加し、1割弱の母親が「ヨガなどの健康づくり活動」、1割弱の父親が「町内・自治会活動」に参加しているという状況であった<表3-57>。これらを条件別にみていくが、ここでは父親の回答についてもみていく。

父親回答による「父親の社会参加活動」では、「健康づくり活動」が「芝（11.1%）」「麻布（11.5%）」で1割を超え、「PTA・子育て

に関する活動」が「芝（13.9%）」地区で、また「町会・自治会活動」は「芝（15.3%）」「高輪（13.1%）」地区で高くなっている。反対に「参加していない」は「芝浦港南（83.0%）」地区で8割を超えている。

母親回答による「父親の社会参加活動」については、有意な差がみられなかった<表3-58>。

次に「母親の社会参加活動」についてみていくが、父親回答による「母親の参加」では、「健康づくり活動」が「芝（11.0%）」「赤坂（14.0%）」地区で1割を超え、「PTA・子育て活動」では全体に1割を超えているが中でも、「芝（28.8%）」「麻布（26.3%）」地区では3割弱と高い。「参加していない」割合は「赤坂（70.0%）」地区が最も高かった。

母親自身の回答による「母親の社会参加」では、「お茶やお花などの趣味」が「赤坂（10.3%）」地区で、「健康づくり活動」が「麻布（11.7%）」地区で、それぞれ1割を超え、「PTA・子育て活動」は、父親回答の場合と同様に全ての地区で1割を超えているが、特に「麻布（21.0%）」「高輪（26.2%）」「芝浦港南（20.1%）」地区で2割を超えている。「参加していない」割合は「芝（70.0%）」地区が最も高かった。

ここで再度、母親の「PTA・子育て活動」への参加について、父親回答と母親回答を比べてみると、「芝・麻布・赤坂」地域において、父親回答で参加率が高くなっている。地域別にみた父親

表3-59 居住地区×母の社会参加活動（複数回答）

■父が回答した母（妻）の社会参加活動

	趣味（お花・お茶・料理・手芸など）		健康づくりの活動（スポーツ・ヨガなど）		PTAや学校、子育てに関する社会活動		ボランティア・NPO活動などの社会活動		町会・自治会		その他		参加していない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=73)	6	8.2%	8	11.0%	21	28.8%	4	5.5%	7	9.6%	2	2.7%	40	54.8%
麻布地区 (n=95)	7	7.4%	9	9.5%	25	26.3%	8	8.4%	3	3.2%	4	4.2%	54	56.8%
赤坂地区 (n=50)	4	8.0%	7	14.0%	7	14.0%	1	2.0%	2	4.0%	2	4.0%	35	70.0%
高輪地区 (n=102)	3	2.9%	9	8.8%	16	15.7%	3	2.9%	8	7.8%	10	9.8%	67	65.7%
芝浦港南地区 (n=168)	4	2.4%	13	7.7%	28	16.7%	1	0.6%	7	4.2%	11	6.5%	114	67.9%
合計	24	4.9%	46	9.4%	97	19.9%	17	3.5%	27	5.5%	29	5.9%	310	63.5%

■母が回答した自分の社会参加活動

芝地区 (n=227)	16	7.0%	19	8.4%	35	15.4%	3	1.3%	11	4.8%	8	3.5%	159	70.0%
麻布地区 (n=291)	16	5.5%	34	11.7%	61	21.0%	5	1.7%	22	7.6%	18	6.2%	177	60.8%
赤坂地区 (n=204)	21	10.3%	26	12.7%	28	13.7%	5	2.5%	15	7.4%	3	1.5%	133	65.2%
高輪地区 (n=367)	22	6.0%	32	8.7%	96	26.2%	8	2.2%	18	4.9%	18	4.9%	222	60.5%
芝浦港南地区 (n=567)	28	4.9%	56	9.9%	114	20.1%	8	1.4%	14	2.5%	21	3.7%	375	66.1%
合計	103	6.2%	167	10.1%	334	20.2%	29	1.8%	80	4.8%	68	4.1%	1,066	64.4%

※無回答は集計から除く。

回答世帯は、母親回答世帯に比べて、とりわけ子どもや教育に関する活動に積極的であるように思われる<表3-59>。

居住年数で見ると、父親回答による「父親の社会参加活動」では、「ボランティア・NPO活動」が「10年以上（11.6%）」において1割を超し、「町会・自治会活動」も「10年以上（27.9%）」で3割近いのが特徴である。「参加していない」は「5～9年（79.0%）」が最も高い。これが、母親回答による「父親の社会参加活動」では1割を超す参加活動がなく、ここでも父親回答の父親の方が、社会的参加が高いことが伺える<表3-60>。

父親回答による「母親の社会参加」では、「健康づくり活動」が居住年数「1・2年（11.9%）」で1割を超え、「町会・自治会活動」は「10年以上（18.6%）」で2割弱、そして「PTA・子育て活動」は特に「5～9年（21.0%）」「10年以上（27.9%）」で高くなっている。

母親回答による「母親の社会参加」でも、「健康づくり活動」は「3・4年（11.8%）」と「5

～9年（10.0%）」で高く、「PTA・子育て活動」は「3・4年」以上長く居住している世帯で参加率が高くなっている<表3-61>。

ネットワークと社会参加との関係を見ると、父親回答による「父親の社会参加活動」では、「預け合える相手がいる」世帯では「趣味」「健康づくり」の活動において、「預け合える相手がない」世帯では「PTA・子育て」「ボランティア」「町会・自治会」の活動に参加している父親が相対的に高くなっている。しかし母親回答による「父親の社会参加活動」では、全ての活動項目において、「預け合える相手がいる」世帯の父親の方が活動に参加している割合は高く、「預け合い相手がない」世帯で「参加していない」が9割近い<表3-62>。

「母親の社会的活動」については、父親回答によるものも、母親回答によるものも同様の結果であり、全ての活動項目において、「預け合いの相手がいる」世帯の母親の活動参加は高い。反対に「預ける相手がない」母親は「活動に参加して

いない」が7割近い<表3-63>。

世帯年収では、母親回答による「母親の社会参加」について差がみられた。特徴としては、「400万円未満」層で母親の社会参加について「参加していない(70.3%)」が7割を超えて高くなっていること、「ボランティア」と「町会・自治会」活動は年収階層に関係なく低い参加率であること、反対に「PTA・子育て」活動は、あらゆる年収階層で1割を超えていることがあげられる<表3-64>。世帯年収の父親回答による「父親・母親参加」についても、また母親回答による「父親参加」についても、有意な差はみられなかった<表3-65>。

3 就労に関わる状況

保護者の仕事にかかわる状況についてみていく。

子育てに専念している母親と働いている母親の比較に際して、「共働きかどうか」の条件を使っているが、「共働きではない」世帯については、父親回答で45.1%、母親回答で48.5%であった<表3-66>。この中には、ひとり親世帯も含まれると考えられるため、母親の職業をたずねた質問

で「就労していない」の数値をみていくと、父親回答では41.7%、母親回答では44.1%と、その差は数ポイントであった<表3-67>。ただし「1.回答者の家族の状況」で述べたように、居住年数「1・2年」と所得階層「400万円未満」層では、母子世帯の割合が高くなっているため、データを読む際には、その点を考慮していく必要がある。

以下では、主に母親回答について検討する場合に、上述の「就労していない」母親(=専業主婦)と、それ以外の母親(=就労している母親)を使い検討していく。

保護者の職業について「父親の職種」からみていくと、母親回答では「民間企業の常勤(60.1%)」「自営業・会社経営(22.7%)」「公務員・団体職員(7.1%)」であるのに対して、父親回答は「民間企業の常勤(65.1%)」「自営業・会社経営(16.8%)」「公務員・団体職員(10.3%)」であり、調査の父親回答者は、「民間」と「公務員」が母親回答の世帯よりも比較的多くなっている<表3-68>。

母親回答の「父親の職種」について世帯年収別でみていくと、「400万円未満」層は、「民間企業

表3-69 世帯収入×親の職業

■父親が回答した自分の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
400万円未満	18	42.9%	0	0.0%	15	35.7%	2	4.8%	4	9.5%	3	7.1%	42	100.0%
400万円～500万円未満	5	17.9%	3	10.7%	19	67.9%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	28	100.0%
500万円～700万円未満	10	17.2%	14	24.1%	32	55.2%	0	0.0%	2	3.4%	0	0.0%	58	100.0%
700万円～1,000万円未満	13	11.4%	22	19.3%	77	67.5%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	114	100.0%
1,000万円～2,000円未満	19	9.8%	13	6.7%	153	78.9%	0	0.0%	8	4.1%	1	0.5%	194	100.0%
2,000万円以上	19	31.1%	2	3.3%	38	62.3%	0	0.0%	2	3.3%	0	0.0%	61	100.0%
合計	84	16.9%	54	10.9%	334	67.2%	3	0.6%	18	3.6%	4	0.8%	497	100.0%

※無回答は集計から除く。

■母親が回答した父親（夫）の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
400万円未満	45	33.8%	11	8.3%	50	37.6%	5	3.8%	16	12.0%	6	4.5%	133	100.0%
400万円～500万円未満	24	22.6%	7	6.6%	69	65.1%	2	1.9%	3	2.8%	1	0.9%	106	100.0%
500万円～700万円未満	49	24.1%	30	14.8%	118	58.1%	1	0.5%	5	2.5%	0	0.0%	203	100.0%
700万円～1,000万円未満	65	19.5%	30	9.0%	235	70.6%	1	0.3%	2	0.6%	0	0.0%	333	100.0%
1,000万円～2,000円未満	95	16.5%	37	6.4%	416	72.3%	4	0.7%	23	4.0%	0	0.0%	575	100.0%
2,000万円以上	79	33.1%	5	2.1%	137	57.3%	0	0.0%	17	7.1%	1	0.4%	239	100.0%
合計	357	22.5%	120	7.6%	1,025	64.5%	13	0.8%	66	4.2%	8	0.5%	1,589	100.0%

※無回答は集計から除く。

【父回答】 $\chi^2=119.545$ 自由度=25 $p=0.000^*$ * $p<0.05$ 【母回答】 $\chi^2=185.576$ 自由度=25 $p=0.000^*$ * $p<0.05$

(37.6%)と「自営業・会社役員(33.8%)」で半数以上を占めている。一方、「2,000万円以上」の階層でも同様に「民間(57.3%)」と「自営業(33.1%)」で9割近い。それ以外の400万円以上の年収階層では、いずれの階層でも「民間企業」が6割弱～7割を超えており、民間企業の場合は年収の幅が広いことがわかる。「公務員・団体職員」は「500～700万円未満(14.8%)」「700～1,000万円未満(9.0%)」が比較的高くなっている<表3-69>。

一方「母親の職種」についてみると、母親回答における就労している母親は「民間(31.0%)」で就労している者が多く、「就労していない

(44.1%)」と合わせて7割を超えている。また「臨時・パート就労」は7.2%である。父親回答における「母親の職種」についても同様の傾向である<表3-67>。

以下、母親回答の「母親の職種」について条件別にみていく。世帯年収別では、「400万円未満(15.1%)」「400～500万円未満(13.6%)」と「700～1,000万円未満(11.3%)」に「パート就労」が1割を超えて多いこと、年収「2,000万円以上(11.9%)」では「自営業」が多いことが特徴であり、「民間」と「公務員」は広く分布している<表3-70>。

「仕事との両立のしやすさ」では、「パート

表3-71 母親の仕事と子育ての両立

■母親が回答した自分の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
両立しやすいと思う	66	12.6%	64	12.3%	269	51.5%	76	14.6%	19	3.6%	28	5.4%	522	100.0%
両立しやすいと思わない	28	9.4%	22	7.4%	196	65.8%	25	8.4%	17	5.7%	10	3.4%	298	100.0%
合計	94	11.5%	86	10.5%	465	56.7%	101	12.3%	36	4.4%	38	4.6%	820	100.0%

※無回答は集計から除く。【母回答】 $\chi^2=22.188$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p<0.05$

(14.6%)」「公務員 (12.3%)」「自営業 (12.6%)」で「両立しやすい」が比較的高くなっており、「民間 (65.8%)」では「しやすいと思わない」という回答が高くなっている<表3-71>。

「両立のしやすさ」は帰宅時間にも表れており、「両立しやすい」と回答している母親は「18時 (44.9%)」を中心に「17時 (23.0%)」や「19時 (16.4%)」に帰宅できており、「両立しづらい」という母親は「18時 (32.3%)」「19時 (27.2%)」「20時 (15.7%)」と帰宅が遅くなっている<表3-72>。

「夫の帰宅時間」との関連は、みられなかったが<表3-73>、「自分の仕事の子育てと両立しやすい」と思っている母親は「夫の仕事も子育てと両立しやすい (46.6%)」と感じていた<表3-74>。さらに、夫への評価についても、「両立しやすい」母親は、夫が「頼りになる (よくある: 59.4%、たまにある: 24.3%)」し、「自分の話を聞いてくれる (よくある: 49.1%)」と評価している<表3-75>。母親の仕事との両立のしやすさは、自分自身に関しては帰宅時間などの就労条件が規定要件になっているが、夫に関しては帰宅時間ではない要因が影響していると思われる。

また、「祖父母が頼りになる (69.7%)」<表3-76>と思っている母親や、「祖父母以外の頼りになる人の存在 (69.1%)」<表3-77>がある母

親も、「仕事と子育ての両立がしやすい」と感じている。

次に就労していない母親の状況をみていく。母親回答全体における「就労していない」母親は44.1%<表3-67>であったが、これを母親の学歴別でみると、「就労している」母親は「4年制大学卒業以上 (69.8%)」で7割を占め、「就労していない」母親も、「4年制大学卒業以上 (53.4%)」が半数を占めるものの、「短大卒業 (23.5%)」「専門学校卒業 (12.6%)」「高校卒業 (9.7%)」となっている<表3-78>。

全体の「不就労の理由」は2章Aで述べているが、世帯年収別では、比較的低い500万円未満では、「かえってお金がかかる」「子どもを預ける場所がない」「仕事が見つからない」といった理由が多くなり、年収700万円以上になると「自分が働かなくても生活できる」「家事ができなくなる」「仕事と育児を自分でやらなければならない」といった理由が高くなっている。「子どもに十分に関われなくなる」という思いは、年収に関わらず広く分布している<表3-79>。

キャリア継続との関連では、「学校卒業～結婚 (2.9%)」「結婚～出産 (35.9%)」「出産のあと (92.7%)」の三つの時期でたずねているが、現在「就労していない」母親は、いずれの時期においても「仕事をしていなかった」が高くなっている

表3-81 母親の仕事の状況×子育て観 (育児への専念)

		小さいうちは母親が育児に専念すべき										合計	
		とてもそう思う		まあそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		まったくそう思わない			
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
学校卒業～結婚	仕事をしていた	330	20.2%	541	33.0%	387	23.6%	258	15.8%	121	7.4%	1,637	100.0%
	していなかった	16	50.0%	9	28.1%	2	6.3%	3	9.4%	2	6.3%	32	100.0%
合計		346	20.7%	550	33.0%	389	23.3%	261	15.6%	123	7.4%	1,669	100.0%
結婚～出産	仕事をしていた	228	16.9%	429	31.7%	329	24.3%	249	18.4%	117	8.7%	1,352	100.0%
	していなかった	116	36.7%	124	39.2%	57	18.0%	13	4.1%	6	1.9%	316	100.0%
合計		344	20.6%	553	33.2%	386	23.1%	262	15.7%	123	7.4%	1,668	100.0%
出産のあと	仕事をしていた	84	10.6%	212	26.8%	194	24.5%	199	25.2%	102	12.9%	791	100.0%
	していなかった	250	30.0%	328	39.4%	181	21.7%	55	6.6%	19	2.3%	833	100.0%
合計		334	20.6%	540	33.3%	375	23.1%	254	15.6%	121	7.5%	1,624	100.0%

※無回答は集計から除く。

【学校卒業～結婚】 $\chi^2=18.659$ 自由度=4 $p=0.001^*$ * $p < 0.05$

【結婚～出産】 $\chi^2=106.866$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【出産のあと】 $\chi^2=245.522$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

が、特に「結婚～出産」「出産のあと」の時期で、数値が大きく開いている<表3-80>。

さらに彼女たちの仕事の継続は、仕事と子育てに関する考え方にも反映していた。

「子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべきである」という考え方を支持するかどうかをたずねた質問では、「学校卒業～結婚」「結婚～出産」「出産のあと」の時期に「仕事をしていなかった」母親は、「とてもそう思う」「まあそう思う」の割合が高く支持している<表3-81>。

同様に「女性が仕事をするなら、家事・育児の責任を果たした上ですべきである」という考え方には、「結婚～出産」「出産のあと」の時期に「仕事をしていなかった」母親が、「とてもそう思う」「まあそう思う」「どちらとも言えない」の割合が高く、「あまりそう思わない」「思わない」の割合は低かった<表3-82>。

キャリア継続は、母親たちの意識だけではなく学歴にも関連しており、「結婚～出産 (44.4%)」「出産のあと (66.7%)」の時期における「中学卒業」の母親は、「仕事をしていなかった」が高くなっていく<表3-83>。

4 子どもと子育て

(1) 子どもたちの生活と教育

ここでは、子どもたちの日々の生活と教育に関わる項目をみていく。

ア 家庭生活

家族との生活について、夕食を誰と食べるかについては、2章AとBにあるように「家族揃って食べる」は2割前後であるが、「家族の誰かと食べる」を含めると、全体・父親回答・母親回答のいずれの場合も9割を超えており、就学前の子どもが孤食あるいは子どもだけで食べることは4% (全体と母親回答の場合) 程度である<表3-84>。

以下、母親回答についてみていくが、母親の就労では、「働いていない」母親の方が、「家族揃って (19.2%)」「家族の誰かと (75.6%)」の回答は高くなっているが、就労している母親との差は数パーセントであり、就労している母親も夕食と一緒に食べられるようにと努力している様子が見えがえる<表3-85>。

さらに「仕事と子育ての両立」について、「両立しやすい」と感じている母親は、「家族そろっ

表3-85 母の職業×夕食の相手

■母が回答

	家族そろって一緒に食事が多い		家族の誰かと一緒に食事が多い		家族以外の保育者と食事が多い		子どもだけで食事が多い		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
自営業・会社経営	20	17.7%	81	71.7%	7	6.2%	5	4.4%	113	100.0%
公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者	19	20.2%	69	73.4%	3	3.2%	3	3.2%	94	100.0%
民間企業の常勤的勤務者	97	17.9%	394	72.7%	26	4.8%	25	4.6%	542	100.0%
臨時・パートなどの勤務者	21	16.5%	100	78.7%	3	2.4%	3	2.4%	127	100.0%
その他の職業	8	18.2%	32	72.7%	3	6.8%	1	2.3%	44	100.0%
就労していない	147	19.2%	580	75.6%	2	0.3%	38	5.0%	767	100.0%
合計	312	18.5%	1,256	74.5%	44	2.6%	75	4.4%	1,687	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=38.969$ 自由度=15 $p=0.001^*$ * $p < 0.05$

て (21.9%)」「家族の誰かと (73.1%)」食べているという回答が高く、「両立しづらい」と感じている母親は、「家族以外の保育者と (9.3%)」「子どもだけで (5.0%)」食べると回答している<

表3-86>。

世帯年収別でみた特徴では、「家族揃って食べる」は、パート就労も多い「400万円未満 (36.4%)」で最も高く、漸次、年収階層があがる

につれて、その割合は減っている。これは、仕事の拘束時間に連動しているのであろう。しかし年収「2,000万円以上」になると再び割合が上昇しており、仕事等の時間の余裕も生じているのかもしれない<表3-87>。

子どもの年齢段階の違いでは、「0歳（21.1%）」「1歳（17.0%）」「2歳（19.5%）」までは「家族そろって」食べることが2割前後と相対的に高く、「3歳（78.0%）」「4歳（78.3%）」では「家族の誰かと一緒に」が8割近い。そして「5・6歳（22.9%）」になると再び「家族そろって」の割合が高まっている。一方、「0歳児」で「子どもだけで食べる（10.2%）」場合が多いという回答が1割を超えている<表3-88>。

子どもの人数の違いでは、一人っ子は「家族そろって食べる（19.4%）」割合も相対的に高いが、「家族以外の保育者と食べる（2.7%）」「子どもだけで食べる（5.4%）」も高い。この「子どもだけで食べる」という選択肢は、乳幼児の場合きょうだいで食べることを想定していたが、意外にも一人っ子のほうが、わずかであるが高い結果となった<表3-89>。

子どもの通園先では、「幼稚園（17.5%）」と「通園していない（19.8%）」とで「家族そろって」が高くなっている。また「家族以外の保育者と食べる」のが「保育園（4.7%）」で高くなっているのは理解できるが、「子どもだけで食べる（7.6%）」が「通園していない」子どもで高くなっているのは、上述の「0歳児の孤食」や「一人っ子の孤食」の結果も合わせると、親戚や知人の家に子どもを預けている事が想定される<表3-90>。

では、週末や連休の時に親子で行くキャンプや旅行などのレジャーについてはどうであろうか。全体で8割が出かけているが、世帯年収別では、やはりお金のかかる事なので、「400万円未満（30.1%）」や「400～500未満（33.3%）」では「行かなかった」が3割を超え、500万円以上になると「行った」が8割を超えている<表3-91>。

子どもの年齢では、「2歳」から上の年齢段階になると「行った」の割合が9割前後と高くなっており<表3-92>、子どもの人数では、「きょうだいがいる」世帯の方が「行った（89.0%）」と

回答していた<表3-93>。

母親が就労しているかどうかでは、有意な差は生じなかったが<表3-94>、「仕事と子育ての両立」については差がみられた。夕食での質問の場合と同様に、「両立しやすい」と感じている母親はレジャーにも「行った（85.4%）」と回答する者が多く、「両立しづらい」と感じている母親は「行かなかった（23.6%）」という回答が相対的に多くなっている<表3-95>。

子どもの通園先では「幼稚園（91.3%）」では「行った」が高く、「子ども園」や「通園していない」では「行かなかった」が高くなっているのが特徴である。これは、子どもの年齢段階が低いことも影響していると思われる<表3-96>。

イ 近所での遊び

生活圏を広げて、近所での遊びの様子をみていく。近所で他の子どもと一緒に遊ばせる頻度は、「ほとんどない」が多く、次いで「月に3・4回」「週に2・3回」であり、「ほぼ毎日」は1割程度だった<表3-97>。

これは子どもの年齢が大きく影響すると思われるが、その年齢段階別でみると、他児と遊ばせることが「ほとんどない」は「0歳（59.7%）」で最も高いが、その割合は、年齢段階とともに減少していく。反対に「ほぼ毎日+週に2・3回」は年齢段階とともに割合が増加し、「4歳以上」では4割近くになっている。また「月に3・4回」すなわち週に1回程度は、子どもも動き回るようになる「1歳（29.2%）」「2歳（31.5%）」で3割前後に増え、「3歳以降」からは再び数値が約25%～27%に落ち込む。これは、後述の「習い事」の所でも触れるが、3歳や4歳になると、近所での他児との遊び以外に、習い事などに通わせる割合が増加していることの裏返しであろう<表3-98>。

子どもの人数では、「2人以上」の子どもをもつ母親は「ほぼ毎日+週に2・3回（40.4%）」他児と遊ばせている割合が高いが、「一人っ子」では「ほとんどない（44.3%）」が高くなっている<表3-99>。

通園施設の違いでは、やはり「幼稚園」で

は、「ほぼ毎日＋週に2・3回(52.9%)」が高く、「保育園(54.5%)」「子ども園(40.0%)」「通園していない(40.5%)」で「ほとんどない」が高くなっている。保育施設では日中を施設内で過ごすため、必然的に近所での他児との遊びは少なくなり<表3-100>、「通園していない」子どもについても、年齢別で通園施設をみると「0歳

(81.5%)」「1歳(55.9%)」「2歳(38.5%)」が通園しておらず、3歳児神話ではないが、2歳まで自宅で養育されている割合が高いために、このような結果となっているのであろう<表3-101>。

さらに、それらを裏付けるように、就労の有無との関連でみると、「就労していない」母親は「ほぼ毎日＋週に2・3回(43.8%)」近所で他

表3-102 母の職業×子ども同士遊ばせる頻度

■母回答

	ほぼ毎日／週に2・3回		月に3・4回		ほとんどない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
就労している	188	20.4%	258	28.0%	475	51.6%	921	100.0%
就労していない	337	43.8%	204	26.5%	228	29.6%	769	100.0%
合計	525	31.1%	462	27.3%	703	41.6%	1,690	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=122.704 自由度=2 p=0.000* * p<0.05

の子どもと遊ばせている割合が高く、「就労している」母親は「ほとんどない(51.6%)」が高く、その数値も大きく開いている<表3-102>。

なお世帯年収による有意な差はみられなかった<表3-103>。

近所の子どもと一緒に遊ばせるとき、具体的にどのように遊ばせているのだろうか。複数回答でたずねているが、全体では、「公園で一緒に」「だれかの家に行って」「買い物などに出かけて」「グループ・サークルで」遊ばせるという順番になっ

ている<表3-104>。

子どもの年齢別では、「0歳」では「家に集まって(57.9%)」が最も高く、次いで「買い物(40.5%)」「グループ・サークル(28.6%)」が高くなっている。これが、「1歳以降」になると、「公園で」が8割以上を超えて高くなり、「買い物」が年齢段階とともに減少していく。「グループ・サークル」も2歳児からは10ポイント程度割合が落ちる<表3-105>が、これは、母親たちの遊ばせる「きっかけ」となったものが、「0歳・

表3-106 子ども年齢×遊び相手と出会ったきっかけ(複数回答)

■母回答

	子どもが生まれる前からの付合い		両親学級やうさちゃんくらぶなどで親しくなった		産院・病院が一緒であった		近所や公園などで子どもを連れているときに出会った		保育園や幼稚園を通して親しくなった		子ども家庭支援センター・子育てひろばなどで出会った		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
0歳(n=128)	38	29.7%	90	70.3%	34	26.6%	17	13.3%	7	5.5%	56	43.8%	8	6.3%
1歳(n=157)	48	30.6%	68	43.3%	30	19.1%	55	35.0%	17	10.8%	74	47.1%	17	10.8%
2歳(n=181)	42	23.2%	56	30.9%	29	16.0%	75	41.4%	48	26.5%	74	40.9%	23	12.7%
3歳(n=195)	37	19.0%	60	30.8%	17	8.7%	60	30.8%	125	64.1%	53	27.2%	18	9.2%
4歳(n=177)	25	14.1%	33	18.6%	13	7.3%	59	33.3%	138	78.0%	24	13.6%	20	11.3%
5・6歳(n=176)	22	12.5%	37	21.0%	9	5.1%	49	27.8%	152	86.4%	18	10.2%	14	8.0%
合計	212	20.9%	344	33.9%	132	13.0%	315	31.1%	487	48.0%	299	29.5%	100	9.9%

※無回答は集計から除く。χ²=725.447 自由度=35 p=0.000* * p<0.05

1歳」では「両親学級やうさちゃんくらぶ（0歳：70.3%、1歳：43.3%）」「子ども家庭支援センター・子育てひろば（0歳：43.8%、1歳：47.1%）」であり、この時期の母親たちの重要な拠点となっているのであろう<表3-106>。

子どもの人数については、「一人っ子」では「公園（78.5%）」や「だれかの家（56.2%）」も高いが、比較においては「買い物（30.9%）」や「グループ・サークル（14.3%）」で遊ばせる場合がより高く、きょうだいがいる「2人以上」では「公園と一緒に（92.9%）」あるいは「だれかの家に行き（62.6%）」遊ばせるとというのが、相対的に高くなっている<表3-107>。

子どもの通園先の違いでは、「幼稚園」では「公園（96.3%）」と、ほぼ全員の母親が回答しており、「保育園」では「だれかの家に行き（67.8%）」、そして「子ども園」では「買い物（50.0%）」、「通園していない」世帯は「グループ・サークル（20.6%）」が、それぞれ比較的高くなっている<表3-108>。

同様に、母親が「就労している」場合は「だれかの家（64.0%）」が高く、「就労していない」場

合は「公園で（85.4%）」が比較的高くなっていた<表3-109>。

ウ 習い事と進路希望

就学前の子どもたちに対する教育と子どもへの期待についてみていく。

習い事などについて、子どもに対してかけている金額についてたずねたが、「当該の子ども1人あたり」で見ると、全体的には就学前ということもあり「0円」が最も高かった<図2-28参照>。しかしこれを母親回答の年齢別で見ると、2歳までは「0円」と「5千円未満」で半数以上を占めているものの、3歳になってくると「1万円以上2万円未満（19.1%）」や「2万円以上3万円未満（10.5%）」かけている親が増えてくる。そして4歳以上では、「0円」も1割強いるものの「1万円～4万円未満」で約半数を占めており、子どもへの習い事は4歳から始める親が多いことがわかる<表3-110>。

さらに子どもの人数別では、きょうだいがいる方が家計全体としてお金がかかるため、一人っ子の方が、より多くの金額を習い事に使っていると

表3-110 子どもの年齢×宛名の子どもへの習い事や通信教育等の費用（月額）

■回答者は母

	0円		5千円未満		5千円以上 1万円未満		1万円以上 2万円未満		2万円以上 3万円未満		3万円以上 4万円未満		4万円以上 5万円未満		5万円以上 6万円未満	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	231	75.2%	38	12.4%	5	1.6%	11	3.6%	11	3.6%	8	2.6%	1	0.3%	1	0.3%
1歳	132	47.3%	57	20.4%	18	6.5%	20	7.2%	27	9.7%	9	3.2%	3	1.1%	4	1.4%
2歳	113	39.8%	39	13.7%	19	6.7%	33	11.6%	17	6.0%	16	5.6%	9	3.2%	9	3.2%
3歳	97	31.9%	38	12.5%	28	9.2%	58	19.1%	32	10.5%	19	6.3%	9	3.0%	9	3.0%
4歳	37	13.7%	11	4.1%	30	11.1%	66	24.4%	38	14.1%	31	11.5%	10	3.7%	14	5.2%
5・6歳	28	10.9%	12	4.7%	25	9.7%	58	22.5%	38	14.7%	28	10.9%	15	5.8%	15	5.8%
合計	638	37.5%	195	11.5%	125	7.3%	246	14.5%	163	9.6%	111	6.5%	47	2.8%	52	3.1%
	6万円以上 7万円未満		7万円以上 8万円未満		8万円以上 9万円未満		9万円以上10 万円未満		10万円以上 20万円未満		20万円以上		合計			
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
0歳	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	307	100.0%		
1歳	2	0.7%	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	5	1.8%	0	0.0%	279	100.0%		
2歳	6	2.1%	3	1.1%	1	0.4%	1	0.4%	15	5.3%	3	1.1%	284	100.0%		
3歳	3	1.0%	1	0.3%	3	1.0%	1	0.3%	6	2.0%	0	0.0%	304	100.0%		
4歳	5	1.9%	8	3.0%	4	1.5%	0	0.0%	11	4.1%	5	1.9%	270	100.0%		
5・6歳	7	2.7%	6	2.3%	4	1.6%	0	0.0%	16	6.2%	6	2.3%	258	100.0%		
合計	23	1.4%	20	1.2%	13	0.8%	2	0.1%	53	3.1%	14	0.8%	1,702	100.0%		

※無回答は集計から除く。χ²=534.403 自由度=65 p=0.00* * p < 0.05

予想したが、実際には「0円」でみても「1人(41.9%)」「2人以上(24.4%)」と、一人っ子の方がお金をかけていない。きょうだいのいる世帯では「2万円以上3万円未満(11.7%)」「3万円以上4万円未満(8.8%)」の金額を習い事にかけている親も、それぞれ1割ずつおり、上の子が既に習っているなど、きょうだいがいることで習い事が促されているのかもしれない<表3-111>。

子どもの通園先の違いでみると、「幼稚園」の「0円(10.2%)」は1割程度で「1万円以上2万円未満(24.1%)」が最も高く、「5千円～4万円未満」で半数以上となっている。「保育園」では、「0円(45.1%)」が最も多く、次いで「1万円以上2万円未満(13.1%)」「5千円未満(12.8%)」となっており、保育園にいる時間が長いいためか、幼稚園に通っている子どもに比べると習い事にかけている金額は少ない。「通園していない」も、年齢が低い場合が多いため「0円(52.6%)」で半数を超えている<表3-112>。

母親が就労しているか否かでも同様で、「就労している」場合の「0円(45.2%)」は、「就労していない」場合の「0円(29.3%)」よりも多くなっている<表3-113>。

習い事はお金に関わることであり世帯年収別にみていくと、確かに「0円」では年収「400万円未満(53.8%)」と「400～500万円(55.7%)」層で半数以上を占めており、年収階層が上がるに連れて、その割合が減少していることから収入の制約は受けていると思われる。しかし、「5千円未満」から「1万円以上2万円未満」に渡って、高所得に限らず、所得が低い世帯であっても、子どもの習い事にお金をかけている。特に年収「400万円未満」層では、習い事に「2万円以上3万円未満(8.1%)」のお金をかけている世帯が1割近くなっている<表3-114>。

これが、子ども1人ではなく「世帯の子ども全員」にかけている習い事の総額になると、「400万円未満」層では「0円(53.8%)」～「2万円以上3万円未満(9.4%)」で9割半を占めているが、年収階層があがるに伴って子どもにかけている金額も広く分布しており、年収「2,000万円以上」の世帯で、月に「10万円以上20万円未満

(11.4%)」の金額を子どもの習い事にかけている親も1割を超えている<表3-115>。

こうした習い事にかける金額に対する評価は、全体的には「十分である」が4割強、「もっとかけてあげたい」が3割半で「かけすぎだと思う」は1割に満たないという結果であり<図2-29参照>、これは父親回答においても母親回答においても同様の傾向であった。

子どもの年齢では、「0歳」では「もっとかけてあげたい(52.1%)」が半数を超えて高く、反対に「5・6歳」になると、実際にかけている費用も高くなっていくためか「かけすぎだと思う(14.4%)」が1割を超してくる<表3-116>。

子どもの数でみた評価は、一人っ子よりもきょうだいのいる世帯の方が、子どもの習い事にお金をかけているためか、一人っ子の世帯は「もっとかけてあげたい(44.4%)」が高く、きょうだいのいる世帯では「かけすぎだと思う(12.5%)」が1割を超している<表3-117>。

子どもの通園先の違いでも、かけている金額に伴って「幼稚園」では「十分である(52.5%)」「かけすぎだと思う(13.8%)」が高く、「保育園」では「もっとかけてあげたい(47.8%)」が相対的に高くなっている。「通園していない」世帯の母親は、「もっとかけてあげたい(48.1%)」と「十分である(46.2%)」で9割を超えている<表3-118>。

母親の就労の有無でみても、就労している母親は「もっとかけてあげたい(46.2%)」と思い、就労していない母親は「十分である(50.6%)」「かけすぎだ(10.9%)」と思っている<表3-119>。

世帯年収別では、「もっとかけてあげたい」は年収「400万円未満(65.1%)」層で高く、反対に「かけすぎだと思う」は年収が上がるに連れて、その割合も増えており、年収「2,000万円以上(12.3%)」では1割を超えている<表3-120>。

さらに、子どもにかかるお金の準備としての「学資保険」の加入率についてみると、全体でも「かけている」が4割弱であるが、「かけていない」も5割弱であった<図2-30参照>。

特に、母親が就労しているかどうかでみると、

表3-118 子どもの通園先×習い事月額の評価

■回答者は母

	もっとかけてあげたい		十分である		かけすぎだと思う		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
幼稚園	141	33.7%	220	52.5%	58	13.8%	419	100.0%
保育園	258	47.8%	254	47.0%	28	5.2%	540	100.0%
子ども園	8	42.1%	11	57.9%	0	0.0%	19	100.0%
その他	23	25.8%	51	57.3%	15	16.9%	89	100.0%
通園していない	226	48.1%	217	46.2%	27	5.7%	470	100.0%
合計	656	42.7%	753	49.0%	128	8.3%	1,537	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=59.046$ 自由度=8 $p=0.00^*$ * $p < 0.05$

「就労している」世帯の方が学資保険を「かけている (41.9%)」「今後かける予定 (13.6%)」と回答し、「就労していない」世帯では「かけていない (51.4%)」が高くなっていく<表3-121>。

世帯年収別でも、年収「400万円未満 (49.4%)」層では「かけていない」が半数近いが、「1,000万円～2,000万円未満 (46.9%)」「2,000万円以上 (61.8%)」の世帯においても高い割合となっており、単に所得が規定しているものではなく、高所得世帯においては、学資保険以外の手段で子どもの教育費を準備あるいは支出していると思われる<表3-122>。

子どもへの教育について、その教育期待を進路の希望でたずねてみた。

まだ就学前の子どもについての進路希望であるが、全体でも9割近くが「4年制大学」への進学を希望しているが<図2-31参照>、世帯年収別では、「400万円未満 (69.6%)」「400万～500未満 (71.4%)」の所得階層において「4年制大学」を希望する割合が1割2割程度減り、「高校卒業」が1割近くとなっている<表3-123>。

親の学歴の違いが、子どもへの教育期待へ影響するかどうかをみると、「父親の学歴」については、父親が「短大卒業 (93.8%)」と「4年制大学卒業 (92.3%)」の世帯では、わが子も「4年制大学」に進学させたいと希望する割合が9割を超えている。父親が「高校卒業 (12.2%)」の場合には、1割ほどの親が「高校卒業」で良いと考えている<表3-124>。

「母親の学歴」についてみても同様に、「短大卒

業 (84.8%)」と「4年制大学卒業 (94.2%)」の母親は、9割前後が子どもに「4年制大学」に進学してもらいたいと希望し、「中学卒業 (20.0%)」「高校卒業 (11.0%)」「専門学校卒業 (11.4%)」の母親は、子どもは「高校卒業」で良いと思っている母親が、それぞれ1割を超えている<表3-125>。

(2) 子育ての楽しみや悩み

子育てをしている親たちは、自分の子育てについて、日頃どのように感じているのであろうか。楽しみや悩み、不安などについてみていく。

ア 子育ての評価

最初に、子育てが楽しめているかどうかについて回答者別でみていくと、父親回答では「十分に」楽しめているが51.6%で半数を超え、「まあまあ」楽しんでいるという回答の37.9%を合わせると9割近くにのぼる。母親回答では、「十分に」が39.4%で、「まあまあ」楽しんでいるが44.9%であり、「子育てを楽しもうと思うが実際にはあまり楽しめない」という意見も11.7%と1割を超えている<表3-126>。

以下、母親の回答を中心にみていくが、子どもの年齢別では、「0歳 (51.1%)」の時は半数以上が「十分に楽しんでいる」ものの、年齢が上がるにつれて4割前後に減り「5・6歳 (30.4%)」では約3割となる。反対に「実際には楽しめない」という意見が「5・6歳」で17.9%と2割近くになっている<表3-127>。

表3-127 子ども年齢×今の子育ての状況について

■回答者は母

	子育てを十分に楽しんでいる		子育てをまあ楽しんでいる		子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない		子育ては私には苦痛、とても楽しめない		子育てなんて、そもそも楽しめるものではないと思う		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	161	51.1%	133	42.2%	20	6.3%	0	0.0%	1	0.3%	315	100.0%
1歳	126	45.0%	126	45.0%	25	8.9%	0	0.0%	3	1.1%	280	100.0%
2歳	107	36.8%	139	47.8%	39	13.4%	2	0.7%	4	1.4%	291	100.0%
3歳	125	40.6%	137	44.5%	40	13.0%	0	0.0%	6	1.9%	308	100.0%
4歳	100	36.9%	129	47.6%	37	13.7%	4	1.5%	1	0.4%	271	100.0%
5・6歳	80	30.4%	133	50.6%	47	17.9%	1	0.4%	2	0.8%	263	100.0%
合計	699	40.5%	797	46.1%	208	12.0%	7	0.4%	17	1.0%	1,728	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=58.675 自由度=20 p=0.000* * p < 0.05

きょうだいの有無では、一人っ子の母親は「十分に楽しんでいる (43.4%)」が高く、子どもが2人以上の母親は「まあまあ楽しんでいる (52.7%)」という評価が高くなっている。「実際には楽しめない」という意見は、一人っ子の場合もきょうだいがいる場合も1割を超えている<表3-128>。

就労の有無による差は見られなかったが<表

3-129>、母親回答において、「母親の仕事の両立のしやすさ」との兼ね合いでみると、やはり「両立しやすい」母親は「十分に楽しんでいる (45.3%)」「まあまあ楽しんでいる (46.6%)」と回答し、「両立しづらい」母親は「実際には楽しめない (18.3%)」が高くなっている<表3-130>。

世帯年収別でみると、年収「700万～1,000万円未満」層がやや異なった動きにはなるが、全般的

表3-130 母親の仕事と子育ての両立×今の子育ての状況について

■回答者は母

	子育てを十分に楽しんでいる		子育てをまあ楽しんでいる		子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない		子育ては私には苦痛、とても楽しめない		子育てなんて、そもそも楽しめるものではないと思う		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
両立しやすいと思う	234	45.3%	241	46.6%	36	7.0%	1	0.2%	5	1.0%	517	100.0%
両立しやすいと思わない	107	36.3%	130	44.1%	54	18.3%	1	0.3%	3	1.0%	295	100.0%
合計	341	42.0%	371	45.7%	90	11.1%	2	0.2%	8	1.0%	812	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=25.846 自由度=4 p=0.000* * p < 0.05

に「十分に楽しんでいる」は年収が上がるにつれて増加し、「まあまあ楽しんでいる」と「実際には楽しめない」は年収が上がるにつれて減少している<表3-131>。

イ 子育ての悩みと相談先

子育ての悩みと相談先の有無についてみていく。

2章Bにあるように、父親の回答においても母親の回答においても、悩みの上位3つは「保育園・幼稚園」「しつけ」「学習・進路」(父親回答の場合は「しつけ」と「学習・進路」の順番が入れ替わる)であり、その相談先は父親の方が「ない」と回答する割合が高かった<表3-132>。以下、この3項目について母親の回答を中心にみていく。

子どもの年齢別で見ると、「保育園・幼稚園」に関する悩みでは「0～2歳」では半数以上の母親が「ある」と回答しているが、「3歳以上」になると3割程度に減少する。母親たちにとって保育園・幼稚園の悩みとは、特に園の選択などの入園に関する悩みが多いことがわかる。

その相談先についても子どもの年齢で特徴が出

ており、「0～2歳」では相談先が「ない」が6～7割と高いが、子どもが入園したと思われる「3歳以上」になると相談先が増えてきている<表3-133>。

きょうだいの有無についても同様に、一人っ子の母親は悩みが「ある(42.9%)」と回答し、その相談先も「ない(61.9%)」が高くなっている

表3-133 子ども年齢×保育園・幼稚園の悩みと相談先の有無

■回答者は母

	保育園・幼稚園の悩みの有無					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	150	49.0%	156	51.0%	306	100.0%
1歳	136	48.1%	147	51.9%	283	100.0%
2歳	127	43.8%	163	56.2%	290	100.0%
3歳	203	67.2%	99	32.8%	302	100.0%
4歳	200	74.6%	68	25.4%	268	100.0%
5・6歳	193	74.5%	66	25.5%	259	100.0%
合計	1,009	59.1%	699	40.9%	1,708	100.0%
	保育園・幼稚園の相談先の有無					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	104	67.1%	51	32.9%	155	100.0%
1歳	105	71.4%	42	28.6%	147	100.0%
2歳	92	57.1%	69	42.9%	161	100.0%
3歳	51	52.0%	47	48.0%	98	100.0%
4歳	31	47.0%	35	53.0%	66	100.0%
5・6歳	25	39.1%	39	60.9%	64	100.0%
合計	408	59.0%	283	41.0%	691	100.0%

※無回答は集計から除く。

【悩み】 $\chi^2=115.663$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【相談先】 $\chi^2=30.254$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

<表3-134>。

働いている母親にとっては保育園の待機児童問題、専業主婦の母親にとっては幼稚園選択など、保育園・幼稚園に関わる悩みは多いと思われるが、母親の就労の有無でみると、「働いていない」専業主婦の母親の方が、悩みが「ある(45.1%)」という回答が高くなっていた。しかし、相談先については「働いている母親(40.3%)」、「専業主婦(41.3%)」とほぼ同数であった<表3-135>。

働いている母親の中でも、自分の仕事が子育てと「両立しやすい」と感じている母親は、幼稚園・保育園の悩みも「ない(71.8%)」と回答

し、その相談先が「ある」という回答についても、「両立しづらい」母親の29.6%に比べ48.6%と高くなっている。仕事と子育ての両立のしやすさは、単に就労条件だけではなく、こうした悩みの相談先の有無など、母親を取り巻く要因も関与しているのであろう。実際、他の「悩みの相談先」においても、「両立しやすい」母親は、「両立しづらい」母親に比べて、相談先が「ある」の割合が高くなっていた<表3-136>。

次に母親の「しつけ」に関する悩みをみていくと、子どもの年齢が「0歳」の時点では、悩みが「ある(20.7%)」は2割程度であるが、「1歳

以上」では4割以上に倍増している。相談先については、子どもの年齢別による有意差は見られなかった<表3-137>。

子どもの数による違いでは、「一人っ子」も「きょうだいがいる」場合も、しつけに関する悩みは「ない」が5割半～6割と高いが、「ある」

表3-137 子ども年齢×しつけの悩みと相談先の有無

■回答者は母

	しつけの悩みの有無					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	238	79.3%	62	20.7%	300	100.0%
1歳	162	58.3%	116	41.7%	278	100.0%
2歳	155	54.4%	130	45.6%	285	100.0%
3歳	163	53.8%	140	46.2%	303	100.0%
4歳	155	58.5%	110	41.5%	265	100.0%
5・6歳	154	59.7%	104	40.3%	258	100.0%
合計	1,027	60.8%	662	39.2%	1,689	100.0%
	しつけについての相談先の有無					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	25	41.7%	35	58.3%	60	100.0%
1歳	39	34.2%	75	65.8%	114	100.0%
2歳	41	32.3%	86	67.7%	127	100.0%
3歳	40	29.4%	96	70.6%	136	100.0%
4歳	30	28.0%	77	72.0%	107	100.0%
5・6歳	27	27.3%	72	72.7%	99	100.0%
合計	202	31.4%	441	68.6%	643	100.0%

※無回答は集計から除く。

【悩み】 $\chi^2=55.866$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【相談先】 $\chi^2=4.992$ 自由度=5 $p=0.416$

の割合を比較すると、子どもが2人以上いる母親の方が「ある(44.6%)」と回答している<表3-138>。複数の子育てを経験したからといって、しつけに関する悩みが減少するものではないようである。

母親の就労との関連では、「就労していない」母親は、4割以上が「悩みがある(42.7%)」と回答していた。相談先については有意な差が生じなかった<表3-139>。

しつけに関しては、祖父母や夫の存在の影響も考えられるが、「祖父母が頼りになる」と感じている母親は、悩みが「ない(62.8%)」の割合がより高く、相談先が「ある(75.1%)」の割合も高くなっている<表3-140>。

また「しつけの悩みの有無」の違いで「夫への要望」をみると、「悩みのある」母親は、「今

のままで満足(悩みなし:46.2%、悩みあり:25.6%)」の割合が低く、その分「もっと子どもの面倒を見てほしい(17.1%)」「もう少し家事を手伝ってほしい(17.1%)」「もっと私の話を聞いてほしい(12.3%)」「もっと育児に対する考えを述べてほしい(11.0%)」といった要望が挙がっていた<表3-141>。

さらに前記の、自分の「子育てに関する評価」でも、「悩みのある」母親は「子育てを楽しもうと思うが実際にはあまり楽しめない(20.4%)」と感じている割合が高くなっている<表3-142>。

「学習・進路」に関わる悩みについて、子どもの年齢別では、子どもが「0歳(22.7%)」「1歳(34.2%)」の頃は「悩みがある」の割合も2～3割程度であるが、「2歳以上」になると4割前後～5割近くと高くなっている。その相談先につい

でも年齢による変化があり、「0～2歳」までは「相談先がない」が多いが、「3歳以上」では幼稚園入園などでネットワークも広がる影響もあり、「相談先がある」が増加し半数を超えている<表3

-143>。

仕事との兼ね合いについては、「両立しやすい」母親の方が「悩みはなく(66.8%)」、その相談先も「ある(52.8%)」と回答している<表3-144>。

表3-143 子ども年齢×学習・進路の悩みと相談先の有無

■回答者は母

	(母の)学習・進路の悩みの有無					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	232	77.3%	68	22.7%	300	100.0%
1歳	183	65.8%	95	34.2%	278	100.0%
2歳	155	54.4%	130	45.6%	285	100.0%
3歳	187	63.2%	109	36.8%	296	100.0%
4歳	162	60.7%	105	39.3%	267	100.0%
5・6歳	131	51.4%	124	48.6%	255	100.0%
合計	1,050	62.5%	631	37.5%	1,681	100.0%
	(母の)学習・進路についての相談先の有無					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	41	60.3%	27	39.7%	68	100.0%
1歳	62	66.0%	32	34.0%	94	100.0%
2歳	72	56.7%	55	43.3%	127	100.0%
3歳	51	47.7%	56	52.3%	107	100.0%
4歳	46	44.7%	57	55.3%	103	100.0%
5・6歳	49	40.5%	72	59.5%	121	100.0%
合計	321	51.8%	299	48.2%	620	100.0%

※無回答は集計から除く。

【悩み】 $\chi^2=51.370$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【相談先】 $\chi^2=19.756$ 自由度=5 $p=0.001^*$ * $p < 0.05$

学習や教育に関わる悩みは、教育費も含めた金銭的な問題も関わってくると思われるが、「悩みの有無」の違いで「子ども1人にかかる習い事などの金額」をみると、「悩みのない」母親は、「0円(43.1%)」と「5千円未満(12.5%)」で半数を超えるが、「悩みのある」母親は「0円(26.9%)」の割合が減り、「5千円未満(9.9%)」～「20万円以上(2.0%)」、まで広く子どもにお金をかけている<表3-145>。

子ども全員にかけている金額においても、同様に「不安のない」母親は「0円(42.7%)」と「5千円未満(12.3%)」で半数を超え、「不安のある」母親は多くの金額を子どもの習い事などに

使っている<表3-146>。

そうした金額の評価について、「悩みのある」母親の半数以上は「もっとかけてあげたい(50.3%)」と思っているが、1割程度は「かけすぎだと思う(11.5%)」と考えている<表3-147>。

世帯年収でみると、学習や教育に「悩みを抱えている」割合は年収階層が高い方に多く、年収「400万円未満(30.4%)」では3割程度であるが、「700～1,000万円未満」より上の階層になると4割弱～4割半となっている。しかし相談する相手も高所得層の方が多くなっており、「2,000万円以上(67.0%)」では7割近くが相談相手が「いる」と回答している<表3-148>。

ウ 子育ての不安とイライラ

これまで見てきた子どもに対する悩みは、他の子どもを比較して気にすることでも生じる。また、そうした他児との比較は母親の子育て不安に関連する要因でもある。ここでは、「他児比較」、子育て「不安」や「イライラ」、そしてそれらが反映しやすい子育て場面での「大声で怒る」「衝動的に手をあげる」といった項目について見ていくが、どの項目も同様の傾向を示しているので条件別にみていく。

子どもの年齢別に上記の5項目を見ていくと、年齢が上がるにつれてストレスが高くなっている様子がうかがえる。

他児との比較によって気になってしまう母親は、全体的には「あまりない」と「ない」をあわせた「比較しない」母親の方が6割強と多い。しかし気になることが「よくある」と「たまにある」をあわせた「比較する」母親は、「0歳(21.9%)」では2割程度であるが、年齢が上がるにつれて増加し、「5・6歳(52.7%)」では半数を超えてい

表3-150 子どもの年齢×イライラする、子どもを大声で怒る、子どもに衝動的に手をあげる、子どもに不安を感じるか

■回答者は母のみ

	イライラする					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	177	55.1%	144	44.9%	321	100.0%
1歳	116	40.8%	168	59.2%	284	100.0%
2歳	63	21.4%	232	78.6%	295	100.0%
3歳	57	18.5%	251	81.5%	308	100.0%
4歳	54	19.6%	222	80.4%	276	100.0%
5・6歳	39	14.9%	223	85.1%	262	100.0%
合計	506	29.0%	1,240	71.0%	1,746	100.0%
	子どもを大声で怒る					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	306	95.3%	15	4.7%	321	100.0%
1歳	207	72.6%	78	27.4%	285	100.0%
2歳	135	46.1%	158	53.9%	293	100.0%
3歳	112	35.9%	200	64.1%	312	100.0%
4歳	82	29.7%	194	70.3%	276	100.0%
5・6歳	58	22.1%	205	77.9%	263	100.0%
合計	900	51.4%	850	48.6%	1,750	100.0%
	子どもに衝動的に手をあげる					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	316	98.4%	5	1.6%	321	100.0%
1歳	277	96.9%	9	3.1%	286	100.0%
2歳	253	86.3%	40	13.7%	293	100.0%
3歳	260	83.9%	50	16.1%	310	100.0%
4歳	225	81.5%	51	18.5%	276	100.0%
5・6歳	197	75.8%	63	24.2%	260	100.0%
合計	1,528	87.5%	218	12.5%	1,746	100.0%
	自分の子育てに不安を感じる					
	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	220	68.8%	100	31.3%	320	100.0%
1歳	179	63.3%	104	36.7%	283	100.0%
2歳	163	56.0%	128	44.0%	291	100.0%
3歳	164	52.9%	146	47.1%	310	100.0%
4歳	137	50.0%	137	50.0%	274	100.0%
5・6歳	139	53.9%	119	46.1%	258	100.0%
合計	1,002	57.7%	734	42.3%	1,736	100.0%

※無回答は集計から除く。

【イライラ・母】 $\chi^2=188.081$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【大声・母】 $\chi^2=475.391$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【手あげ・母】 $\chi^2=103.936$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【不安・母】 $\chi^2=31.048$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

る<表3-149>。

自分の子育てに対する不安も、全体的には「感じない」母親が多いものの、不安に思う母親を比較していくと、「0歳（31.3%）」では3割強だが「4歳（50.0%）」では半数と増加している（「5・6歳」では46.1%と低くなっている）<表3-150>。

「イライラする」「大声で怒る」「衝動的に手をあげる」についても、年齢が上がると、その割合も増加しているが、特に「大声で怒る」は「1歳（27.4%）」から、「衝動的に手をあげる」については「2歳（13.3%）」からの増加の割合が大きい。

子どもの人数については、一人っ子よりも、「2人以上」の子どもをもつ母親の方が、「他児比較」において「よくある」と「たまにある」をあわせた「比較して気になる（47.1%）」割合は高く<表3-151>、「イライラする（85.1%）」、「大声で怒る（75.9%）」「衝動的に手をあげる（23.9%）」の割合も高くなっている。ただし子育て「不安」については「不安を感じる（50.0%）」と「感じない（50.0%）」とで分かれた<表3-152>。

母親の就労の有無については、「就労していない」専業主婦の母親の方が、「他児比較をする（44.6%）」「不安を感じる（50.1%）」「イライラする（75.0%）」「大声で怒る（53.5%）」「衝動的に手をあげる（15.8%）」について相対的に高い割合を示している<表3-153>。他のデータでも言われている、専業主婦の方が高い育児不安やストレスを抱えていることが、本調査でも示された。

（3）ネットワークと子育て・子育て観

子育てにおける孤立の問題は指摘されているが、最後に、子育て世帯のネットワークと子育て・子育て認識の関連についてみていく。ここでは、「世帯」としてのネットワークの状況をみていくので、父親回答、母親回答と分けずに、全回答者のデータについて検討する。

ア 子育てのネットワーク

「3章1」でも述べたが、本調査での子育てのネットワークは、主に「世間話」「預け合い」「緊急時の支援者」という3つの質問でとらえてきた。

そのネットワークの状況と子育てとの関連をみていく。

最初に、この3つの質問の関連について押さえておく。

家族や親戚以外で「世間話」をする相手がいるかどうかのネットワークについては、その数を「たくさんいる」「数名いる（1・2名を含む）」「いない」でカテゴリー化してみていく。話し相手が「たくさんいる」世帯では、子どもを預け合ったり預かたりするような相手も「数名（1・2名含む）いる（35.3%）」と回答しているが、話し相手が「いない」世帯では預け合いの相手も「いない（97.6%）」と回答している<表3-154>。

また、世間話の相手が「たくさんいる（96.6%）」「数名いる（91.5%）」という世帯では、保護者が緊急時の支援者も9割以上「いる」と回答し、話し相手が「いない」世帯は、緊急時の支援者も「いない（23.8%）」と回答している<表3-155>。

さらに、「緊急時の支援者」が「いる」世帯では、子どもを預け合うような相手も「数名いる（24.2%）」と回答し、支援者が「いない」世帯では、預け合いの相手も「いない（94.2%）」と回答している<表3-156>。

ところで「3章1」で述べたように、こうした親たちのネットワークの制限には子どもの年齢も関連している。特に、「子どもを預ける」といった行為は、その世帯が孤立していなくとも子どもが乳児の時には控える可能性がある。ここで「話し相手」「預け合い」「緊急時の支援者」というネットワークに関わる状況の関連性は確認できたので、以下では、「話し相手」の設問と他の子育て状況との関連をみていくことにする。

世間話や子どもについての話し相手が「たくさんいる」世帯では、子どもを遊ばせる頻度も「ほぼ毎日／週に2・3回（46.0%）」と多く、反対に話し相手が「いない」世帯では遊ばせる頻度も「ほとんどない（79.9%）」が8割近くになっている<表3-157>。

日頃の子育てについても、話し相手が「たくさんいる」世帯では「夫・妻と一緒に子育てをしている（51.3%）」「父母や義父母にも助けられて子

表3-157 家族以外の会話の人数×遊ぶ頻度

	ほぼ毎日／週に2・3回		月に3・4回		ほとんどない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
たくさんいる	312	46.0%	199	29.4%	167	24.6%	678	100.0%
数名いる(1～2名含む)	372	25.4%	402	27.4%	692	47.2%	1,466	100.0%
いない	15	9.1%	18	11.0%	131	79.9%	164	100.0%
合計	699	30.3%	619	26.8%	990	42.9%	2,308	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=219.806$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

育てをしている(24.2%)」が高く、話し相手が「いない」世帯では「夫・妻と一緒に子育てをしている(51.5%)」「自分1人で子育てをしている(26.7%)」が高くなっている。どちらも「夫と妻と一緒に子育て」が最も高い割合であるが、ネットワークの状況も考慮すると、前者は夫婦がユニットでネットワークを広げているのに対して、後者は夫婦で協力はしているものの夫婦だけで子育てをしている様子うかがえる<表3-158>。

そのためか、自身の子育てに対する評価も、話し相手が「たくさんいる」世帯では「子育てを十分に楽しんでいる(61.3%)」という評価が高く、話し相手が「いない」世帯では、「子育てをまあまあ楽しんでいる(45.3%)」が最も高く「子育てを十分に楽しんでいる(32.1%)」は3割台に減り、「子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない(20.1%)」も2割台と高い<表3-159>。

表3-159 家族以外の会話の人数×子育ての意識

	子育てを十分に楽しんでいる		子育てをまあまあ楽しんでいる		子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない		子育ては私には苦痛、とても楽しめない		子育てなんて、そもそも楽しめるものではないと思う		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
たくさんいる	408	61.3%	226	33.9%	30	4.5%	0	0.0%	2	0.3%	666	100.0%
数名いる(1～2名含む)	538	37.0%	707	48.6%	184	12.7%	7	0.5%	18	1.2%	1,454	100.0%
いない	51	32.1%	72	45.3%	32	20.1%	1	0.6%	3	1.9%	159	100.0%
合計	997	43.7%	1,005	44.1%	246	10.8%	8	0.4%	23	1.0%	2,279	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=139.756$ 自由度=8 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

具体的な「子育ての悩み」についても、「保育園・幼稚園(話し相手たくさん×悩みなし: 68.1%、話し相手なし×悩みあり: 53.5%)」「友だち関係の悩み(話し相手たくさん×悩みなし: 92.0%、話し相手なし×悩みあり: 23.5%)」「きょうだい関係の悩み(話し相手たくさん×悩みなし: 93.8%、話し相手なし×悩みあり: 12.6%)」「発達の悩み(話し相手たくさん×悩みなし: 93.3%、話し相手なし×悩みあり: 25.5%)」というように、ネットワークがある世帯は悩みがなく、ネットワークが小さい世帯は

悩みを抱えている割合も高くなっている<表3-160>。

その「相談相手の有無」についても有意差のあるものを示していくと、「保育園・幼稚園(話し相手あり×相談先あり: 55.7%、話し相手なし×相談先なし: 84.3%)」「友だち関係(話し相手あり×相談先あり: 75.0%、話し相手なし×相談先なし: 97.1%)」「学習・進路(話し相手あり×相談先あり: 69.3%、話し相手なし×相談先なし: 91.2%)」「きょうだい関係(話し相手あり×相談先あり: 80.0%、話し相手なし×相談先なし:

83.3%)」「発達（話し相手あり×相談先あり：86.0%、話し相手なし×相談先なし：65.8%）」「しつけ（話し相手あり×相談先あり：84.9%、話し相手なし×相談先なし：71.0%）」「病気・障害（話し相手あり×相談先あり：88.1%、話し相手なし×相談先なし：64.7%）」と、ネットワークがある世帯は相談先もあり、ネットワークがない世帯は相談先もない割合が高い<表3-161>。

この「世間話」からみたネットワークは、「他児との比較」や子育ての「不安」とも関連していた。「他児との比較」については、話し相手が「たくさんいる」保護者は、他児との比較を「しない（67.0%）」と回答しているが、「他児比較をする」という回答の割合が最も高かったのは、話し

相手が「いない（35.4%）」保護者ではなく、話し相手が「数名いる（39.9%）」保護者であった<表3-162>。

一方、「子育ての不安」に関しては、やはり話し相手が「たくさんいる」保護者は自分の子育てに「不安を感じない（74.5%）」と回答していたが、話し相手が「いない」保護者は子育て不安を「感じる（49.1%）」としていた<表3-163>。

心理的な不安は、孤立した状況で生じる場合も多いのであろうが、他者との比較は人に関わる中で生じるため、話し相手が「いない」保護者よりも、「数名いる」保護者において多くなっていたのであろう。

表3-163 家族以外の会話の人数×子育てに不安を感じるか

	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
たくさんいる	497	74.5%	170	25.5%	667	100.0%
数名いる (1・2名含む)	821	56.2%	641	43.8%	1,462	100.0%
いない	84	50.9%	81	49.1%	165	100.0%
合計	1,402	61.1%	892	38.9%	2,294	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=72.742 自由度=2 p=0.000* * p < 0.05

イ ネットワークとしての夫・親族

子育てネットワークの代替として、あるいはネットワークとしても重要な位置を占める夫や親族と子育てについてみていく。

ここでは、子育てのネットワークとして「緊急時の支援者の有無」を用いる。例えば、母親が病気などの時に一番に頼るのは身近な夫や祖父母であると考えられるが、それらも含めて支援者が「いない」場合、保護者（特に母親）は、どのような子育てを行い、子育てに対する意識を抱くのであろうか。夫や祖父母の状況も併せてみていく。

「緊急時の支援者」が「いない」世帯では、近所で他の子どもと遊ばせる頻度も「ほとんどない（52.1%）」が半数を超えている<表3-164>。

その遊びの内容も、「公園（79.8%）」「だれかの家（41.6%）」が上位を占めてはいるが、いずれも支援者が「いる」世帯よりも割合は少ない。反対に割合が高くなっているのが「グループ・サークルとして遊ばせる（20.2%）」であり、ネッ

トワークの小さい保護者にとっての公的なグループやサークルの役割は大きいと思われる<表3-165>。

さらに日頃の子育てについても、支援者が「いない」世帯は、「自分1人で子育てをしている（49.2%）」保護者が多く、「夫・妻と一緒に子育て（30.9%）」も3割はいるものの、支援者が「いる（51.8%）」世帯よりも少なく、「祖父母に助けられての子育て（1.6%）」もほとんどなく、その分、「友人や保育士に助けられて（14.7%）」子育てを行っている<表3-166>。

自分自身の子育てに対する評価も「十分に楽しんでいる（24.7%）」は低く、「実際にはあまり楽しめない（16.7%）」が高くなっている<表3-167>。

具体的な「悩み」についても支援者が「いない」世帯は、いずれの項目においても悩みが「ある」と回答する割合が高い。すなわち、「保育園・幼稚園（53.6%）」「友だち関係（22.2%）」「学習・

表3-167 緊急時の支援者の有無×子育ての意識

	子育てを十分に楽しんでいる		子育てをまあまあ楽しんでいる		子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない		子育ては私には苦痛、とても楽しめない		子育てなんて、そもそも楽しめるものではないと思う		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
緊急時の支援者がいる	951	45.4%	904	43.1%	217	10.3%	8	0.4%	17	0.8%	2,097	100.0%
緊急時の支援者は誰もいない	46	24.7%	103	55.4%	31	16.7%	0	0.0%	6	3.2%	186	100.0%
合計	997	43.7%	1,007	44.1%	248	10.9%	8	0.4%	23	1.0%	2,283	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=39.342$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

進路 (44.7%)」「きょうだい関係 (11.2%)」「発達 (18.5%)」「しつけ (48.4%)」「病気・障害 (14.1%)」である<表3-168>。

その「相談先の有無」も、やはり支援者が「いない」世帯では、相談先も「ない」とする割合が高い。すなわち、「保育園・幼稚園 (77.7%)」「友だち関係 (79.5%)」「学習・進路 (80.5%)」「きょうだい関係 (88.9%)」「発達 (60.6%)」「しつけ (52.9%)」「病気・障害 (54.2%)」であり、

その割合も高い<表3-169>。

支援者が「いない」世帯の保護者は、子育ての「不安 (51.9%)」も半数以上が感じており、実際の子育てにおいても「大声で怒る (50.8%)」ことや、「子どもに衝動的に手をあげる (15.1%)」ことも、相対的に高くなっている<表3-170>。

困ったときの支援者がいない状況は、様々な面での困難さを示しているが、保護者が自分の祖父母や、(母親の場合の) 夫をどのように評価して

表3-170 緊急時の支援者の有無×子育てに不安を感じる、子どもを大声で怒る、子どもに衝動的に手をあげる

	自分の子育てに不安を感じる						子どもを大声で怒る					
	ない		ある		合計		ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
緊急時の支援者がいる	1,315	62.2%	798	37.8%	2,113	100.0%	1,205	56.7%	922	43.3%	2,127	100.0%
緊急時の支援者は誰もいない	89	48.1%	96	51.9%	185	100.0%	92	49.2%	95	50.8%	187	100.0%
合計	1,404	61.1%	894	38.9%	2,298	100.0%	1,297	56.1%	1,017	43.9%	2,314	100.0%
	子どもに衝動的に手をあげる											
	ない		ある		合計							
	実数	%	実数	%	実数	%						
緊急時の支援者がいる	1,905	89.7%	218	10.3%	2,123	100.0%						
緊急時の支援者は誰もいない	158	84.9%	28	15.1%	186	100.0%						
合計	2,063	89.3%	246	10.7%	2,309	100.0%						

※無回答は集計から除く。

【不安を感じる】 $\chi^2=14.280$ 自由度=1 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【大声で怒る】 $\chi^2=3.878$ 自由度=1 $p=0.049^*$ * $p < 0.05$

【衝動的に手をあげる】 $\chi^2=4.114$ 自由度=1 $p=0.043^*$ * $p < 0.05$

表3-176 緊急時の支援者の有無×お父さんの評価（私の話を聞く）、お父さんの評価（妊娠中、子どもの将来や子育てについて話し合った）、お父さんの評価（頼りになる）

■回答者は母のみ

	お父さんの評価（私の話を聞く）											
	よくある		たまにある		どちらともいえない		あまりない		まったくない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
緊急時の支援者がいる	745	48.5%	410	26.7%	212	13.8%	121	7.9%	47	3.1%	1,535	100.0%
緊急時の支援者は誰もいない	43	27.9%	35	22.7%	27	17.5%	32	20.8%	17	11.0%	154	100.0%
合計	788	46.7%	445	26.3%	239	14.2%	153	9.1%	64	3.8%	1,689	100.0%
	お父さんの評価（妊娠中、子どもの将来や子育てについて話し合った）											
	よくある		たまにある		どちらともいえない		あまりない		まったくない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
緊急時の支援者がいる	675	43.9%	468	30.5%	178	11.6%	156	10.2%	59	3.8%	1,536	100.0%
緊急時の支援者は誰もいない	31	20.1%	44	28.6%	27	17.5%	35	22.7%	17	11.0%	154	100.0%
合計	706	41.8%	512	30.3%	205	12.1%	191	11.3%	76	4.5%	1,690	100.0%
	お父さんの評価（頼りになる）											
	よくある		たまにある		どちらともいえない		あまりない		まったくない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
緊急時の支援者がいる	899	58.5%	377	24.5%	162	10.5%	66	4.3%	32	2.1%	1,536	100.0%
緊急時の支援者は誰もいない	57	37.0%	34	22.1%	29	18.8%	17	11.0%	17	11.0%	154	100.0%
合計	956	56.6%	411	24.3%	191	11.3%	83	4.9%	49	2.9%	1,690	100.0%

※無回答は集計から除く。

【話を聞く】 $\chi^2=64.158$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【妊娠中の話し合い】 $\chi^2=58.942$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【頼りになる】 $\chi^2=71.976$ 自由度=4 $p=0.002^*$ * $p < 0.05$

いるのであろうか。

「祖父母が頼りになるか」という質問では、当然ながら「頼りにならない（54.5%）」が半数を超えており、「祖父母以外の援助者の有無」も「いない（82.1%）」がかなり高く孤立した状況にある<表3-171>。さらに現時点の子育て支援だけではなく「子育てについて教わった相手」についても、「自分の親（56.8%）」「自分の兄弟姉妹（18.4%）」「その他の家族・親族（10.5%）」のいずれもが低く、「子ども家庭支援センター・子育てひろば（20.0%）」「誰からも教わっていない（13.2%）」が相対的に高い<表3-172>。しかし、育児支援策全体の評価として、「恩恵を受けているかどうか」では、3割以上が「受けているとは思わない（34.2%）」と感じている<表3-173>。

最後に、母親だけに回答してもらった設問について、回答者を母親に絞って見ていく。支援者が「いない」母親の夫に対する評価についてみていくと、「夫が育児・子育てをする」ことは「あまりない（19.0%）」「まったくない（8.5%）」が高く、「夫が家事をする」ことも「まったくない（31.2%）」「あまりない（19.5%）」が高い。「夫は仕事が忙しい」と思うことも「よくある（77.3%）」<表3-174>し、「夫の仕事と子育ての両立」も「しやすいとは思わない（82.1%）」と感じている<表3-175>。

夫が「自分の話を聞く」ということは「あまり（20.8%）」「まったく（11.0%）」なく、「妊娠中に子どもの将来や子育てについて話し合った」ことも「あまり（22.7%）」「まったく（11.0%）」

なかったと回答している。

夫の総合的な評価について、「夫は頼りになるかどうか」では、「どちらともいえない (18.8%)」「あまりない (11.0%)」「まったくない (11.0%)」と思っており<表3-176>、夫に対しても、「今のままで満足 (26.6%)」と思っているのは2割半程度で、これは「支援者がいる」母親よりも13ポイント低かった。その分、「もっと子どもの面倒をみてほしい (18.0%)」「もう少し家事を手伝ってほしい (16.4%)」という要望が出ていた<表3-177>。

5 子育てに関する施策への評価

最後に、育児支援策や港区の子育てに関する事業について、母親たちの利用実態や評価をみていく。

「育児支援があなたのためになっているかどうか」の質問においては、「ためになっている」という評価が、父親回答で42.9%、母親回答で47.7%であった。以下、母親回答について条件別でみていく<表3-178>。

子どもの年齢では、「0歳 (56.7%)」「1歳 (58.0%)」といった、より低い年齢階層で「ためになっている」と回答している<表3-179>。

「仕事の両立」については、育児支援が「ためになっている」と評価している母親は、母親自身の仕事についても「両立しやすい (70.4%)」と感じている<表3-180>。

さらに育児支援の恩恵を受けているかどうか

は、母親たちの子育ての悩みや、その相談先の有無にも関連していた。すなわち、悩みの内容としてあげている「保育園・幼稚園」「友だち関係」「学習・進路」「きょうだい関係」「発達」「しつけ」「病気・障害」の全ての項目について、「恩恵があると思う」母親は悩みが「なく」、「恩恵を感じていない」母親は悩みが「ある」という回答が高くなっている。例えば「保育園・幼稚園」の悩みについては、「育児支援がためになっている」母親は悩みが「ない」という回答が62.5%と高く、「ためになっていない」母親は悩みが「ある」という回答が49.8%となっている<表3-181>。

その悩みの相談先についても、「ためになっている」母親は相談先も「ある」と回答し（「保育園・幼稚園」の場合は50.2%）、「ためになっていない」母親は相談先が「ない」という回答（「保育園・幼稚園」の場合は69.6%）の割合が高くなっている<表3-182>。

また、母親の育児における感情や意識、そして育児に関する社会的な意見（子育て観）についても、関連がみられた。

育児をしている中で「イライラする (76.1%)」や「子どもを大声で怒る (54.3%)」、さらに「子どもに衝動的に手をあげる (12.7%)」「子育てに不安を感じる (47.7%)」といった気持ちは、育児支援の恩恵を受けて「いない」と感じている母親に高くなっている<表3-183>。

子育て意識については、恩恵を受けているとと思っている母親の方が「子育てを十分に楽しんで

表3-179 子どもの年齢×育児支援策の恩恵

■回答者は母のみ

	思う		思わない		わからない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
0歳	178	56.7%	44	14.0%	92	29.3%	314	100.0%
1歳	159	58.0%	48	17.5%	67	24.5%	274	100.0%
2歳	136	47.9%	60	21.1%	88	31.0%	284	100.0%
3歳	159	52.6%	55	18.2%	88	29.1%	302	100.0%
4歳	111	41.4%	64	23.9%	93	34.7%	268	100.0%
5・6歳	103	39.8%	56	21.6%	100	38.6%	259	100.0%
合計	846	49.7%	327	19.2%	528	31.0%	1,701	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=36.224$ 自由度=10 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

いる (49.3%)」と感じており、恩恵を受けていないと思う母親は「子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない (18.3%)」と感じている<表3-184>。

表3-184 育児支援策の恩恵×子育ての意識

■回答者は母のみ

	子育てを十分に楽しんでいる		子育てをまあまあ楽しんでいる		子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない		子育ては私には苦痛、とても楽しめない		子育てなんて、そもそも楽しめるものではないと思う		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
思う	419	49.3%	360	42.4%	65	7.6%	2	0.2%	4	0.5%	850	100.0%
思わない	99	30.3%	158	48.3%	60	18.3%	3	0.9%	7	2.1%	327	100.0%
わからない	174	33.0%	266	50.5%	79	15.0%	2	0.4%	6	1.1%	527	100.0%
合計	692	40.6%	784	46.0%	204	12.0%	7	0.4%	17	1.0%	1,704	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=74.843 自由度=8 p=0.000* * p < 0.05

子育て観についても、「子育ては地域の協力を得ながらやるべきである」という意見に対して、育児支援の恩恵を感じている母親は「とてもそう思う (27.2%)」「まあそう思う (55.2%)」と回答し、恩恵を感じ難い母親は「どちらともいえない (25.7%)」「あまりそう思わない (10.4%)」「まったくそう思わない (2.8%)」の回答が相対的に高くなっている<表3-185>。

育児支援がためになっていると思っている母親は、こうした社会的なサポートの中で子育てをしていくことの重要性を知っているためか、母親たちにとって役立っている「子育ての伝承相手」も、全ての相手について数値が高くなっている。この質問は複数回答でたずねており、恩恵を受けている母親が、多くの選択肢に丸を付け、様々な人から教えてもらった子育てが役立っていることを示している。とりわけ、「友人・知人 (71.0%)」「保健師 (29.1%)」「病院の看護師 (21.7%)」「子ども家庭支援センターや子育てひろば (28.7%)」は、育児支援の恩恵を受けていないと思っている母親との開きが出ている。一方、恩恵を受けていないと思っている母親は「教わったが役に立たなかった (1.5%)」「誰からも教わっていない (6.8%)」が上回っている<表3-186>。

次に、港区で行っている事業についてみる。母親回答全体でも「よく利用する」+「たまに利用する」が半数を超えている項目は「児童館・子ど

も中高生プラザでの乳幼児事業 (50.1%)」だけであり、「バースデイ歯科健診 (40.2%)」が、それに次いでいるという状況で、低い利用率である<表3-187>。

これを居住年数の違いでみると、全ての事業項目において、居住年数「1・2年目」の母親、項目によっては「3・4年目」の母親も含めて、居住年数が浅い母親は「事業を知らない」と回答する割合が高くなっている<表3-188>。

世帯年収では、「育児相談」「保育園で遊ぼう」「乳幼児一時預かり」「派遣型一時保育」「子ども家庭支援センター」「児童館」「みなとっこ」「養育支援訪問」といった多くの項目において、世帯年収「400万円未満」「400～500万円未満」層が「知らない」と回答する割合が高い。さらに「育児相談」と「乳幼児一時預かり」では、「400万円未満」層において「知っているが利用したことがない」の割合も高くなっている<表3-189>。

先の「育児支援の恩恵」と港区で実施している「事業の利用」についての関係では、「育児相談」「保育園で遊ぼう」「派遣型一時保育」「子ども家庭支援センター」「みなとっこ」「養育支援訪問」の項目で、「恩恵を受けている」母親は「よく利用する」・「たまに利用する」・「知っているが利用したことがない」の割合が高く、「恩恵を受けていない」母親は「知らない」が高くなっている。そのほかの事業項目についても、「恩恵を受けて

いない」母親は、事業について「知らない」という割合が相対的に高いという傾向を読み取ることができる<表3-190>。

港区で提供されている事業の利用度は全体的に低い、その数値の低さをもって、母親たちの子育ての役に立っていないと言うことはできない。先にも触れた「他の子どもと遊ばせるきっかけ」をたずねた質問を居住年数別でみると、居住年数の浅い母親たちは、「子ども家庭支援センター・子育てひろばなどで出会った」が3割、「両親学級やうさちゃんくらぶなどで知り合った」が3

割弱と高くなっている。もちろん「子どもが生まれる前からの付き合い」や「産院・病院が一緒であった」というようなプライベートな付き合いやきっかけによっても、母親同士のネットワークは一定数形成されている。さらに居住年数の経った「5年以上」の母親たちには、「保育園や幼稚園」が子育ての母親を繋いでくれる媒体となっている。しかし特に、居住年数が浅く地域にとけ込めていない母親たちにとって、公的な事業が提供してくれる出会いの場は重要な役割を果たしている<表3-191>。

表3-191 現住所の居住年数×遊び相手と出会ったきっかけ（複数回答）

■回答者は母のみ

	子どもが生まれる前からの付き合い		両親学級やうさちゃんくらぶなどで親しくなった		産院・病院が一緒であった		近所や公園などで子どもを連れていくときに出会った		保育園や幼稚園を通して親しくなった		子ども家庭支援センター・子育てひろばなどで出会った		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1・2年	79	22.9%	98	28.4%	43	12.5%	103	29.9%	128	37.1%	108	31.3%	34	9.9%
3・4年	53	19.9%	103	38.6%	43	16.1%	94	35.2%	119	44.6%	91	34.1%	23	8.6%
5～9年	62	18.5%	136	40.6%	37	11.0%	101	30.1%	199	59.4%	87	26.0%	38	11.3%
10年以上	18	28.6%	7	11.1%	9	14.3%	17	27.0%	37	58.7%	12	19.0%	5	7.9%
合計	212	21.0%	344	34.1%	132	13.1%	315	31.2%	483	47.8%	298	29.5%	100	9.9%

※無回答は集計から除く。χ²=87.562 自由度=21 p=0.000* * p < 0.05

同様の傾向は、子どもの年齢別の検討からも見える。子どもが「0歳」の時のきっかけは、「両親学級やうさちゃんクラブ（70.3%）」「子ども家庭支援センター・子育てひろば（43.8%）」「産院・病院が一緒（26.6%）」となっており、やはり公的機関で出会っている割合が高い。そして、子どもの年齢が上がってきて「1歳～」は「近所や公園など」で出会うことが増え、さらに「3歳～」は「保育園や幼稚園」で出会うチャンスが一気に増加している。子どもの年齢が0歳の頃や、港区に引っ越してきて間もない母親たちへ、孤立を防ぐ手立てが大切なのであろう<表3-192>。

さらに「母親たちの子育てについて誰に教わったことが役立っているか」をたずねた質問についても、居住年数でみると、「1・2年」「3・4年」といった母親たちにとって、「自分の親（71.9%、72.5%）」「知人・友人（67.0%、

67.0%）」以外の公的サービスでは、「保育園・幼稚園の先生（33.6%、42.7%）」「保健師（25.9%、22.0%）」「子ども家庭支援センターや子育てひろばなどの職員（20.4%、20.6%）」が上位3位となっており、保護者の子育てをサービスとして支援するだけでなく、子育てを伝授していく役割も果たしている<表3-193>。

B 小・中学生を育てている世帯の生活と子育て 第2調査（調査票Ⅱ）

1 回答者と家族の状況

ここでは、学齢期にある親の子育て状況について見ていく。回答者の基本的属性は第2章で概観した通りであるが、以下では主に条件別に特徴が見られた点を述べていく。また今回の調査では、小・中学生世帯ともに居住年数「1年」の割合が高いという特徴もあり、居住年数と諸条件との違

いも押さえておく。

最初に居住年数と居住地域をみると、小学生世帯において居住年数の浅い「1・2年」の家族は高輪（29.0%）と麻布（28.3%）で半数を占めており、「5～9年」では芝浦港南が49.7%であった。一方、中学生世帯においては、居住年数「1・2年」は高輪地区が42.1%と高く、「5～9年」は芝浦港南が高い（46.2%）のが特徴である<表3-194>。

調査の回答者全体では、小・中学生世帯ともに母親が約7割、父親が約2割回答していたが<表3-195>、居住年数では小学生世帯の1・2年目、中学生世帯の3・4年目において、母親の回答が8割を超えている<表3-196>。また世帯年収別では、400万円未満層において母親の回答率が高くなっている（小学生世帯87.3%、中学生世帯90.2%）<表3-197>。

世帯構成について居住年数と居住地域別にみていく。全体的に「父母+子」が小学生世帯で8割強、中学生世帯で7割強を占めているが<表3-198>、「父母+子+祖父母」については、小

学生世帯における居住10年以上の者に比較的高く（9.9%）<表3-199>、地域としては赤坂地区（8.5%）がやや高くなっている<表3-200>。中学生世帯における「父母+子+祖父母」は、居住年数「3・4年目（11.5%）」と「10年以上（10.5%）」において高く<表3-199>、地域としては芝（18.5%）と赤坂（12.9%）地区に比較的多く居住している<表3-200>。また「母+子」世帯については、居住年数が浅い1・2年目に多く、小学生世帯で11.2%、中学生世帯で19.8%となっている<表3-201>。居住地域別にみた「母+子」世帯は、特に中学生世帯において芝浦港南（14.1%）、芝（12.3%）、麻布（12.0%）地区で、それぞれ1割を超えている<表3-202>。

住宅の種類については、小・中学生世帯ともに、「(マンションを含む)持ち家」率は全体的に6割を超えて高いが、とりわけ居住年数が長い「5～9年」「10年以上」といった世帯に多く<表3-203>。地域としては、小学生世帯では「芝浦港南（70.4%）」地区が高く、中学生世帯では「麻布（75.5%）」「高輪（75.1%）」地区が高くなっ

表3-203 現住所の居住年数×住宅の種類

■小学生の世帯

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1・2年	136	44.9%	116	38.3%	23	7.6%	27	8.9%	1	0.3%	303	100.0%
3・4年	112	52.8%	67	31.6%	14	6.6%	18	8.5%	1	0.5%	212	100.0%
5～9年	417	70.8%	89	15.1%	44	7.5%	34	5.8%	5	0.8%	589	100.0%
10年以上	261	67.8%	55	14.3%	40	10.4%	22	5.7%	7	1.8%	385	100.0%
合計	926	62.2%	327	22.0%	121	8.1%	101	6.8%	14	0.9%	1,489	100.0%

■中学生の世帯

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1・2年	46	47.9%	33	34.4%	6	6.3%	9	9.4%	2	2.1%	96	100.0%
3・4年	26	50.0%	17	32.7%	6	11.5%	3	5.8%	0	0.0%	52	100.0%
5～9年	126	79.7%	14	8.9%	14	8.9%	4	2.5%	0	0.0%	158	100.0%
10年以上	182	73.4%	22	8.9%	35	14.1%	8	3.2%	1	0.4%	248	100.0%
合計	380	68.6%	86	15.5%	61	11.0%	24	4.3%	3	0.5%	554	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学生】 $\chi^2=108.012$ 自由度=12 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【中学生】 $\chi^2=73.766$ 自由度=12 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

ている<表3-204>。反対に「民間の賃貸住宅」は居住年数が浅い「1・2年」「3・4年」といった世帯に多くなっている。「社宅・公務員住宅」に住んでいる世帯も転勤により移り住んでいるため、小・中学生世帯ともに居住年数が浅い者が多い<表3-203>。地域では、小学生世帯の赤坂(14.0%)・芝(10.7%)地区、中学生世帯の赤坂(8.5%)地区に「社宅・公務員住宅」が多い<表3-204>。

回答者全体の世帯年収については、2章にあるように、1,000万円以上で4割を超え、700万円以上で6割を超える状況であった<表3-205>。これらの世帯の特徴としては、「父母+子」世帯が9割前後を占め<表3-206>、居住年数では小学生世帯で「5～9年」、中学生世帯では「10年以上」が4割前後と比較的長く居住している世帯が多い<表3-207>。

住宅の種類については、小学生世帯は1,000～2,000万円未満層が「持ち家(73.7%)」「民間賃貸(17.5%)」であるが、2,000万円以上層では「持ち家(63.6%)」「民間賃貸(32.2%)」となっている。中学生世帯の場合は、1,000～2,000万円未満層と2,000万円以上層ともに、「持ち家」が8割前後と高くなっている<表3-208>。

これらの高所得世帯の保護者は、「共働き」が小学生世帯で4割台、中学生世帯で4～5割台<表3-209>、生計を支えている者の職種は、小・中学生世帯ともに「民間の常勤勤務」が多いが<表3-210>、2,000万円以上の階層では「自営業・会社役員」も高く(小学生世帯37.9%、中学生世帯49.4%)なっている<表3-211>。

一方、約1割を占めることとなる年収400万円未満の世帯の特徴を押さえると、世帯構成では小・中学生世帯ともに「母+子」の割合が高

表3-208 世帯収入×住宅の種類

■小学生の世帯

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～400万円未満	65	43.0%	36	23.8%	39	25.8%	7	4.6%	4	2.6%	151	100.0%
400～500万円未満	48	57.1%	12	14.3%	16	19.0%	6	7.1%	2	2.4%	84	100.0%
500～700万円未満	99	56.9%	30	17.2%	14	8.0%	29	16.7%	2	1.1%	174	100.0%
700～1,000万円未満	171	60.2%	59	20.8%	22	7.7%	30	10.6%	2	0.7%	284	100.0%
1,000～2,000円未満	353	73.7%	84	17.5%	19	4.0%	22	4.6%	1	0.2%	479	100.0%
2,000万円以上	136	63.6%	69	32.2%	5	2.3%	2	0.9%	2	0.9%	214	100.0%
合計	872	62.9%	290	20.9%	115	8.3%	96	6.9%	13	0.9%	1,386	100.0%

■中学生の世帯

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～400万円未満	28	34.1%	18	22.0%	33	40.2%	2	2.4%	1	1.2%	82	100.0%
400～500万円未満	16	59.3%	4	14.8%	5	18.5%	2	7.4%	0	0.0%	27	100.0%
500～700万円未満	35	64.8%	9	16.7%	7	13.0%	3	5.6%	0	0.0%	54	100.0%
700～1,000万円未満	86	77.5%	11	9.9%	11	9.9%	3	2.7%	0	0.0%	111	100.0%
1,000～2,000円未満	120	78.9%	17	11.2%	2	1.3%	11	7.2%	2	1.3%	152	100.0%
2,000万円以上	64	82.1%	13	16.7%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	78	100.0%
合計	349	69.2%	72	14.3%	58	11.5%	22	4.4%	3	0.6%	504	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学生】 $\chi^2=181.900$ 自由度=20 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【中学生】 $\chi^2=119.765$ 自由度=20 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

く、とりわけ中学生世帯については「父母+子 (32.9%)」のよりも「母+子 (43.9%)」の方が高くなっている<表3-212>。母子世帯については、子どもの貧困問題とともに語られる場合が多いが、本調査においても小・中学生世帯を含めた年収300万円未満の143世帯のうち、母子世帯は70世帯49.0%と半数近くに上っている<表3-213>。

年収400万円未満層の居住年数は、小学生世帯では「5～9年 (33.6%)」「10年以上 (28.9%)」

「1・2年 (23.5%)」で約3割ずつを占めるが、中学生世帯では「10年以上 (46.9%)」「5～9年 (25.9%)」で7割を超している<表3-214>。

住宅の種類では、小学生世帯では「持ち家 (43.0%)」「都営・区営・UR (25.8%)」「民間賃貸住宅 (23.8%)」の順となるが、中学生世帯では「都営・区営・UR (40.2%)」「持ち家 (34.1%)」「民間賃貸 (22.0%)」と公営住宅の割合が高い<表3-208>。

表3-213 世帯収入×家族構成

■小・中学生を含めた世帯

	父母+子		父母+子+祖父・祖母		父+子		父+子+祖父・祖母		母+子		母+子+祖父・祖母		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
300万円未満	42	29.4%	10	7.0%	2	1.4%	1	0.7%	70	49.0%	16	11.2%	2	1.4%	143	100.0%
300万円以上	1,514	86.8%	99	5.7%	9	0.5%	4	0.2%	80	4.6%	29	1.7%	10	0.6%	1,745	100.0%
合計	1,556	82.4%	109	5.8%	11	0.6%	5	0.3%	150	7.9%	45	2.4%	12	0.6%	1,888	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=435.293 自由度=6 p=0.000* * p < 0.05

小・中学生世帯ともに400万円未満層は「共働き世帯」が3割台と最も低くなる。これは専業主婦が多いというよりも、上記の「母+子」の割合が高いことに示されていたように、ひとり親世帯の多さが影響している<表3-209>。実数で見ても、小学生世帯で92名が「共働きではない」と回答しているが、問7の世帯構成における「父+子」「父+子+祖父母」「母+子」「母+子+祖父母」を合計すると60名に上り<表3-215>、専業主婦は32名程度と推計される。同様に中学生世帯においても、「共働きではない」と回答した53名のうち47名はひとり親世帯あるいは祖父母と同居しているひとり親世帯であり、専業主婦は7名と推計される。また、所得階層が「400～500万円未満層」でみると、小学生世帯53.0%、中学生世帯64.3%と「共働き世帯」の割合が最も高くなっている<表3-209>。

400万円未満層における主な生計者の仕事は、小学生世帯は「民間の常勤勤務」「自営業・会社経営」「臨時・パート就労」の順に、中学生世帯は「臨時・パート就労」「民間の常勤勤務」「自営業・会社経営」の順となるが、特に中学生世帯の

「臨時・パート就労」は40.2%と高い割合を示している<表3-211>。

子どもや家族に病気の不安や障害を抱えている人がいるかどうかについては、全体で9割以上が「いない」と回答している中<表3-216>、小学生世帯の子どもについては「400～500万円未満」層で16.7%、家族については「400万円未満」層で15.2%、「400～500万円未満」層で11.9%と1割を超えている<表3-217>。中学生世帯についても1割を超えている所得階層をみていくと、子どもについては「400万円未満」層で11.0%、「400～500万円未満」層で14.8%、「500～700万円未満」層でも13.0%であり、家族については「400万円未満」層で13.4%、「500～700万円未満」層で17.0%となっている。中学生世帯では、「400万円未満」層だけではなく「500～700万円未満」層にも子どもや家族の健康・障害について不安を覚えている世帯が1割を超えている<表3-218>。

最後に、以下では学校の種類別で分析していく箇所も多いため、公立学校と私立学校別の特徴についても押さえておく。

子どもを公立学校に通わせている世帯は、小・

中学生世帯ともに「芝浦港南（小学生35.0%、中学生32.9%）」「高輪（小学生25.7%、28.7%）」地区で6割を超える。一方、私立学校に通わせている世帯は、小学生世帯で「麻布（31.3%）」「高輪（25.0%）」地区で半数を超え、中学生世帯で「高輪（32.3%）」「麻布（21.8%）」「芝浦港南（20.7%）」地区で7割を超えている〈表3-219〉。

居住年数については、小学生世帯は全体的に「5～9年」が高くなっているが、公立小学校では「5～9年（40.9%）」「10年以上（26.1%）」と比較的長く暮らしている世帯が多いが、私立小学校では「5～9年（32.2%）」の次は「1・2年（24.8%）」「10年以上（24.8%）」となっており、居住年数が浅い世帯と長い世帯とに分かれる。中学生世帯においては、「10年以上」が45%前後、「5～9年」が28%台で、公立・私立での差は見られない〈表3-220〉。

住宅の種類について、小学生世帯では「持ち家」は公立・私立に差は見られないが、「民間の賃貸」が私立学校において高くなり、「都営・区営・UR」「社宅・公務員住宅」が公立学校で高くなっている。中学生世帯でみると、私立学校で「持ち家」「民間賃貸」が高く、公立学校では「都営・区営・UR」が相対的に高くなっている。とりわけ中学生世帯の公営住宅は18.3%と高い割合

を示している〈表3-221〉。

それに関連して世帯年収についても、小・中学生世帯ともに、年収が低い方が公立学校の割合は高くなり、年収が高くなると私立学校の割合が相対的に高くなっている。両者の割合の転換する世帯年収は1,000万円であった。また中学生世帯の公立学校では、世帯年収「400万円未満」層が24.3%、「400～500万円未満」層9.5%も加えると3割を超しており、経済的に、より低い世帯が多くなっている〈表3-222〉。

共働きか否かについては、小・中学生世帯ともに公立学校の方が「共働き」は多く、割合で見ると、小学生世帯4割台、中学生世帯5割台と、より公立中学校世帯での共働き世帯が高くなっている〈表3-223〉。

主な生計者の仕事でも、小学生世帯の公立小学校では、「民間の常勤（60.3%）」「自営業・会社経営（23.5%）」「公務員・団体職員（10.6%）」、私立小学校では「民間の常勤（57.1%）」「自営業・会社経営（32.0%）」の順となっており、公立小学校において公務員・団体職員が1割を超えているのが特徴である。これに対し中学生世帯の場合、公立中学校で「民間の常勤（50.5%）」「自営・会社役員（27.2%）」とそれぞれ落ち込み、その分「臨時・パート就労（11.3%）」が1

表3-222 学校の種類×世帯収入

■小学生の世帯

	～400万円未満		400～500万円未満		500～700万円未満		700～1,000万円未満		1,000～2,000万円未満		2,000万円以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	138	12.1%	79	6.9%	164	14.3%	251	21.9%	386	33.7%	126	11.0%	1,144	100.0%
私立学校	13	5.6%	5	2.1%	9	3.8%	32	13.7%	89	38.0%	86	36.8%	234	100.0%
合計	151	11.0%	84	6.1%	173	12.6%	283	20.5%	475	34.5%	212	15.4%	1,378	100.0%

■中学生の世帯

	～400万円未満		400～500万円未満		500～700万円未満		700～1,000万円未満		1,000～2,000万円未満		2,000万円以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	64	24.3%	25	9.5%	39	14.8%	71	27.0%	52	19.8%	12	4.6%	263	100.0%
私立学校	18	7.4%	3	1.2%	15	6.2%	40	16.5%	100	41.3%	66	27.3%	242	100.0%
合計	82	16.2%	28	5.5%	54	10.7%	111	22.0%	152	30.1%	78	15.4%	505	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学生】 $\chi^2=122.930$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【中学生】 $\chi^2=114.281$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

割を超えている。中学生世帯の私立中学校の場合は、「民間の常勤（48.5%）」「自営・会社役員（35.0%）」「公務員・団体職員（8.8%）」と公務員・団体職員も相対的に高くなっている〈表3-224〉。

学校別の世帯構成は、中学校世帯の「母＋子」世帯が13.4%と1割を超えているが、他には学校種類別の特徴は見られない〈表3-225〉。子どもと家族の健康・障害不安は、中学生世帯における公立中学校で、子どもについても家族についても、それぞれ1割を超えて不安を感じていた〈表3-226〉。

2 親族と社会的ネットワーク

次に、保護者を取り巻くネットワークについてみていく。

世帯構成としての祖父母との同居率は、2章で示したように1割程度と少ないが、その内実を条件別にみってみる〈表2-28参照〉。

父方の親については、その物理的距離の繋がりが居住年数の長い世帯において高くなっている。小・中学生世帯ともに居住年数が「10年以上」の世帯に、父方の親と同居している場合が高くなっており〈表3-227〉、さらに同居していない場合でも、父方の祖父母は港区内に居住している割合が高い〈表3-228〉。

これを世帯年収で見ると、小・中学生世帯ともに、比較的所得の低い階層において同居の割合が高い。すなわち父方の親については、小学生世帯では年収「400万円未満（10.6%）」「400万～500万円未満（11.0%）」層で1割を超え、中学生世

帯でも「400万円未満（11.1%）」「400万～500万円未満（23.1%）」「500万～700万円未満（11.8%）」層で1～2割強が同居している。また特に年収400万円未満層では、「死去などにより同居していない」の割合も高く、小学生世帯で15.2%、中学生世帯で22.2%となっている〈表3-229〉。

母方の親についても世帯年収「400万円未満」層について、小学生世帯で13.2%、中学生世帯で14.6%が同居している〈表3-230〉。

同居していない場合の居住地についても、父方の親については、小・中学生世帯ともに「400万～500万円未満」層の小学生世帯で21.9%、中学生世帯で26.7%が区内に住んでおり〈表3-231〉、母方の親についても、「400万円未満」層の小学生世帯で14.5%、中学生世帯で21.2%が区内に住んでいる〈表3-232〉。

祖父母から提供される援助の種類も、上記の同居や近居の結果と連関するように、居住年数が「10年以上」の世帯や所得年収が500万円未満層では、「住宅の提供」が小・中学生世帯ともに2割を超えて高くなっている〈表3-233・234〉。

親の働き方の違いでは、小学生の共働き世帯では「子どもを預かるなどの援助（61.7%）」や「掃除・家事などの援助（19.8%）」が高く、共働きではない世帯では「食料などの物での援助（41.7%）」や「金銭的援助（23.7%）」が相対的に高くなっている〈表3-235〉。

中学生世帯についても、共働きでは「子どもを預かるなどの援助（36.1%）」や「掃除・家事などの援助（15.0%）」が高く、共働きではない世帯では「食料などの物での援助（45.4%）」が相

表3-236 学年×祖父母からの援助（複数回答）

■小学生の世帯

	金銭的援助		子どもを預かるなどの援助		住宅の提供		食料など物での援助		掃除・家事などの援助		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1・2年生	71	17.4%	265	64.8%	38	9.3%	159	38.9%	52	12.7%	38	9.3%
3・4年生	67	23.8%	169	59.9%	37	13.1%	112	39.7%	46	16.3%	33	11.7%
5・6年生	52	19.9%	142	54.4%	28	10.7%	113	43.3%	41	15.7%	39	14.9%
合計	190	20.0%	576	60.5%	103	10.8%	384	40.3%	139	14.6%	110	11.6%

※無回答は集計から除く。χ²=22.499 自由度=12 p=0.032* * p < 0.05

対的に高い。

さらに子どもの学齢段階に応じても援助の内容は変化していく。小学生世帯における「子どもの学年が1・2年生」の保護者は「子どもを預かるなどの援助（64.8%）」を祖父母から受けているが、子どもの学年が上がるについて「食料などの物での援助」が増加していく<表3-236>。

こうした援助の恩恵を受けているためか、「祖父母が頼りになる」という回答は7割を超えており、条件的な差異はほとんどみられない<図2-64参照>。しかし世帯年収400万円未満層だけは、小・中学生世帯ともに「親は頼りにならない」という回答が3割近くになっている<表3-237>。

次に社会的なネットワークについてみていく。学校における繋がりとして、PTA活動の参加については、小・中学生世帯ともに全体的には「積極的参加」が2割前後、「参加」が4割台と6割以上が参加している<図2-92参照>。反対に「ほとんど参加していない（できない）」という回答は、小学生世帯における「居住年数1・2年未満」<表3-238>「共働き世帯」<表3-239>「世帯年収500万円未満」<表3-240>、また子どもの学年が「1・2年生」の保護者に相対的に多い<表3-241>。

しかし、学校の先生との話については「よく話す」は3割半程度であり、PTA活動のように居

住年数や世帯年収による差はみられない<表2-94参照>。その中で有意な差が出ているのは、小学生世帯における「共働き世帯」が「あまり話さない」と回答しており、仕事の忙しさが影響していると思われる<表3-242>。また学校種別では、小学生世帯における公立小学校の保護者が、先生と「あまり話していない」という結果になっている<表3-243>。

部活動や少年野球チームでのお世話についてはどうであろうか。小・中学生世帯とも全体的に「お世話をしていない」保護者は7～8割と多かった<図2-93参照>。小学生世帯における居住年数「1・2年未満」の保護者が「していない（87.6%）」と9割近い回答であったが、他には諸条件別の差異はみられなかった<表3-244>。

学校などを媒介としての活動は、あまり積極的ではなかったが、プライベートな繋がりとして、家族や親戚以外で世間話をする人の有無についてみると、小・中学生世帯ともに7割以上が「たくさん・数名」の話し相手を持ち<図2-95参照>、それは子どもの友人の親など親役割を通してのネットワークと、職場や保護者自身の友人などのパーソナルなネットワークで構成されていた<図2-96参照>。

これらを条件別でみていくと、小学生世帯における「世帯年収500万円未満層」で、話し相手が

表3-252 学校の種類×地域の活動への参加

■小学生の世帯

	参加させている		参加させていない		そうした活動が地域にない		そうした活動を知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立の学校	508	41.9%	465	38.3%	29	2.4%	211	17.4%	1,213	100.0%
私立の学校	63	24.3%	100	38.6%	6	2.3%	90	34.7%	259	100.0%
合計	571	38.8%	565	38.4%	35	2.4%	301	20.4%	1,472	100.0%

■中学生の世帯

	参加させている		参加させていない		そうした活動が地域にない		そうした活動を知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立の学校	110	38.3%	124	43.2%	7	2.4%	46	16.0%	287	100.0%
私立の学校	34	12.8%	154	57.9%	12	4.5%	66	24.8%	266	100.0%
合計	144	26.0%	278	50.3%	19	3.4%	112	20.3%	553	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学生】 $\chi^2=48.399$ 自由度=3 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【中学生】 $\chi^2=45.507$ 自由度=3 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

「1・2名いる／いない」の割合が高い<表3-245>。また小・中学生世帯ともに「共働き世帯」では、話し相手が「たくさんいる」と「いない」の両方において割合が高くなっていることが特徴的である<表3-246>。その話し相手についても、共働き世帯では当然ながら「職場関係の人」が相対的に高くなっている<表3-247>。

最後に、「地域における活動に、わが子を参加させているかどうか」についてみると、2章で概観したように、小学生世帯が「参加させている」「参加させていない」が共に4割弱、「活動を知らない」が約2割であるのに対して、中学生世帯では「参加させていない」が5割、「参加させている」が2割半、「活動を知らない」が約2割と、地域活動への参加の難しさと、活動の広報の必要性が示された<図2-77参照>。

これを条件別でみると、居住年数が浅い「1・2年未満」層において「活動を知らない」割合が高く、小学生世帯で25.1%、中学生世帯で30.5%である<表3-248>。

小学生世帯における世帯年収では、ばらつきはあるものの「400万円未満(47.7%)」と「500万~700万円未満(49.7%)」の階層では「参加させている」割合が高く、「2,000万円以上」の階層では「参加させていない(47.1%)」と「活動を知らない(24.3%)」の割合が高い。高所得層では、地域にあまり根付いていない傾向となっている<表3-249>。

学校種別では、「参加させている」のは公立小学校(41.9%)と公立中学校(38.3%)で高く、私立小学校では「活動を知らない」が私立小学校で34.7%、私立中学校で24.8%と高い。さらに私立中学校では、「参加させていない」も57.9%と高かった<表3-250>。

最後に、この「地域活動に参加させている」という条件別で他の要因をみってみる。地域での活動にも参加させている小学生世帯の保護者は、「PTA活動(25.5%)」も「部活動などの支援(25.7%)」<表3-251>も積極的に行い、学校の教師とも「よく話し(43.9%)」、家族以外の会話の相手も「たくさんいる(29.4%)」<表3-252>となっている。中学生世帯についても、「PTA活

動(30.1%)」も「部活動などの支援(39.2%)」も積極的に行い、学校の教師とも「よく話し(49.0%)」しており、地域も学校もプライベートでも広いネットワークで積極的に活動している保護者の様子がうかがえる。

3 子どもの生活と子育て

(1) 家庭生活

子どもたちの家庭における生活の様子について、子どもたちの所有しているモノと、その使わせ方、また生活習慣からみていく。

子ども専用の部屋については、全体で小学生世帯の4割強、中学生世帯の6割が所有していたが、これを世帯年収別でみていくと、大まかな傾向として高所得の子どもの方が専用の部屋をもっており、小学生世帯でも年収1,000万円以上では5割を超し、中学生世帯では1,000万円以上で7割を超している。しかし、500~700万円未満層で小学生世帯における所有率が3割、中学生世帯における所有率が4割と落ち込むなど、経済的あるいは部屋の広さの制約だけではなく、親の教育的な意図によって、子ども専用部屋を設けていないということも考えられる<表3-253>。ただし、小・中学生世帯を含めた年収300万円未満層だけでみていくと、子ども部屋の占有率は30.7%に落ち込み、ここでは経済的な制約も考えられる<表3-254>。一方、子どもたちの学校種別で比較すると、小学校世帯では公立4割、私立7割弱、中学校世帯では公立5割、私立7割と、私立学校に通わせている子どもたちの専用部屋の所有率が高くなる<表3-255>。

では具体的な持ち物については、どうだろうか。ゲーム・パソコン・携帯電話(スマートフォン)・テレビについてたずねてみた。これらも学校種別で比較していくと、ゲームについては、小・中学生世帯ともに「本人専用」「家族共用」の割合に大差はないが、小学生世帯においてゲーム機を「使用させていない」「家がない」、また中学生世帯において「家がない」という割合は私立学校において高くなっている<表3-256>。テレビについては、中学生世帯における「本人専用」のテレビ所有率が公立で7.8%とやや高かつ

たが、小・中学生世帯ともに家族共有のモノとしてテレビは位置付いている<表3-257>。しかしテレビやゲームの視聴や使用時間について、親としての制限をしているかどうかについてみると、私立学校の小学生世帯において75.3%がコントロールしており、私立学校に通わせている保護者において、より教育的配慮や意図的な関与の傾向がみられる<表3-258>。一方パソコンについては、小学生世帯(11.0%)・中学生世帯(21.1%)ともに私立学校において「本人専用」として所有させている割合が相対的に高く<表3-259>、インターネットなどの閲覧制限にしても私立学校の方が「制限をしている」ものの、その割合は公立学校と大きな違いはない<表3-260>。また携帯電話(スマートフォン)についても、小学生世帯(66.1%)・中学生世帯(95.1%)ともに私立学校

において「本人専用」として与えており、それぞれ公立学校での本人専用所有率より10~20%高くなっている<表3-261>。

また1ヶ月に与えているお小遣いについても、一概に世帯年収に関連して子どもの小遣いの金額が決まるものではなく、そこには保護者の考えや、家庭ごとの決まり事が反映されており、例えば月々ではなく必要に応じて小遣いを渡し、あるいは子どもからの申請に応じて親の判断の下でモノを買い与えると言う場合もありうる。それらの影響のためか、月々のお小遣いを「あげていない」という割合は、小学生世帯では年収1,000万円以上において7割近く、中学生世帯でも23~25%と、低い世帯年収の家庭よりも高い割合となっている<表3-262>。学校種別では、私立学校の小学生世帯において「あげていない」が7割を超えてい

表3-262 世帯収入×小遣いの有無

■小学生の世帯

	小遣いの有無					
	あげている		あげていない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
~400万円未満	50	33.6%	99	66.4%	149	100.0%
400~500万円未満	30	36.1%	53	63.9%	83	100.0%
500~700万円未満	58	33.7%	114	66.3%	172	100.0%
700~1,000万円未満	104	37.0%	177	63.0%	281	100.0%
1,000~2,000円未満	144	30.3%	331	69.7%	475	100.0%
2,000万円以上	68	31.9%	145	68.1%	213	100.0%
合計	454	33.1%	919	66.9%	1,373	100.0%

■中学生の世帯

	小遣いの有無					
	あげている		あげていない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
~400万円未満	57	70.4%	24	29.6%	81	100.0%
400~500万円未満	22	78.6%	6	21.4%	28	100.0%
500~700万円未満	44	81.5%	10	18.5%	54	100.0%
700~1,000万円未満	87	79.8%	22	20.2%	109	100.0%
1,000~2,000円未満	115	76.7%	35	23.3%	150	100.0%
2,000万円以上	57	75.0%	19	25.0%	76	100.0%
合計	382	76.7%	116	23.3%	498	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学生】 $\chi^2=4.129$ 自由度=5 p=0.531

【中学生】 $\chi^2=3.278$ 自由度=5 p=0.657

る<表3-263>。

日常生活においては、「毎日朝食をとって登校しているか」、「登校状況」、「夕食を誰と食べているのか」の質問については、第2章でも概観したように、小学生世帯では9割以上が毎朝食事を取ってから学校に行き、その登校率も100%に近い。中学生世帯でも9割近くが朝食を取って学校へ行き、登校率も100%近い<表3-264・265>。本調査に協力してくれた小学生世帯の回答者1,505名中、「時々休む」+「よく休む」が22名、中学生世帯でも562名中13名という状況からして、回答者世帯では大半の子どもが学校に毎日登校している。夕食についても、子ども自身の塾や習い事、また親の仕事の都合で「家族そろって」の夕食にはならなくとも、「家族の誰か」とは一緒に食べているという回答を合わせると、小・中学生世帯ともに9割を超え、これらは公立・私立による違いはみられない<表3-266>。しかし朝の「起床」については、小・中学生世帯ともに、私立学校の子どもたちは公立学校に比べて、「ほとんど自分で起きる」ことは少なく、「たいていは親が起こす」割合が高くなっている<表3-267>。

(2) 学校・放課後生活

次に学校や放課後の子どもたちの生活をみていくが、学習に関する内容については、後の「教育と教育費」の所で触れていく。

自分の子どもに仲の良い友人がいるかどうかについては、小・中学生世帯ともに95%近くが「いると思う」と回答しており、これは諸条件の違いによる差異はみられない<表3-268>。しかし、わが子が「いじめ」の被害にあった経験の有無については、小学生世帯においては世帯年収500万

円未満層で「いじめにあった事があると思う」が2割前後と相対的に高く<表3-269>、中学生世帯においては公立中学校において25.0%すなわち4人に1人がいじめにあった経験があったのではないかと認識している<表3-270>。小・中学生世帯を含めた年収300万円未満層においても、わが子のいじめ被害の認識は25.5%に上っている<表3-271>。

また、放課後に子どもがどこで何をして遊んでいるかについては、主に小学生世帯において差がみられた。親が共働きか否かの違いでは、共働き世帯の場合は、「児童館(40.4%)」や「友人宅を含む家の中(27.7%)」で放課後を過ごしている場合が多く、共働きではない世帯は「家の中(47.8%)」や「公園などの屋外(20.9%)」で子どもたちは遊んでいる<表3-272>。世帯年収で見ると、2,000万円以上の層において「家の中」での遊びは50.3%と半数を超えている<表3-273>。さらに学校の種類別では、公立小学校に通う子どもたちは「家の中(35.0%)」「児童館(27.6%)」「公園など(19.2%)」が高くなっているが、私立小学校は「家の中(56.8%)」が最も高く、「学校(25.3%)」がこれに続いている。中学生の放課後の遊び場所についても、学校種別では差異がみられ、公立中学校では「家の中(58.1%)」「公園など(15.4%)」「中高生プラザ(7.1%)」となっているが、私立中学校では「家の中(48.4%)」「学校(29.5%)」となっており、小学生の場合と同様に、私立学校では放課後に学校で過ごしている割合が高い<表3-274>。

親として、わが子が何をして遊んでいるのかについての認知は、小学生世帯における、共働きではない世帯の親(55.2%)、世帯年収では2,000

表3-272 共働きの有無×放課後の遊び場所

■小学生の世帯

	家の中(友人宅を含む)		学校		児童館や中高生プラザ		公園などの屋外		繁華街		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
共働きである	161	27.7%	77	13.2%	235	40.4%	63	10.8%	0	0.0%	46	7.9%	582	100.0%
共働きではない	377	47.8%	117	14.8%	90	11.4%	165	20.9%	1	.1%	39	4.9%	789	100.0%
合計	538	39.2%	194	14.2%	325	23.7%	228	16.6%	1	.1%	85	6.2%	1,371	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=179.712 自由度=5 p=0.000* * p < 0.05

万円以上の親（65.1%）、そして私立小学校の親（58.5%）の方が、子どもの遊びの内容を「よく知っている」と回答している。この項目に関して中学生の親については、諸条件での差異はみられなかった<表3-275>。

（3）親子関係と子育ての悩み

これまでの子どもたちの生活を背景にしつつ、学齢期にある子どもと親との関係をみていく。

親子間での会話について、「子どもが、その日の出来事や悩みを話すかどうか」をたずねたところ、2章にあるように全体的には、小学生世帯の7割強、中学生世帯の7割弱が「とてもよく＋よく」話をしている<表3-276>。しかし、小学生世帯の学校種別で差が見られ、公立小学校では「とてもよく話をする」は20.3%であるのに対して、私立小学校では28.9%と高く、「あまり話をしない」「話をしない」は公立小学校で、それぞれ24.3%、3.8%と相対的に高くなっている<表3-277>。

こうした日頃の会話についての評価は、小・中学生世帯ともに、共働き・公立学校に通わせている世帯の方が「十分ではない」と感じており、その差は小学生世帯において大きい。小学生世帯の共働きの場合は42.3%、公立小学校で39.4%が「子どものとの会話は十分ではない」と回答している<表3-278>。

さらに親子の関わりとして、「過去1年間に親子そろって旅行やキャンプに行ったかどうか」をたずねると、全体では小学生世帯の9割が行っており、中学生世帯になると部活動もあり、また親との外出を避けることもあって、その割合は下がるものの、それでも8割と相対的に高く<表3-279>。その中で小・中学生世帯ともに、共働き・公立学校の方が「行っていない」割合は若干高くなるが、その差は数パーセント程度である。しかし世帯年収別でみると、年収400万円未満層における小学生世帯で17.9%、中学生世帯で41.3%と、その割合が高くなっている<表3-280>。

次に子育ての悩みや心配についてみていく。先に、子どもたちの放課後に過ごす場所や遊びの内容の認知については触れたが、親として子ども

の遊びについて心配なことをたずねた。小学生世帯では、共働き世帯の子どもは児童館で過ごしている場合が多いためか「心配なことはない（35.9%）」と回答しており、反対に、共働きではない世帯では「遊ぶ場所（19.2%）」や「遊ぶ時間（14.4%）」について心配している。一方、学校の種別でみていくと、私立小学校の親は、「遊ぶ時間（16.1%）」について公立小学校の親よりも心配をしているものの、「心配なことはない（40.2%）」の割合が高い。公立小学校の親では「心配なことはない（30.9%）」は3割台になり、「遊ぶ場所（19.3%）」「遊び方（17.8%）」「遊び相手（17.5%）」の悩みが相対的に高くなっている<表3-281>。

中学生世帯においても、私立中学校の親の方が「心配なことはない（44.8%）」と「遊ぶ場所（13.9%）」が心配という回答が高く、公立中学校の親は「遊び方（16.7%）」「遊ぶ時間（16.0%）」「遊び相手（15.6%）」について心配している<表3-281参照>。

次に、「学校生活」「友だち関係」「学習・進路」「発達」「しつけ」「病気・障害」についての悩みの有無と、その相談先の有無についてみていく。2章で概観したように、悩みの有無については、小・中学生世帯ともに「学習・進路」が4～5割、「しつけ」が3割弱と高くなっているものの、全体的にはさほど高くはない<図2-83参照>。例えば、小学生世帯の「友だち関係」の悩みを有している保護者は21.2%（319名）であるが、その319名中94名（29.5%）は相談先が「ない」と回答している。こうした傾向は、「病気・障害」に関する悩み以外の全てについて見られる傾向である<図2-84参照>。たとえ悩んでいる保護者の実数が少なくとも、その相談先がない者が4人に1人以上いるという状況は、今後取り組んでいく必要のある課題であろう。また、これらを条件別にみると、小・中学生世帯ともに公立学校において「悩みを抱え」「相談先がない」と回答する割合が高くなっている<表3-282-1・282-2>。

子育てについては、他に「非行」や「性」に関する心配の有無もたずねている。小・中学生世帯ともに条件別による大きな差は生じていないが、

表3-281 共働きの有無、学校の種類×遊びの心配

■小学生の世帯

	遊ぶ場所		遊ぶ時間		遊び相手		遊び方		心配なことはない		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
共働きである	105	17.5%	56	9.3%	103	17.2%	100	16.7%	215	35.9%	20	3.3%	599	100.0%
共働きではない	158	19.2%	118	14.4%	138	16.8%	135	16.4%	246	29.9%	27	3.3%	822	100.0%
合計	263	18.5%	174	12.2%	241	17.0%	235	16.5%	461	32.4%	47	3.3%	1,421	100.0%
公立学校	229	19.3%	133	11.2%	207	17.5%	211	17.8%	366	30.9%	40	3.4%	1,186	100.0%
私立学校	36	14.5%	40	16.1%	37	14.9%	28	11.2%	100	40.2%	8	3.2%	249	100.0%
合計	265	18.5%	173	12.1%	244	17.0%	239	16.7%	466	32.5%	48	3.3%	1,435	100.0%

■中学生の世帯

	遊ぶ場所		遊ぶ時間		遊び相手		遊び方		心配なことはない		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
共働きである	26	10.4%	34	13.5%	37	14.7%	39	15.5%	103	41.0%	12	4.8%	251	100.0%
共働きではない	31	11.6%	31	11.6%	35	13.1%	47	17.5%	111	41.4%	13	4.9%	268	100.0%
合計	57	11.0%	65	12.5%	72	13.9%	86	16.6%	214	41.2%	25	4.8%	519	100.0%
公立学校	22	8.0%	44	16.0%	43	15.6%	46	16.7%	106	38.5%	14	5.1%	275	100.0%
私立学校	36	13.9%	23	8.9%	31	12.0%	41	15.8%	116	44.8%	12	4.6%	259	100.0%
合計	58	10.9%	67	12.5%	74	13.9%	87	16.3%	222	41.6%	26	4.9%	534	100.0%

※無回答は集計から除く。

小学生

【共働きの有無】 $\chi^2=11.482$ 自由度=5 $p=0.043^*$ * $p < 0.05$ 【学校の種類】 $\chi^2=18.244$ 自由度=5 $p=0.003^*$ * $p < 0.05$

中学生

【共働きの有無】 $\chi^2=1.160$ 自由度=5 $p=0.949$ 【学校の種類】 $\chi^2=12.330$ 自由度=5 $p=0.031^*$ * $p < 0.05$

非行問題について、小学生世帯の年収400万円未満層（10.8%）と400～500万円未満層（12.3%）、中学生世帯の公立中学校（8.5%）において、「心配である」という回答が約1割となっている（表3-283・284）。

子育てをしていく上で、他の家の子どもが気になることになり心配になることもあると思われる。今回の調査で「他の家の子と比較して気になることの有無」をたずねたところ、小学生世帯における保護者は、「よくある」+「たまにある」が50.8%であり、中学生世帯では「よくある」+「たまにある」が44.3%であった（表3-285）。他の子育て調査においても、「他児と比較する母親は子育てにおける不安が高い」傾向が見られたが、本調査において「他児と比較する」親とは、どのような親であろうか。上記の「よくある」+「たまにある」を「ある群」、「あまりない」+「ない」を「ない群」としてクロス集計を

行い、小学生世帯、中学生世帯それぞれについて、有意差が出ている項目を示していく。

他児比較しがちな小学生の保護者は、「当該生徒が男子」＜表3-286＞「健康・障害の心配がある子どもがいる」＜表3-287＞「子どもの親友はいないと思う／わからない」＜表3-288＞「子どもがいじめにあったことがあると思う／わからない」＜表3-289＞「学校の対応に問題を感じてい

表3-287 他の子との比較で気になるか

	小学生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
よくある	102	6.8%	32	5.7%
たまにある	662	44.0%	217	38.6%
あまりない	527	35.0%	226	40.2%
ない	170	11.3%	77	13.7%
無回答	44	2.9%	10	1.8%
合計	1,505	100.0%	562	100.0%

る」〈表3-290〉「子どもは学校の授業をあまり理解していない／理解しているかどうかわからない」〈表3-291〉「塾はとても必要だと思う／少しは必要だと思う」〈表3-292〉「子どもの勉強をよくみる」〈表3-293〉「塾などに通わせている」〈表3-294〉「子どもの遊びについて場所／時間／相手／遊び方について心配」〈表3-295〉「非行の心配がある」〈表3-296〉「性についての心配がある」〈表3-297〉「学校生活についての悩みがある」〈表3-298〉「子どもの友人関係について悩みがある」〈表3-299〉「学習・進路について悩みがある」〈表3-300〉「発達について悩みがある」〈表3-301〉「しつけについて悩みがある」〈表3-302〉「病気・障害について悩みがある」〈表3-303〉「病気・障害の悩みについての相談先がない」〈表3-304〉「子どもからの話や悩みの相談はあまりない／ほとんどない」〈表3-305〉「親子の日頃の会話は十分だと思っていない」〈表3-306〉「家族以外の世間話をする人は1・2名」〈表3-307〉「家族以外の話し相手は、子どもの友人の親／近隣の人」〈表3-308〉「子どもの事の相談先は、親戚／子どもを通しての友人／職場以外の友人／学校の先生／公的な相談機関／民間の相談機関」〈表3-309〉の回答において他児比較をしない保護者よりも高い割合を示している。

中学生世帯についても、他児比較しがちな保護者は「当該生徒が男子」〈表3-286〉「朝はたいてい親が起こす」〈表3-310〉「公立中学校」〈表3-311〉「子どもは学校の授業をあまり理解していない／理解しているかどうかわからない」〈表3-291〉「塾はとても必要だと思う」〈表3-292〉「子どもの遊びについて、遊ぶ場所／相手／遊び方について心配」〈表3-295〉「非行の心配がある」〈表3-296〉「母親の学歴が専門学校・短大卒業」〈表3-312〉「学校生活についての悩みがある」〈表3-298〉「子どもの友人関係について悩みがある」〈表3-299〉「学習・進路について悩みがある」〈表3-300〉「学習・進路の悩みについての相談先がない」〈表3-313〉「発達について悩みがある」〈表3-301〉「しつけについて悩みがある」〈表3-302〉「PTAの

活動は参加している（他児比較をしない保護者は「ほとんど参加していない」割合が高い）」〈表3-314〉の回答において他児比較をしない保護者よりも相対的に高くなっている。

小・中学生世帯ともに全般的にネガティブな回答が高く、子育ての悩みの要因の一つとして、他の家の子ともと比較があると考えられる。

4 教育と教育費

最後に、子どもたちの学習や教育に関する保護者の意識についてみていく。

自分の子どもが学校の授業を理解しているかどうかについては、全体的には「よく理解している」「理解している」という回答が、小学生世帯で9割、中学生世帯で8割弱占める〈表3-315〉。しかし、小学生世帯においては、学校別で私立小学校の親の方が「授業をよく理解している（54.8%）」と認識しており（公立小学校は40.8%）、反対に公立小学校では「あまり理解できていない（5.9%）」と思う親や、そもそも「理解しているかどうかかわからない（4.1%）」という親が相対的に高い〈表3-316〉。

世帯年収別でも同様に、年収が高くなるにつれて「よく理解している」割合は高くなり、「理解できていない」「わからない」の割合は低くなっている〈表3-317〉。さらに父親と母親の学歴階層についても同様に、わが子が授業を「よく理解している」と認識しているのは4年制大学卒業の親に多く、「理解できていない」「わからない」という回答は、中卒・高卒の親に多い〈表3-318〉。

中学生世帯においても同様に、私立中学校・高所得・父母の学歴が高い親の方が「授業をよく理解している」と回答しており、公立中学校・低所得・低学歴の親の方が「理解できていない」「わからない」と回答している。特に中学生世帯においては、その数値が大きく開いていることが特徴である。

こうした子どもの学校での学習理解度を把握できているのも、日頃、家族が子どもの勉強を見ているからかもしれない。上記と連関するように、小・中学生世帯ともに「私立学校」「高所得」「父母の高学歴」の条件にある世帯では、家族が子ど

もの勉強を見るのが「よくある」と回答している<表3-319>。

これらの結果を反映しているのか、学校の授業だけではない塾などの勉強の必要性について、小・中学生世帯ともに必要性を感じているが、なかでも「とても必要だと思う」は公立学校でより高く、「あまり必要ではない」や「ほとんど必要ない」は私立学校において高い傾向にある<表3-320>。

実際、子どもを学習塾に行かせたり家庭教師を頼んだりしているのは、小・中学生世帯ともに公

立学校において高い（小学生で63.4%、中学生で65.9%）<表3-321>。これを世帯年収別でみると、小・中学生世帯ともに、年収が高くなるにつれて塾や家庭教師を利用している割合は高くなる傾向にある<表3-322>。公立学校に通わせている保護者は、子どもが学校の勉強を理解していないと認識するとともに学校以外での学習の必要性を感じ、年収の制約はありつつも、塾などを使って補おうとしている様子が見える。

一方、習い事について、子どもに習わせているものを複数回答で選択してもらった。特に小学生

表3-322 学校の種類×塾などの勉強の必要性

■小学生の世帯

	とても必要だと思う		少しは必要だと思う		あまり必要だと思わない		ほとんど必要だと思わない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	368	30.0%	605	49.3%	184	15.0%	71	5.8%	1,228	100.0%
私立学校	60	23.0%	128	49.0%	47	18.0%	26	10.0%	261	100.0%
合計	428	28.7%	733	49.2%	231	15.5%	97	6.5%	1,489	100.0%

■中学生の世帯

	とても必要だと思う		少しは必要だと思う		あまり必要だと思わない		ほとんど必要だと思わない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	114	38.9%	147	50.2%	20	6.8%	12	4.1%	293	100.0%
私立学校	54	20.2%	134	50.2%	47	17.6%	32	12.0%	267	100.0%
合計	168	30.0%	281	50.2%	67	12.0%	44	7.9%	560	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学生】 $\chi^2=10.691$ 自由度=3 $p=0.014^*$ * $p < 0.05$ 【中学生】 $\chi^2=40.882$ 自由度=3 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

世帯において、スポーツ・音楽・英会話などを私立小学校・高所得・父母の学歴階層が高い世帯の方が習わせている割合は高くなっている<表3-323>。そこには経済的な制約も関わってくるためと考えられるため、習い事や通信教育などで子どもにかけているお金について、「該当する子ども1人あたり」でたずねてみた。

その結果、学校種類別で見ると、公立小学校が多い順に「1万～2万円未満 (19.4%)」「2万～3万円未満 (18.7%)」「3万～4万円未満 (15.3%)」となるのに対して、私立小学校では「3万～4万円未満 (17.9%)」「5万～6万円未満 (17.5%)」「2万～3万円未満 (13.0%)」と

なり、やはり私立小学校の方が高いお金をかけている世帯が多い。

しかし中学生世帯では、先の「授業理解」と「塾などの学校外の学習」の回答に表れていたように、私立中学校は「学校だけで十分」と考えており、また中学生段階になって習い事は減っているためか、小学生世帯におけるような傾向はなく、反対に習い事などにかかる費用は「0円」が高くなっている。すなわち、公立中学校では「3万～4万円未満 (17.8%)」「0円 (17.4%)」「2万～3万円未満層 (16.0%)」であり、私立中学校では「0円 (25.4%)」「3万～4万円未満 (13.7%)」「1万～2万円未満 (12.9%)」「2万～3万円未

満(12.5%)」となっている<表3-324>。

世帯年収別でみると、小学生世帯における比較的低い所得階層では「1万～2万円未満」が3割前後、「2万～3万円未満」が15%前後と多く、高所得層では「2万～3万円未満」と「3万～4万円未満」が、それぞれ2割前後となっている。とりわけ2,000万円以上の所得階層では、「5万～6万円未満(19.5%)」「3万～4万円未満(15.5%)」「10万～20万円未満(14.0%)」と習い事に高い費用をかけている。

中学生世帯の場合は、400万円未満層で「0円(35.9%)」が高いことと、反対に「7万円以上」にかけている世帯は、1,000万～2,000万円未満層(12.8%)と2,000万円以上の階層(22.3%)で大方占められていることが特徴である<表3-325>。

これらの金額に対する評価も、小・中学生世帯ともに、公立学校・低所得・父母の学籍階層が低い方では「もっとかけてあげたい」と感じているが、私立学校・高所得・父母の学籍階層が高い方では「十分である」と感じている<表3-326>。

さらに、子どもの習い事や通信教育について、「子ども全員」の費用についてもたずねてみた。それぞれの世帯の子どもの数や年齢構成によって差は生じてくるが、月に総計して「10万～20万円未満」の金額をかけている世帯が、小学生世帯で1,000万～2,000万円未満階層で10.9%、2,000万円以上階層で26.9%存在し、中学生世帯でも1,000万～2,000万円未満階層で18.9%、2,000万円以上階層で32.4%存在し、高所得階層における子どもにかかる金額の高さがみられる<表3-327>。

一方で、小・中学生世帯を含めた世帯年収300万円未満における「子ども全員」の習い事などの費用をみてみると、「0円(21.7%)」が最も多い回答であったが、「2万～3万円未満(17.4%)」「1万～2万円未満(16.7%)」の割合も高く、限られた年収の中から子どもの費用を捻出している様子がうかがえる<表3-328>。

こうした子どもの将来に関わって、かかる費用のために準備している学資保険への加入についてみると、第2章にあるように調査全体の所得水準が高いにも関わらず加入率は全体で半数を下回っていた。これを条件別で見ると、小・中学生世帯

ともに私立学校の方が「かけていない」割合が若干高くなっており<表3-329>、とりわけ所得階層による2,000万円以上の層においては、「かけていない」が小学生世帯で65.9%、中学生世帯で65.4%と高く、子どもの教育費も学資保険に依拠していないと思われる<表3-330>。

子どもの将来の進路希望については、全体の9割近い保護者が「4年制大学卒業」を希望しているが<表3-331>、条件別では、私立学校では「4大卒」希望が小学生世帯(97.7%)・中学生世帯(96.6%)ともに100%近いのに比べて、公立学校では8割弱～9割弱程度に留まる。所得階層でも、高所得層ほど「4大卒」希望の割合が9割を超えて高く、低所得層で「高校卒業」の割合が高まる。親の学歴階層では、小・中学生世帯ともに、4大卒の保護者は「4大卒」希望が9割を超えているが、中学・高校卒業の保護者は「高校卒業」や「専門学校」で良いとしている回答が1割程度いる<表3-332>。

C 小・中学生の生活 第3調査(調査票Ⅲ)

1 子どもと保護者の状況

これまでは、保護者からみた子どもや子育てについて検討してきたが、ここでは小学4年生と中学2年生の回答について検討していく。

最初に保護者に回答してもらったフェイスシートも含めて、回答者の状況を諸条件別にみていく。

本調査では、小学4年生世帯は「芝浦港南地区」、中学2年生世帯では「高輪地区」に居住している割合が3割弱で最も高かった<表3-333>。それぞれの地域を居住年数との関連でみると、小学4年生については、芝地区と高輪地区は居住年数が長い世帯(「5～9年」と「10年以上」)で7～8割程度を占め、芝浦港南地区は「5～9年」で54.4%、また麻布地区では「1・2年(31.8%)」と「10年以上(32.9%)」というように、居住年数が浅い者と長く居住している者へと分散していた。また赤坂地区は、1年～10年以上に渡って、それぞれ2割程度存在していた。

中学2年生では、芝・麻布・芝浦港南地区では「5～9年」と「10年以上」で約7～8割を占めるが、とりわけ芝浦港南地区は小学4年生の場

合と同様に「5～9年」で52.7%と半数を超しており、これは大規模住宅の影響が考えられる。高輪地区も「10年以上（50.7%）」だけで半数を超しているが、年数の浅い「1・2年（25.3%）」の割合も高い。赤坂地区については「1・2年（23.9%）」「5～9年（23.9%）」「10年以上（33.8%）」となっており、「5年以上」で半数を超す一方で居住年数の浅い世帯も2割を超してい

たく表3-334>。

住宅の種類については、小・中学生世帯ともに、居住年数が浅い「1・2年」では「民間の賃貸住宅」や「社宅・公務員住宅」の割合が高く、居住年数が5年以上になってくると「持ち家」の割合が7割前後と高くなっている<表3-335>。

また、子ども自身が回答している「家庭の経済状況」について「豊かだと思う」+「普通」、

表3-335 住宅の種類×居住年数

■小学4年生

	1～2年		3～4年		5～9年		10年以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
持ち家	46	12.5%	47	12.8%	141	38.3%	134	36.4%	368	100.0%
民間の賃貸住宅	36	29.8%	29	24.0%	35	28.9%	21	17.4%	121	100.0%
都営・区営・UR等	10	16.1%	2	3.2%	21	33.9%	29	46.8%	62	100.0%
社宅・公務員住宅	12	31.6%	5	13.2%	12	31.6%	9	23.7%	38	100.0%
その他	0	0.0%	1	16.7%	2	33.3%	3	50.0%	6	100.0%
合計	104	17.5%	84	14.1%	211	35.5%	196	32.9%	595	100.0%

■中学2年生

	1～2年		3～4年		5～9年		10年以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
持ち家	44	13.1%	26	7.7%	107	31.8%	159	47.3%	336	100.0%
民間の賃貸住宅	28	37.8%	13	17.6%	16	21.6%	17	23.0%	74	100.0%
都営・区営・UR等	3	5.1%	6	10.2%	15	25.4%	35	59.3%	59	100.0%
社宅・公務員住宅	10	43.5%	3	13.0%	5	21.7%	5	21.7%	23	100.0%
その他	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	3	100.0%
合計	86	17.4%	48	9.7%	143	28.9%	218	44.0%	495	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学4年生】 $\chi^2=53.036$ 自由度=12 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$ 【中学2年生】 $\chi^2=60.835$ 自由度=12 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

「困っていると思う」の2群に分けてみると、小学4年生の「豊か+普通」層は「持ち家（62.1%）」「民間住宅（21.9%）」で8割を超し、「困っている」層は「持ち家（60.3%）」「都営・区営・UR（19.8%）」で8割を超していた。

中学2年生についても、「豊か+普通」層は「持ち家（72.1%）」「民間住宅（13.5%）」、「困っている」層は「持ち家（45.1%）」「都営・区営・UR（33.8%）」と公営住宅の利用割合が高かった<表3-336>。

回答してくれた子どもたちの男女比は、ほぼ半数であったが、学校種別では、小・中学生ともに

公立学校では男子が多く、私立学校では女子が多かった<表3-337>。

通学している学校については、小・中学生ともに、共働き世帯では公立学校が多く（小学生：90.5%、中学生：61.8%）、共働きではない世帯では私立学校に通っている者が多い（小学生：20.8%、中学生：52.5%）<表3-338>。

地域との関連では、小学4年生の公立小学校に通わせている世帯は「芝浦港南（33.7%）」「高輪（26.9%）」地区に、私立小学校に通わせている世帯では「麻布（30.5%）」と「高輪（29.5%）」地区に、それぞれ6割以上が居住している。

表3-338 家庭の経済状況×住宅の種類

■小学4年生

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
豊か・普通	295	62.1%	104	21.9%	41	8.6%	30	6.3%	5	1.1%	475	100.0%
困っている	70	60.3%	14	12.1%	23	19.8%	8	6.9%	1	0.9%	116	100.0%
合計	365	61.8%	118	20.0%	64	10.8%	38	6.4%	6	1.0%	591	100.0%

■中学2年生

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
豊か・普通	261	72.1%	49	13.5%	32	8.8%	17	4.7%	3	0.8%	362	100.0%
困っている	32	45.1%	12	16.9%	24	33.8%	3	4.2%	0	0.0%	71	100.0%
合計	293	67.7%	61	14.1%	56	12.9%	20	4.6%	3	0.7%	433	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学4年生】 $\chi^2=15.429$ 自由度=4 $p=0.003^*$ * $p < 0.05$ 【中学2年生】 $\chi^2=36.103$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

中学2年生についても、公立中学校に通わせている世帯は「芝浦港南 (31.7%)」と「高輪 (28.8%)」地区に、私立中学校に通わせている世帯は「高輪 (30.7%)」「麻布 (21.3%)」「芝浦港南 (20.9%)」で6割を超している<表3-339>。

世帯構成は、小・中学生ともに「父母子世帯」が7～8割と多く、次いで「母+子世帯」が1割前後であったが<表3-340>、居住年数で見ると「父母子世帯」は居住年数に関係なく広く分布しているが、「父母子+祖父母」の三世帯世帯は居住年数が高い「10年以上」で1割を超え、「母+子世帯」は「1・2年 (小学生:11.4%、中学生:20.9%)」「3・4年 (小学生:10.6%、中学生:14.6%)」に多くなっている<表3-341>。

さらに世帯構成を「きょうだいがいる」と「きょうだいがいない」との比較で見ると、小・中学生ともに「きょうだいがいる」世帯は、「父母子」と「父母子+祖父・祖母」世帯に比較的多く、「きょうだいがいない」世帯は、三世帯も含めたひとり親世帯(「母+子」「父+子」「母+子+祖父・祖母」「父+子+祖父・祖母」)に多くなっている<表3-342>。

地域別で見ると、小学4年生では、「芝地区 (13.0%)」で「父母子+祖父・祖母」世帯が、「赤坂地区 (14.6%)」で「母+子」世帯が相対的

に高くなっている。

中学2年生については、「芝地区 (20.6%)」「麻布地区 (11.9%)」「赤坂地区 (11.4%)」で「父母子+祖父・祖母」世帯が高く、「麻布地区 (14.3%)」「芝浦港南地区 (12.9%)」で母子世帯が比較的高くなっている<表3-343>。さらに中学2年生で「家庭の経済状況が困っていると思う」と回答した中の26.8%は母子世帯であった<表3-344>。

生計を支えている者の職業は、小・中学生ともに「民間の常勤雇用」が約5～6割、「自営業・会社経営」が約3割を占めていた<表3-345>。条件別でみた場合、特に中学2年生の「共働き」「私立中学校」世帯では「自営業・会社経営」が3割を超え、「共働きではない」「公立中学校」世帯では「臨時・パートなどの勤務」が1割を超え相対的に高くなっている(この「共働きではない」には、ひとり親世帯の働き方も含まれている)<表3-346>。

さらに中学2年生で「経済的に困っていると思う」世帯は、「臨時・パートなどの勤務」が25.4%に上っており、これも先のデータと同様に中学2年生で約1割を占めている母子世帯によるものと考えられる<表3-347>。

2 家庭生活

(1) 日常生活

子どもたちの日常生活について、毎朝の起床からみていくと、親などに「たまに+たいてい」起こしてもらっているのは、小学4年生よりも中学2年生の方が多く、また調査票Ⅱとの比較による保護者の回答（2章E）でも「ほとんど自分で起きる」子どもは、小学生の方が多かった<図2-146・147参照>。

中学生になると、勉強なども含めて就寝時間も

遅くなり、また朝の通学時間が長くなる場合もあり、保護者の助けを借りて起床していると思われる。それを裏付けるように、子どもたちの就寝時間と寝不足感についてたずねた質問では、2章にあるように中学生の方が寝る時間は遅く、寝不足感を感じている割合も高い<図2-133・134参照>。

なかでも中学2年生の「女子」は、「たまに寝不足になる（46.4%）」「寝不足が多い（11.5%）」の割合が高くなっている<表3-348>。しかし学

表3-356 共働きの有無、学校の種類、家庭の経済状況×家族旅行の有無

■小学4年生

	家族旅行に行った		家族旅行に行かなかった		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
共働きである	227	89.0%	28	11.0%	255	100.0%
共働きではない	319	93.3%	23	6.7%	342	100.0%
合計	546	91.5%	51	8.5%	597	100.0%
公立学校	467	90.2%	51	9.8%	518	100.0%
私立学校	95	97.9%	2	2.1%	97	100.0%
合計	562	91.4%	53	8.6%	615	100.0%
家庭の経済は豊か・普通	460	94.1%	29	5.9%	489	100.0%
家庭の経済は困っている	93	80.2%	23	19.8%	116	100.0%
合計	553	91.4%	52	8.6%	605	100.0%

■中学2年生

	家族旅行に行った		家族旅行に行かなかった		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
共働きである	191	76.1%	60	23.9%	251	100.0%
共働きではない	205	83.3%	41	16.7%	246	100.0%
合計	396	79.7%	101	20.3%	497	100.0%
公立学校	215	76.0%	68	24.0%	283	100.0%
私立学校	201	83.1%	41	16.9%	242	100.0%
合計	416	79.2%	109	20.8%	525	100.0%
家庭の経済は豊か・普通	317	83.9%	61	16.1%	378	100.0%
家庭の経済は困っている	44	59.5%	30	40.5%	74	100.0%
合計	361	79.9%	91	20.1%	452	100.0%

※無回答は集計から除く。

小学4年生

【共働きの有無】 $\chi^2=3.385$ 自由度=1 $p=0.065$

【学校の種類】 $\chi^2=6.285$ 自由度=1 $p=0.012^*$ * $p < 0.05$

【家庭の経済状況】 $\chi^2=23.048$ 自由度=1 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

中学2年生

【共働きの有無】 $\chi^2=4.019$ 自由度=1 $p=0.044^*$ * $p < 0.05$

【学校の種類】 $\chi^2=3.981$ 自由度=1 $p=0.045^*$ * $p < 0.05$

【家庭の経済状況】 $\chi^2=22.919$ 自由度=1 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

校種別などの他の条件による違いはみられなかった<表3-349>。

一方、小学4年生の就寝時間については、私立小学校では「9時頃」が60.0%であるのに対して公立小学校では「10時頃」が50.7%であり、公立小学校の子どもの方が遅く寝ている<表3-350>。

また親の働き方の違いでは、「共働き世帯」の小学4年生は半数近く（53.4%）が10時頃に寝ており、遅くなっている<表3-351>。

朝の食欲からみた健康状態については、中学2年生について「きょうだいがいる」方が食欲は「毎日ある（67.4%）」「たまにない日がある（25.9%）」の割合が高く、「きょうだいのいない」一人っ子では「食欲がない日が多い（15.3%）」の回答が高くなっている<表3-352>。

夕食については、誰と一緒に食べているのかをたずねてみた。小・中学生ともに「共働き世帯」においては、「家族一緒に食えることが多い」の回答は低くなってしまいが、それでも「家族の誰かと食べている」の割合を合わせると9割を超え、子どもに孤食をさせないように、やりくりしている様子が見えてくる。他の諸条件による違いはみられなかった<表3-353>。

さらに家族が共に過ごす時間として、キャンプや旅行を過去1年間に行ったかどうかをたずねると、小・中学生ともに全体的には8～9割が行っているが、「共働き世帯（小学生：11.0%、中学生：23.9%）」「公立学校（小学生：9.8%、中学生：24.0%）」、そして「経済的に困っていると思う（小学生：19.8%、中学生：40.5%）」と回答した世帯では「行かなかった」の割合が高くなっている<表3-354>。

（2）子どもたちを取り巻く環境とモノ

子どもたちが専用の部屋を有しているかどうかを保護者に尋ねたが、条件別では、小・中学生世帯ともに「私立学校（小学生：65.3%、中学生70.4%）」に通わせ、子どもが「経済的に豊か+普通（小学生：45.4%、中学生：64.0%）」とされている世帯の方が「本人専用の部屋」を有している割合は高い。また「きょうだいがいる（小学生：65.0%、中学生：48.1%）」世帯では部屋の

所有率は低くなっている。これは質問が「宛名のお子さん専用の部屋」があるかないかで問うたため、きょうだいで子ども部屋を共有している場合は「ない」に回答したものと考えられる<表3-355>。

より身近なゲーム機やパソコン、携帯電話、テレビの所有や使用についても、小学4年生と中学2年生本人に尋ねた。以下、条件別にみていく。

学校の種類別では、「私立中学校」の方がパソコンを「自分専用所有（21.1%）」している割合が「公立中学校」よりも高くなっていた。

携帯電話・スマートフォンについては小・中学生ともに、「私立学校」では「自分専用所有（小学生：65.2%、中学生：93.8%）」が高く、「公立学校」では「家族と共用所有（小学生：19.0%、中学生：9.6%）」と「家にはあるが使わせてもらっていない（小学生：23.5%、中学生：8.6%）」が高くなっている<表3-356>。

子どもからみた経済状況では、主に中学生において差がみられた。パソコンは「豊か+ふつうと思う」世帯では「自分専用所有（18.4%）」と「家族と共用所有（74.3%）」が高く、「経済的に困っていると思う」世帯では「家にあるが使わせてもらっていない（10.7%）」と「家がない（8.0%）」が高くなっている。

携帯電話・スマートフォンは、「経済的に豊か+ふつうと思う」世帯では「自分専用所有（85.4%）」と「家にあるが使わせてもらっていない（6.4%）」が高く、「困っていると思う」世帯は「家族と共用所有（8.0%）」「家がない（9.3%）」が相対的に高い<表3-357>。

これら「学校の種類」と「家庭の経済状況」の違いは、子どもたちの「テレビやゲームの視聴・実施時間」についても差が生じていた。

小・中学生ともに、「私立学校」では「あまり見ない・しない（小学生：29.5%、中学生：14.9%）」の割合が高い。ゲームなどを行っている場合の時間についても、私立小学校では「1時間（42.1%）」「2時間（20.0%）」が多く、公立小学校では「2時間（31.9%）」「1時間（31.3%）」「3時間（13.9%）」が多くなっている。中学生についても、私立中学校では「1時間（32.4%）」

「2時間 (32.0%)」「3時間 (12.9%)」、公立中学校では「2時間 (33.9%)」「1時間 (25.4%)」「3時間 (17.1%)」「4時間 (11.1%)」と公立中学校の方が長時間化している。

経済状況の違いによる「テレビやゲームの時間」は、「豊か+普通と思う」中学生は「2時間 (34.9%)」「1時間 (30.1%)」程度行っており、「困っていると思う」中学生は「1時間 (25.3%)」「2時間 (21.3%)」「3時間 (20.0%)」「4時間 (18.7%)」程度と、長時間行っている者も多いく表3-358>。

「きょうだいの有無」による違いでは、小・中学生ともにゲーム機の所有について、「きょうだいのいない」一人っ子の世帯では、「自分専用所有 (小学生：68.1%、中学生：79.4%)」の割合と、所有を保護者がコントロールしているのか「家がない (小学生：15.0%、中学生：12.5%)」の割合が高く、「きょうだいがいる」世帯では「家族と共用使用 (小学生：24.8%、中学生：24.2%)」が高くなっている。

パソコンについても同様に、「きょうだいのいない」一人っ子の世帯では、「自分専用所有 (小学生：13.1%、中学生：27.4%)」の割合が高く、「きょうだいがいる」世帯では「家族と共有使用

(小学生：66.1%、中学生：75.8%)」と「家にはあるが使わせてもらっていない (小学生：26.1%、中学生：7.5%)」が特に小学4年生において高くなっている<表3-359>。

子どもたちのモノの所有や使い方は、性別によっても違いが生じていた。

中学2年生について、パソコンは男子が「自分専用所有 (21.8%)」し、女子が「家族と共用使用 (78.5%)」している割合が相対的に高く、携帯電話・スマートフォンでは反対に、女子が「自分専用所有 (89.7%)」している割合が高い<表3-360>。

ゲーム・テレビを見る (する) 時間やインターネットをする時間についても、小学4年生で、「あまり見ない (しない)」は女子に多く (テレビ・ゲーム：19.6%、インターネット：84.1%)、テレビ・ゲームの視聴・実施時間も男子の方が長時間に渡っている<表3-361>。

そのためか、家でのテレビ・ゲーム・インターネットの使用時間の制限は、小・中学生ともに、男子は「決められている (小学生：62.2%、中学生：38.2%)」が高く、女子は「決められていない (小学生：41.4%、中学生：71.3%)」や「使っていない (小学生：10.5%、中学生：5.4%)」が

表3-361 性別×ゲーム・テレビの利用時間、インターネットの利用時間

■小学4年生

	ゲーム・テレビの利用時間													
	あまり見ない (しない)		1時間くらい		2時間くらい		3時間くらい		4時間くらい		5時間以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	34	11.8%	103	35.6%	79	27.3%	40	13.8%	22	7.6%	11	3.8%	289	100.0%
女	61	19.6%	95	30.4%	101	32.4%	33	10.6%	16	5.1%	6	1.9%	312	100.0%
合計	95	15.8%	198	32.9%	180	30.0%	73	12.1%	38	6.3%	17	2.8%	601	100.0%
	インターネットの利用時間													
	あまり見ない (しない)		1時間くらい		2時間くらい		3時間くらい		4時間くらい		5時間以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	210	71.9%	67	22.9%	11	3.8%	1	0.3%	2	0.7%	1	0.3%	292	100.0%
女	264	84.1%	41	13.1%	5	1.6%	3	1.0%	1	0.3%	0	0.0%	314	100.0%
合計	474	78.2%	108	17.8%	16	2.6%	4	0.7%	3	0.5%	1	0.2%	606	100.0%

※無回答は集計から除く。

【ゲーム・テレビ】 $\chi^2=12.913$ 自由度=5 $p=0.024^*$ * $p < 0.05$

【インターネット】 $\chi^2=16.217$ 自由度=5 $p=0.006^*$ * $p < 0.05$

高くなっている<表3-362>。

子どもたちの月々のお小遣いについてはどうであろうか。

中学2年生における公立中学校に通う子どものお小遣いは、「1,000～3,000円未満 (69.5%)」「3,000～5,000円未満 (19.8%)」で約9割を占めるが、私立中学校では「1,000～3,000円未満 (48.9%)」「3,000～5,000円未満 (30.2%)」に加え「5,000～10,000円未満 (12.9%)」で約9割となり、より高額のお小遣いをもらっている<表3-363>。

これに関連して、公立中学校の子どもの方が「経済的に困っていると思う (23.3%)」と回答し、私立中学校では「豊か+ふつうだと思う (91.3%)」が高くなっている<表3-364>。

そもそも自分の親の仕事について、その内容を知っているのは、小学4年生では「共働き世帯」で「よく知っている (45.4%)」が高く、「共働きではない世帯」では「だいたい知っている (50.1%)」「あまり知らない (14.0%)」が高くなっている<表3-365>。

また中学2年生では、「きょうだいのいない」一人っ子は「よく知っている (46.7%)」と「あまり知らない (10.4%)」の割合が高くなっており、「きょうだいのいる」世帯では「だいたい知っている (58.0%)」が半数を超えていた<表3-366>。

家事など、家の手伝いについては、条件による違いはみられなかった<表3-367>。

3 学校と学習

(1) 学校での生活と学習

子どもたちが多くの時間を費やす学校での、好きな科目や授業理解、授業の楽しさなどについては、2章にあるように中学2年生の方が、好きな科目が減り授業理解も下がり、授業が楽しくないという回答も増えて、全般的にネガティブな回答が増えている。

条件別でみていくと、私立中学校では授業が「よくわかる」が43.6%であるのに対して、公立中学校では「ふつう (63.0%)」「わからないことが多い (7.4%)」の割合が高くなっている<表3-368>。

表3-368 学校の種類×授業の理解度

■ 中学2年生

	よくわかる		ふつう		わからないことが多い		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	84	29.6%	179	63.0%	21	7.4%	284	100.0%
私立学校	106	43.6%	129	53.1%	8	3.3%	243	100.0%
合計	190	36.1%	308	58.4%	29	5.5%	527	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=13.383$ 自由度=2 $p=0.001^*$ * $p < 0.05$

さらに授業の楽しさについても、私立中学校では「とても楽しい (19.3%)」「楽しい (63.8%)」に対して、公立中学校では「楽しい」も63.5%と高いが、「あまり楽しくない (21.6%)」も2割を超えている<表3-369>。

小学生では、親の働き方の違いで差が出ていた。「共働きではない世帯」では、授業が「よくわかる (62.6%)」子どもが6割を超えており、「共働き世帯」は「ふつう (45.7%)」が高くなっていた<表3-370>。

それに関連するの、「学校を休みたい」という小学生は、「共働き世帯」で「たまにある (37.9%)」と「よくある (7.1%)」で45%を超え、「ほとんどない」という回答は「共働きではない世帯」に65.0%と高い<表3-371>。

子どもからみた家庭の経済状況も、様々な面で影響していた。

小学4年生では、「経済的に困っていると思う」子どもは、「学校を休みたい」と思うことが「たまに (44.8%)・よく (8.6%) ある」と回答しく

表3-370 共働きの有無×授業の理解度

■小学4年生

	よくわかる		ふつう		わからないことが多い		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
共働きである	136	53.5%	116	45.7%	2	0.8%	254	100.0%
共働きではない	214	62.6%	122	35.7%	6	1.8%	342	100.0%
合計	350	58.7%	238	39.9%	8	1.3%	596	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²=6.686 自由度=2 p=0.035* * p < 0.05

表3-370>、「スポーツの得手・不得手」についても「ふつう (44.7%)」「できないほう (14.9%)」であると回答している<表3-373>。

中学2年生についても、「経済的に困っていると思う」子どもは、「好きな科目」は「ひとつくらいはある (22.7%)・ほとんどない (12.0%)」と3割以上が回答し<表3-374>、普段受けている授業も「とても楽しい (17.6%) + 楽しい (48.6%)」と感じている子どもが6割以上いるものの「あまり楽しくない (27.0%) + 楽しくない (6.8%)」も3割を超えている<表3-375>。放課後の部活動についても「あまり楽しくない (14.3%) + 楽しくない (5.7%)」と感じている<表3-376>。

他には、性別で「スポーツの得手・不得手」に差が生じており、小学生の男子は「自分ではできるほう (57.8%)」であると回答し、女子は「ふつう (46.1%)・できないほう (12.0%)」であると回答している<表3-377>。

(2) 学校以外の学習と進路

学校での学習の他に塾や習い事に通っている子どもは、小学4年生で86.2%、中学2年生では減少して60.6%であった<図2-122参照>。

学校の種類別では、中学2年生について公立中学校と私立中学校での差がみられた<表3-378>。

公立中学校では、「塾や習い事に通っている」中学生は65.0%と多く、その日数も「週に2日 (30.6%)」をトップに、「週に3日 (29.5%)」「週に1日 (23.0%)」となっており、私立中学の「週に1日 (39.0%)」「週に2日 (27.9%)」よりも長くなっている<表3-379>。さらに「塾の必

要性」も公立中学校では「少しは必要だと思う (48.6%)」が最も多い回答であるが、次いで「とても必要だと思う (32.3%)」も多くなっており、中学生自身が必要性を感じている<表3-380>。

これらは先の「(1) 学校での生活と学習」において、公立中学校の子どもが授業理解や授業の楽しさが感じられていないことが影響し、それを補うべく塾に行っているのであろうか。

しかし公立中学校の子どもの「自宅や塾での勉強時間」は、「2時間くらい (31.2%)」が最も多いが、「あまりしない (16.0%)」の割合も高い<表3-381>。

将来の進路希望についても、公立中学校では「4年制大学 (58.0%)」を希望する者が半数を超えているが、「わからない (20.5%)」者も2割程度おり、「専門学校 (9.5%)」や「高校 (9.2%)」という回答も1割近い<表3-382>。

小学生については、塾の必要性について、公立小学校の子どもの方が「とても必要 (40.5%)・少しは必要 (44.2%)」と感じていた<表3-381>。実際に塾に行っているか否かについては差がみられなかったが<表3-378>、「自宅や塾などの勉強時間」については、公立小学校の子どもが「1時間 (31.3%)」「30分 (20.1%)」「2時間 (18.6%)」程度勉強している回答が多いのに対して、私立小学校では「1時間 (30.5%)」「2時間 (29.5%)」「3時間 (17.9%)」程度と、より長時間勉強している<表3-381>。

将来の「進路希望」については、公立小学校で「4年制大学 (59.8%)」と「わからない (22.8%)」の回答が高く、私立小学校では「4年制大学 (70.1%)」と「専門学校 (10.3%)」が高くなっ

表3-380 学校の種類×学習塾の必要性

■小学4年生

	とても必要だと思う		少しは必要だと思う		あまり必要だと思わない		ほとんど必要だと思わない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	208	40.5%	227	44.2%	53	10.3%	26	5.1%	514	100.0%
私立学校	25	26.0%	49	51.0%	17	17.7%	5	5.2%	96	100.0%
合計	233	38.2%	276	45.2%	70	11.5%	31	5.1%	610	100.0%

■中学2年生

	とても必要だと思う		少しは必要だと思う		あまり必要だと思わない		ほとんど必要だと思わない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	91	32.3%	137	48.6%	39	13.8%	15	5.3%	282	100.0%
私立学校	52	21.9%	104	43.9%	50	21.1%	31	13.1%	237	100.0%
合計	143	27.6%	241	46.4%	89	17.1%	46	8.9%	519	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学4年生】 $\chi^2=9.113$ 自由度=3 $p=0.057$

【中学2年生】 $\chi^2=18.315$ 自由度=3 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

ていることが特徴的である<表3-382>。

「家庭の経済状況の把握」による違いでは、小・中学生ともに、「豊か+ふつうと思っている」世帯の方が「塾や習い事に通って（小学生：88.5%、中学生：63.9%）」おり<表3-383>、その必要性も感じて、「とても必要（小学生：40.6%、中学生：29.9%）」と「少しは必要（小学生：46.2%、中学生：44.4%）」で7～8割強の回答になる<表3-384>。

進路希望については、やはりいずれの条件においても「4年制大学」の希望が高いが、「経済的に困っていると思う」世帯は、小・中学生ともに「わからない（小学生：29.3%、中学生：17.3%）」の回答も高く、また中学生における「専門学校（9.3%）」も1割に近い<表3-385>。

「親の働き方」の違いでは、中学2年生の「共働き世帯」の方が、「塾や習い事に通って（68.9%）」おり<表3-386>、将来の進路希望も「4年制大学（65.7%）」は高いものの、「わからない（19.1%）」や「専門学校（9.2%）」も高くなっている<表3-387>。

(3) 放課後の生活と地域

最後に、学校以外での放課後の生活と行事参加から、地域との関係をみていく。

放課後の遊ぶ場所については、学童保育の利用などもあるためか、特に小学生について、親の働き方での違いがみられた。「共働きではない世帯」は「友人宅を含めた家の中（55.8%）」が半数を超えるが、「共働き世帯」では、「家の中（39.3%）」

表3-388 共働きの有無×放課後の遊び場所

■小学4年生

	家の中（友人宅を含む）		学校		児童館や中高生プラザ		公園などの屋外		渋谷のようなにぎやかなところ		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
共働きである	95	39.3%	7	2.9%	48	19.8%	78	32.2%	0	0.0%	14	5.8%	242	100.0%
共働きではない	177	55.8%	14	4.4%	34	10.7%	81	25.6%	0	0.0%	11	3.5%	317	100.0%
合計	272	48.7%	21	3.8%	82	14.7%	159	28.4%	0	0.0%	25	4.5%	559	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=20.161$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

と同時に「公園などの屋外 (32.2%)」や「児童館や中高生プラザ (19.8%)」で過ごす子どもも多い<表3-388>。

学校の種類別では、小学4年生の「遊ぶ時間」と「遊び場所」に差がみられた。公立小学校の子どもは、放課後の遊ぶ時間も「たいていはある (36.6%)」「ある時とない時が半々くらい (45.8%)」の回答が高いが、私立小学校では「ほとんどない (35.1%)」という回答が高い<表3-389>。

前述の「(2) 学校以外の学習と進路」で、私

立小学生の自宅・塾での学習時間が、1時間と2時間が3割、3時間も2割程度いたことが、遊ぶ時間のなさに反映されているのかもしれない<表3-381>。

また遊ぶ場所について、公立小学校では「家の中 (42.0%)」で遊ぶ子どもも一定数いるが、「公園などの屋外 (34.0%)」「児童館や中高生プラザ (16.4%)」などで遊ぶ子どもも半数いる。私立小学校では78.3%が「家の中」で遊んでおり公的な遊び場の利用は少ない<表3-390>。

地域の行事についても、複数回答で2割を超

表3-390 学校の種類×放課後の遊び場所

■小学4年生

	家の中 (友人宅を含む)		学校		児童館や中高生プラザ		公園などの屋外		渋谷のようなにぎやかなところ		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	203	42.0%	15	3.1%	79	16.4%	164	34.0%	0	0.0%	22	4.6%	483	100.0%
私立学校	72	78.3%	6	6.5%	6	6.5%	4	4.3%	0	0.0%	4	4.3%	92	100.0%
合計	275	47.8%	21	3.7%	85	14.8%	168	29.2%	0	0.0%	26	4.5%	575	100.0%

■中学2年生

	家の中 (友人宅を含む)		学校		児童館や中高生プラザ		公園などの屋外		渋谷のようなにぎやかなところ		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	144	56.7%	6	2.4%	33	13.0%	43	16.9%	10	3.9%	18	7.1%	254	100.0%
私立学校	172	74.8%	19	8.3%	1	0.4%	6	2.6%	5	2.2%	27	11.7%	230	100.0%
合計	316	65.3%	25	5.2%	34	7.0%	49	10.1%	15	3.1%	45	9.3%	484	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学4年生】 $\chi^2=51.929$ 自由度=4 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$ 【中学2年生】 $\chi^2=69.745$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

えているものをあげていくと、公立小学校の子どもは「おまつり (87.7%)」「スポーツ大会・運動会 (40.0%)」「ハロウィン (39.4%)」「もちつき大会 (29.7%)」「クリスマス会 (24.2%)」「防災訓練 (21.4%)」と多様な行事に参加している。私立小学校の場合は、「おまつり (69.8%)」「ハロウィン (41.9%)」「餅つき大会 (26.7%)」「スポーツ大会・運動会 (24.4%)」となっており、ハロウィンの参加が高くなっていることが特徴的である<表3-391>。

中学2年生についても同様に、公立中学校に通う子どもは「家の中 (56.7%)」「公園などの屋外

(16.9%)」「児童館や中高生プラザ (13.0%)」で遊んでいるが、私立中学校では7割強が「家の中 (74.8%)」で遊んでいる<表3-390>。

地域の行事についても、公立中学校では「おまつり (88.8%)」「スポーツ大会・運動会 (30.8%)」「もちつき大会 (21.3%)」「防災訓練 (19.2%)」と、9割近いおまつり以外では参加率が減るが、私立中学校では「おまつり (73.8%)」も7割程度で、小学4年生に人気のあった「ハロウィン (16.3%)」も2割を切っている<表3-391>。

さらに、ここでも子どもの性別による違いがあり、小学4年生の放課後の遊ぶ場所は、男子が

「家の中 (44.2%)」「公園などの屋外 (33.7%)」「児童館や中高生プラザ (16.7%)」と続いていくのに対して、女子では「家の中 (51.5%)」で半数を超え「公園などの屋外 (24.8%)」や「児童

館や中高生プラザ (13.2%)」で遊ぶ者は少なくなっている<表3-392>。

地域行事についても、男女ともに「おまつり」は8~9割と参加率が高いが、小学生男子は

表3-392 性別×放課後の遊び場所

■小学4年生

	家の中 (友人宅を含む)		学校		児童館や中高生プラザ		公園などの屋外		渋谷のようなにぎやかなどところ		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	122	44.2%	4	1.4%	46	16.7%	93	33.7%	0	0.0%	11	4.0%	276	100.0%
女	156	51.5%	17	5.6%	40	13.2%	75	24.8%	0	0.0%	15	5.0%	303	100.0%
合計	278	48.0%	21	3.6%	86	14.9%	168	29.0%	0	0.0%	26	4.5%	579	100.0%

■中学2年生

	家の中 (友人宅を含む)		学校		児童館や中高生プラザ		公園などの屋外		渋谷のようなにぎやかなどところ		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	152	61.3%	16	6.5%	28	11.3%	33	13.3%	5	2.0%	14	5.6%	248	100.0%
女	164	69.5%	9	3.8%	6	2.5%	16	6.8%	10	4.2%	31	13.1%	236	100.0%
合計	316	65.3%	25	5.2%	34	7.0%	49	10.1%	15	3.1%	45	9.3%	484	100.0%

※無回答は集計から除く。

【小学4年生】 $\chi^2=13.939$ 自由度=4 $p=0.007^*$ * $p < 0.05$ 【中学2年生】 $\chi^2=30.358$ 自由度=5 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

「スポーツ大会・運動会 (48.4%)」「ハロウィン (33.7%)」「もちつき大会 (31.5%)」「クリスマス会 (24.7%)」「防災訓練 (22.6%)」と続くのに比べて、小学生女子では「ハロウィン (45.2%)」「スポーツ大会・運動会 (27.5%)」「もちつき大会 (27.2%)」「クリスマス会 (22.0%)」と順位が異なり、参加率も男子より低くなっている<表3-393>。

中学2年生についても、放課後に遊ぶ時間が「たいていある (37.4%)」と回答しているのは男子であり、「ほとんどない (42.7%)」という回答は女子で高くなっている<表3-394>。

放課後の遊ぶ場所も、男子中学生は「家の中 (61.3%)」「公園などの屋外 (13.3%)」「児童館や中高生プラザ (11.3%)」と、家で遊ぶ子どもも多いが屋外などでも遊んでいるが、女子では「家の中 (69.5%)」で7割近くを占め、他の場所では1割に達していない<表3-392>。

地域行事の参加も、男子は「おまつり (79.7%)」

「スポーツ大会・運動会 (31.2%)」が高く、女子では「おまつり (85.9%)」の人气が8割を超え、次いで「ハロウィン (20.1%)」となっている<表3-393>。

地域別にみた行事の参加では、「おまつり」は港区内全域において高い割合であるが、とりわけ「芝地区」は「おまつり (小学生：91.9%、中学生：87.2%)」の割合が高く、また小学生の「もちつき大会 (36.5%)」参加率が高い。以下、各地域で「おまつり」以外で参加率の高い行事をあげていく。

「麻布地区」は、小・中学生ともに「ハロウィン (小学生：64.1%、中学生：37.1%)」が高いのが特徴である。

「赤坂地区」は小学生で「スポーツ大会・運動会 (43.4%)」、小・中学生ともに「もちつき大会 (小学生：37.3%、中学生20.8%)」、また中学生の「防災訓練 (25.0%)」への参加が高い。

「芝浦港南地区」は小・中学生ともに「スポー

ツ大会・運動会（小学生：44.0%、中学生：29.8%）、小学生で「防災訓練（28.6%）」と「クリスマス（30.9%）」への参加が高かった。なお、「高輪地区」では、他地区より参加率の高い地域行事はなかった<表3-395>。

4 友人関係と家族関係

(1) 友人関係

信頼できる友人は、小・中学生ともに9割を超えていたが、諸条件による違いはみられない。

しかし、友人関係の内実については、「学校種別」「性別」や「家庭の経済状況の認知」で違いがみられた。

学校の種類による違いからみていくと、「友人と仲良くなったきっかけ」について、私立小学

校では「同じクラス（87.9%）」と「親同士の仲がよい（24.2%）」が主なきっかけとなっているが、公立小学校では「同じクラス（75.9%）」「親同士の仲がよい（27.6%）」に加えて、「近所に住んでいる（37.9%）」「同じ塾や習い事に通っている（21.8%）」も高くなっている。

中学2年生についても、私立中学校では「同じクラス（78.9%）」「部活動・クラブ活動が一緒（52.9%）」が主なきっかけであるが、公立中学校では「同じクラス（72.7%）」「部活・クラブ活動が一緒（45.5%）」に加えて「近所に住んでいる（26.5%）」も高く「同じ塾や習い事に通っている（10.6%）」や「親同士の仲がよい（10.6%）」も1割を超えている<表3-396>。

また「いじめの目撃」についても、小学4年生

表3-396 学校の種類×仲良くなったきっかけ（複数回答）

■小学4年生

	近所に住んでいる		同じクラス		同じ塾や習い事に通っている		部活動、クラブ活動などが一緒		友だちの紹介		渋谷のようなにぎやかなところで知り合った		親同士の仲が良い	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	184	37.9%	369	75.9%	106	21.8%	72	14.8%	21	4.3%	2	0.4%	134	27.6%
私立学校	15	16.5%	80	87.9%	5	5.5%	11	12.1%	5	5.5%	0	0.0%	22	24.2%
合計	199	34.5%	449	77.8%	111	19.2%	83	14.4%	26	4.5%	2	0.3%	156	27.0%

■中学2年生

	近所に住んでいる		同じクラス		同じ塾や習い事に通っている		部活動、クラブ活動などが一緒		友だちの紹介		渋谷のようなにぎやかなところで知り合った		親同士の仲が良い	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
公立学校	70	26.5%	192	72.7%	28	10.6%	120	45.5%	17	6.4%	1	0.4%	28	10.6%
私立学校	36	15.9%	179	78.9%	14	6.2%	120	52.9%	10	4.4%	1	0.4%	17	7.5%
合計	106	21.6%	371	75.6%	42	8.6%	240	48.9%	27	5.5%	2	0.4%	45	9.2%

※無回答は集計から除く。

【小学4年生】 $\chi^2=38.741$ 自由度=8 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$ 【中学2年生】 $\chi^2=23.376$ 自由度=8 $p=0.002^*$ * $p < 0.05$

(55.7%)・中学2年生(54.4%)ともに、私立学校に通う子どもの方が「いじめをみたことがある」と回答している<表3-397>。

性別による違いでは、友人関係について多くの質問で差が生じていた。

信頼できる友だちについて、女子は9割前後

(小学生：91.1%、中学生：88.6%)が「学校の友達」で占められるが、男子については「学校以外の友だち」も1割を超えており、特に小学生において差が開いている<表3-398>。

その友だちと仲良くなったきっかけも小学生で差がみられ、「同じクラス(男子：74.9%、女子

80.3%)」「近所に住んでいる(男子:37.5%、女子:31.5%)」「親同士の仲がよい(男子:24.7%、女子:29.2%)」は共通して高いが、男子では「同じ塾や習い事(22.2%)」や「部活・クラブ活動(20.4%)」も2割を超えている<表3-399>。

友だちとの関係について、小学4年生では、男子が「深刻な相談はしない(42.7%)」「張り合う気持ちがある(31.5%)」が比較的に高く、女子

では「悩み事を聞いてもらう(42.2%)」「何も言わなくても分かりあえる(41.2%)」が高くなっており、女子の方が友だちとの関係に近い。

中学2年生についても、男子では「深刻な相談はしない(45.9%)」が高く、女子では「悩み事を聞いてもらう(59.5%)」「お互いの悪いところは悪いと言い合える(39.3%)」といった関係が高くなっている<表3-400>。

表3-400 性別×友だちとの関係(複数回答)

■小学4年生

	悩みごとなど の話を聞いて もらう		相手にけっこ う気をつかっ ている		あまり深刻な 相談はしない		お互いに張り 合う気持ち がある		何も言わなく ても分かりあ えている		お互いの悪い ところは悪い と言い合える		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	59	21.1%	63	22.6%	119	42.7%	88	31.5%	94	33.7%	72	25.8%	28	10.0%
女	132	42.2%	82	26.2%	116	37.1%	62	19.8%	129	41.2%	69	22.0%	26	8.3%
合計	191	32.3%	145	24.5%	235	39.7%	150	25.3%	223	37.7%	141	23.8%	54	9.1%

■中学2年生

	悩みごとなど の話を聞いて もらう		相手にけっこ う気をつかっ ている		あまり深刻な 相談はしない		お互いに張り 合う気持ち がある		何も言わなく ても分かりあ えている		お互いの悪い ところは悪い と言い合える		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	73	28.4%	42	16.3%	118	45.9%	47	18.3%	72	28.0%	74	28.8%	17	6.6%
女	153	59.5%	38	14.8%	76	29.6%	37	14.4%	78	30.4%	101	39.3%	13	5.1%
合計	226	44.0%	80	15.6%	194	37.7%	84	16.3%	150	29.2%	175	34.0%	30	5.8%

※無回答は集計から除く。

【小学4年生】 $\chi^2=48.781$ 自由度=7 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$ 【中学2年生】 $\chi^2=74.027$ 自由度=7 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

こうした友人との距離感のためか、小・中学生ともに、女子の方が「友達はとても頼りになる(小学生:49.0%、中学生:43.1%)」<表3-401>「友だちとの付き合いにもとても満足している(小学生:58.5%、中学生:52.5%)」と<表3-402>回答する一方で、友だち関係の困りごととも「ある(小学生:20.5%、中学生:22.4%)」も高くなっている<表3-403>。

友人との困りごとの内容で男女差が出ていたのは、特に小学生においてであり、女子は全般的に多くの困りごとをあげており、なかでも「自分のすることに口出ししてくる(39.3%)」「好きでもないのに付き合いなければならない(36.1%)」「仲間外れにされる(32.8%)」「自分よりも他の

人と仲良くする(31.1%)」「自分のことをわかってくれない(27.9%)」「自分に冷たい(24.6%)」「お互いに心を打ち明け合うことができない(13.1%)」について、男子との回答に開きが出ていた<表3-404>。

「いじめの目撃」については、小学4年生において、男子の方が「いじめを見たことがある(52.0%)」が高い<表3-405>。

また中学2年生では、「家庭の経済状況の認知」の違いでも差が生じていた。

友だちと仲良くなったきっかけについて、「経済的に困っていると思う」子どもたちは、全体で上位2つの「同じクラス(60.3%)」「部活・クラブ活動(33.8%)」の割合が、「経済的に豊か・普

通」と答えた子どもたちより20%程度下回っており、反対に「近所に住んでいる(26.5%)」や「親同士の仲がよい(19.1%)」といった受け身的な理由が比較的高くなっている<表3-406>。

他にも「経済的に困っていると思う」中学生は、友だちとの関係での「困りごと」を24.3%が感じており<表3-407>、「いじめ」についても、見たことがあるかどうかでは差が見られないが<表3-408>、自分自身がいじめについての不安や心配を「感じている(16.0%)」という者が相対的に高い<表3-409>。

(2) 悩みと相談

これまでの生活の状況をふまえ、小・中学生自身の悩みと相談先についてみていく。

子どもたちの抱えている悩みについて、「友だち」に関しては前述したので、ここでは、それ以外の内容について触れていく。

「授業や勉強・成績」については、中学2年生の「公立中学校(59.7%)」「経済的に困っていると思う(69.3%)」の子どもたちが、より不安や心配を感じている<表3-410>。

「先生との関係」についても、「経済的に困っていると思う」中学生の20.3%が不安や心配を感じている<表3-411>。

「家族との関係」についての不安は、小学4年生の「男子(11.6%)」、中学2年生の「経済的に困っていると思う(18.7%)」子どもたちが、比較的高くなっている<表3-412>。

これらの不安や悩みは、前述の友だちや、学校の先生、また身近な家族などに相談して行くと思われるが、日頃から、そうした先生や家族との会話はもたれているのであろうか。

学校における「心配ごとを話せる先生」の存在は、全体で小学生が7割、中学生で5割であったが、条件別では「女子中学生(52.1%)」<表3-413>と「小学生の共働き世帯(35.2%)」で「いない」と回答する者が多かった<表3-414>。

親に「学校や友達のことを話しているか」については、小・中学生ともに全体の7割以上が「とても＋よく話をする」と回答しており、親子間のコミュニケーションは全般的に良好と思われる<

表3-415>。

条件別では、「女子小・中学生」や、「私立小・中学校」に通っている子どもの方が、親と「とても＋よく話をしている」<表3-416>。ただし、「よく話しをする」と回答した中学生は男子の方が多かった。

これが親に対する「悩み事の相談」となると、全体でも、小学生の約4割、中学生の約6割は「あまり＋ほとんど話をしなく」なってしまう<表3-417>。

条件別では、「男子小・中学生」や「公立小・中学校」に通っている子ども、また「共働き世帯」の中学生は、親と「あまり＋ほとんど話をしない」割合が高い<表3-418>。

これらの数値は、「話したいけれど話せない」のか、あるいは「話したくないから話さない」のであろうか。中学生の場合は、発達段階からしても後者の場合が多く、全体でも「親ともっと話したいか」についての質問では、「今のままでよい」が9割弱となっている<表3-419>。

反対に、「困ったことでの一番の相談相手」を聞いていくと、全体では「母親」がトップで、次に小学生は「父親」、中学生は「学校の友人」と続き、上位3名は父母と学校の友人で占められる<表3-420>。

条件別で差が出た相談相手をあげていくと、小学生では「母」「父」「学校の先生」の他に男子小学生は「おじいさん・おばあさん(22.1%)」、女子小学生は「学校の友だち(36.0%)」が高くなっている。

中学生で「母親」以外の相談相手として特徴的であるのは、男子中学生が「父親(35.1%)」の割合が高くなっており、他に「学校の先生(17.4%)」「おじいさん・おばあさん(10.0%)」も相対的に高くなっている。女子中学生では「学校の友だち(60.7%)」が6割を超え、「学校以外の場で付き合う友だち(10.1%)」も1割を超えていた<表3-421>。

最後に生活全般の満足度をみていく。全体で小学生の8割、中学生の7割強が「満足していた」<表3-422>が、条件別では「家庭が経済的に困っていると思う」小・中学生は、「満足してい

表3-416 性別×親に学校や友だちのことを話すか

■小学4年生

	とてもよく話をする		よく話をする		あまり話をしない		ほとんど話をしない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	82	28.0%	108	36.9%	85	29.0%	18	6.1%	293	100.0%
女	135	42.7%	135	42.7%	38	12.0%	8	2.5%	316	100.0%
合計	217	35.6%	243	39.9%	123	20.2%	26	4.3%	609	100.0%
公立学校	181	35.5%	201	39.4%	103	20.2%	25	4.9%	510	100.0%
私立学校	35	36.8%	41	43.2%	19	20.0%	0	0.0%	95	100.0%
合計	216	35.7%	242	40.0%	122	20.2%	25	4.1%	605	100.0%

■中学2年生

	とてもよく話をする		よく話をする		あまり話をしない		ほとんど話をしない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	41	15.4%	127	47.6%	77	28.8%	22	8.2%	267	100.0%
女	92	35.5%	117	45.2%	38	14.7%	12	4.6%	259	100.0%
合計	133	25.3%	244	46.4%	115	21.9%	34	6.5%	526	100.0%
公立学校	66	23.5%	125	44.5%	63	22.4%	27	9.6%	281	100.0%
私立学校	66	27.2%	118	48.6%	52	21.4%	7	2.9%	243	100.0%
合計	132	25.2%	243	46.4%	115	21.9%	34	6.5%	524	100.0%

※無回答は集計から除く。

小学4年生

【性別】 $\chi^2=36.934$ 自由度=3 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【学校の種類】 $\chi^2=4.980$ 自由度=3 $p=0.173$

中学2年生

【性別】 $\chi^2=36.020$ 自由度=3 $p=0.000^*$ * $p < 0.05$

【学校の種類】 $\chi^2=10.317$ 自由度=3 $p=0.016^*$ * $p < 0.05$

ない（小学生：31.6%、中学生：45.3%）」という回答が高くなっている<表3-423>。

その理由についても、「自分の親が厳しい」「ただなんとなく」「家庭に争いごとがある」の割合は高いものの、数値に大差は見られないが、「家庭が経済的に困っていると思う」小学生は、「欲しいものをかってもらえない（41.7%）」「親が自分を理解してくれない（36.1%）」「家がせまい（36.1%）」「ホッとできる場所がない（27.8%）」「家族で一緒に楽しむことがない（25.0%）」「きょうだいや家族との仲が良くない（22.2%）」の項目に満足していないという回答が多い。

「経済的に困っていると思う」中学生も、「家がせまい（50.0%）」「欲しいものをかってもらえない（44.1%）」「家庭に争いごとがある（17.6%）」

「家族で一緒に楽しむことがない（14.7%）」「きょうだいや家族との仲が良くない（14.7%）」の項目において満足していない回答が多い。

「家庭が豊か+ふつうと思っている」中学生では、「ただなんとなく（32.5%）」不満という回答が相対的に高かった<表3-424>。

満足していない「理由」については、小学生の男女でも差があり、男子小学生は「欲しいものを買ってもらえない（52.2%）」「親が自分に厳しい（47.8%）」「家庭に争いごとがある（30.4%）」の項目において、より不満を抱いており、女子小学生は「親が自分を理解してくれない（32.7%）」「家がせまい（29.1%）」で、より不満を抱いていた<表3-425>。

第4章 自由回答

A 未就学児の保護者に対するアンケート

自由回答

1 区の子育て支援事業・サービス等を利用しない理由について

(1) 自由意見の件数と分類

問47で、区の子育て関連事業やサービスを利用しない理由について自由に記入する欄を設けた(問47 問46の事業を利用しない理由をお書きく

ださい)。この自由記述への回答者数は1,217人で、全回答者の51.5%を占めている。

下表は、それらの自由回答を分類し、項目別にケース数を示したものである。なお、回答者は1,217人であるが、1人の回答が複数の項目に分類されて集計されている場合もあるため、ケース数の合計と回答者数は一致しない。

分類項目	ケース数
「区の子育て支援事業・サービスに関する情報がない・知らない」という意見	198
「サービスの内容や利用方法がわからない」という意見	96
「サービスの利用手続き等が不便である」という意見	100
「サービスの利用予約が取れない、空きがない」という意見	118
「サービス提供の場所が遠い、外出が困難」という意見	107
「サービスの日時が合わない、忙しくて時間がない」という意見	109
「サービスの内容に不満がある、ニーズに合わない」という意見	106
「サービスの料金」に関する意見	11
「サービスについて信頼できない、不安がある」という意見	35
「サービスを利用する必要がない、機会がない」という意見	383
「利用している、または以前利用していた」という意見	33
「これから利用したい」という意見	48
サービス等に関する意見	65
「障害や病気等のため利用しにくい」という意見	6
その他の意見	97

(2) 自由意見の具体的な内容

分類された項目ごとに、自由意見を一部抜粋して掲載する。

なお、自由回答を読みやすく掲載するとともに、

その回答者の特定を避けるため、回答内容は趣旨を変えずに文章を短くするなどし、かつ子の年齢や学年でグループ分けを行った。

「区の子育て支援事業・サービスに関する情報がない・知らない」という意見

回答者	子の年齢	内容
父親	4～6歳	子育て中は広報を能動的にチェックする時間的な余裕がなく、個別に手紙などで情報を知らせると、もっと気付いてサービスを利用することにつながるのでは。
母親	4～6歳	昨年に港区に越してきてが、子供が利用できるサービスの連絡がなて受けられなかった。越してきた時点で子供の年齢を見て、書類の手配をお願いしたい。

母親	0～1歳	初めての事に戸惑い、1人で苦しみ悩んだ記憶が…。もっと身近に存在を知っていたら利用していたかも。相談しにくい上に、どこに相談したらいいのか分からなかった。
母親	2～3歳	港区でもらった本に、サービスは載っていたと思うが、その本を見ることなく、ママ友情報から知ることがほとんどで、こんなにもサービスがあったとは知らなかった。
母親	0～1歳	4ヵ月くらいの赤ちゃんはどういうところに行けばよいのか？などの話がなくチラシだけでは、よくわからない。
母親	2～3歳	知り合いが利用していたら利用しやすいと思うが、知り合いも少なく、事業について調べる時間がない。
母親	0～1歳	知らないで、知る方法があれば良い。自分や子供の為に使える事は、積極的に利用したい。
父親	4～6歳	情報にたどりつけない。困っても相談先がわからない。メールサービスなどでもっと情報をタイムリーに提供を。
父親	2～3歳	情報が充分に行き渡っておらず、知らない事業ばかり。区が積極的に利用をうながす必要もあるのでは？
父親	0～1歳	サービスが色々あるが、情報が分散しており、何をどのタイミングで利用できるか分かりづらい。
母親	2～3歳	一覧表でもらわないとわからない。見やすく、わかりやすく！知りやすく！
母親	2～3歳	養育支援訪問（妊娠出産時ホームヘルプサービス）は出産後利用したが、切拍早産の時に知っていれば産前に利用したかった。
母親	0～1歳	内容を知らないサービス・施設が多くあり、もっと知っていれば、利用したと思います。どの施設で何ができるのか、何ができたのか、知らなかった事が多かったです。
母親	4～6歳	区のホームページが見にくい、検索しにくい、PDFファイルが多くて見にくい。もっと一覧でわかりやすくしてほしい。
父親	0～1歳	知っている事業は利用しているが、地域に知人、友人が少ない為、情報の入手先があまりない。
母親	0～1歳	利用イメージがわからない。いろいろあるが、どれが自分が求めているものかピンとこない。

「サービスの内容や利用方法がわからない」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	どの程度信頼できるものかわからない。全体的によくわからない…。
母親	0～1歳	どのような所、サービスなのかを予め調べてから利用したいが、調べる余裕がない。
母親	0～1歳	事業の利用方法（場所、日時、申込方法等）が良く分からない為、みなとっこの登録を産後すぐに決められず、申込まなかったのだが、このタイミング以降、申込む場合は、どの様にしたら良いのか分からなかった。
母親	0～1歳	自分で積極的に調べないと、どういうサービスが利用できるのかわからない。
母親	0～1歳	一時預かりは利用してみたいが、詳しい利用方法などが分からないので。
母親	0～1歳	気軽に利用できるのか分からない。
母親	0～1歳	発達の不安は、まずどこに連絡すべきが分からなかった。港区のwebもみたが相談先が色々ありすぎよく分からなかった。（すすく育児相談で心理相談もさせてもらったのですが、そこから発達支援センターやこども療育を紹介してほしい…）
母親	4～6歳	入り口が狭いといいますが、1人で参加するのに少し勇気がいるところがある。どのようにして申込みなどすればよいか、もう少し詳しく知りたかった。
母親	0～1歳	母子手帳と一緒に、諸々の案内をもらったが、チラシだったり、手帳にまとめてあったり、多すぎてわかりづらい。ひとまとめにわかりやすくしてほしい。
母親	2～3歳	具体的に、いつ・どこで・どのようなサービスを対象年齢や対象児に当てはまるのかなど分からない。

父親	2～3歳	資料が羅列され記載されており、自分が該当するのかわかりにくかった気がする。チャート式等でわかりやすく利用しやすくしてほしい。
母親	0～1歳	案内のパンフレットは頂いたが色々なサービスがあり、それぞれ何が違うのか、何ができるのか具体的によく分からないことが多かった。(みなとっこや保育園での計測など) 健診のように全体の流れが一本化されて説明されているとわかりやすいです。
父親	0～1歳	冊子やWebではあまり詳しい記載がなく、電話で問い合わせしないといけないものが多いので利用しづらい。

「サービスの利用手続き等が不便である」という意見

回答者	子の年齢	内容
父親	2～3歳	FAXなどではなくWebで受付するなどの工夫をして欲しい。ホームヘルプサービスは3才ぐらいまで拡大してほしい。
母親	4～6歳	結局一時的に預かってもらっても、送りや手続きが面倒。
母親	0～1歳	子供を誰かに預かってもらいたいと思う時は、自分の体調がすぐれない時なので、当日、急に預けるといことができない。予約制であるなど、なかなか利用しづらい。
母親	2～3歳	乳幼児一時預かりは面接までに時間が掛かりすぎると思う。
母親	0～1歳	一時預りも、最初に登録をしないと聞きました。親の熱や病気などで急に預ってほしい時にはどうするのでしょうか。
母親	4～6歳	利用までの事前の手続きが面倒。ホームヘルプサービスに興味があったが、利用期間がすぎてしまい、使えなかった。
母親	2～3歳	申込み方法がダウンロードで印刷の時点でムリ。ケイタイでもっと簡単に申込み出来る様にしてほしい。
母親	2～3歳	働いている(カレンダー通りの出勤)ので、登録が平日だと行きにくい。
母親	0～1歳	家からの距離が遠いものや、申込み手続きが煩雑なものが多い。インターネットを介して手の空いた時間に申込みをするが、インターネットに対応していないものが多い。
無回答	無回答	インターネットで簡単に登録できたり利用できればいいが、わざわざそこに行ったりするのが大変で利用してない事が多い。
母親	4～6歳	児童館・子ども中高生プラザでの乳幼児事業について近所の芝浦アイランドプラザの乳幼児の会は、先着〇名など事前申込制がほとんどで、気軽に利用できるものではない。
母親	2～3歳	手続きが事前の登録などに手間がかかる。フルタイムで働いていると手続する時間がない。民間の保育園の方が柔軟な対応をしてくれるので、そちらを利用していた。
母親	0～1歳	一時保育や一時預かりは、事前に登録説明会等に参加せねばならず、そのような余裕はない。
母親	0～1歳	派遣型は登録の説明会の日程が少なく(月1回!)参加できないため登録がかなわない。
母親	2～3歳	予約をとったり実際に出向く時間がない。一時保育にすべての食事やオムツなどもっていくのが面倒で頼みづらい。近々では予約もとりにくい。
父親	0～1歳	発達支援センターを利用したいが、申し込み者が多すぎて、またその登録がある等、ハードルが高く、子育てで忙しい、特に近くに親族がいない者にとっては、容易ではない。
母親	0～1歳	一時預かり等の施設は、たくさんあっても結局定員オーバーの事が多く、まったくあてにならない。手続についても、いちいち手間がかかり、乳幼児を連れて出向くのが大変。

「サービスの利用予約が取れない、空きがない」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	派遣型一時保育・育児サポートは登録はしたが、殺到したため、実際保育士さんが見つからないという現状がある。
母親	2～3歳	乳幼児一時預りについて、1ヶ月前位から予約が必要で、急な予定の場合、預け先がなかった。
母親	4～6歳	一時預かりの予約がいっぱいで、利用したい日に予約できず、登録しただけで利用したことがない。
母親	4～6歳	子供を預かってほしい時はいつも予定が決まっているとは限らない。急に手が必要な時に1ヶ月先も予約でいっぱいの一時預かりサービスは使えない。
母親	0～1歳	公的な乳幼児一時預りに空きがなく、予約が取れない。受け付け開始の1ヶ月9:00にTELしても20分ぐらひは繋がらない。乳幼児がいて、電話の前で数十分かけ続けるのも難しいし、1ヶ月前では予定が立っていない事も多い。
母親	2～3歳	申し込んでも定員超えで断られる。又、9時にTELをかけてもつながらない。せめて抽選方式にするなどして欲しい。事前登録が必要なことと、やはり定員オーバー、又預かり時間の不足(短い)等、利用したくても利用できない。
母親	2～3歳	あいぽーとなど派遣型の依頼をしているが、人が足りないとのことで、利用できていない。もっと気軽に子育てを助けてくれる施設を増やしてほしい。それが難しいようだったら、民間利用の補助券などを発行してもよいと思う。
母親	0～1歳	たくさんの子育て支援のプランがあるのは知っていますが、たいてい定員オーバーで待機と言われてしまい、だったら利用しないでいいや～っていう気になってしまう。もっと人員を増やし、需要と供給のバランスが合うようにして欲しい。
母親	0～1歳	子供が生後4ヶ月の時、育児相談した際、一時保育をすすめられたが、電話がつながらなかったり、1ヶ月後までいっぱいだったり、予約が取れず利用できなかった。

「サービス提供の場所が遠い、外出が困難」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	参加してみたいが場所がいつも自宅から遠く不便なので乳児を連れていくのが面倒。
母親	0～1歳	自宅から近くなければ、またはちいバスなど移動手段が充実していないと利用しにくい。
母親	0～1歳	参加したいが、ベビーカーでの移動が困難と感じる。(バスやエレベーターなど)
母親	0～1歳	台場からだ交通の面で利用しづらいうものが多かった。レインボーバスができてかなり便利になったので、コミュニティバスの補助を産後もっと長く利用できるとありがたい。(子供が3才になるくらいまで。無料が難しければ、安価な回数券などでもありがたいです)
母親	0～1歳	1人で双子を連れて出掛けるとなると、バギーに乗せて歩いて行くしか方法がなく、徒歩10分内に良い所がないので。保健所は徒歩30分で、バギー+双子で総量50kgのバギーを押して坂道に行くのは無理です。
母親	0～1歳	一ヶ所で行われているサポート事業は、その場所が遠いと利用したくても出来ない。港区も広いので、事業に参加したくても、子連れでの移動は大変。
母親	0～1歳	保健所が行きにくい所なので、小さい子供を連れて行くのが大変。
母親	0～1歳	どこに行くにも歩いて20分以上かかるか、電車を使う必要があり、スケジュールを組んで準備しないと利用できない。気軽におでかけできる距離にあって欲しい。
母親	0～1歳	ちいばすを乗り継いで行かなければならない場所も多く、ベビーカーで行くのに気おくれしてしまう。
母親	0～1歳	利用する必要がなかったり、遠方であったりすると、利用しないことが多い。子育てひろばや児童館も、わざわざ交通機関を使っての利用となると、足が遠のいてしまう。

「サービスの日時が合わない、忙しくて時間がない」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	下の子の友人作りで児童館のイベントも利用したいが、スケジュールを確認するとほとんどが水曜日開催で、上の子のお迎えなどで利用不可。育児相談も同じことが言える。
父親	2～3歳	仕事と家事に追われ、公共サービスを利用する時間がない。公共サービスの時間外openを増やして欲しい。
母親	2～3歳	仕事をしていると、平日の昼間の事業は行けない。1歳6カ月の歯科検診も平日で行けなかった。区の事業は、働いていない母親を想定しているように感じ、フルタイムで働く私には利用しづらいです。
母親	0～1歳	育休中はよく利用したが、仕事の復帰後はあまり行けず、さらに情報も少なくなり、遠のいてしまう。また、1才を過ぎるとあまり行ける場所（?機会）が少ないように思う。食事相談などももっとしたいが、平日のみ…。情報が欲しい。（子育て専門広報とか）
母親	2～3歳	産休のみで職場復帰した為平日行っているイベント等には参加出来ないことが多い。土日に利用できるものを出来るだけ利用したいと思っている。
母親	0～1歳	ほとんど平日しかやっていないので、土日にもイベントをもっと企画して。
母親	4～6歳	去年は幼稚園へ入園していなかったため、未就園児の会、幼稚園での遊ぼう会、あいづらなどでの行事に参加できましたが、4月に幼稚園に入園したため、毎日の生活でいっぱい입니다。

「サービスの内容に不満がある、ニーズに合わない」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	2人目妊娠中、出産時や産後の入院中の上の子の世話について、一時預りで利用していた保育園と区に相談したが「区の現状では何もできない」と言われた。
母親	2～3歳	①事業内容が子供に必要なものなので。②利用したい日時にいっぱい利用出来ない。③上から目線で相談というより指導されることもシバシバなので。
母親	2～3歳	こむすびサービスは病児を扱わない。就労している親にとっては病児の際の保育が最も憂慮している状況。限られた病児保育室では受入れが無ければ、会社を休むしかない。
母親	4～6歳	保育園での預かり、こむすびサポートなどは基本2時間のため、短かすぎて頼めない。
母親	2～3歳	みなとっこを利用しようと思ったが、新年度は、園児が不安定なので預かれないとのことでサービスが使えず残念。現場と育児支援策がもう少しマッチしていけばよい。
母親	2～3歳	すくすく児童相談は、いつも待ち時間が長く、足が遠のいてしまいました。また保健師によって、意見や考えが異なるので、港区なりの見解を統一してくれればと思った。
母親	0～1歳	すくすく育児相談では少し厳しい言い方をされる方がいて、産後つかれだったので、あまり良い気持ちはしませんでした。けれど、全般的に皆さんやさしく接して下さいます。
母親	4～6歳	いつも予約がいっぱいで希望する時間帯に利用できない。規則が多すぎて個別の希望に応じてもらえない。
母親	2～3歳	保健所の方の知識が少し前の子育ての気がして（良い所もちろんあると思いますが…）、お話しても私が受け入れにくい為、敬遠してしまう。年上の方の子育ての話はとても興味がありますが、現在の子育て法も少し知って頂いて対応して頂けるとうれしいです。（それがお仕事なのでから。）
母親	4～6歳	育児相談は相談員により、態度や対応が全く違う。悩んでいるのに逆に怒られて不快な気持ちになったなど、あまり良い話を聞かないので、行こうという気持ちになれません。

母親	2～3歳	利用させて頂いた頃は、あまり人がおらず、お友達なども出来なかったので通わなくなってしまいました。
母親	0～1歳	保育園で遊ぶのは地域の人の参加を積極的に行っている園と、そうでない園とにわかれていると思います。後者だと行きにくい。
母親	4～6歳	一時期、“あいぼーと”の利用を考えたことがあったが、システム的に利用しにくく、また、人材の面でも（シッターさんの質）民間に非常に劣っており、利用することをやめました。さらに説明会にて、“ボランティア精神でやっていることなので、それに対する対価として料金を支払ってください”とおっしゃられ、子供を預かることの責任をどう促しているのか、疑問に感じました。

「サービスの料金」に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	料金がもう少し安いと使いやすい。
母親	2～3歳	一時預かり等、料金がやや高いと感じます。
母親	2～3歳	預けるのに費用の負担が大きい。

「サービスについて信頼できない、不安がある」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	派遣型一時保育は利用してみたいと思いますが、どんな方をお願いするのかよくわからないので不安があります。
母親	0～1歳	保育園は予防注射が終わるまで風邪が伝染りそうで心配です。ベビーシッターサービスをフルに利用しています。
母親	2～3歳	母親1人で、子を2人以上連れて行くと、十分目が行き届かない時もある。施設によっては、トイレトレーニング中の子に不便。衛生管理が十分でない施設も。病気をもらってくる。
母親	0～1歳	どんな人が子供を預かってくれるのか不安。預けたことを後悔するのでは…と思うとふみきれない。
母親	2～3歳	子供が他の子にケガをさせないか心配だし、知らない人に子供を任せられない。

「サービスを利用する必要がない、機会がない」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	近くに相談出来る人や、サポートしてくれる人がいる為。
母親	4～6歳	平日は保育園に行っているので利用できない。休日は家族で過ごしたいので、利用する予定はない。
母親	2～3歳	利用する機会（チャンス）がない。利用しなくても済んでしまう。（困った時は祖父母に来てもらうなど。）
母親	2～3歳	現在保育園にも入れて、延長保育の月極を利用でき、その他困ったことがあまりないからです。
母親	2～3歳	子供が一才になるまで、夫が育休制度を利用してくれた為、特に困ったこともなく、充実していたため。
母親	4～6歳	仕事に戻らないのであれば子育てに集中し、自ら子供の遊び先・友人をつくるため必要とすることがあまりない。但し、仕事に戻る場合は必要に見合ったサービス・質が得られると思えない為、結局パートタイムで仕事をして子育てを自分でするしかない。
父親	0～1歳	まだ小さく、外出は極力控えているため。
母親	0～1歳	最初の一步がふみだせず利用していません。
母親	4～6歳	事業を利用しなくても、近所の友人との遊び、相談、助け合いでできているから。
母親	2～3歳	歯科検診については、毎月自分たちで歯科検診へ行っている。預かりや広場のような育児サポートより、子供と公園へ一緒に行って遊ぶ方が楽しいので利用しない。

母親	2～3歳	平日保育園に通わせ、土日は子供の好きなこと、家事等の用事を済ませて終わってしまう（土日だけでも子供と一緒にいてあげたい）。子供も健康で、使う必要性がない。
父親	0～1歳	一度行ってみると利用する事も増えるかもしれないが、知らない事もあり、行く機会がなかなかない。
母親	0～1歳	バースデイ歯科健診は、かかりつけの歯科があり、定期的に診てもらっているので、利用に至りません。色々と事業があり、選択肢があるのは良いことです。
母親	3歳以上	発達支援センター、障害保健福祉センターは気になるが、保育園での育児相談で、様子をみようということになったため。
母親	0～1歳	生後6ヶ月で、私自身が世話をできるので必要になっていない。保育園で遊ぼうや児童館はそろそろ利用してみたいと思う。

「利用している、または以前利用していた」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	子育てひろばや児童館はよく利用しています。日曜日も空いているので便利です。港区の子育て支援には、いつも大変お世話になっています。ありがとうございます。
母親	0～1歳	ホームヘルプサービスは大変助かりました。ありがとうございます。
母親	4～6歳	幼稚園に入るまではとてもよく利用していました。
母親	0～1歳	基本的にどこの施設もキレイでよく使わせて頂いています。
母親	4～6歳	第一子の1才までの育児では港区の色々な支援を活用していました。
母親	2～3歳	保育園に通う前はよく利用していて、友達も大勢できました。
母親	2～3歳	子が1・2才までは、POKKEや港区キッズサポートセンターなど、よく利用したが、3才近くなると、室内遊びより公園を好むようになり、利用しなくなった。小さい子と、うまく遊べないことも多く、行かなくなりました。
母親	4～6歳	0～2才の頃は事業に良くお世話になり、とても有難い存在でした。ここ数年、幼児期に入ってから、我が家の場合お世話になる理由がなくなった為利用しておりません。

「これから利用したい」という意見

回答者	子の年齢	内容
父親	2～3歳	今後、派遣型一時保育・育児サポートは利用してみたい。
母親	0～1歳	まだ出産して間もないため、これから利用したいと思います。
母親	0～1歳	これから、どんどん活用させて頂こうと思っています。（子供がまだ乳児のため）
母親	0～1歳	今後利用しようと思っています。0才でも参加できるものを探したいと思います。私自身のリフレッシュにもなると思います。
母親	0～1歳	一時預かりを利用しようと思っているのですが、なんとなく不安でまだ預けられていませんが、利用しようと考えております。
母親	0～1歳	乳幼児一時預かり・子育てひろば・みなとと（区立保育園での在宅子育て支援）について、これから利用を考えているところ。
母親	0～1歳	広報番組を拝見して様子がわかって行ってみたい。

サービス等に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	養育支援訪問（妊娠出産時ホームヘルプサービス）について、現在利用できるのが出産後60日までだが、90日までにして欲しい。（回数制限はそのままでも）おんぶできるようになれば、家事もそれなりにできるが、生後3ヵ月・4ヵ月の赤ちゃんはおんぶできず、家事が全くできない。産後の体の回復も充分ではない。
母親	2～3歳	合理的ではない部分がある。派遣型サポートも、少し家庭の事を助けてくれるものであって欲しい。

母親	2～3歳	養育支援訪問の回数が、もっと増えたら有難いです。(自己負担額は、増加回数分については多少上がってもよいです。新しく他の事業者にも、サービスをお願いする(開始してもらう)のは、精神的にも身体的にも、ハードルが上がります)
無回答		児童館＝小学生、中高生プラザ＝中高生、あっぱい＝乳児というかんじで幼稚園児の遊び場がない。幼稚園開放や公立校に入れるように(遊べるように)してほしいです。夏休みは特に困ります。
父親	3歳以上	障害児に対して不勉強ぶりが目立つ。それは小・幼の通常級の先生のみならず、パオの先生ですらそうだと思う。港区の障害児療育は他区に対して見劣りがするが、それはパオの体制が一因だと考える。
母親	4～6歳	国からのサポートのないインターナショナルスクール等は、授業料も高く、その為、共働きを希望していても、シッター料金を考えると、余計にお金がかさみます。港区に特にグローバル教育を行っている方も多いと思いますので、港区でサポートして下さる(低料金)外国人スタッフのいる一時預かり等の場があるとありがたいと思います。
母親	2～3歳	子育てひろばを、他区・他県からの友人と遊べるようにして欲しい。
母親	4～6歳	乳幼児一時預かり・子育てひろばの一時預かりは、すぐに定員になってしまうようで、予約を断られることが多い。もっと枠を増して欲しい。
母親	4～6歳	1人親サービスを充実して欲しい。
父親	0～1歳	「保育園で遊ぼう」の日程が少ない。もっと開放して欲しい。
母親	0～1歳	近所の中高生プラザの、開始時間が9時くらいから開いてるといいなと思います。結構時間前に待っている人を見るし、自分自身も子供が早起きして家ではぐずりはじめた時など、早く開いていればいいなと思うことがあるので。
母親	2～3歳	急に自分が病気になるなど体調の悪い時に、一時保育は前日や当日では、お願いができず、頼れる人が近くにいない時に困りました。本当に必要な時に、お願いできる所があれば助かります。

「障害や病気等のため利用しにくい」という意見

回答者	子の年齢	内容
母親	3歳以上	障害があるので利用しにくい、又は利用できない。
母親	3歳未満	子供が難病の為、外出があまりできない。免疫を抑える薬をのんでいるので、他の子供と接触させられない。
母親	3歳未満	我が子は障害を持っている為、健常児の多く集まる場所へは、他の視線が気になって、出掛ける事を面倒に感じてしまう。
母親	3歳以上	バースデイ歯科健診について、子どもは全体的に過敏があり、口の中や歯も過敏な為、障害児専門の口腔保健センターに通っています。バースデイ健診がどこまで障害児に対応して下さるかわからないので、利用はしていません。
母親	3歳未満	病気の為、外出を止められている為、家庭へ来ていただけるサービスのみ利用できる為、あまり利用できていない。
母親	3歳未満	子供が先天性心疾患で感染に弱い為、同年代の乳児と関わりを持たせられないので。

その他の意見

回答者	子の年齢	内容
母親	4～6歳	子供がインターナショナルスクールに通っている為、帰宅もPM4:30と遅く、あまり地域の活動やサークルには参加出来ず、近所にお友達がいないのは残念だと思ふ。
母親	2～3歳	預り保育は夫が昔、反対していたので、預けにくい。
母親	4～6歳	2歳で港区に引越してきて、人見知りがあったこともあり、あまり、預けたりする考えがありませんでした。人が多い場所は避けていました。

母親	2～3歳	一時保育など利用してみたいが、大した理由ではない（買物、美容院、ただの息抜き）のに利用してもいいのか？気が引けて結局利用したことはない。
母親	0～1歳	息抜きをしたくなる時もあるが、「預けてまで…」と自責の念にかられる。どのような所、サービスなのかを予め調べてから利用したいが、調べる余裕がない。
母親	2～3歳	利用するにもエネルギーが要る。そこまで頑張れない。
母親	4～6歳	港区には、お金を払えば、子供にとって良さそうな色々な選択肢があるから。
母親	2～3歳	あまり興味がわからない。
母親	4～6歳	児童館へ良く行ったがお友達が作りにくい。いつも違った人に会うので親しくなりにくい。子供の体操教室や何かの集まりを多くすると、同年代の子供同士のふれあいが増える気がします。
母親	0～1歳	私自身、私立の学校にしか行ったことがないため、区が運営されている場所になじみがないため。
母親	2～3歳	仲の良い母親達が多い場所に最初はがんばっていったりするが、仲の良くなるきっかけがなく、そのうち子供が遊び相手がいないのが、かわいそうで行かなくなる。
母親	4～6歳	人見知りのため、気を使い疲れてしまう。
母親	0～1歳	友達作りが苦手で行きたくないことも原因の一つではあります。
母親	0～1歳	悩みはあるが、どの程度の悩みを（ささいなことも多いので）相談するべきなのかわからない。
父親	0～1歳	妻が利用しているが私（父親）は利用がない。
母親	0～1歳	ママ友と行かないと逆に孤独を感じる。（すでにグループが出来あがっていて入れない）
母親	0～1歳	外国人として、関わることに少し違和感がある。
母親	0～1歳	行こうと思っても、家事や子どもの世話で、つい時間が遅くなり、行けなくなる。1人で行くと、すでにグループができていいるのでは…と思い、おっくうになる。
母親	2～3歳	あまり身近に感じないため利用していない。かたいイメージ。
母親	2～3歳	私立的なものでないので、プライベートなこと迄介入される気がして、気軽・手軽に相談利用が出来ない。

2 港区に対する意見や子育てに関する困り事について

(1) 自由意見の件数と分類

問48で、港区に対する意見や子育てに関する困りごとなどについて自由に記入する欄を設けた（問48 港区に対するご意見や、あなたの子育てに関する困りごとなどを、ご自由にお書きくださ

い）。この自由記述への回答者数は1,186人で、全回答者の50.2%を占めている。

下表は、それらの自由回答を分類し、項目別にケース数を示したものである。なお、回答者は1,186人であるが、1人の回答が複数の項目に分類されて集計されている場合もあるため、ケース数の合計と回答者数は一致しない。

分類項目	ケース数
幼稚園に関する意見	202
保育園に関する意見	383
一時預かり等に関する意見	54
病児保育に関する意見	40
小学校や学童保育に関する意見	57
子育てサービス等に関する意見	203

公園・遊び場等に関する意見	118
保健・医療に関する意見	27
「感謝・満足している」という意見	103
公共交通機関に関する意見	109
障害児療育等に関する意見	9
周知・情報に関する意見	38
子育てに関する意見	62
その他の意見	57
アンケートにに関する意見	8

(2) 自由意見の具体的な内容

分類された項目ごとに、自由意見を一部抜粋して掲載する。

なお、自由回答を読みやすく掲載するとともに、

その回答者の特定を避けるため、回答内容は趣旨を変えずに文章を短くするなどし、かつ子の年齢や学年でグループ分けを行った。

幼稚園に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	4～6歳	区立幼稚園の3年保育が増えれば良いと思います。
母親	2～3歳	保育園ばかり増えているが、幼稚園も増やして欲しい。
父親	2～3歳	公立幼稚園は2年と3年保育が併存しており、通える範囲内に3年保育がなく、あるいは定員が厳しく今年から幼稚園に通わせなかったが、来年2年保育に入れる予定。2年保育の幼稚園を3年保育に変更する場合は、2年保育の定員も維持してほしい。
母親	2～3歳	保育園と幼稚園の教育差について、不安があります。働きながらも幼稚園に通えるような、幼稚園があれば良いのと思います。
母親	2～3歳	保育園に預けていますが、来年はどうしても3年幼稚園に通わせたいのですが、港区は公立の3年幼稚園が少ないのと、延長がないなど他区よりもとても遅れている。働いている母親のためにも、幼保一体改革または延長保育をきちんとやって欲しい。
母親	2～3歳	幼稚園の3年保育に安心して入れる枠がほしい。兄弟優先なども整えて頂きたい。
母親	4～6歳	一部の特殊な幼稚園を除き、全ての子供が希望する幼稚園や保育園に入れないこの現状をどうにかして欲しい。社会の構造が変わっているのに、女性は子供が小さいうちは家で子育てすべきという暗黙の前提でシステムを固定したままでは進歩がない。
母親	2～3歳	区立幼稚園は、何とか2年保育は抽選にならないで、希望する園に入れるようにしていただきたい。今年は3年保育の抽選に外れ、来年は何とか最寄の園に通わせたいと思っているが、来年もし抽選になってしまうと区立は後がないので不安で、仕方がない。
母親	2～3歳	幼稚園に関する情報を区から発信してほしい。区立だけでなく私立も。ママ友からの情報ばかりでは、真偽が分からない事も多く不安になる。
母親	2～3歳	幼稚園についての情報をもっと欲しい。対象の家庭に一覧や募集の情報などを配布しても良いと思う。
母親	4～6歳	パートで仕事を考えていますが、夏季など長期休暇中には幼稚園が休みとなり、預けるところがなく、仕事を持てません。長期休暇中に保育園の割をひろくしてもらおうか、区立幼稚園を利用して一時預かりをしてもらおうと助かります。

母親	4～6歳	港南地区在住です。幼稚園、小学校、児童館、この数年でとても綺麗になって利用するのが楽しいです。幼稚園の先生方も、とても親身になってくれる方ばかりです。
母親	4～6歳	区立の幼稚園でも…。幼稚園降園時そのままスライドして預けられる預り保育が有料で良いのであると非常に助かります！
母親	2～3歳	幼稚園の3年保育は必要ないと思います。それよりも、2年保育に必ず入れる方が良いです。悲しい思いをした方が、自分も含め多数います。
母親	4～6歳	私立幼稚園への援助をもう少しして欲しい。港区は区立幼稚園への入園は本当に厳しいので（3年保育）、私立幼稚園へどうしても入園させてしまっている。港区は保育園、保育園って感じですが、幼稚園も足りてませんよ！専業主婦には冷めたい感じです。
母親	2～3歳	第2子が10月に生まれる予定。幼稚園が少なく区立に入れるかわからず、私立の受験時に、第2子を預ける所がないかも。又、区立でもお弁当がない為、第2子を育てながら、通園させられるか不安。アレルギーでもあるので、断られる私立も多く、対応できる幼稚園が少数。アレルギーの弁当作りも大変。でも、幼稚園に入れなかったら2人を育てるのに、日中不安がある。頼れるポッケも遠い。ほっとルームの食事提供がないので預けにくい。夫の転勤もあるので、仕事にもつきにくく保育園に入れられない。働いている母たちは、ずっと働ける上に保育園など支援もあり、1人になって気分が変わることがあるのでうらやましい。
母親	2～3歳	来年度、三年保育で幼稚園に入園予定ですが、公立幼稚園も私立幼稚園も定員オーバーで抽選や考査の結果入園できない児童が多数発生すると聞く。公立幼稚園枠の増や、新設などして「幼稚園浪人」が発生しないよう改善を。
母親	4～6歳	今は幼稚園に入り、友達の親子ともに楽しく過ごしているが、3年保育でうちの子だけ入れなかった1年は、本当に孤独でつらかった。皆が3年保育を受けられるようにして。
母親	2～3歳	幼保一体のこども園をたくさん作ってほしい。教育の質を幼と保で差が出るような事のないように。
母親	2～3歳	こども園がないので、幼保一体型施設を作って欲しい。預り保育のある幼稚園もほとんどないので、区が預り保育をするよう指導するなど対応して欲しい。保育園でのカリキュラムを工夫して欲しい。
母親	2～3歳	①幼稚園が抽選ではなく、全員の受け入れを。②区立でも併願出来る様に。私立幼稚園を保険に受験して高額な入園料を捨てる事に憤りを感じる。③3年保育での抽選で幼稚園に外れた場合、2年保育では必ず入園できるなどの保証をすべき。

保育園に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	育児休業明けに必ず保育園に入れる体制を整えて頂きたい。4月入所で加点する為に1月までに育休を切り上げて復帰しなければ、1歳児クラスに入れられない場合が多く、何の為の育児休業か、本末転倒な事態と考えます。
母親	0～1歳	役所の対応が非常に不親切。保育園もどこでも入れれば良いというわけではなく、自宅からのアクセスをもう少し考えて欲しい。最寄りの園に通えない場合はせめて“ちいばす”の無料パスを出して欲しい。
母親	2～3歳	区立の保育園でもっと教育的な指導を。(土)・(日)におけいこ事はまださせたくない。子を長時間預けているので毎日でなくても教育機関のプログラムを取り入れて欲しい。
母親	4～6歳	パートの仕事だと保育園へ預けにくいし、0～3才まで母子が孤立しがち。幼稚園は入園が難しい。年長組でもキャンセル待ち。子育てが難しい。
母親	4～6歳	保育園に入れてよかった。とても助けられている。
母親	2～3歳	保育園対策を至急してほしい。第1子の転園希望がなかなか通りません。第2子がいるため預け先が見つかるか不安です。4月入園だけでなく期中の入園もフレキシブルに対応出来るよう、常に定員ギリギリにならないようにして欲しい。
母親	4～6歳	早く区の保育施設を増やして。入りたいときに入れなければ全く意味がなく、認証などは高くて入れられない。入れなければ安いところには入れないというし、貧乏は働くことさえできない。

母親	2～3歳	子供は区の保育園に通っています。私は単身赴任で日本で仕事しながら子供を育てているため、保育園も大変サポートしてくださっています。お蔭様で仕事と子育てが両立できています。とても感謝しています。
母親	0～1歳	保育園により低い倍率で入れるには、0歳4月が最初で最後のチャンスと児童館で知り合ったママや同僚から聞いていたので（港区は激戦とも）、0歳9ヶ月で保育園に入れ職場復帰した。もう少し保育園の定員に余裕がありいつでも入園できれば、こんなに早く復帰しなかったと思う。共働きが多い地域だと思うのでどんどん増やしてほしい。
母親	4～6歳	保育園の数を何とか増やして下さい。1才になるとまず入れないと言われて、1月生まれなのに泣く泣く4月復職（会社制度では2年とれるが育休1ヶ月しかとれませんでした）しました…。乳児期の両立はかなりしんどいです。
母親	4～6歳	働いている母親は第2子妊娠中出産後とそのまま保育園に通わせることが出来てうらやましいと思う。専業主婦も妊娠初期のつらい時期など第一子を預って欲しい。
母親	4～6歳	仕事の有無にかかわらず、低料金で保育園に預けられるような環境があるといい。いろんなサービスがあるけど、調べるのも大変。保育園など1ヶ所でまとめてほしい。
母親	0～1歳	保育園入園については、情報が入り乱れて不安をかき立てていると思う。情報の一元化や、区からも詳しく発信して欲しい。
母親	0～1歳	日曜や祝日も仕事の日が多いので、日・祝も保育園でみて欲しい。特にG、Wやお正月、あまり関係のない仕事なので、近くに子供を見てくれる両親もいないので非常に困る。
母親	0～1歳	保育園のことですが、2人目をつくろうと思っても、育休が1年過ぎたら1人目の子は退園と聞いて驚きました。4月しか復帰できない職場なので、産まれる時期によっては1年を過ぎる場合があります。退園というのはひどいと思います。2人目をつくることに不安を感じます。（1才にもなっていないうちからは保育園に入れたくないので。）欲を言えば、3年は退園せずに預けられるようにして欲しいです。
母親	2～3歳	区立保育園に通っているが、保育士への教育、支援等が充分でない気がする。このまま保育園に通って、いいものか悩むが相談先がない。別の保育園には、待機児童問題で変えるのが難しい。保育園の質の向上を望む。
母親	4～6歳	兄妹同じ区立保育園に入園出来たので助かっています。園の日々の保育内容については先進的なプログラムを取り入れてほしい（例：英語レッスン）。又、保育士の方々の研修プログラムも充実してほしい（日々の業務のみに追われている印象があるので…）
母親	4～6歳	年末年始などの保育園の休みの時に仕事がある場合、区ではなかなか子供を預かってくれない。また、保育園に行っていると、他の保育園に遊び（預かり）に行けないとか、制約が多くて本当の意味での“安心して子供を育てながら仕事をする”というものにはほど遠い。保育園から小学校1年生への4/1のかべもものすごく高い。本当に女性を社会は活用しようとしているのか？学童や放課GOも夜預りが無いのでは使えない。
母親	0～1歳	待機児童問題解消。働きたい働く場所はあるのに預ける所が決まらない為、結局家の中で子供と2人で過ごすようになり、イライラや不安がつくる。外に出れば、情報もあるだろうが、自主的にそういう場へ出て行くのが苦手な人もいる。
母親	4～6歳	保育園で預かる時間をもう少し早く、またもう少し遅くまで設けて欲しい。また時間外にかかる追加料金を発生しないで欲しい。保育園でみてもらえない時間を、どうやってカバーするか、いつもいろんな人やサービスを利用することになって、近くに家族がいなくて、夫も協力してもらえない。働く女性にとってはとても負担が大きい。また保育内容についても、もっと教育的な要素を充実させて欲しい。現在の保育園では、先生のやる気によって、カリキュラムの質の差が大きく、標準のカリキュラムのレベルで、もっとあげてほしいと思う。地域との交流や体験の充実など。親も協力したいと思っているので呼びかけて欲しい。
母親	4～6歳	港区はとても育児しやすいと思います。保育園の整園のスピードも早かったし、良かったと思います。しかし、認証保育園や、その園児へのケアがおろそかな気がします。どんどん認可が建てば園児そこへ移動します。学年で2～5人というのは年長さんぐらいになると、どうかと思います。

母親	0～1歳	保育ママ制度も作って下さるとありがたいです。保育園より病気がうつりにくい気がします。
母親	0～1歳	保育ママ制度があれば良いと思う。保育園がなかなか入れないが、週に2～3回仕事がしたいので。
母親	4～6歳	「園庭のある保育園を増やして欲しいです」屋上庭園を提案いたします！認可保育園を増設するなどの具体的対策には感謝しますが、園庭のない保育園が増えるばかり（芝浦地区）で、結局3才以降の幼児に適した外遊びが、安心してできる園庭のある環境や、プール遊びなどできる環境は考慮不足と感じます。国の認可の基準に見合っているとはいえ、本来の幼児発達への配慮をした園庭のある、プール遊びができる保育園が増えないと、3才以降の子供達の将来も心配になります。ビルの一室で長時間保育されるのは、幸せなんではないでしょうか？
母親	0～1歳	はやく専業主婦（仕事したい）が、預けられる保育園を作ってほしい。いつまでたっても仕事に復帰できない。育休の人ばかり優遇されていて出産の為退職した女性は社会復帰できない。
母親	2～3歳	待機児童の為に保育園を作ったり定数を増やしているが、質の維持はできているのか疑問です。安心・安全な保育の提供をして欲しいです。
母親	2～3歳	特に専業の母親は体調が悪くても休むこともままならず、病院にすら行けないことも聞く。働く人のための保育園拡充のみならず、二人目・三人目妊娠中や、体調不良時にも気軽に使えるようにしないと安心して子供を産めないと思う。友人達を見ているとそれで次の子を諦めている人もいます。
父親	4～6歳	土日祝日に子供を預けられる施設が必要。
父親	4～6歳	港区では結局、幼稚園・保育園に入れずとても残念で不満。区の保育園の受入れ体制を改善願います。せっかく港区に居住しながら、渋谷区の私立幼稚園に行っている。
母親	0～1歳	現在休職中で、来春より復職予定ですが、保育園事情があまりに厳しいため、大変不安で、安心して育児に専念できません。また、どこかの保育園に入れたからといって両立がスムーズにいくとも思えません。保育園の数や定員、利用時間など、改善頂きたいことはたくさんあります。預り施設に預ける理由を問わないことは良いと思うが、通院理由 e t c の人には、別枠設定するなどの配慮があって良いと思う。本当に預って欲しい時、協力者のいない核家族にとって、深刻な問題となることがあります。
父親	2～3歳	港南在住ですが、近くに保育園に空きがなく、浜松町まで通っています。近所の保育園には転園届をずっと出しています。まだ子供が2才の為バスや電車の中で騒ぎ、他の乗客に迷惑をかけます。バスや電車内で心ない言葉（ワガママな子！聞く分けが悪い！ベビーカーで乗るな！）などと言われることもたまにあり。それが私にとって一番のストレスです。「近くの保育園に入れなくて…」と平謝りです。横浜のように、近所の保育園に連れて行けば、通っている保育園まで輸送？してくれる、そんな制度が欲しいです。
父親	0～1歳	保護者の仕事の有無にかかわらず、公平に育児支援が受けられるようにして頂きたい。保育園が公的な施設であるなら、希望者は誰でも入れるようになって欲しいと思う。
母親	0～1歳	保育園に入れず、職場復帰できないでいます。自営業でも正社員じゃなくても、保育園に入れてもらいたいです。むしろこんな私達の方が、金銭面では働きに出なければいけないのに。保育ママを導入してもらいたいです。

一時預かり等に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	乳幼児一時預かりなどとてもいい事業なのですが、利用したい時に空きがないこともあり、より使いやすいものであればと思いました。
母親	2～3歳	日頃からあいぼート（派遣型保育）やPOKKE（トワイライト）を利用し、子育てと仕事を両立しています。
母親	2～3歳	一時預かりはあるが、事前の登録や予約が必要なので、保護者が急病でどうしても体を休めたい時に、子供を預ける先を見つけることができず苦勞しました。緊急的に当日預けたい！という時に自分の親が近くに住んでいないとこれほど困るのかと思ったのと、こういう時こそ行政のサービスに頼りたいと思いました。

母親	0～1歳	一時保育の予約が取りにくく、もう少し枠が増えてほしい。
母親	0～1歳	一時預かりの終了時間をもう少し延ばして欲しい。
母親	2～3歳	一時保育の月8回までを、もっと日数を増やして欲しい。金額を（一時保育の）もう少しおさえて欲しい。
母親	0～1歳	子むすびさんによくお世話になっています。2時間以上、夜間もOKになってもらえると助かります。保育園料がもう少し低額になるといいな、と思います。
母親	0～1歳	乳幼児一時預かりは大変ありがたいが、場合によっては、1ヶ月、1週間前には予約が必要であり、病気になって頼る人もいなくて、本当に辛い大変な時に預けられなかった。急な病気など当日枠があれば良いと思う。
母親	0～1歳	乳幼児一時預かりの施設が、もっと近場にあると助かります。

病児保育に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	4～6歳	病気の時に預ってくれる病児保育を増やしてほしい。
母親	0～1歳	子供は保育園に通っています。病気の時は、母がそばにいたいと思っています。しかし、実際急に仕事を休むと信用問題にもなります。病児保育は、定員が限られて現実的ではありません。今のところ急に具合が悪くなることはありませんでしたが、病児保育の定員が増えると安心して、仕事ができるのですが…。
母親	4～6歳	病児保育をもっと増やして、小学低学年も利用できる様にしてほしい。
母親	0～1歳	一時保育では区の病児保育が利用できないことは大変不満である。病児保育が確保できないため、例えば週1回のアルバイトさえすることが出来ない。認可保育園にも入れてもらえず、病児保育利用も断られることは、待機児童を抱える親にとって泣き面に蜂といったものである。これをぜひ何とかして頂きたい。とにかく一刻も早く、一時保育利用者にも病児保育を使わせて下さい！お願いします。
母親	4～6歳	病児保育の数が少なすぎる。当日の朝になってからキャンセル待ちに漏れたことを知らされても他に預ける所がなく、結果、会社を休むと会社にも迷惑がかかる上に、周りからも理解されず、働く母親の立場が悪くなる。
母親	4～6歳	共働きで祖父母も近くにいないため、子供の病気の時には病児保育をよく利用していますが、本当に助けられています。体調の悪い子供を専門の医師等でみて頂いているので、仕事にも安心していきますし、信頼してお願いしています。今後は、就学児にも受け入れてもらえるとありがたいと思っています。小学生になったからといって、親の状況は変わらないし、子供もまだまだ病気をすることは変わらないのに、受け入れ先がなくなるのは本当に不安です…。近所に小児科と病児保育があることが、今は最も重要なポイントであるため、この付近から離れられません。
母親	4～6歳	病児保育をもっと増やすべき。保育園がいくら増えても病児を預かってもらえる場所がなければ働くことが難しい。仕事も家事も育児も病児の世話もすべて母親が行っているのです。行政で少しはなんとかして下さい。

小学校や学童保育等に関する意見

回答者	子の年齢	内容
父親	4～6歳	多くの親が公立幼稚園、小中高に不満をもち、私立に子供達を通わせている現状を真摯に受けとめるべき。公立学校の教育レベルが低すぎる。
母親	2～3歳	保育園生活がとても十分な設備なのに対し、小学校にあがると大変！というママ達の声聞き不安です。学童の時間が19時くらいまでであると負担が減らせると思います。今現在、最大18時半までどうたっている誰も学童に残らず17時くらいに帰り、小学1年生同士で外で遊んでいる近所の子供達います。もっと学童にチカラを入れてもらわないと、働くママ達は学童にチカラを入れてる区に動きますよ。そして小3までではなく小5くらいまで利用できるとステキです。
父親	4～6歳	年長児親に対する小学校説明会や、小学校の現在の教育状況、先生達の悩み、小学校までに準備することetc全般について聞く機会を沢山作って欲しい。
母親	4～6歳	小学校についての情報をもっと区のHPにのせてもらえると、分かりやすくなると思います。

母親	2～3歳	幼稚園も小学校も人数が少ない学校と多い学校の差があり、人気がかたよらないようになってほしいと思う。
母親	0～1歳	家の目の前に小学校があるのに抽選でしか通えず、遠くの小学校が通学区となっている現状を何とかしてほしいです。小学校の区割も是非見直して下さい。どちらも大きい道路を横断するのであれば、家から近い学校を通学区にしてほしいです。
母親	4～6歳	小学校の選択で、いろんな母親方から情報を得ますが、親の考えとマッチする学校が選びやすいように、もっとわかりやすい何か？があるといいのですが…。
母親	4～6歳	小学校の児童館と放課GOを一本化してもらいたい。放課GO利用者にも、おやつシステムを入れて欲しい。
母親	2～3歳	学童保育に関して情報がほしい。学童保育を充実させてほしい。
母親	4～6歳	①特別支援学級設置学校の数を増やして下さい。(芝浦港南地区では港南小学校のみです)特に「芝浦小学校」に設置していただきたいです。②普通学校に、学習サポートを行う補助員の増員を希望します。③学習が遅れがち(IQが通常とのボーダーライン)の子に対するサポート(例えば上記①②)を強化してほしいです。
母親	0～1歳	今、保育園に通っていますが、学童保育の充実を図って頂きたいと思います。やっと保育園に入れてほっとしていますが、小学校入学の時に、また仕事の時間などを見直さなければならないと思うと、とても働き続ける事が大変だと感じてしまいます。
母親	4～6歳	小学生の放課後の学童の時間を延ばしてほしい。下の子が保育園で延長できるが、学童はできないので残業ができない。赤坂保育園は通常18:15まで。それに合わせて迎えに行くので、保育園で待ってられるようなシステムを作ってほしい。そしたら一緒に帰れる。
母親	4～6歳	子が乳児の時は仕事中心、保育園サポートでよかったものの、幼児の学年に達し、習い事等のことを考えると、フルタイム勤務の制約を感じ、特に小学校の学童保育は延長預りがないと聞き、女性がフルタイムで働ける制度が不十分と考える。育休3年より、保育園の拡充。学童時間の延長の方が先決だ。
母親	4～6歳	港南地区での待機児童の劇的な解消など、期待以上に頑張っていると思う反面、現在の(港南)小学校のパンクなど、保育園の次は小学校の児童数が増えることは、予測できたはず。もっと先手先手でやってほしい。(大規模校の良さはありますが)今、悩んでいるのは(心配なのは)、学童保育です。どうしても7時に帰れなかったら、どうしようかと気になっています。
父親	2～3歳	小学校に通いだしても、親の仕事が終わる通常的时间(午後5時～6時)から、自宅に戻るまでの時間(通勤1時間程度)を考慮した、子どもを預けられる施設・制度・仕組みの充実。
母親	4～6歳	港区の教育に対する意識は高いのだろうか?中高生プラザを利用すると学童(小学生)のお子さんを見るが、ゲームやまんがばかりで、この時間は必要か?と思う。子供はもっと勉強するべきだと思う。働いている母親のおさんは、遊んで放課後を過ごす事になり、子供にとって良くない。外国人(英語を話すスタッフ)がいて、とても良いが、土日もいてくれると良い。平日は幼稚園後は、忙しくなかなか行けないので、土日午後だけとかいてくれると嬉しい。国際学級が東町小学校に出来たが、場所が限定されてしまう為、どの小学校にも国際学級クラスが出来れば良いと思います。英語はレベル別によってクラス別にする必要はある。子供には小さい頃から英語をと、学んでいるが、小学校に入ってから英語を活かす機会があると良いと思います。

子育てサービスに関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	子育て支援（仕事と育児の両立しやすいサポート）や少子化対策、金銭的、サービスの提供を手厚くして欲しい。広報みななどでもっと問46のサポートについて宣伝して欲しい。女性が子供を産みたい！産み育てやすい！という環境がないと日本の将来、少子化はストップしません。港区は会社も多く、恵まれた経済収入があるはずなので、模範となって充実した子育て支援を区でやって下さい。妊娠時（産休育休）の金銭的サポート（税金免除等）、妊婦さんへの金銭的サポート（病院へのタクシー利用券等）、2人目のお子さんへの金銭的優遇、認可保育園の拡大（増加）、リーズナブルなベビーシッターサービス、小さい子供のいる母親の仕事紹介、都営（区営）住宅の提供、注射の援助（予防接種）おたふく・みずぼうそうなど。
母親	4～6歳	もっと、ドロップイン（自由参加型）の幼児・未就学児や小学生の参加できるアクティビティ（ダンス・体操・アート・ミュージック・英語など）が、増えてくれたらと思います。小学校で・中高生プラザでなど。小学校や幼稚園などにアーティストなどを招いて、子どもたちが触れられる機会を増やしてほしいです。
無回答	2～3歳	※わくわく子育て通信（はがきでくる）は、とても参考になり、ポイントが的を得ており役に立っています。スタッフの方々に感謝したいです。そしてこれからも利用していきたいです。役立っていますよ！
母親	2～3歳	保育園に通っていても、病気で休むことがある。ベビーシッターの割引などがあればうれしい。母親・父親も育事疲れで体調を崩します。家事手伝いの派遣などがあればうれしい。
母親	0～1歳	妊娠出産時にホームヘルプサービスが出産後も長期に利用できるとうれしい。子供の面倒みるのを優先させたいので疲れている時など家事を少しでも頼めると非常に助かる。
母親	0～1歳	土・日にも育児相談をする機会をたくさん作ってほしい。ワーキングマザーが地域の人とかかわる機会がない。
母親	0～1歳	港南地区は子育てしにくい場所だと思う。子育てひろばはあるが、行けるのは1ヶ所のみ。バスなども利用できない親もいる事を、理解してほしい。双子なので、特に不便さ、子育てしにくさを感じる。
母親	0～1歳	安心して子どもを産み育てる環境づくりが、まだまだだと思う。保育園、一時預かり、学童保育など子どもの年令や親の勤務形態に合わせてサービス自体は存在するが、利用枠に対して希望者が多いため、効率的に利用することが難しくなっている。規模拡大などで対応してほしい。
母親	0～1歳	子供を産んでわかったのですが、同じくらいの時期に赤ちゃんを産んだ方と知り合うチャンスを区がたくさん設定してくれるのが何より嬉しかったです。散歩に出れば、必ずと言っていいほど、知り合ったママ友に会うことができ“地域全体で子育てを見守ってくれている”と思えます。そうでなければ孤独で辛い子育てになっていたはずです。
母親	4～6歳	知らない項目に関しては、場所も連絡先もわからない。実際生活上の不安があった時、港区の子供関連に足を運んだけど、事務的過ぎて二度と相談したくない。あちこちに連絡させられ、行き着く所、離婚をしないと話しにならないと言われ、当時精神的に参った状態で子育てに対しても、不安が増す様になり、力になってもらう所か、何も前向きな気持ちになれず、不安定な精神状態にさせられた事が忘れられない。
母親	2～3歳	港区に転入してもうすぐ1年になります。転入と同じ時期に2人目を出産しました。1人目を対象として集まり（カルガモ？）はあるが、2人目が対象のものはないので転入して知り合いもいないのでそういう会に参加できたかと思っています。
無回答	無回答	里帰り出産などで港区に（出産後）いなくて、うさちゃんクラブとか参加出来ずで、区内の同級生の友達（ママ友）が出来ませんでした。なので、そこで友達とか出来なかった人達の交流の場（〇〇の会みたいなの）があったらいいです。
母親	0～1歳	うさちゃんくらぶのおかげで、地域に子育て仲間ができ、大変感謝しております。区外の友人にうらやましがられます。ありがとうございました。

母親	4～6歳	夏休みなどの休み期間中の一般向けアクティビティ（支援）がもう少しあると良いかと思います。インターナショナルスクール外で公立の日本語の教育を受けさせていただける環境があると大変うれしいです。
母親	2～3歳	2人目が本当はほしいけど、1人目の時に切迫早産だったので、次も入院や安静が必要になった時、誰も頼る人がいないので、あきらめるしかない。けど、あきらめきれない自分がある。保育園に入れたらいいのに…。入れたとしても家から遠いと、切迫早産の自分は送迎が出来ない。そんなワガママ誰も聞いてくれないのは分かってます。けど現実です。頼れる人が欲しいです。
母親	2～3歳	産後1ヶ月の助産師の自宅訪問、うさちゃんクラブ、保健所の児童センターの19:00までの開放等、とても助けになって感謝しています。これからも港区に住み続けたいと思いました。
母親	0～1歳	養育支援訪問のサービスに非常に助けられました。出産後の大変な時期を乗り切れたのは、このサービスの存在がとても大きかったです。外出も難しい時期に子供と2人きりのことも多く、ヘルパーさんと話しながら家事や育児について、アドバイスも頂いたりお買い物も行って下さったので、日々心から感謝でした。特に帝王切開だったので、体力がなく、辛い時期でした。今でも時々子供の様子をメールでお知らせしたり、色々教えて頂いています。
母親	0～1歳	母親学級・両親学級共に参加しました。沐浴実習など両方に共通する内容があったので、違ったものを取り入れてもらえると尚良いかと思います。例えば立合出産の夫側のサポートのしかたなど。初産の場合、本などで見ても具体的なイメージがつきにくいので、実習も交じえて実施して頂けたらありがたいです。
母親	4～6歳	子育て支援に対するサービスの規準が低すぎると思います。税金もあるのだから、待機児童ゼロ等全国一律の規準に満足せず、港区だからできる質の高い支援を是非目指して下さい。千代田区の図書館や児童館での預りのようなきめ細かさが必要だと思います。産後の助産師訪問は個別に3ポイントが取れてきめ細かいサービスが受けられましたが、他は保健所で○日の○時からと決まっています、仕事の都合に合わないし、行くと常に待たされたり、人で一杯だったりします。サービスについて質を上げ料金も高くして、満足度を上げるという新しいモデルを期待します。子育て支援や公教育に不満で海外に転出する話も聞きます。豊かな地域では豊かなサービスが受けられるというのは当たり前で、港区は「豊かなサービス」には達していません。
母親	0～1歳	他の区の話を知ると、港区は施設もきれいで、サービスも充実していて恵まれていると思います。利用したいサービスは多いのですが、なかなか行動にだせないなので、ちゃんと利用してみようと思います。きっかけが欲しいです。
母親	2～3歳	春から幼稚園に通い同世代のお友達が出来ました。出産後の「うさちゃんくらぶ」にハズレてしまい、近所に同世代の知り合いが出来ず途方に暮れました。出産後、慣れない子育てで不安な中、家族とも時間のズレで話が出来ない、そんな方、他にもいるのではないのでしょうか。「うさちゃんくらぶ」の様な機会を増やして頂けると嬉しいです。
母親	0～1歳	母親学級ではたくさんお友達ができました。産後、育児の話をしたり、自宅に行ったり呼んだり、ご近所同士なので、子供が小さくても歩いて出掛けられる先ができたのは本当に良かったです。
母親	2～3歳	いろんな、未就学児に対する支援を行っているけれど、最初の窓口がどこか分かりにくい。区役所へ行って、保育園の申請をする時の対応が恐かったので、行きたいと思わない。待機児童対策もまだまだ不十分であると思う。孤立して育児に悩むことがあり、協力者もいないので、気軽に相談できる場所を公にして欲しい。
母親	0～1歳	子育てに対する支援がとても充実しているので、ありがたいと思っている。ただしオフィス街と隣接しているので、たばこや交通ルール等大人のマナーが悪いこと、子供が遊べる公園が少ないことなど、今後も改善していただきたいと思う。
母親	0～1歳	港区は、1人親への支援があまりなく、他区の方に良く驚かれます。もう少し支援・手当てがあると助かります。
母親	4～6歳	港区の0歳児保護者への支援に本当に救われました。うさちゃんクラブも、保健師さんの派遣も、人生が変わったと思うほど有意義で有難く、今も思い出して感謝することがあります。

母親	4～6歳	港区に住んで約1年ですが、子供とあいぷらなどの行事に参加した事でたくさんの知り合いができたと思います。あいぷらのスタッフの方達と親見知りになって、孤独感ははなくなりましたので、多くの方が利用されると良いなあと思っています。
母親	2～3歳	震災で疎開していたため、うさちゃんくらぶや保健師の訪問を受けられなかった。その後どのように参加したらよいかきっかけがなく、子育て中孤独で大変だった。
母親	0～1歳	芝浦地区の児童館で、親子体験型のカリキュラム（リトミック、英会話など）を増やして欲しい。あいぽーとはたくさんのカリキュラムがあるが、遠くて行きにくい。あいぽーのような充実したものが欲しいです。
父親	0～1歳	父親などが関われる子育ての環境を作って欲しい。子供＋父親と一緒に学べる子育て教室があるとうれしいです。あまり情報として重要でないのかアンテナを張らなきゃ知ることができない現状です。
母親	2～3歳	港区は都内でも支援が充実していると思います。子供の習い事について、もっと充実していたらな…と思う。（乳幼児期のサポートは、十分充実しています。就学児以降はそれほどでもないような気がします。）
母親	2～3歳	母親が病気の時などに、利用出来る育児サポートを希望します。
父親	0～1歳	何かを決める時、施策を考える時など女性メンバーを多くして下さい。産前・産後の支援としての兄弟児の保育を、現在の2ヶ月から半年程に延長してほしい。（下の子の首がすわる頃が3、4ヶ月。腰がすわるのが6ヶ月頃なので）メルボルンにあるらしいのですが、母子でお泊りできるような静養施設があるといいです。子育ては家に引き込みがちですし、旅行先選びも子どもが大きくなるまでは限定されます。夫の仕事も忙しく、休みがなかなかとれません。ちょっと近場で母子のみ泊まれる静養施設が設置できたら…。フランスのように子どもが多ければ多いほど、手厚い補助が受けられるようにしてほしい。港区で取り組むなら、やはり住居手当てでしょうか？子どもが3人4人いても、経済的な補助があれば、港区外に引っ越さなくても住み続けられると思います。
母親	4～6歳	現場を知らなさ過ぎる。ニーズを吸い上げて下さい。今回やっと初めてでもこのようなアンケートは大きな一歩。本当の意味で子育てしやすい港区として全国のモデルケースとなるよう期待しています。世田谷区の保坂区長の政策がうらやましい。ホームヘルプサービス期間、延長して欲しい。就学するまで。
母親	0～1歳	港区は他の区に比較すると非常に整った支援があると思うが、できれば産後院のような、出産直後の母親を見てくれる施設があると尚2人目に希望が出ると思う。
母親	4～6歳	子供が増えてくると、困ったことがさらに増えてくる。養育支援訪問のヘルプサービスを使わせていただいたのですが、家事支援もとても助かるのですが、上の子の送迎をしたくても、下の子（産まれてすぐの赤ちゃん）を少しの間でも、見てもらうことが、出来ないのも、そこでさらに別の人をお願いしなくてはならず、不便を感じました。子供が増えても、行政の支援が増えるわけではなく、結局、労力も出費も増えるので、このままでは、子供は増えていかないだろうなと感じます。あと、子育てをするにあたり、母親のメンタルを強くする方法などを、教えてくれる講座（怒らなくなる様な…）があれば、受けたいと思う。

施設・遊び場に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	日中、外食したいのになかなか子連れだと厳しい場所が多く、公共の施設で親子でランチが出来たり、子供達を自由にさせられる飲食スペースが増えるとありがたいです。
母親	0～1歳	真夏や梅雨など、家の中では狭いが外でも遊ばせられないような時期、出かけていける室内広場（たたみの部屋とか）が、身近にもう少しほしい。
母親	4～6歳	港南地区はここ数年で子供の数がグッと増えました。子供が育っていく上で、保育園や学校以外で過ごす場所（カルチャーセンターなど。共働きの場合、子供が安全に過ごしてもらえ場所が必要です。学童＋αなものがあるといいです）が、もっとあると良いなと思います。
母親	4～6歳	今は3才～小学入園前の子が行く所がない。（屋内で）子育てひろばは赤ちゃんが多いし、児童館は小学生が遊んでいて活発的で一緒に遊べない。幼稚園児が屋内でも遊べる所がほしい。

母親	4～6歳	港区内の子供の城（青山）を今までよく学校帰りに利用してきたが、今後こわされるとのこと。こういう施設（大型）がないと気軽に子供を連れて行ける複合施設が見当たらない。港区で作って欲しい。
父親	4～6歳	白金高輪の中高生プラザを利用していますが、図書館（別館）も子供の本がたくさんあり（特に外国本）、大変感謝しています。
母親	0～1歳	入園前は児童館や保健所をよく利用しました。どこも親切で清潔感があり、港区に住んでよかったと思っています。
母親	4～6歳	区内にある、あまり機能していない施設（女性就業支援センターなど）、雨の日、子供が遊べる場所として開放して頂けないかと日頃思っています。
母親	0～1歳	世田谷に産後ケア施設があると雑誌等で読んだのですが、港区にもそういう施設があったら、とても助かります。ハイリスク妊娠は、どこの病院でも出産できるわけではありません。また授乳のトラブルも、助産師さんに泊まりがけで指導してもらえたら、解決できたかとも思います。不育症に対する助成があったら嬉しい。
母親	2～3歳	子供と一緒に入れる飲食店（チャイルドシートやチャイルドメニュー、トイレに子供が座れるイス）が、もっとあったらいいと思う。雨の日でも子どもが走りまわられるような遊び場が近くにあったらいいと思う。
母親	2～3歳	他の区に比べて公園の整備が遅れていると思う。大型遊具や水辺、グリーン（木、花）が上手に配置された大型公園が少ない。大人向けの公園なら結構あるが）また、街角の児童遊園がヒドイ状態。汚いし、大人のタバコの場所になっている。
母親	0～1歳	港区に引っ越してきて2年、まだまだ土地勘がないので、子供と一緒に出かけられる場所、楽しめる場所がわからない。公園もどの辺りにあるのかもわからない時もあったので、どこに公園があってどんな遊具がある、オムツ交換・授乳室の有無等、「子育て支援マップ」のようなものがあるとありがたい。そんな地図があれば、家にこもったままにならず、出掛けやすくなる。
母親	2～3歳	安全に外遊びや夏の水遊びや、面白い遊具、動物とふれあう場など子供と親が使いやすい公園が近くにもっとあるとよい。（江戸川区の行船公園のような…）
母親	2～3歳	公園に、屋根つきのスペース等日かげになる場所がほとんどないので、真夏でも安心して遊べるようにして欲しいです。（熱中症、突然の雨など）
母親	0～1歳	子供を公園に遊びに連れて行っていますが、10時になると保育園の外遊びの子達がたくさん来て貸切状態になってしまう。親子で遊びに来てる幼児は皆帰るしかありません。対策をお願いします。
母親	4～6歳	スペースのことがあり難しいと思いますが、公園やプレイグラウンドが充実していたらもっと良いのと思っています。子ども達が身体を動かせる場所や施設があればなあと残念です。
母親	2～3歳	公園の遊具が物足りなく感じます。区内の公園では面白くないと感じるので、週末は主人に車で江東区や江戸川区などの大きめな公園に連れていってもらい、子供を遊ばせています。大型のアスレチック等がないように感じます。
母親	2～3歳	もっと子供達が遊ぶ（体力作りも含め）、公園の数や様々な遊具があるといいと思います。水遊びできる場所が増えると良いなと思っています。
母親	2～3歳	港南のプラリバが新しくなり、時々利用しますが、どうして？と思うことがあります。1つは児童館に子供を連れて来るのは、母親が多いと思いますが、どうして女性トイレに男の子が立っておしっこが出来るトイレが付いていないのかなと思います。また、バギーにはいろいろな荷物を載せることが多いので、たたんで置くのは現実的にはあまりしないと思うのですが、柵があるために却って置きにくくなったりしていると思います。（これは、外されたようですが）もっと、児童館の職員の方たちと意見交換をしながら、より使いやすい児童館を作って欲しいです。（以前職員の方とお話した時に「どうして区がこういう風に作ったか、わからないんですよね」とお聞きしたので書きました）
父親	2～3歳	公園の遊具がきちんと点検されていて、素晴らしい。白金台の児童館も、よく手入れされていて素晴らしいです。
母親	4～6歳	子供が楽しめるアスレチックみたいな公園を作って欲しい。交通公園みたいなもの良いと思う。（無料で自転車を貸してくれると良いと思う）

母親	4～6歳	乳児期は児童館やあいぼーとなど遊ぶ場所が沢山提供されていますが、幼児や小学生になると少ないような気がします。子供の城の閉館も決まり、少し大きくなった子供達が炎天下や雨の日に遊べる場所がなく、商業施設に集っているのが現状です。図書館に遊べたり、絵が描けたり、宿題ができたりと子供が集れるスペースを設けたり、渋谷区のように科学館や理科実験事業などの取り組みなど、児童が集まり活動ができる場所の提供の検討をお願い申し上げます。
----	------	--

保健・医療に関する意見

回答者	子の年齢	内容
父親	2～3歳	1才半検診で十分に診てもらえなかった。すぐに終わってしまった。育児に不安有。
父親	2～3歳	保健所での臨床心理士に相談する事がありましたが、対応が良くなかった（言葉遣い）。区である健診の受付や誘導してくれる方の対応の向上をお願いします。
母親	4～6歳	3ヵ月児健診が港区外の病院が使えないのは不便。（これは港区だと聞きました。）
父親	0～1歳	母親のメンタルヘルス。
母親	0～1歳	予防接種の任意分の助成を増やしてほしいです。（子供であればロタ、B型肝炎など、大人も一般の方でも風しんを受けないと流行は食いとめられないのでは）
母親	4～6歳	保健所に3歳児健診に仕事で行くことが難しい旨、問い合わせたところ、他の日程で会社を休んで受けるように事務的に言われ、小児科等で受けたら有料になる、各自で病院を探すと言われた。平日にしか日程を設定していない。当然会社を休むものという考え方は、働く親への理解が港区としてまだなされていない。改善を求めます。
母親	0～1歳	病院、小児科が少なくとても困っています。
母親	2～3歳	子供の医療費無料は大変ありがたいです。夫婦カウンセリングを気軽にうけられるシステムがあるとよい。（夫婦間のささいなことを第三者に聞いて欲しい…）
父親	4～6歳	医療費の全額支援は非常に有難い。予防接種について、すべてのものを支援対象にして欲しい。
母親	0～1歳	港区は他の区よりも子育てや妊娠しやすいと思います。不妊治療をしていたので助成金を頂き、本当に感謝しています。今後インフルエンザや任意の予防接種に助成が多少でもあると助かります。

感謝・満足しているという意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	子供は区の保育園に通っています。私は単身赴任で日本で仕事しながら子供を育てているため、保育園も大変サポートしてくださっています。お蔭様で仕事と子育てが両立できています。とても感謝しています。
母親	0～1歳	港区は出産・子育てに関する事業が充実していてありがたい。
母親	2～3歳	日頃からあいぼーと（派遣型保育）やPOKKE（トワイライト）を利用し、子育てと仕事を両立しています。区のサービスにはとても感謝していますが、さらに充実することを楽しみに期待しています。
母親	2～3歳	保育園にも入園でき、港区はとても子育てしやすいと思います。これからも子供に優しい港区でいて下さい。
母親	2～3歳	港区は子育てに関する事業に、積極的に取り組んでくださっていて、とても助かっています。施設も新しく、心地良く子育てできています。
母親	2～3歳	子育てについてのサポートは十分な程、バリエーション豊富にあるので大変助かっています。
父親	4～6歳	港区は教育環境も良く、子育てに対しての支援も多いので、非常に助かります。今後も、継続的に子育てをしやすい施策を実施して下さい。

公共交通機関に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	ちいバスは各医療機関や子供を連れた移動に大変役立っています。
母親	4～6歳	海岸2丁目エリアのちいバスルート我希望します。芝、芝浦エリアに大きめの公園、室内遊戯施設（キドキドのような）があればと思います。大型商業施設がなく買い物が不便。ベビーカーで入店出来るレストランが少ない。
無回答	無回答	ちいバスが来ない地域のため、よく子供と自転車を利用します。自転車用の道路整備が進むといいと思います。
母親	4～6歳	せまい道での放置自転車や、路地からの急な自転車による飛び出しがあったり、自転車のマナーが悪く危い。
母親	4～6歳	ちいバスにもう少し早い時間から走ってほしいです。幼稚園に雨の日行くのにバスが遅いのでタクシーを使用しないとイケない。六本木一丁目方面のちいバスを走らせてほしいです。赤坂から六本木一丁目方面の幼稚園に行くのに交通の便が悪い。
母親	2～3歳	ちいバスをよく利用するが（青山ルート）、本数を増やしては？と思う時間帯もある（夕方）。乗りたくても子連れでは乗れない。
母親	0～1歳	エレベーターの利用に（駅）不自由を感じる。エスカレーターも。数が少ないので電車に乗る気がしない。
母親	4～6歳	坂道が多いので、電動自転車のレンタルや、購入の際の援助などがあれば良いなと思いました。
母親	0～1歳	ベビーカーが通りやすい道、街づくりをお願いします。
父親	4～6歳	親子自転車での移動時駐車スペース、公園内での喫煙。
母親	0～1歳	1才まで無料で乗れた、ちいばすはすごく便利で、保健所 e t c に行ったりしていた。1才まででなく、せめて就学前まで延長して欲しい。
母親	0～1歳	喫煙場所以外で堂々とタバコを吸う人や歩きタバコをする人が多い。公園などでも普通に吸っている。子供の健康に悪いので、もっと厳しいルールを作ってほしい。
母親	0～1歳	1歳までの「ちいばす」乗車券交付は、とても役立ちました。都バスも使えると、とても便利だと思います。年齢も3歳まで上げてもらえると嬉しいです。
母親	2～3歳	ベビーカーでの移動がしづらく、出かけるのが面倒なことが多く感じるので、今後対策があれば積極的に検討頂きたい。（特にちいばす→せっかくの地域利用バスなのに狭く、ベビーカーたたんでも置き場所に困り、結局迷惑になり利用をためらってしまう）
母親	2～3歳	保育園に保護者用の駐輪場を作るか、三田駅の駐輪場を大きくしてほしい。3人乗り自転車を並べて止めるのが容易な駐輪場を作ってほしい。
母親	2～3歳	路上喫煙、歩きたばこをする人が多い。駅前の喫煙スペースは区切っただけなので、周りを通る場合にとっても煙たいので、完全に囲ってほしい。（ガラス張りなど）
母親	4～6歳	最近公園等でも不審者情報を多く耳にするので、パトロールなどをしていただけると有難いです。また最近特に、違法駐輪の強化をしていらっしゃるようですが、子供を習い事の教室に送るほんの数分でも注意のチラシや声かけをされてしまうので、とても気になります。
母親	4～6歳	自転車が歩道を走っていて、小さい子どもがすごく危ない。本当にどうにかしてほしい。ベルを異常に鳴らして、歩行者があたかも悪いような気になる。
母親	4～6歳	自転車の無断駐車を取り締まって欲しい。あまりに当然と堂々との路地にも止めてあり、子供への安全面でも危険だし通行の邪魔です。
母親	2～3歳	歩道が狭かったり、ガードレールのない場所が多いなど、生活圏内の道路事情が悪い。歩きたばこをしている人が多く、子供を連れていくと度々、嫌な思いをします。
母親	0～1歳	保健所には港区内から、ちいバスを各地域1本でも良いので、直通（1本で）で行ける便を作って欲しいです。交通の便が悪いという理由で、行かない方がとても多いです。
母親	4～6歳	港区はビジネス街なので、子育てしているととても窮屈を感じる事があります。もっとスーパーや幼稚園を増やしてほしいです。生活しづらいです！

母親	4～6歳	健診など子供だけでなく、大人も引越してきた時期が悪かったせいか、ガン検診など受けられなかった。越してきた時点での書類の手配を自動的にお願したい。
----	------	--

障害児療育等に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	3歳以上	重度障害児ですが、区からのサポートによりとても助かっております。在宅介護でストレスが少なく済むのは区の職員の方々のおかげと本当に感謝しております。
母親	3歳以上	(習い事としましたが)療育費用にかなりの収入をとられ、生活面で金銭の工面に苦労しているが、区の補助がなく(欧米ではあたり前のように補助金がでるようです)さらに下の子も同じ障害だと判明し悩んでいます。所得額的には低いので区のサービスも所得制限で受けられないことが多いです。
母親	3歳未満	我家は実家を含め、子育てを他人に頼る事が出来ない状況。用事やリフレッシュの為、子供を預けたいと思っても近所の一時保育は激戦で、子供が生まれてから今までに一度しか預ける事が出来ない状態。子供は障害を抱えているので、出来れば区のレスパイトを利用したいと思うが、手帳しかも上位等級でない対象外となっているので、現時点では利用できず…。障害事業なので、ある程度の線引きは必要だと思うが、もう少し等級範囲の拡大(とくに身体)を強くお願いしたいと思う。
母親	3歳未満	障害保健福祉センターこども療育パオに通っていますが、補装具等を作る為に別の東京都の療育医療センターに通っています。港区にもあったらうれしいです。
母親	3歳以上	子どもに難聴があり、小学校に進学するにあたり、不安があります。聞こえにくい環境下で、どのようなサポートをして頂けるのか。今後、対策を学校側、行政側にもお願いできたらと思います。
母親	3歳以上	療育センターパオの利用者ですが、病院の医師から指示された療育内容をパオは対応してくれません。(個別指導PT、OT、STが全くない)地域の療育センターの意味を果たしていないと共に責任を感じて運営しているとは思えない。遺憾に思っているが、他の利用できる施設がなく、仕方なく通っている。早期改善を望みます。
母親	3歳未満	子供が難病の為、外出があまりできない。免疫を抑える薬をのんでいるので、他の子供と接触させられない為、子供の環境には注意を払う必要がある。難病の子の支援についていろいろ知りたい。相談するところがない。

周知・情報に関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	港区役所などまで聞きに行かなくても、(平日フルタイムで働いているのでなかなか行けません)どんなサービスが便利なのか利用出来るのか、今後どんなピンチが待っているのかなど、分からない事だらけなので、色々お知らせしてほしいです。こういったアンケートもきっと、色々役立つかと思うのでどんどんやってほしいです。
母親	2～3歳	第2子妊娠初期のつわりがひどい時、上の子供を一時的にどこかで預かってもらいたいと思ったが、どこかコンシェルジュサービスの様に1ヶ所に電話をして適応するサービスを紹介し、空き状況や予約まで完結すると様々なサービスが受けやすいと思った。
父親	0～1歳	台場エリアは、小中学校の学力に不安があります。基礎教育に加え、英語教育の拡充を希望します。広報の情報が届きにくい。「広報みなと」以外です。発信をお願いします。ママ友以外での情報入手が乏しいです。
母親	0～1歳	区で実施しているサービスを知るきっかけが少ない。
母親	2～3歳	区民センター等で行われている、区主催でない教室等についても、もっと広報してほしいです。
母親	4～6歳	区外から転入してきたが、子育ての情報が区役所にしかなく、平日働いているので情報が得られない。近所に知人・友人も少ないので、知り合いを作るきっかけがあればいい。

母親	0～1歳	区で実施している事業は、一覧表などにして、配布すると、もっと広く認知につながるのでは。養育支援訪問など知っていれば利用したが、私のような人も中にはいると思う。
母親	4～6歳	実施されている事自体を知らない事業ばかりなので、冊子などで送って頂けるとありがたいです。
母親	4～6歳	情報が伝わってこない。助けてほしいが、すぐに調べられない。ホームページも分かりづらい。

子育てについての意見

回答者	子の年齢	内容
母親	0～1歳	近所のコミュニティ（同年齢）の子との付き合いがない。
母親	0～1歳	父は家にいる時間が少なく、祖父母も遠方なので、母は一人で子育てを抱えている。保育園にも入れて助かっているが、仕事も短時間、平日家に帰れば子と2人っきり。孤独を感じる事がしばしば。夕食を同じような（母・子2人っきりの人と食べれるような食堂のようなものがあつたら、楽しい夕食になるのになあと思ったり。いつも2人っきりで、しかも子供がごはんを食べなかったり、ぐちゃぐちゃにしたり。自分の食事も適当なものになり体に悪いのではないかと。ぐちゃぐちゃにされるとイライラしてしまう。（大人数だと、あらあら、とか言えるのに）いつも夕食がゆううつ…。
母親	4～6歳	もう少し地域がらみで関わりたいと思っているが、なかなかその機会がない。
母親	0～1歳	第二子を考えているが、結局母親である自分の負担だけが（心身共に）増えるのかと思うと、躊躇してしまう。子どもがまだ小さいので、ママ友は励ますことはできるが、助け合うことはできない。実家の母もしくはそのような存在が近くに居てくれたらな、と思う。
母親	0～1歳	港区だけでなく日本全体的に子供を成人に育てるまでにかかるお金が高すぎる。もっと教育費が安くないと子供を生む気になれず、少子化が進む一方だと思う。実際、私は3人ほしいけど金銭的に不安なので2人にする予定。この様に考える女性、家庭はとても多いと思う。
母親	2～3歳	育児が楽しいとはどういうことなのか、ずっと考えてきました。孤独の中では、育児を楽しむことはできません。ただただ命を守ることのみでいっぱいです。「育児を楽しんでいる？」と聞かれると辛いです。
母親	2～3歳	母親に過度の期待をしないで、（介護と同様）1人に負担をかけず、気楽に育児ができるよう周知して欲しい。
母親	2～3歳	各家庭の状況や父母の得意分野によっても、子育てのあり方は違うと思うので、行政が「望ましい子育て像」を作るべきではないと思います。母親の勤労を推進したいなら、同時に父親が育児に参加できるように手助をしてあげなければ何の意味もありません。各人が望む子育てができるように、選択の幅を広げてあげられるような施策を考えてください。
母親	2～3歳	子育てを通じて、たくさんの友人ができ、この地域で子育てをして生きていく意味をすごく感じるようになりました。ただ、収入が他の家庭より低くても認可保育園に入れないことは本当に困っています。正直きついし、第二子も厳しいかと迷ってしまう要素になっています。
父親	2～3歳	外国人の方にも優しい保育環境がもっとほしいです。（子供、親含め）
母親	4～6歳	喘息があるので、その事が一番の心配です。子供との時間も全て自分の時間と思っているので、子育てで自分の時間がないとは全く思いません。遅くに出来た子供なので、どれだけ親と一緒に過ごせるか分かりませんが、今を子供と一緒に生きたいと思います。そして不妊治療の助成をいただいたお陰で、私達も命のリレーに参加することができ感謝しております。
母親	4～6歳	あっぱいやプラザ図書館は子育てする上でとても助けられました。また、うさちゃんクラブで知り合った友人には、そこから派生した友人関係は、今では親子そろって親友といえる間柄になりました。とてもありがたかったです。地域での子育てとよく言われますが、子育てだけでなく、社会全体が他の人に関心を持てる、ちょっと声をかける、手助けすることができる関係が求められていると思います。

母親	4～6歳	子育ては別に楽しくない。だからといってやめるわけにはいかない。「子育てを楽しもう」という風潮があるが、別に子育てを楽しむ必要などないと思う。それより「同じ年齢くらいの子どもを持っている親」の友人がいるほうが大切だと思う。「子供とのみ」の関わりはとても危険だとつくづく思う。（「話せる相手」が必要だと思う）
母親	4～6歳	子育てのしづらい世の中だと思います。幼稚園でもほんの少しのことで謝らせられたり息がつまります。昔のように子供にもう少し寛大な世の中になってほしいと思いますが、港区という場所柄ムリなのかもしれません。
母親	4～6歳	子供が就園直前に転入してきた為、なかなか地元の友達ができない。子供の数が少ないせいか、公園へ行っても誰も遊んでいないので、そこでも交流が持てない。幼稚園は私立であり、遠方から通う人も多い為、降園後に地元で遊ぶ友達がいない。
母親	4～6歳	近所に同じ年のお友達が作りにくい。働いていると保育園、働いていないと幼稚園とはっきり分かれていてなかなか交流の場がない。
父親	4～6歳	子供を育てるのは親の責務で義務であり、地方自治体の果たすべき仕事は他にある。現在の日本人は余りにも国や都、区に甘え過ぎている。港区は堂々とやりとりして、区民を甘やかすべきでない。
母親	0～1歳	やっと保育園の先生などと信頼関係が築けて、少しだけ安心して預けられるようになりました。まだそれ以外はこわくて利用できません。いろんな方の力をお借りしたいのですが、何かあるとこわくて、なかなか人を信頼できません。
母親	0～1歳	港区は10年程前から住んでいますが、地域のコミュニティもそうなのですが、同じ月齢のママさんは私よりはるかに若い方が多いので、自分自身の壁を作りがちで気軽に相談したりお付き合いできる方がいなかったりします。子供にやはり時間を取られるので、こういった机に向かう作業も進まないことが多く、提出が遅れてしまい、申し訳ありませんでした。また自分で何に困っているのか分からず、どう対処したらいいか悩むことも多いです。私から外に働きかけも頑張るつもりですが、周りから何らかのサポートを受けられるともっと生活がスムーズになるように思います。
母親	2～3歳	“働くママの保育園が足りない”ばかり話題になりますが、そもそも港区に住むママは生活のためではなく、「自分が輝くため、生きがい」「高級マンションの返済や遊びのため」が多いです。専業で祖父母のサポートも受けられず、子育て地獄になっているママたちにも救いがあるといいです…。働くママばかり偉い！という流れになっているような気がします…。
父親	0～1歳	困った時にすぐに預けたり助けを求められる人が周りにいない。

その他の意見

回答者	子の年齢	内容
母親	4～6歳	子供に関して区役所に用事が多いですが、だいたい平日の昼間で、共働きの場合利用しにくい時間なので、その為に有給を使わなくてはいけない場合もあり不便に感じています。もう少し窓口の開設時間検討していただくと助かります。
父親	4～6歳	高校・大学に対する港区独自の支援システム（金銭的等）を、検討してほしい。
母親	4～6歳	他人事でやっている人があまりにも多くびっくりした。区役所など女性も多いので、もっと安心できるかと思っただが、こちらが本当に困っているのに、“できませんでした”と数日前に言われると、本当に困る母親の気持ちを理解し、できないならば誠意をもって対応すべきと思う。
母親	4～6歳	せめて高校までは学費をただにしてほしい。今のままでは給与も上がらないし、子供の養育費のことを考えると第二子、第三子が産めない。
父親	0～1歳	国際色豊かな港区ならではの国際人養成に支援となるような事業も積極的に実施して欲しいです。
母親	0～1歳	港区は子育てサポートが充実していると他地域の方から言われます。今後も引き続きお願いします。港区ならではの「大使館や企業とのコラボ」があっても面白いのでは。

母親	4～6歳	両親に近くに住んでもらいたいが、それだけの経済的余裕がないため、マンションをもう1つ用意できない。都外在住なので都営住宅にも申し込みできず、結局両親の力をあまりかりられず、両立がとても苦しい。子が都内在住している場合、その両親も都営住宅に住めるよう制度変更することを都に求めてほしい。
父親	0～1歳	子育ての環境改善の一環として、運河への下水放出は止めてもらいたい。他の区では污水处理を強化しており、港区は遅れている。早急に改善してもらいたい。また、災害時の高層マンションへの対応（食糧配布）も、真剣に考えてもらいたい。運河を利用して配給できる体制を構築してもらいたい。
父親	2～3歳	放射能汚染に対する対策が、まだまだ充分でないと思います。特に食品からの内部被曝、低線量被曝です。小・中学校になってから給食等には不安があります。同区の友人・知人も多くの方が引越しされてしまいました。皆、子供を守るために必死です。港区が全国のモデルケースになって欲しいと思います。

アンケートに関する意見

回答者	子の年齢	内容
母親	2～3歳	このアンケートはどのように生かされるのでしょうか…？無駄のないように！港区はおかしな所にお金をかけすぎ！
父親	4～6歳	よくやっただいていていますが、このように意見を聞いて、フィードバックしていただけるとありがたいです。
父親	0～1歳	この統計の目的が具体的ではない。統計のための統計であり、この結果が具体的な政策ではなく、なんとなく気をつけましょうという公務員的な仕事であり、この印刷や事業にかかった分の税金返して下さい。
母親	2～3歳	アンケートをとるなら、どんな目的かのアンケートに加え、集計した結果や、どんな方針にしたか、事後報告を確実にしてほしい。

B 小学生・中学2年生の保護者に対するアンケート 自由回答

1 問題を感じた学校の対応について

(1) 自由意見の件数と分類

問22(1)「学校の対応に何か問題を感じたことがありますか」という設問に対し、「ある」と回答した人(420人)に、その理由について自由

に記入する欄を設けた(問22(2))。この自由記述への回答者数は420人中331人である。

下表は、それらの自由回答を分類し、項目別にケース数を示したものである。なお、回答者は331人であるが、1人の回答が複数の項目に分類されて集計されている場合もあるため、ケース数の合計と回答者数は一致しない。

分類項目	ケース数
「いじめ」についての意見	61
「学校や担任からの連絡・報告」についての意見	31
「クラス運営や教員」についての意見	104
「学校生活全般」についての意見	125
「PTAその他」についての意見	18

(2) 自由意見の具体的な内容

分類された項目ごとに、自由意見を一部抜粋して掲載する。

なお、自由回答を読みやすく掲載するとともに、

その回答者の特定を避けるため、回答内容は趣旨を変えずに文章を短くするなどし、かつ子の年齢や学年でグループ分けを行った。

「いじめ」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	中学生	女	いじめを受け、つらい思いをしていると先生に相談をしても1年以上改善が見られないケースがあった。(結局保護者会でお友達の親が明らかにしてはじめて副校長、臨時保護者会 e t c 対応があった)
母親	中学生	女	港区立の小学校時代。本人が必死に担任に話しても頭から決めつけられ、副校長に話しても何も変わらず、カウンセラーに話してもそのまま担任に伝わり、余計悪化した。6年半ばで真剣に転校を考えた。資質のないカウンセラー不要。担任は心の教育をすべき。
母親	小学3・4年生	女	立て続けに蹴られたり突きとばされて手首を捻挫したり、大きなアザを作って来たが、把握していないのか何も連絡がなかった。
母親	小学1・2年生	男	連絡帳で伝えましたが、担任の先生からは、話を聞き相手の子とも仲直りしたので家でも話を聞いて下さいという連絡帳でのやりとりで終わった事。友達から叩かれたり蹴られたりしていたので、電話1本くらいあってもいいと思いました。
父親	小学5・6年生	女	子供の持ち物にイタズラ書きをされたことがあり、子供から担任の先生に話をさせたが何もしてくれず、親から学校へ話したらやっと動いてくれた。
母親	中学生	女	いじめた方を改めるより、いじめられた方に防衛を教えた方が楽だと思っている。
母親	中学生	男	小学生の時、当時の校長先生・担任の先生に相談しましたが、解決しませんでした。
母親	小学5・6年生	女	洋服に落書。モノが頻繁になくなる。無視される。しかし、すべてが気のせいですから、お子さんを見守って下さいとのこと。物がなくなるのは、本人の不注意という対応でした。でも、学校としては、仕方ないかと思います。犯人さがしは出来ませんから…でも、ちょっとと思っています。今でも、クラスで、同じような問題があります。
父親	中学生	男	他の生徒が、学校でいじめを受けているのを目にすることがあり、本人は身近な範囲で守ってあげているが、学校全体での対応が不明であります。
母親	小学5・6年生	女	学級内が混乱(一部児童の言動により)し、担任教諭が收拾しきれず、いじめの実態さえも把握していなかった為、同じ区内の小学校に転校させた。校長・副校長に信頼がおけなかった。

「学校や担任からの連絡・報告」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	男	お友達にケガをさせた時、詳細が分からず対応に困った。
母親	小学5・6年生	男	子供間のトラブルがあった際、実際に起こった事をきちんと話してもらえなかった事。子供の学習教材が見当らず、1年間対応してもらえなかった事。この事実を先生本人とも話したが、学年が変わってから発覚した為あいまいに。
母親	小学3・4年生	男	子供同士のトラブルがあっても(鼻血程度のもの)親に連絡がない。一言、連絡あってもよいと思う。
無回答	無回答	無回答	子供同士のトラブルを学校内で解決しようとして親に報告がない為、事が大きくなってからの報告でやっかいな事になる。
母親	小学1・2年生	男	クラスで起きている問題の連絡や報告がないので不安がつる。
母親	中学生	女	ケンカ・ケガなどがおこった時、加害者の保護者への学校からの連絡をせず、被害者側だけなのはなぜか?
母親	小学3・4年生	女	登校時に、校内の階段で同じクラスの男の子が、倒されて4針も縫うケガをしたことが、数ヵ月後の保護者会で連絡事項の1つとして話されたこと。事故なので、もっと早く知りたいし、その後の登校の指導にも不安を持つ。

「クラス運営や教員」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	女	子供達の言動に対して担任が必要以上に過敏に反応し、対応がオーバーである。
母親	小学5・6年生	女	担任の先生が長期に休まれて代わりの先生が来られたが、あまり経験のないインターンのような先生で、学級が荒れてしまった。代わりの先生もかわいそうだったし、子供も落ちついて勉強できなかった。
母親	中学生	男	熱心な先生とそうではない先生の差がすごくある。
母親	小学5・6年生	女	その場で注意すれば良い簡単な事を先生が、いちいち電話してくる。
母親	小学3・4年生	男	先生の決めつけ。子供たちに「友達を信じろ」と言いますが、先生がレッテルをはっていると思うことがあります。問題があったらクラス全員で話し合うことが大切！
母親	小学3・4年生	女	子供同士のトラブルの際は、全員の前ではなく、個別に聴くべき。
父親	小学5・6年生	男	4年生の時に学級崩壊の状態になったが全く対応出来なかった。後手後手に回り問題解決能力は担任も校長もゼロ。
母親	小学5・6年生	女	学校の先生はお子様は「大丈夫」ですよ！としか言わないので、相談にならないです。
母親	小学5・6年生	男	担任の先生に子供の様子がおかしいと相談したが、相手にしてもらえませんでした。後日、校長が対応してくれましたが釈然としてません。
母親	中学生	女	小学校の時に、担任の先生が子供をまとめられず、授業がきちんと行われていなかった。又、保護者会時に話し合いをしたが、2学期から始まり卒業までまとまりはなかった。
母親	小学1・2年生	男	他の生徒からケガさせられたり等、何度かあったが、先生の対応・処置がよくない。又、子供達への不平等な対応も感じる。

「学校生活全般」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
父親	中学生	男	学力の差がありすぎて、上位校受験の為に塾が必要になる。先生達は何かを恐れていて、もっと保護者と積極的に関わった方がいいと思う。
祖母	小学3・4年生	女	学校側の対応が、“自分の身を守る事”しか考えていない点が問題です。
母親	小学3・4年生	女	3年進級時にクラス替えをしたが、昔と違い名簿がないので、近所に住むクラスメートがわからず、下校を一人でしている。学童のお子さんの父母とは連絡もとれず、もう少し学校で地域班など面倒を見てくれてもいいと思う。
母親	小学生	女	発達障害の子に対するケアがいきとどいていない。プリントが多いが情報は整理されない。
母親	小学3・4年生	男	東日本大震災の時の学校の対応。当時小1の子が下校中に地震にあり引き返したら、「学校は安全ではないから」と、ランドセル預かりを依頼していた児童館に行かせた。それなのに、その日地域の方を体育館で寝とまりさせた。子供を追い返す必要があったのか、今でも不満に思っている。学校に引き返した児童を預かり、保護者がくるまで責任をもって欲しいと思う。
父親	小学1・2年生	男	先生方が保護者の目を気にしすぎて、しかるべき時にしかることが出来ていないこと。もっと厳しくて良いと思います。
母親	小学5・6年生	女	先生方のカリキュラムが多くて、児童にかけられる時間が少ないと思う。公平ではない場合がある。
父親	小学5・6年生	男	学校と家庭を区別しすぎる。問題を一緒に解決する事に欠ける。

母親	中学生	男	勉強より部活を優先しないと、部で居心地が悪くなる状況がある。学業優先の方向に指導してほしい。
父親	中学生	男	部活動の指導者の言動。教員は定期的に、スポーツ指導の研修を受けさせるべきだと思う。勝つことばかりに、執着しすぎる先生が多すぎる。
母親	小学5・6年生	女	学級崩壊で主に他の子への暴力や単に暴れる等、手におえない子に対して先生達で解決しようと努力してはいるものの、それでも困難な場合であっても他への協力（カウンセラーの活用や親への依頼）をしようとするのが遅すぎるから認められない。

「PTA・その他」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	男	PTAに関して、一部息苦しい状態になっているが、PTAはPTAとして任せきりで介入せず、困っている親に対しての気配りが足りないと思う。
母親	小学3・4年生	女	(直接、学校の事ではないが) 学校のPTA活動が、結構強制的である。PTA会費が給食費支払の為の口座から、有無を言わず引落としされる仕組みである。毎年毎年、新学期になると役員立候補のアンケートを記入させられる。
母親	小学1・2年生	女	保護者の負担(役、朝の交通当番など)があり大変です。

2 子どもの「非行」について

(1) 自由意見の件数

問30で、子どもの「非行」についての心配の有無を尋ね、「ある」と回答した人(101人)にその内容を自由に記入する欄を設けた(問30(2))。この自由記述への回答者数は88人である。

(2) 自由意見の具体的な内容

分類された項目ごとに、自由意見を一部抜粋して掲載する。

なお、自由回答を読みやすく掲載するとともに、その回答者の特定を避けるため、回答内容は趣旨を変えずに文章を短くするなどし、かつ子の年齢や学年でグループ分けを行った。

「子どもの非行」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	男	小学1年生が金銭を持ち歩き、夜9:00以降に買い物をすること事態、大変な問題です。
母親	小学1・2年生	女	日中、夕方18:00まで働き19:00まで、1人になるので学童が終わったあと(4年生以降)どう遊ぶのか、非行に走らないか心配です。
父親	小学1・2年生	男	両親共働きの為、今後、親の目が届かないところで何をやらすかわからない。
母親	小学1・2年生	男	軽い気持ちで、友達と集団で悪い事をする不安はあります。
父親	小学1・2年生	女	万引き(いけないこととわかっている)など、周辺の環境に左右されることがあるかも。
父親	小学1・2年生	男	赤坂の町は飲み屋街のため、教育上ベストではないと感じています。ゲーム、パチンコの誘惑なども心配です。
母親	小学3・4年生	女	万引きをくり返すのではないかとこの心配がある。
母親	小学3・4年生	女	友達と集団で遊ぶ場合、悪い事をしないか心配。(万引きなど)

母親	小学3・4年生	男	可能性は誰にでもある。反抗期な時なので、厳しい親から少しでも逃げたく遊びに夢中になる。その時の友達（質）、遊び場（ゲームセンター e t c）、マイナスな環境がそろった時、その場の流れで断れない性格も相重なって非行もありうる。かといってがんじがらめに子供を押しつけるような親ではありたくない。やはり会話の重要性！
母親	小学3・4年生	男	4年生にもなると力関係も出てきて、〇〇君にはさからえないよ…などという相手もいる。〇〇君に誘われたら断れないから、皆嫌でも遊ぶらしいのです。逆にその子とのつき合いをさけると遊び友達がなくなるよ…とっています。（ほとんどの子に遊ぼうよ！と声をかけてしまうので）
母親	小学5・6年生	男	同年仲間達お互いに言葉遣いが悪いので、家にも暴言を吐く、両親に対しても、てめえ、おまえ、殺す等等…。
父親	小学5・6年生	男	両親共に仕事で在宅しない事が増えた。学校から帰宅直後の表情を見てやれないことが何となく気がかり。一人で解消できない感情を持つ時期がきた時に大丈夫かどうか。
母親	小学5・6年生	男	児童館がなくなってから遊ぶ場所があまりなく、子供達が発散できず、いつか非行になるのではと心配になりました。（うわさにすぎませんが）中高生プラザは本当に人気がなく、小学生はほとんど利用していない状況。とにかく怒られるようで、近づきたくない場所のようです。（例、階段を走る、廊下を走るだけでも怒鳴られるようです）
母親	小学5・6年生	男	ライン等、自分が学生の頃は存在しなかったものが沢山あり、対応に迷う。子供の交友関係が、今後分からなくなるのではと心配です。
母親	小学5・6年生	女	子供達だけでコンビニエンスストアなどで買い物をする事。当該児童には、こづかいなど現金を与えていないので、友達につきあい店内に入った時、欲望に打ち勝てるのか、万引き行為などの非行につながるのか心配である。
母親	中学生	男	今すぐの心配ではないですが、六本木・渋谷・原宿・お台場などが身近にあり、長期休み中など子供だけで遊びに行く事もあるため、不良グループに目をつけられたり、からまれたり、または友人が非行にはしる可能性もあり、反抗期にさしかかった今、悪影響をうけないか心配です。
母親	中学生	女	クラスメートが、インターネットでトラブルを抱えている。知らない情報が普通に生活している子供の耳にも入ってくる。
母親	中学生	男	生活環境があまり良くない（治安が良くない）ので、犯罪に巻き込まれる確率が高いと思う。
母親	中学生	女	親との約束をやぶり、知らない人とネット上で交流していた。非行や事件につながるのでは、と心配。
母親	中学生	男	悪い友人に流されてしまうのではないかと心配になることがある。
母親	中学生	男	悪い友達にパシリとして使われ、恐喝や万引などしないかどうか。

3 子どもの「性」について

(1) 自由意見の件数

問31で、子どもの「性」についての心配の有無を尋ね、「ある」と回答した人（139人）にその内容を自由に記入する欄を設けた（問31（2））。この自由記述への回答者数は111人である。

(2) 自由意見の具体的な内容

分類された項目ごとに、自由意見を一部抜粋して掲載する。

なお、自由回答を読みやすく掲載するとともに、その回答者の特定を避けるため、回答内容は趣旨を変えずに文章を短くするなどし、かつ子の年齢や学年でグループ分けを行った。

子どもの「性」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	男	いつ頃から“性”について興味をもち理解するのか心配。
母親	中学生	男	いまどきの女の子がとても積極的な事、世の中にネットや雑誌、街中に刺激的な情報があふれているので、正しい知識を正確に理解していない中学生には、心配な事ばかりです。
母親	中学生	女	体つきは成長して大人と変わらない位ですが、本人の意識がまだ幼く、無防備に感じます。
母親	中学生	女	電車の中の吊り広告など、子供に見せたくない「性」の広告が多すぎる。
母親	中学生	男	本人なりに学校等で知識を得て考えているようですが、心と身体の成長具合が必ずしもバランス良く進むとは限らないので、保護者として注意深く見ていなければ…と思っています。
母親	中学生	男	父親がいない為、男性として、性の悩みを相談する相手が身近にいない事。
母親	中学生	女	どの程度理解しているのか。どうやって自分の身体を守らないといけないのかわかっているのか。
母親	中学生	男	学校でどの程度性教育を受けたか分からない上に、家庭でもまだ性教育をしていない。
母親	小学3・4年生	男	女の子を大事にする事を伝えてはいるが、ネットや雑誌、友達からの情報などで今後女の子に対しての接し方が影響されるかもしれない事。
母親	小学5・6年生	男	男の子のことを母親がどれだけ理解できるのか、不安です。特に最近好きな女の子もいて、今は楽しく話を聞きますが、中高になりどのように指導をしていったらよいのかわかりません。
母親	小学5・6年生	男	最近友達がインターネットでアダルトサイトを見始めている。もしかしたら我が子もでは、と思う。
父親	小学3・4年生	女	学校で3～4年生から性教育が行なわれることは、早すぎると思う。せめて希望者のみにしてほしい。逆に性への関心が深まりすぎるし、異性への意識も高まってしまう。
母親	小学5・6年生	女	自分の「性」に無頓着で無自覚。むやみにこわがらせる必要もないが、性犯罪に巻き込まれないか、大変心配である。
母親	中学生	女	女の子であること、繁華街が近くにあるので、自分の身は自分で守り切れるのか、その自覚が芽生えているのか、また、やはりネットなどによる情報の氾濫など、心配は尽きないです。
母親	中学生	男	携帯電話からも、出会い系サイトやアダルトサイトにいつでもアクセスできるので心配。
母親	小学生	男	障害児の成長に伴う性の問題とそのケアの有無。
母親	小学生	女	障害があり、どのように教えていけばいいかが心配。
母親	小学生	男	障害児だが、性についても親としては考えるところがある。
母親	小学生	女	障害があり性犯罪の被害にあわないかと心配。

4 区に対するご意見や、あなたの子育てに関する困り事など

(1) 自由意見の件数と分類

問58で、港区に対する意見や子育てに関する困りごとなどについて自由に記入する欄を設けた(問58 港区に対するご意見や、あなたの子育てに関する困りごとなどを、ご自由にお書きくださ

い)。この自由記述への回答者数は640人で、全回答者の31.0%を占めている。

下表は、それらの自由回答を分類し、項目別にケース数を示したものである。なお、回答者は640人であるが、1人の回答が複数の項目に分類されて集計されている場合もあるため、ケース数の合計と回答者数は一致しない。

分類項目	ケース数
「子育てに関する相談先や講演会・勉強会等」についての意見	26
「子育て支援や生活環境、住宅、医療」などについての意見	132
「学校や教育」についての意見	269
「児童館や公園等の施設」についての意見	100
「学童保育や放課GO→等」についての意見	47
「子育て」についての意見	77
「地域等での活動」についての意見	32
「障害や療育等」についての意見	17
その他の意見	17
このアンケートについての意見	24

(2) 自由意見の具体的な内容

分類された項目ごとに、自由意見を一部抜粋して掲載する。

なお、自由回答を読みやすく掲載するとともに、

その回答者の特定を避けるため、回答内容は趣旨を変えずに文章を短くするなどし、かつ子の年齢や学年でグループ分けを行った。

「子育てに関する相談先や講演会・勉強会等」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	男	子供に関する悩み相談全般を受付けてくださる、統合された窓口があると、相談もしやすく、かつ分かりやすいので出向きやすい。予約制で、事前にお伝えした内容に対応出来る方が居てくださると良い。
母親	小学5・6年生	男	今までママ友や親戚・家族から情報を得たり安心したりで済んでいるが、成長と共にいじめや非行など、社会的に困る事が出てきた相談する公的な窓口を充実して欲しい。
母親	中学生	女	思春期の子供に対する父親の勉強会などを考えて欲しい。子供の成長を受け入れられない父親が多すぎます。(いつまでも言う事を聞く子供だと思っている) その成長を母親のしつけのせいにしたがる。
母親	小学1・2年生	男	小学生や中学生をもつ親への講演会(子育てに関する)があるとよい。
父親	小学3・4年生	女	進路相談できる窓口等がほしい。
母親	小学5・6年生	女	カウンセラーに相談したが、結局カウンセラーというのは話を聞くだけ。いじめ相談のカードを学校から配布されたり、港区の相談電話に連絡もしたが、結局は学校の様子が分からない、相手の子供が分からない、子供の様子が分からないという回答で、何の解決にも至らない。教育センターも“電話して下さい”と書いてあって、電話しても何の解決にもならない。
母親	小学5・6年生	女	就学、進学相談をどこにいつすればよいのか分かりにくい。実際に相談する時には、希望する時期に予算が間に合わなかったり、なかなか話が進まなかったり、がっかりすることも多い。入学、進学してから「どうしましょう」では時間の空費。ニーズがあることを役所に伝えられるシステムを(適切な時期に)作って欲しいし、広報して欲しい。

母親	中学生	男	学校の先生や相談機関を利用したくても、出来ずに困っています。ひとり親の場合、生活をささえている為、ゆっくり時間を取って区役所に相談にも行けず、方法が見当たりません。どの様にすればいいのでしょうか？
母親	小学1・2年生	男	母親として、男の子の扱いが分からず困っています。同じ年齢のお子さん比べて、自分の子供の行動がどうなのか、というのをたくさんの子供達を見ている（知っている）専門家に適切なアドバイスがもらえると心強いと思います。

「子育て支援や生活環境、住宅、医療」などについての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	男	区で子供向けの学習や物作りなどの体験がもっとあるとうれしいです。広報などでチェックしているのですが低学年が参加出来るものが少なく思います。よろしくお願いします。
母親	小学1・2年生	男	子育て世帯向けに都営住宅（港区内ー青山地区・赤坂地区）の空きがなく、倍率もものすごく高いので当選しない。港区（青山、赤坂地区）に低家賃の住宅供給をお願いします。
父親	小学1・2年生	女	港区の子育て支援関連事業・サービスはそこそこ充実しているので有難い。都心ならではの住宅事情もあって、なかなか環境は理想的とはいいがたいが、出来ることの選択肢もあるのでうまく活用していきたい。
父親	中学生	女	おかげ様で、子育てしやすいと感じております。学校（教育委員会）と支所がうまく協力して行ける様に、できるレベルで、協力させて頂いております。個人の協力に加えうまい“しくみ”があると良いと思っております。
母親	小学1・2年生	男	港南に小児科が少ないため困っています。産科もないため遠方まで出向く必要があり、体調が悪い時や小さなお子さんがいらっしゃる方など通院が大変そう。港南に、医師が常駐されている、クリニックモールを。
母親	小学5・6年生	女	三人の子供を育てる事は、想像以上に経済的負担が大きいので、所得が充分でない家庭には学資（学習塾を含めて）の援助が頂けるとありがたい。また、標準服や体操着、学用品等の負担も軽くなるとうい。今後学年が進めば増々補習塾の必要性もあがってくるので、その問題が悩みの種です。
父親	小学1・2年生	男	登下校（特に下校）時のスクールバス制度。予防接種の無料化の拡充。（おたふく・水ぼうそうなど）
父親	中学生	男	父子家庭に対する認識が、母子家庭に対し低いように思われます。女性は情報交換をしたり、友達付き合いの中で家庭を運営する方法を見つけることができますし、インターネットを通じて情報を得る事が出来うと思いますが、男性のひとり親は、その傾向や感応度が低いと思われます。父子家庭向けの情報発信などを行政でもっと充実して頂けると有難いです。父子家庭と母子家庭はまったく別物です。
母親	小学5・6年生	女	子供の通学路にたばこを販売しているお店があり、灰皿が設置されています。子供が通学する朝の時間から、その道路には喫煙者が多数。子供達が通学している中、たばこの煙が蔓延していることはやはりあまりいいこととは思えない。道路に灰皿を置くことに、何か規制できればよいが…。
母親	小学1・2年生	男	母子家庭なので、子供の急病の際、仕事を休まざるをえず、いつも頭を痛めている。（有給は急病用と考えているのでレジャーにたくさん使えない）都営住宅も当たらず、家賃不担当が大変。子育て家庭に収入の上限を決め、会社から住宅手当が出ない人に、住宅手当があると助かる。あとは小児科（特に救急）が少ない。安心出来る医療体制を整えてほしい。
母親	小学1・2年生	女	原発や放射能汚染のことがとても心配です。港区に住む子供達にも一度、甲状腺の無料診察をぜひ受けさせてあげたいです。切に願っております。

母親	中学生	男	自分達の子供の頃と比べて、治安の悪さが目につきます。本当に子育てしにくい街だというのが正直な感想です。交通量も多く、子供のお友達やママ友が事故にあったなどという事もあります。もっと安心して住める街にしてください。
母親	中学生	女	歩道の整備がきちんと出来ていないので通学など車通りも多いので危ない。1本道に入ると人通りが少ないので防犯上心配。
母親	小学5・6年生	女	繁華街なので、道が狭くてもたくさんの人や車が通り、子供を一人で歩かせるのが少し不安です。自転車も心配なので、一人で出かせさせる事はしていません。子供が安全に通れる道になると良いと思います。
母親	中学生	女	みんなとパトロール、とても良いと思います。学校（私立含む）周辺は、登下校時も巡回を希望いたします。車、徒歩、両方あると良いと思います。渋谷周辺、青山、六本木は、さらに充実させて欲しいです。日没後、みんなとパトロール車を見かけると安心を感じます。
母親	小学5・6年生	女	少子化対策、環境対策にも関わることですが、子どもが3人いるとどうしても車で移動が多くなってしまいますが、フランスなどのように3人以上子供がいるお宅は、公的乗物が無料もしくは割引になれば、車を利用する機会も減り環境にもよいのではないのでしょうか。
母親	中学生	男	子供が小学生になったとたん、区のサポートが何もなくなる。乳幼児にはたくさんサポートがあるが、小学生～中学生にはない。相談をする為に手間がかかりすぎる。仕事があるので電話も来所も出来ない。メールで相談が出来ればと思う。病院に連れて行きたくても仕事があり行けず、本当に困っている。子育て中の家庭への理解が少なすぎる。早産まれ（1～3月生まれ）の子供は不公平がある！4月から切りかえるのではなく、誕生日にして欲しい！
母親	中学生	男	中学生も医療費無料はうれしい。今の所、環境や友人に子が恵まれていて、とても良く育てているので困りごとはない。
母親	小学1・2年生	男	歩道の整備が出来ていない所がとても多いです。早急に整備をお願いします。（白線を引き直す、ポールをたてる等！）通学の際、心配している親が多くいます。子供の命が第1ですよ。
母親	小学3・4年生	女	広報紙などで、区主催のイベント・教室などのお知らせを目にしますが、60才以上の高齢者を対象にしたものが多く、残念に思います。親子で参加出来るイベント・教室などが増えると、他の親子・家族などと知り合うことが出来るのではないかと思います。
母親	中学生	男	通学路は一方通行が多いせいか、タクシー等のぬけ道になっていることが多く、危ないと感じたことが多々あります。タクシー（特に）のぬけ道禁止とか出来ないものでしょうか？坂道での自転車の乗り方、キックボードの乗り方等、交通教室をきっちりやって欲しいと思います。（子供も父兄も）
母親	小学1・2年生	男	子供の病気の時（又は、病気あとに学校を休む時）に、預かってくれる場所があれば助かる。「子むすび」のシステムが、もっと活用しやすければ助かります。親子で参加できる地域活動があれば助かります。
母親	小学1・2年生	女	子育ての援助（ベビーシッター）などをもう少し充実させてほしい。実家が遠くなかなか親に頼れないので、急なお願いでもすぐ対応してくれると助かる。

「学校や教育」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学3・4年生	女	娘の通っている小学校では生徒数も増え、運動会などは、パンパンに人でふくらんでいる状況です。校舎の老朽化も気になります。災害時に避難出来る場所としても安心出来る場所にしたいと嬉しいです。

無回答	無回答	無回答	港区は他の区に比べ公立学校に力をかけていて非常に満足です。今後とも区としても、よりよくしてってください。
母親	小学3・4年生	男	①港区ならではの国際感覚や日本の伝統に触れる機会を多く（大使館数、メディアの中核を占めている特色を活かして）。②土曜日も授業を。③各教科担任を設けて、専門知識をより深く学ぶ機会を。④自然と親しむ機会を。⑤私立小にも負けない学力を。
母親	小学1・2年生	女	子供の進学進路について、どうやって情報を集めようかと漠然と不安に思っています。親子そろって参加できるセミナーやイベントがあったら告知を沢山して欲しい。（小学校や学童等へ）
母親	小学3・4年生	女	区立と私立の学力の差が大きく、学習面での不安が大きい。又、授業に参加できない生徒が数名おり、他教室に自由に入出入りしている。その環境で集中して学習できているのか疑問！
父親	小学3・4年生	女	公立小学校はもっと厳しく、子供を教育してほしい。親にも問題はありますが、昔の先生のように威厳のある先生を求めています。子供たちを本当に思って、親の顔色など気にせず教育してほしいです。
父親	小学3・4年生	女	学力別授業の対象教科を増やし、中学卒業（高校受験）までは進学塾不要となるような学校運営、カリキュラム作りを進めて頂きたい。港区であれば、取り組み可能だと思います。
父親	小学1・2年生	男	地域社会の学校参画を進めているようですが、かえって教員の立場を弱めたり、萎縮させたりしないかという事を危惧します。問題教師のあぶり出し等をしっかり行う一方で、「教師」としての意識や「先生」としての地位向上を行い、学校の質を高めて頂きたいと願います。
母親	小学1・2年生	男	両親共働きで子供ともっと話したいと思っているが、帰宅後、休日はほとんど家事におわれていて自分は子供をみてあげられているか常に考えている。先日運動会をみたが、運動不足と感じる子が大半でした。家事サービスの制度もしくは、放課後の活動（体を動かす）を区で補ってはもらえないかと思う。
母親	小学1・2年生	女	児童館でお勉強を見てくれる方（きちんと教育できる方）を。区で英語教育のアフタースクールなど（港区在住であれば私学の児童も通える）を作ってもらえたらもっと日本人の子供は英語を身近に感じられ、区全体で（公立・私立関係なく）英語レベルを上げることができると思う。次世代に支えてもらう事を考えたら、今、子供教育はとても必要で重要なものと考えます。区税を子供の為に沢山使用してほしいと願います。
母親	中学生	男	学校を通じての活動を見ていて、学校と教育委員会が必ずしも連携していないように感じられ、とても残念に思っています。私達保護者と三位一体となって、子供達を見守る環境作りが出来ないでしょうか。何かと質問がある時、学校の先生に伺ったりすると、答えが返ってこず、むしろ全く状況をご存知ないようなにも感じられます。
母親	小学5・6年生	女	学校の先生（公立）の質を上げて欲しい。先生が授業の他にしている仕事が多すぎて子供にまで目が届いていないのではと思う。授業以外の仕事を減らしてあげて欲しい。問題のある子供がいる事に対して学校は隠そうとする傾向がある様に思います。結局イジメられている子（親子）が我慢しているという人を何人か見えています。とてもかわいそうです。
母親	中学生	男	子供の学校教育は、港区は大変力を入れて下さっていると思います。子供達一人一人の学習に対する態度は、他の区の子供さん達と比べると違うなあと思います。まずは親からして違うと思います。教育熱心な方が多いと思います。
母親	小学5・6年生	男	同級生や仲の良い友達が皆受験し、私立や国立、中高一貫などを目指すので、公立地元派の我が家の長男はさみしそうです。中学の情報はなかなか入らず、友人達は受験派だし、その辺りの悩みを共有する相手がいません。仲良い小学校の友達が積極的に公立中を選択するような港区、白金台地区になってほしいです。

母親	小学3・4年生	男	港区独自で学習指導の上手な先生を区の小学校で配置してほしい。英語の専科の先生のように、あるいは私立のように、特色のある先生がいらっしゃると公立のカラーももっと画一的でなくなるように思う。
母親	中学生	男	不登校だった時の小学校の先生方は、何もしてくれなかった。また、相談する所もあまりなかった。子供の心のケアについて、もう少ししっかりとした対応をしてもらいたい。港区も中高一貫校を作って欲しい。
母親	小学3・4年生	女	この地域は公立教育機関がしっかりしていて、先生方も頼りになるので、本当にラッキーでした。国際的な地の利を生かし、「国際」(英語)の授業レベルをもっと上げたり、他言語にふれる機会があっても良いのでは。
父親	小学5・6年生	女	海外の生活が長く、なかなか日本の学校生活にスムーズに入れないことも。国際的な環境を活かし、公立学校でも、外国人の子供を積極的に受け入れるなどの工夫を。
母親	中学生	女	教育費のかかる高校位まで補助があると助かる。留学制度などもっと積極的に誘導し、1人でも多くの子供達に世界観を味わせられる企画を増やして。ボランティア活動を総合の時間や夏休みを利用して、出来るプログラムを用意し、それを成績表の一部として評価して頂けるように。
母親	小学1・2年生	女	子供が学校を出る時(入る時)に、お知らせが届くようなネットワークや、GPS付端末などを小学生に配布してもらえたらいいなあと思います。難しいと思いますが…。
母親	小学1・2年生	男	子育てに関すると言うよりは、学校に関して。親が参加しなければならない行事などを、もっと早く日付を教えて頂きたい。共働きの親が多いはずなのに、間際で予定を言われても、職場のシフトが組んでいるため、参加出来ずにいる。PTA保護者会、面談(個人)、運動会etc。
父親	小学5・6年生	男	現在港区立の小学校では、土曜授業が実施されていますが、実施日が学校により異なる場合があるので出来るだけ統一させてほしいです。また、連休と登校日が重なる事があるので、家族とのコミュニケーションの時間を増やすためにも、日程に配慮していただきたいと思っています。
母親	中学生	女	区立中学では、部活動についてもっと力を入れて頂き、エネルギーある中学生を休日をもっとご指導してもらいたいです。体を使う子ほど学習能力も高いと感じます。よろしくお願ひします。
母親	中学生	女	公立高校進学を希望していますが、学校や区、都でテストを受けたり、その結果を参考にして先生に相談したりする事が少なすぎます。どうしても塾に頼らざるをえません。都立高校は素晴らしく先生方が学習に力を入れてくれますが、区立中の学習指導の更なる努力を期待します！
母親	小学1・2年生	男	特別支援級の(中学校)を、今建設中の(あさひ中学校)の場所へもぜひ作ってもらいたいです！支援級の区立中学校の数が少なく、通学などの面から今後とても心配です。近所にも同じようなお子さんが何名かいらっしゃるのもあり皆様同じ様な考えです。
母親	小学5・6年生	男	学級崩壊に近い、いまの現状です。学校には常に相談しておりますが、スピード感に不安があります。また、教育委員会にも相談させていただきましたが、手続などでやはりスピード感がたりません。教育の現場では日々事態が動いています。より早い対応が望まれます。
母親	小学1・2年生	男	子供がインターナショナルスクールに通っており、夏休みが始まるのが早い為、その期間を利用し、区の公立小学校に短期就学をお願いしました。ただ手続きが、なかなか大変で、各学校の受け入れ人数も制限されている為、受け入れられるかどうか、心配しました。今後は、4月の新学期が始まった段階で、手続きを開始していただけると助かります。

母親	小学5・6年生	男	学校は1番大切な、“子供の教育や生活”は二の次にして、評価を良くする事中心で動いている学校(校長)や、保護者も、問題の本質を考えずにクレームを付けたりする方が多いのでは。子供が健全に、幸せに成長し、社会を担う大人になっていく為に学校のあり方、保護者のあり方を区として、システム等から見直し、両者を良い道すじへ方向づける方法等を考えて。
母親	小学1・2年生	女	湾岸なので万が一津波が来た時、又は来るかもしれない地震が起きた場合、登下校の途中、どのように対応したら良いのか誰に聞いたら最善の方法を教えて頂けるのか分かりません。子供達それぞれの登下校の道は違いますし、高い所といってもマンションはオートロックの所が多いので非常階段で上に行けるか分かりません。
母親	小学3・4年生	女	進学塾は、費用が高くて経済的に恵まれている家庭の子しか通えないのが実情。もう少し安価で学力の基礎固めができるような「学習塾」を増やして欲しい。勉強する意欲のある子供達が親の経済格差で学力を上げる機会を奪われているのは、不憫。公立中学校に魅力を感じないから私立へ流れる。クラブ数、英語の授業時間等、増やして欲しい。種類が少なく入りたい部がない。特に女子が切実。
母親	小学1・2年生	女	子供の担任の先生は学校は勉強をする所、放課後はたくさん遊んでほしいと、宿題を出さない方針で(授業で終わらなかった時以外)それでしっかり勉強が身についています。ただ考え方はその先生個人であり、学校内でも統一されていないので先生による方針の差で宿題の量もかなり違うようです。
父親	小学5・6年生	男	学校設備をよくすることも大切であるが、教師を育てることにもっと力を入れてほしい。指導力に欠ける教師がいることに不安を感じる。
母親	小学1・2年生	男	これまで保育園でしたが、小学校にあがってから、学校での様子が分からなくなった。小学校は何かトラブルが出た時しか連絡がないため、いざトラブルが起きた時等、普段の様子が分からない為、親から子供へどう伝えればよいのか迷う。もっと学校の様子が分かると良いです。
父親	小学3・4年生	女	公立の学校での教育をより充実させるためにも、少人数制をぜひとり入れて欲しい。学校裁量がきかないならば、区の方で適切な制度を設けて欲しいと思います。教員の質・量共に向上されることを希望します。40人ちかい人数では、やはり先生の目は全く行き届いていないように感じます。
母親	小学3・4年生	男	港区は教育水準が高いと聞いています。中学受験される方がとても多いですが、公立でも、港区なら子供も教員も質が良いのかなと感じています。他の区に負けなくらい、うらやましく思われるような学校(特に中学校)をたくさん作って欲しいです。
母親	小学1・2年生	女	食物アレルギー児も、皆と同じ様な給食を食べて、教育活動に参加できる様に、設備と人員の充実をはかって欲しい。エピペン所持児童・生徒のいる学校に、看護師を配置。(常駐、重度疾患対応専任とし、すばやい対応を可能にできる体制とする。)
母親	中学生	男	両親共に仕事をしてしていると、学校のPTA活動がとても負担です。働く親でもあまり負担にならない活動になればなあと思います。
母親	小学1・2年生	男	外国人のため、インターナショナル学校に通っています。学校では英語を使用していますので、日本語を勉強する機会が少ないです。外国人の子供のための日本語教室を設立して欲しいです。
母親	中学生	男	高校に入学すると、授業料はかかりませんが、学納金、部活にかかる費用、合宿代、ユニフォーム代、試合でかかる交通費等。母子家庭ではなかなか費用を作るのが大変なのが現実です。就学援助金のようなシステムが高校生にもあると助かります。
母親	小学1・2年生	男	親達は、「モンスターペアレンツ」と言われぬように、先生への意見やお願い事等もあまり言わずに、大人しい親が良しとされているように感じます。子供達のためにも、意見や不満等をどんどん言えたり主張できる、風通しの良い学校作り(環境作り)を、今後希望しております。

母親	小学3・4年生	男	小学生レベルの既存のスポーツに対して、他区と比べて手薄い気がします。謎の新しいスポーツもいいですが、サッカー、陸上、野球、バスケットボールとかをやっている子供をサポートしてください。渋谷区のチームに入っていますが、競技会も区の指導体制も港区よりはちゃんとしています。
母親	小学3・4年生	男	少子化で児童数が減っているせいか、学校やPTA活動の保護者への負担が増しているように感じています。
母親	中学生	女	親の経済力で子供の将来の選択肢がなくなるのは、親として申し訳ない気持ちです。またひとり親である事、貧困である事などの生活環境が原因でのいじめも心配である。

「児童館や公園等の施設」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
父親	小学3・4年生	男	子供が思いっきり体を動かせるように、放課後や週末の学校開放や公園整備をお願いしたい。東工大付属高校でのランニング教室等のイベントも充実させて欲しい。子供達を自然に触れさせる機会として、海辺での釣りや川遊び等も区内の立地条件を活かして企画を。全般的に子育て支援として金銭面・物品面等の補助についても、より一層充実させて欲しい。
母親	小学1・2年生	男	高輪4丁目は港区内でも様々な施設から遠い場所にあるにもかかわらず、子供の遊べる公園や広場などがなく、放課後の過ごし方に困ります。見通しが良く明るく楽しく過ごせる場所が増えてくれると幸いです。
母親	小学3・4年生	男	大人から見た子供環境（児童館や放課GO等）は整っていると思いますが、子供からみた遊び環境（プレイパーク）等は十分なのか疑問に思います。（遊び重視より、学習に重点をおいている家庭が多いようではありますが。）
母親	小学1・2年生	男	児童館がもっと増えるとよいと思う。ランドセル預かりは、とても良く、助かっています。
母親	中学生	女	中学生になると児童館のような遊び場がないので、休みの日などもてあますことが多い。学校が長期の休みに入ると、一人で留守番も遊びに行かせるのも不安。小学生の児童館にあたるような交流の場や図書館を、日曜開館にして頂きたい。
母親	小学5・6年生	男	野球が大好きでグローブ片手に外へ行きますが、一人で壁等に当たって練習する場所がなく困っています。レインボー公園にバスケットゴールはできましたが、野球少年の練習場所も出来てくれたら良いと思っています。
母親	小学5・6年生	男	核家族、マンション暮らし、明らかに子供が健全に遊べるエリアが少ない環境です。平日は学校にて放課後遊びをし知学と遊びのバランスを上手く保っている様子ですが、週末や長期休みはいわゆる空き地に行けば誰かいて、遊びに集中できる環境ではないのでゲームに走りがちです。高学年位が遊びに集中できる空間が欲しいです。
母親	小学1・2年生	男	運動が苦手な子の為のスポーツ教室があると嬉しいです。（例えば、かけっこ・ボール投げ、基本的な運動の1日教室）
母親	中学生	男	子供達ももっと、サッカーや野球などスポーツのできる広場を作って欲しいです。又、自然とふれあえる野原のような公園があると嬉しいです。
母親	小学1・2年生	女	区のスポーツセンターなどで、体操教室などの運動系の教室を増やして欲しいです。（子どもの体力向上の為）江東区の有明スポーツセンターは色々あって羨ましいです。
母親	小学3・4年生	女	新橋に児童館がなくなり、放課後遊ぶ場所がなくなりました。たまにお友達で公園に平日遊びに行きますが、サラリーマンの人が遊具に座っていたりして遊べません。新橋にも児童館みたいな安心して遊べる施設を設けてほしいです。

母親	小学1・2年生	男	児童館での催しや情報が私学へ行っているとなかなか入らず、利用しづらいことがある。幼稚園の友達を頼りに、一緒に遊んだりするが、地域のつながりや、お友達関係が公立へ行っていないと参加にためらうこともある。
父親	小学1・2年生	男	図書館は週末に親子で利用しますが、閉館時刻が早く、行けないことが多いので、平日並みにして頂きたいです。
母親	中学生	女	中学生になると自宅や、友人宅以外で遊ぶことが増えた。中高生プラザの存在自体を知らなかった子もいる。プラザをもっと生徒にアピールしてみたいか？緑が多い（遊具がある）子供達が遊べる公園を増やして欲しい。
母親	小学1・2年生	男	中高生プラザが沢山できて便利で助かっています。児童館と併わせて利用させて頂いています。子供達が体力をつけられるような、アスレチック等が沢山置いてある広めの公園があれば良いと、つねづね思っています。
母親	中学生	男	中、高生が放課後や休日に、学習（自習）や安全に集まれる場を提供するようなサービスをして欲しい。中高生プラザなどありますが、とても狭くて集まれるところではありません。
母親	小学5・6年生	女	思いきりボール遊びをできる公園や、広場の整備を求めたい。特に小学生だけでなく、中・高校生も含め気軽にバスケットボールができるバスケットゴールの設置を進めてほしい。スポーツセンターは平日放課後や土日など、子どもたちが利用したい／できる時間帯に試合や貸切などが入っていて個人公開されていないことが多く、困ることもしばしば。
母親	小学1・2年生	女	元麻布、南麻布界限に児童館がなくて不便です。小学生になると一時預りの場所が少なくなり、かといって一年生に留守番をさせるのも不安があり、仕事中の預け先に困っています。特に夏休み、冬休みなど…。西麻布の児童館は遠すぎるので、安全に遊べる場所があればと思っています。
母親	中学生	女	子供は中学生ですが、放課後や休日に区内で遊ぶ場所があまり無く、かわいそうに思います。テニスコートやサッカーコートなど、大人ではなく中学生や高校生を優先に使用させて欲しいです。バッティングセンターやオートテニスなども誘致して欲しいです。
母親	小学1・2年生	男	学童クラブというような枠にとらわれずに、放課後に子供達が集えるような（ここに行けば、子供同志で交流が図れるといったような）場所が欲しい。私学に通っている為、近隣のお友達と集まりにくいので。

「学童保育や放課GO→等」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	男	港区は子供を育てるには保護は厚い方と私は感じています。ただ通常学童だと、仕事の終わる時間を間に合わせるのが大変なので、民間学童を併用しており、週3で夕食をお願いすると5万円近くとなります。両実家とも関西在住なので助けてもらえず、母である私に大きな負担になります。
母親	小学3・4年生	男	港区の子育てに関する政策はおおむね満足です。今の小学校には放課GOがなく、のびのびとボール等が使える公園もごくわずかなため、放課後の外遊びがしづらいと子が言っています。放課GOの全小学校の実施を希望します。（又は、放課後学校の校庭で遊べる時間をもっと増やして欲しい。）
母親	小学3・4年生	男	学校の保護者会等の出席で、子供を家で1人、留守番させなければいけない状況があり、低学年の間は不安です。港区の一時子供預かりも小学生は対象外の所が多いので、是非小学生も預かりしてもらえ様に希望します。
母親	小学1・2年生	女	学童で英語等のカリキュラムを導入して欲しい。学童で給食を用意して欲しい。（長期休暇時）父親と子供のイベントをして欲しい。（母親がやるものという空気がある）

母親	小学3・4年生	女	両親共働きである場合の小学校4年生以降の学校での預かりが17時までとなっている事の延長。それに伴うおやつを提供（今は持参も認められていない。必要あれば冷蔵庫の使用も）も。
母親	小学1・2年生	女	親戚、祖父母などに子育てが全く頼れない（いない）ので、小学生とはいえ母親（私）が入院等で子供の世話ができなくなった時、預ける又は頼れる先がない。幼児の時には、それなりに預け先（あいぼ一と、民間の預け先）があった。
母親	小学1・2年生	男	放課g o（学童）への補助金をもっと手厚くしていただき、安全に、外遊びなど出来る環境を更に提供していただきたい。近くの公園に遊びにつきそえるスタッフをつける等。（外遊び出来る時間（環境）は限られる様子なので）
母親	小学3・4年生	女	学童が3年生までですが、4年生以降、放課後は塾に行かせてケアをする方が大多数ですが、塾に頼ることなく学童にかわるケアの場所を設けていただければと考えています。
母親	小学1・2年生	女	学童クラブの費用も、家庭の収入に応じて料金設定をして、徴収すると良いのでは？徴収した分は業務委託している組織（学童関連、学童業務です）の人件費にあててもらいたい。
母親	小学5・6年生	女	心を育てるのに必要な小学校低学年の過ごし方についておざなりになっていて、数値目標だけを達成するだけで質が伴っていないように感じます。職員を増やす、教育的行事を増やす、食育を考えた補食にする、などの平日、また、夏期休暇など長期休暇時の充実もしっかり対策して欲しいです。
母親	小学1・2年生	女	病児保育の対象年齢の拡大と施設増設。（小学生が病気で学校を休まなければならない時、病児保育のように低料金で預かってもらえる公的機関をつくって欲しい。）学童保育の早朝預りをして欲しい。朝7～8時まで学校に登校するまでの間、預かって欲しい。
母親	小学1・2年生	男	学童が小学3年生までが対象で、4年生になってからの預け先について困っています。放課G Oが学校にあります、5時までと短いこともあり、家で1人で留守番をさせることにも不安があります。ベビーシッター援助も3年生までで、4年生以降にも何らかの制度があるととても助かります。

「子育て」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	女	最近、保育園の増設には力を入れている様子が良く分かりますが幼稚園にももっと力を入れて欲しい。なぜなら保育園に入園させている保護者は3才になった時幼稚園へ転入する選択肢があるのに専業主婦の子供には幼稚園しかない。又港区内の私立幼稚園は他区から来る子も多く、更に入りにくい状態だから。
母親	小学1・2年生	男	現在3才になる長女が待機児童のまま、保育園の空きを待っています。宗教施設での就労なので在宅ワークとしてみなされているからか点数が低いのかかもしれませんが、収入がないので認証保育も入れられません。色々な環境下での育児就労があることをもう少し知っていただきたい。
母親	中学生	女	子育てはとても大変で、経済的にも厳しいです。働かなければ育てられない状況です。金銭的にも余裕がなく、子育てを充実できるとは思いません。安心して暮らせる生活が送れる世の中になって欲しいと心から願っています。
母親	小学5・6年生	男	港区に住む事が出来、大変幸せに思います。有難うございます。6年生という難しい時期ですが、周りの力も借りて相談していこうと思います。
父親	小学1・2年生	男	区立の3年制保育の幼稚園が少ないと感じます。最近、3年保育を希望する家庭が多くなっていると思いますが、区立の3年制幼稚園を積極的に取り入れてもらえれば助かると思います。

母親	小学3・4年生	男	保育園を早くたてていただいて、待機児童が0になる様にしてください。認可外の保育園では料金が高すぎて入れる事も出来ず、仕事復帰する事が出来ません。是非よろしくお願ひします。
母親	小学1・2年生	男	下の子が来年、近くの公立の幼稚園に入園予定ですが、入りづらい状況です。上の子が幼稚園のとなりの小学校なので、行事やPTA活動がしやすいようになるべくその幼稚園に入りたいと思っています。兄弟がいるところは、優先してほしいです。
父親	小学3・4年生	女	保育園の無償化を是非ご検討下さい。国が幼稚園のみの無償化に300億円の予算を見込んでおりますが、本当に必要なのは保育園の無償化だと思います。少子化対策の恩恵を一部の人だけが受けられることのないように、幼児の教育、保育を受ける全ての親が対象になるように、ご検討下さい。
父親	中学生	男	共働きなので、子供の相談や勉強をみてあげることがなかなか出来ません。民間企業に勤めているので、帰宅時間も非常に遅く、夕食も、お金を子供に渡しておき、外食させることが多いです。子供は「独り」を感じていると思います。
母親	小学1・2年生	男	公立学校からインターナショナルに移って、一切友人との連絡が途切れてしまった。働いていないし、外国人と結婚しているので、孤立している。相談相手が全くいない。外国暮らしと変わらないので、海外の安いところへ行く。
母親	小学3・4年生	男	幼児教育はとても重要だと思います。たとえ保育園に通っていても、すべての子供がわけへだてなく充実した幼児教育を受けられるようにすべきだと思います。区民ひとりひとりの声にも耳を傾けて下さい。
母親	中学生	女	老人と身近に接する機会が少なくなってきました。色々な意味で子供と年配の方と交流が出来る時と場があると良いと思います。子供が働いてボランティアが出来る形、年配の方々から昔の話が聞ける形etc。
母親	小学5・6年生	男	子育てで悩まない親はいないと思いますが、実の親の意見より周囲の「ママ友」にどれだけ助けてもらった事か。孤立してしまいがちですが「あいぶら」の様に気軽に行けて、他のお母様方やスタッフの方々とは何気なく交わす会話で救われた事も多々あります。
母親	小学1・2年生	女	家の目の前に公立幼稚園があるにもかかわらず入園できなかった。3年保育の年少組が年中になるため、年中クラスの入れる人数に限られ、年中組からの入園ができなくなると、3年保育の本来の意図がよくわからなくなります。年中組こそ幼稚園にしっかり入園できるようにしてほしい。
母親	小学3・4年生	男	共働きで、両親とも仕事が忙しく、子供と向き合う時間が殆どない。解決するには仕事を変えるしかないが、この年齢で転職する自信もなく、子供か仕事か…というジレンマに悩む。
母親	小学1・2年生	男	公的機関に相談しても…その場しのぎで根本的解決には至らない現状ですが…片親の子育てと仕事に、もう少し理解ある自立に向けての公的機関が充実して下さると、将来的にも心強い！のが心情です。
父親	小学1・2年生	男	外国籍の子に対して、特別の援助が必要だと思います。

「地域等での活動」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学3・4年生	男	夏休みに開催している子供のキャンプ等、利用しています。安くて内容も充実していて何より子供がとても成長して帰ってくるので、親として有難く思っています。これからもそういった企画が増えることを期待します。
母親	小学1・2年生	男	区内で行われている野球やサッカーチームのリストのようなものを季節の変わり目に出していただけるとうれしいです。私立に通わせているため、ご近所にもどのような小学生向けの団体があるかを知る機会が少なく、チームに入るタイミングを逸してしまっています。

母親	小学1・2年生	男	子供が参加出来る地域のイベントがたくさんあると良いです。
母親	小学1・2年生	女	父親と子供のイベントをして欲しい。(母親がやるものという空気がある)
母親	小学3・4年生	女	私立小学校に通う子供たちが通いやすい習い事、自治体の活動をご検討いただきたい。現状では公立のお子さんの方の中に入りにくい、下校時間が遅いので間に合わない、など全く参加出来ず、地域に親しむことが難しいので。
母親	小学1・2年生	男	習い事の月謝が高すぎるので、初級者レベルくらいまででよいので、バイオリン・ギター・ドラム・ピアノなどの楽器や空手・合気道・剣道などの武道、テニス・ゴルフ・サッカーやダンス・スケートe t c…興味を持って続けていけるかをチャレンジ出来るシステムがあればすごく良い。
父親	小学1・2年生	女	学校や地域の町内会などで、コミュニケーションをとるイベントを増やすと、一人暮らしの老人などの“孤独死”などの対策になるのではないか？
母親	中学生	女	港区内の公立中学で配布されるものなどを何らかの方法で手軽に入手できる方法があると嬉しいです。小学校時代に比べ、中学生が参加できる活動や、家以外の居場所がすごく少ないと感じます。大人未満の青少年も楽しんで参加できるものを希望します。
母親	小学1・2年生	男	小学生は何でも吸収出来る時期だと思うので、家庭だけではあたる事がむずかしい体験(農業体験、自然体験など)が今後も体験出来る様、ひきつづき区の方で企画して頂けると幸いです。バスハイクなども喜んでます。
母親	小学5・6年生	男	共働きの為PTA活動や地域の仲間が出来にくいというのがあります。子供にもっと地域の活動に参加させてあげたいので、区で開催するイベントなど土日のものも増やして欲しいです。でも全般的に港区の制度は整っており、中高生プラザなどもよく活用させてもらっています。
母親	小学1・2年生	男	コミュニティ的活動がもっとあると良い。又は、そのPRをもっとして欲しい。(そういった活動があるのかもしれないが、知らない、まとまった情報がない)
父親	中学生	女	地元のお祭りなどの参加者募集などを、もう少し、広報以外でも呼びかけて頂けたら地域とのつながりも深くなりそうな気がします。港区には現住所の前も15年住んでいます、とても住みやすく気に入っています。これからも宜しくお願いします。
母親	中学生	男	賃貸であっても町内会に属したりして、もっと親世代が地域交流を深めていくことにより、子供達も地域の方々と自然に交流できるようになると、もっといいと思っています。出来る範囲で参加して、ご近所をきれいにそしてより身近に感じて暮らす必要があると感じます。
母親	小学1・2年生	女	学校の授業だけでなく、休日(夏休みなどの長期の休み時)地域の方々とのかかわりが持てる場があると嬉しいです。道の清掃活動や花壇(駅周辺とか)の手入れなど家族で地域のボランティアなどに参加し、地域の方々と親しくなる場を教えて欲しいです。(ホームページなどで分かりやすく)

「障害や療育等」についての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学生	女	三才の時、区の身体検査で体の異常に気が付き助かりました。4～5才の頃、障害を疑い、この頃にももう一度検査があれば気軽に相談が出来たのと思いました。
母親	小学生	男	発達障害があり民間の療育教室に通っています。授業料が高いため助成してほしい。(区の発達支援センターは本人が合わなかった)

母親	小学生	男	育て難さを感じ、療育センターに通い始めました。親子共々、大変心強く、特に母としてはとても勇気づけられました。小学校に入ってから、一気に遠ざかってしまうようで心細いです。学校側との距離も感じます。子育て中の親のよりどころが増えることは、願っています。
母親	小学生	男	発達障害児（重度・軽度問わず）に対する支援（小学生以上）をもっと手厚くしてほしい。区でSSTe t cサポート体制作れないなら、愛の手帖なしでも、民間療育（SSTe t c）に通う補助金を出してもらいたい。又、現行の学習支援員制度の見直しもお願いしたい。
母親	小学生	女	将来自立できるかどうか不安があります。遊ぶ所がない。行き場がない。児童館に行っても同じ学校の人にかかわれるんじゃないかと、本人もすぐ帰ってしまう。「支援学級の子!」とか、言われたことがある。港区は支援学級に50人はいるが、青山・港南などは人数も多い。今後も増えていくかもしれないが、中学の支援学級は少ないと思う。
母親	小学生	女	初めての子供が障害児で不安定な時期もありましたが、保育園では園長先生をはじめ、先生方に精神的にも支えていただき、私達親子が平穩無事に過ごすことができました。小さいころから同じ保育園で育ったおかげで、友達からの差別なく受け入れていただき、現在ものびのびと楽しく過ごすことができいております。
父親	小学生	男	子供が区立の小学校では大変良く面倒を見ていただいております。一方で、福祉関係の部署で、小・中・高校生等向けの総合的な相談機関のようなものを作っていただくと、ありがたいと思います。医師や都の療育センターなど、機関がワンストップでなく、大変です。
母親	中学生	男	障害を持って産まれてきた子供、又その家族について全く何も考えていないように感じる。増え続けているのに学校は限られ、港区には生きる場所がない。努力も感じられない。
母親	小学生	男	就学前はパオで相談や療育と、区で対応ありますが、小学生になると特別支援級等へ進級しなければ、相談・療育できる公的機関がないので困っています。
母親	小学生	女	パオの学齢児グループは申し込みをしても抽選で何度もハズレしてしまう。パオで夏休みなどに小学4年生から高校生まで参加出来た日中一時支援事業も、重度障害児のみの対象になってしまった。軽度の子も参加出来るようにしてください。他の区では知的障害のある子を対象とした水泳教室やダンス教室などを開催していたりしますが、港区では、やっていないので、是非開催してください。

その他の意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学1・2年生	女	港区は幸い、母子家庭や子育ての行政が行き届いており助かりますが、今後ワークシェアリングを各企業、各団体で進めて頂き（実際、手が足りない職場も多いです）、働きたい人が働ける時間で生活を両立できる環境があればもっと助かります。
父親	小学3・4年生	男	現在の区の様々な活動（特に親子に対する、文化・スポーツ・芸術などの活動）には満足しております。有難うございます。
母親	小学1・2年生	女	土曜日区役所が開くといいですね。たまには書類とか健康保険等相談したいのに普通の日なら仕事があるので行けません。
無回答	無回答	無回答	短時間勤務申請をしているにもかかわらず、毎日7時間（フルタイム勤務者の定時とほぼ同等）の勤務となっており、こうした現状に行政からもチェックしてもらえたらと思います。職場の理解が得られない中で仕事を続ける状況は大変厳しく感じております。

父親	小学1・2年生	女	港区、学校も含め、時代や働く背景が変化の中で、役所の対応や学校だけが変化しておらず、こういう調査もネットなどを使用してもう少しフレキシブルにして欲しいです！いつまでプリントで郵送など古いやり方を続けるのでしょうか？
父親	小学1・2年生	女	子育てに限らず、区の諸施策について、より積極的な広報活動を行うべきと考えます。

このアンケートについての意見

回答者	子の学年	子の性別	内容
母親	小学5・6年生	男	細かく聞き過ぎだと思う。いつも思うが、とく名と言いながら親の年齢や住所を途中まで書かせたりと特定出来る様にしているのでしょうか？だったら最初から名前を記入してくれと言われた方が気分が良い。
母親	小学生	男	障害のいる子供／保護者に対して返答に困る／返答することが辛いデリカシー・配慮に欠ける質問が多く、困惑しました。すべての子供の保健福祉・教育施策を考えるのであれば、アンケートに対する対象者や質問内容のある程度の吟味は必要であると考えます。
父親	小学5・6年生	女	この調査がムダに感じます。税金のムダではないでしょうか？いくらかけていて、どの位の効果があるのか、よく考えて下さい。
母親	中学生	男	質問が、両親そろった家庭に向けてのもので、答えていて、嫌な気持ちになった。
父親	小学3・4年生	男	当方も社会調査等に従事することがありますが、当アンケートで分析したい仮説は相当曖昧ではないかとの印象を抱きました。
父親	小学3・4年生	女	現状やアンケート結果のフィードバック。アンケート等に対し己の対応・対策について。
父親	中学生	男	このような調査が行なわれる事で港区が子供達を気にかけている事がわかります。
父親	小学3・4年生	女	こういったアンケートはインターネットでも回答できる様、工夫して下さい。
父親	小学5・6年生	男	子の父母間の普段のコミュニケーションについての問いは無いのだな、と漠然と感じました。子供が家の手伝いや手仕事をする事があるかどうかの問いがないのも少し気になりました。塾や習い事よりも大切な事のように感じますが、それはこのアンケートの主旨には関係ないのでしょうか。
父親	小学5・6年生	女	言語や文化のニーズについて聞いてほしいです。港区民の中で、色々な国の方がいますから。このアンケートもなぜ日本語のみですか？正しい情報が必要だと多言語で用意して下さい。

C 小学4年生・中学2年生本人に対するアンケート 自由回答

1 気になっていること・大人に望むことについて

(1) 自由意見の件数と分類

問47で、気になっていることや大人に望むことについて自由に記入する欄を設けた（問47 あなたが今、一番気になっていることや、大人に望む

ことは何ですか。何でも自由に書いてください。）。この自由記述への回答者数は492人で、全回答者の42.7%を占めている。

(2) 自由意見の具体的な内容

分類された項目ごとに、自由意見を一部抜粋して掲載する。なお、極力、回答者が記述した原文のまま記載している。

小学4年生	
性別	自由回答
女	お母さんに休憩をとってほしい。みんなでいる時間が長引いてほしい。将来どんな人になるか。
女	親といっぱい話したい。
男	大人に望むことは、もっとやさしい人が増えて殺人事件がなくなり、平和になって欲しい。気になっていることは、福島放射能はどうなるのかと思っている。
女	ママが自分も病をもっているのに、みんなの色々な事をやってくれるから家事など沢山お家の事をして、自分の息抜きをしようと思わないから、いつ倒れるか心配。だからたまに自分の息抜きの時間を作ってほしい。みんなが協力して出来ているからパパやママやばあちゃんに休める時間が出来たら、動こうかと思わないでちゃんと体を休めてほしい。
男	子供のことを怒る前に、自分たちのふるまいを正してほしいです。よく道でタバコを吸っている人や、携帯を見ながら歩いている人、歩道を自転車とばしている人が多く、とても嫌です。
女	お父さんが大人気ない。お父さんが自分中心で家族を大事にしていない。お父さんやお母さんともっと一緒に遊びたい。お父さんはお金や戦争の本しか読まないから、人の気持ちあまりわからない。
女	自分が、パパ、ママ、先生にどう思われているかが心配。
男	パパはいつ休めるのか？パパとたくさん遊びたいです。
女	母が、めまいと腰に病気がある事。母の腰の痛みが少しやわらぐ事。父、母が私のために何でもやってくれて、お金などの気にしなくていいと言われるが、本当は何か気にしているのではないか。
女	自由に相談できない。もっと抱きしめてほしい。もっと優しくしてほしい。ずっと可愛がってほしい。
男	お父さんとお母さんがけんかをしてほしくない。
男	おこづかいを月に1000円にしてほしい。プラリバよりも大きい遊び場がほしい。
女	遊ぶ場所を増やしてほしい。(ボールが使える広場みたいな)
女	道路につばをはくのをやめてほしい。人の自転車のかごに、食べかけのお菓子や、へんなゴミを勝手に入れないでほしい。他の人の近くで、煙草を吸ったり、歩き煙草をしたり、道路に捨てて足で踏みつぶしてそのままにしておくのをやめてほしい。(煙草を吸うのをやめてほしい)
男	なぜ、子供は仕事ができないのか？なぜ、日本には「義務教育」があって、「飛び級」の制度がないのか？
男	ちゃんとした大人になれるか心配です。
女	勉強、勉強と言わないでほしい。
女	学校でいじめられているっぽい友達がいるので気になります。(男子数名と女子1人)
女	いじめはどうしてあるのでしょうか。学校の先生方ももう少し、いじめについて真剣に悩んだ方がいじめのない学校が増えると思います。頑張ってください。
男	いじめられたり、見たりしてもあまり言えない。
女	いじわるな女の子に学校でかげ口を言われるなど、やっていけない事といたずらとかがごちゃごちゃになって、まきこまれないように気をつけて学校生活を送っている。クラスで良い事・悪い事の区別をもう少し理解した方が安心できる。その指導を大人にしてほしい。私の友達は、かげ口など悪い事だとわかっていないみたいでとても不思議だ。でもその子のママもかげ口を言っている。
男	弟とケンカばかりしていて、もうやめようと思った。親が厳しいので、もう少し優しくしてくれた方がよい。
女	もっと、友達と仲良くなりたい。信頼できる友達がほしい。
女	一番気になっているのは、学級崩壊寸前の事です。授業も、時々止まっているし、朝の会や帰りの会、先生が話している時など、うるさくて話を聞いてない子が多いので、困っています。先生もたくさん悩んでいるので、それを聞くのもいやです。大人に望むことは特にありません。
女	遊ぶ時間より、勉強する時間の方が多いので、遊ぶ時間をもっと長くして欲しいです。
女	友達と仲良くできているが、たまに話を聞いてくれなかったり、仲間はずれにされる時もある。

中学2年生	
性別	自由回答
男	気になっていること…政治について、社会問題について。生活保護を必要としない人、ムダ使いする人への支給をやめてほしい。増税をする前に、税金のムダ使いをなくしてほしい。電気を東京電力が独占して売るのはなく、複数の会社から選んで買えるようにしてほしい。ブラック企業を無くしてほしい。連帯責任という考え方は、問題の無い人にも迷惑がかかるのでやめてほしい。
女	現在の社会は、あたりさわりのない人生を送ることを先生や親から推奨されていることが多いですが、そうでは駄目だと思います。一度失敗したら終わってしまうような社会ではなく、何度でも挑戦出来るチャンスがあるような社会に変えていくことで、チャレンジ精神にあふれた子供が増え、国全体も生き生きすると思います。
女	景気が良くなってほしい。夢のある将来があると信じて皆が生きていける日々があってほしい。税金のムダ使いをなくして、必要な人のところにお金がまわるようにしてほしい。
女	特にありません。ですが、政治家の人たちが難しい言葉を使っているのに、内容が子供っぽい言い争いのようなことをしていることがたまにあると思うので、それはどうかなと少し思うことがあります。
女	ほめてほしい。自分がやりたい事はやらせてほしい。(今しか出来ない事があるから)
女	もっと現実を認めて欲しい。今の大人たちはうそを「嘘」と認めない。だから子供も真似をしてしまうんです。こんな現実で大人になった元子供は、簡単に人を殺めるのです。だから子供も真似をしてしまうんです。「死ね」と簡単に言うのです。私のクラスの人にも、1日に1回「死ね」が口ぐせになってしまった人がいます。世の中は悪意でまみれているのは変えようもないと思います。だから逃げてもいいと思います。でも、現実が変わらないし、できれば逃げたくありません。これが私の大人に望むことです。気になることは特にありません。
女	大人からしたらわがままな事だけど、自分達ができない事を私達子供に押しつけないでほしい。
男	〈大人へ〉言い訳をしないでほしい。自分が間違えたら、「じゃあ…」や「まぎらわしい」など言わずに認めてほしい。〈気になること〉きちんとした大人になって、きちんとした仕事を求められるのか、とてもこわい。間違いを認められる、自分の悪い所を直視出来るようになるのか、こわい。
女	大人というか親が、たまに自分の意見をおし、子の意見を無視することがある。だから、学校のことや友達のこととかはうまく話せない。というか話したくなくなる。毎日、仕事でつかれているせいか、ストレスがたまっているのか、口から出るのはイヤミとかストレス発言が多くなってきた。母子家庭だし、あまり上手くやっっていけないような感じがする。
男	もっと子供に関する事について、深く討議していただきたい。今と昔は時代が違うとはいえ、大人の方々も少年時代、青春をたくさんの思い出とともに過ごし、また、大人からされたことで、“嫌だな。俺が大人だったら絶対そう言わないのに”と思ったことはあるはずです。なら、今それを今の子供たちに実現して頂きたいと思います。今震災後ということもあり、色々忙しいのはわかっているのですが、ムダな討論などをしている時間があるのですしたら、もう少し、子供について、自分が青年時代だった時のことを思い出し、討論する機会を増やしていただきたいです。そして、僕たちが大人になった時に、“子供のころはこういう事をしてもらっていたよなあ。良かったなあ。”と思い、僕たちの子供、その子供、子供の友達など、未来を担う子供たちに生かしていいと思います。よろしく願いいたします。
女	私が大人に望むことは、私たち子どもの「夢」に向けてのサポートです。私の両親は、今の私の夢を応援してくれています。先日のサッカーの試合後の会見で、本田選手が言っていたように、どんな夢でも全力で応援してほしいです。まわりの人が、少しでも応援してくれたりするだけで、もっと頑張ろうと思えるものだと私は思うので、是非、大人の人達には、たくさんの夢を応援してほしいです。
女	私は何故、親が子供のすることに、いちいち口を出してくるのか不思議です。そういう意味で、大人には私たち子供に、もう少し自由をくれてもいいと思います。
女	大人に望むことはどの家庭でもけんかをせず、子供もみんな幸せに出来ることです。私は幸せです。これからもずっとこのままがいいです。
男	子供の自殺をなくすことを手伝ってほしい。誰もが学校に行けるようにしてほしい。

女	先生の対応がとてもイヤです。相談にのってくれるような先生もいないし、生徒に興味をもっていない様子なので、こちらもとてもイヤです。私から見ると本当に生徒のことを思って動いてくれるような先生はいないように感じます。中2になってから特にそう思うようになり、学校で先生と話したり会うのがとても苦痛です。授業もおもしろくないです。友達との関係はとてもよいですが、その友達も先生によるストレスから体をこわして休みがちです。全部の先生がそうなるとは思っていませんが、もっと気軽に相談できるような環境がほしいです。
女	テストの成績が悪く、来年の事だが、良い高校に入れるか心配で、親に迷惑をかけたくない。
女	授業や連絡などwebなどパソコンを使ったら、もう少し効率良く楽しくことが進むと思う。授業も学校の中だけではなく、自分で選んでとれるものがあると良いと思う。
男	学校で、悪質ないじめをしている人がいて、僕の友達が困っている（自分自身が被害を受けたことはない）ので、そのようないじめをしている生徒の親や、学校の先生が教育をしっかりやって、安心できる学校生活にして欲しい。
女	学校の先生にクラスの問題（よく物がなくなる）を相談しても、その問題の本人に言わない。（先生の考えがあるのかもしれないけど…）
女	気の合わない友達と無理に一緒にいる。
男	友達がしつこい。いくら言ってもわかってくれない。イヤだと言ってもわからない。
女	クラスの子の仲が悪い。そのせいで1人不登校気味になってます。陰口たたく人が多いし。一人じゃ何も出来ないくせに、誰かが同情したり、味方になると、急に事を起こしたり。（人間そういうものなんでしょうけど）しかもその原因がほんとにくだらなかつたりする。幸いイジメは起きてませんが。女子ってほんとに面倒臭いなーって思う。もう少し、広い心になればいいのって思います。
女	ホッと出来る1人の場所がほしいです。
女	もっと空地など中2ぐらいの子でも走り回って遊べる場所が欲しい！ビルの下とかで遊ぶと怒られるから、私達はどこで遊べば良いのか…。大人達は外で遊べって言うけど私達には遊ぶ場所がないです！
男	自転車専用レーンをつくって欲しい。駅の右側通行または左側通行を守って欲しい。（マナーを守って欲しい）
女	最近、食欲がないことが多い。寝つけない。習い事に対して、プレッシャーを感じる。よく疲れる。勉強がうまくいかない。
男	人のプライベートに勝手に入ってきてほしくない。
男	気になってること。独立し、親を支えることができるかどうか。

第5章 調査から言えること

1 第1調査（調査票Ⅰ）について

第1調査は、父親も2割以上回答しており、乳幼児期の子育てにおける夫の関与は、大きな影響要因であると思われる。また、港区に居住して1年という者も2割を超えていた。以下では、全体のデータにも影響を与えると思われる「父親・母親回答の比較」「居住1年」のデータの特徴を押しさえたうえで、全体の傾向について概観する。

（1）父親回答と母親回答の比較から

回答してくれた父親たちの特徴としては、詳細は2章Bに示されているが、父親・母親の学歴ともに「4年制大学卒業」の割合が高く、職業についても、母親回答の「父親の職業」も「民間の常勤雇用」と「公務員」の比率が高く、共働きの割合も高い。世帯年収では「700～2,000万円未満」層の割合が、母親回答よりも高かった。また地域の様々な活動にも、より参加していた。

父親たちは、いわゆる「イクメン」とも言うべき、仕事と子育ての両立もしやすいと感じており、子育て観も「男女対等に子育てをすべき」と考え、実際にパートナーと一緒に子育てをしている割合が7割を超している。さらに、母親たちが子育てを「まあまあ楽しんでいる」と回答しているのに対して、「十分に楽しんで」行っており、夕食なども家族そろって食べる割合が高い。反対に子育ての悩みは、父親たちの方が「ない」と回答する項目が多かった。

一方、母親たちは、子育ての中で他の子どもと比較して気にしたり、自分の子育てに不安を感じる割合が父親たちよりも高く、イライラしたり、子どもを大声で怒ったり、衝動的に手をあげてしまう割合も高くなっている。その背景には、「子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべき」「女性が仕事をするなら、家事・育児の責任を果たした上ですべき」といった子育て観を抱えている割合が父親よりも高く、母親としての子育て責任を強く感じている状況がある。母親たちは、要望も含まれた回答であるのかもしれないが、「子

育ては地域の協力を得ながらやるべき」という意見を支持する割合も高くなっている。

（2）1年以下の居住者について

港区に居住して1年以下の特徴としては、調査の回答者では母親が76.3%、父親が23.7%で回答者全体の傾向と同じであった。

父親の年齢平均は36.9歳、母親は34.4歳と全体よりも若く、特に20歳代の母親は17.2%と高い（回答者全体における20歳代の母親の割合は9.6%）。家族構成は父母子世帯が多く、同居していない祖父母は、父方・母方ともに都外に居住している場合が約8割である。子どもの数は1人が79.5%と全体の回答（72.5%）よりも一人っ子が多く、子どもの年齢も0歳児が29.8%と約3割を占めており、保育園・幼稚園にも「通園していない」が46.0%と約半数である。就労していない母親も46.7%と全体（43.7%）より若干高い。彼女たちのキャリア歴からは、「結婚後」や「出産後」に仕事に就いていない割合が高く、現在、就労していない理由も「子どもに十分に関われなくなる」が66.7%と回答者全体（65.6%）よりもやや高い傾向にある。

一方、働いている母親における「仕事と子育ての両立のしやすさ」では、「両立しやすいと思わない」という回答も33.1%と3割を超えていた。

居住1年以下の母親たちは、専業主婦志向であり、子どもが幼いこともあって港区でのネットワークがまだ広がっていない状況にある。それは、日頃の会話をする相手が「いない（11.8%）」、近所で子ども同士を遊ばせる頻度も「ほとんどない（47.7%）」、子どもを預け合う相手も「いない（79.7%）」、また母親の地域での活動も「参加していない（68.3%）」といった事に表れている。

夫に対する評価は「今のままで満足（34.3%）」と悪くはなく、「子育てを楽しんでいる」の割合も高い。したがって子育て不安も、子育てでイライラしたり、大声で怒ったり、衝動的に手をあげるといったことも、全体よりも低い割合にある。

日頃の子育ての状況も、「パートナーと一緒に子育てをしている」「自分1人で子育てをしている」と感じており、現在の子育ての悩みは「保育園・幼稚園について」が高く、子どもの年齢を考慮すると、数年後の子どもの入所の心配をしていると思われる。

(3) 回答者全体について

回答者全体からみた特徴としては、世帯では父母子世帯が中心であり、所得階層も高い。約半数が専業主婦であり、就労していない母親の理由も「子どもに十分に関われなくなる」が65.6%と高い。子育て観についても、「男女対等に子育てをすべき」に57.2%が支持している一方で、「子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべき」という考えにも50.3%が支持している。

就労している母親たちにとっての仕事と子育ての両立しやすさは、母親の就労時間などの労働環境だけではなく、祖父母の援助や、夫に対しては「もっと話を聞いてほしい」「頼りになる・ならない」といった夫への評価も影響していた。

母親たちは、様々な祖父母の援助を得ており、祖父母が「頼りになる」という回答は約8割と高い。専業主婦の母親たちは、家庭での子育て志向を祖父母の援助で成立させ、働いている母親もまた、祖父母の援助を受けて仕事と子育てを両立させている。そこでは、夕食も家族で（家族の誰かと一緒に食べるのを含む）取り、家族での旅行やレジャーにも出かけ、全般的に良好な子育てが展開されている。母親どうしのネットワークは、子どもの年齢もあり「子どもを預け合う」といった、より親密な関係ではないが、8割弱が「話し合い」をする付き合いのネットワークはある。子育てについての評価も「十分に（42.5%）+まあまあ（42.9%）」楽しんでいる。

しかし一方で、他の子どもと比較して気になる者が4割弱、自分の子育てに不安を覚えるが4割、イライラする者が6割半、子どもを大声で怒ってしまうが4割、衝動的に子どもに手をあげる者が1割いる。親の悩みは、「保育園・幼稚園」「しつけ」「学習・進路」に関するものが多く、その相談先が「ない」の割合も、悩みの内容によれば

らつきはあるものの25%~60%を占めている。こうした不安や心配ごとを時に育児・教育サービスの購入によって解決すべく、特に「学習・進路」の悩みを抱えている母親は、習い事などにかけている金額も高額になっている。

育児支援策については「役だっている」と「思わない+わからない」が半々ずつであり、事業の利用率も全体的に低く、「知らない」という回答も多かった。しかし育児支援策の役割は大きく、母親、とりわけ子どもの年齢が低い母親のネットワークは、「子ども家庭支援センター」「うさちゃんくらぶ」「近所・公園」をきっかけとして知り合っており、地域や行政を通してネットワークが形成されている。また、子育てを誰に教わったのかについても、親、友人とともに、「保育園・幼稚園」からも教わったことも役に立っている。育児支援策は、育児サービスの提供だけではなく、親のネットワーク形成や、子育ての伝授など、親が親として育っていくための支援も提供していることがわかる。

(4) 課題

全般的には良好な子育てをしているが、「父母の回答比較」を通して、母親は、より子育て責任を感じ、そのために不安やイライラ感等も感じている。経済的な豊かさも背景にあり、祖父母をはじめとした個人的なサポートを使って子育てをこなしていると思われるが、「1年以下居住者」の回答をみても、同居していない祖父母の約8割は都外に住んでおり、また祖父母の状況も年齢とともに変化していく中で、祖父母が恒常的なサポーターとして頼ることの危うさも存在している。さらに「祖父母が頼りになるかどうか」の条件別でみた場合、「祖父母が頼りにならない」世帯の77.7%が「祖父母以外の援助者もない」と回答しており、様々なサポーターがいる世帯と、親族もそれ以外のサポーターもない世帯との差が存在している。同様のネットワークが2極化している傾向は子育てのネットワークでもみられた。

地域活動への参加では、全体で父親の8割、母親の6割以上が参加していないという状況であり、中でも世帯年収が400万円未満層で「参加してい

ない」が母親で7割と高くなっている（父親は変わらず）。また、上述した「1年以下の居住者」についても、子どもが幼いこともあって、ネットワークが形成されておらず、プライベートなネットワークでの子育てが展開されていた。

港区として展開されている事業の認知度は、回答者全体でみても低かったが、行政や地域は、親のネットワーク形成に重要な契機を提供しており、また単に保護者へのサービス提供として支援するだけではなく、子育ての伝授を通して親を育てていく役割も果たしている。今後は、居住年数が少ない、子どもが幼いといった、自ら動きづらい保護者の社会的ネットワーク形成をどのようにサポートしていくのか、また他児との比較のなかで不安を強め、そこに商業ベースの子育て・教育産業が展開されている中で、いかに「地域での子育て」を根付かせていくのが課題であろう。そのためにも、アウトリーチを含めた事業の見直しと、認知を広め、それらを使ってもらうことを通して、個々の母親たちの孤立した、閉じた子育てを「開いていく」ことが重要になると思われる。

2 第2調査（調査票Ⅱ）について

（1）回答者特性

回答者全体の特徴を概観すると、世帯特徴では第2調査でも父母子世帯が多いが、中学生世帯では母子世帯も1割、父母子+祖父母との同居家族も1割弱あった。世帯年収では、全体的には高所得であるが、その中で比較的所得の低い階層において、祖父母との同居が多い傾向にあった。

その1割にあたる、中学生回答における母子世帯の特徴として、居住年数では1・2年目と浅い年数であり、母親の仕事は臨時パート職が多く、所得階層も低くなっている。

共働き世帯は約半数おり、とくに400～500万円未満層での共働き世帯が多かった。また、子どもが学齢期の段階にあっても、全般的に祖父母の援助があり、「祖父母は頼りになる」という回答は7割を超えている。学校の種類別では、公立学校は比較的、低所得で共働き世帯が多く、反対に私立学校では比較的高所得層が多くなっている。

ネットワークや社会参加については、子どもが

学齢期にあるためかPTA参加は6割以上いるが、部活動や地域の少年チームなどの手伝いは「していない」の割合が7～8割と高かった。他には、子どもの友人の親など親役割を通して形成されたものや、職場や保護者自身の友人などといった、個人的なネットワークは7割以上がもっていた。ただし、小学生世帯の、年収500万円未満層では、家族以外の会話の人数が「1・2名/いない」の割合が増える傾向にあった。

子どもの地域活動への参加については、「参加させている」のが小学生世帯の4割弱、中学生世帯の2割半であり、「活動を知らない」という回答も小学生世帯・中学生世帯ともに約2割であり、地域活動への参加の難しさと広報の必要性が示された。学校の種別では、公立学校の方が、私立学校よりも参加させており、世帯年収別では、高所得に「参加させていない」「知らない」と回答する割合が増え、地域に根付いていない状況が伺える。

親の中でも地域活動に積極的な親は、PTA活動においても、子どもの部活動の手伝いにおいても、また学校の教師ともよく話すといったように、多方面でのネットワークで積極的に活動していた。

（2）子育てと子どもの環境

家庭における学齢期の子どもたちへのモノ（子ども専用の部屋、ゲーム、パソコン、携帯電話、テレビ）の与え方をみると、高所得世帯であるからといって、たくさんのモノを個人所有として与えているわけではなく、小学校段階と中学校段階、子どもの発達や状況に合わせて、家族共用で持たせるモノと、子ども専用で持たせるモノ、また、親の教育的配慮から、あえて家には置かないという状況もみられた。さらにゲーム機などは、モノとして与えてはいても、長時間使用にならないようにと使用時間などの制限を行っていた。同様のことは、お小遣いにも言えることで、保護者の考えのもとで与えており（あえて与えていない世帯も多い）、これも高所得だからといって高額のお小遣いをあげているわけではない。

子どもたちの日々の生活についても、全体的に良好であり、起床は約半数が親に起こしてもらっ

ているが、朝食も毎日取っており、学校も休まず登校している。夕食についても家族の誰かとは取っている。

学校では、自分の子どもに「親友がいる」と親が認識している一方で、中学生の親の5人に1人は、「わが子がいじめに遭っているのではないかと」も思っている。

放課後の生活では、私立学校に通っている世帯では、「家の中」「学校」で過ごすことが多く、共働き世帯の小学生の場合は「児童館や中高生プラザ」の利用率も高い。

親子間のコミュニケーションも「よく話をし」良好であり、家族でのレクリエーションも8～9割が出かけている。しかしこれらも、低所得世帯、共働き世帯、公立学校に通わせている、特に小学生世帯では値が低くなっている。

子育ての悩みについても、「学習・進路」に関する悩み以外は、7割以上が「ない」と回答している。その中で、割合としては少ないが、悩みが「ある」と回答している保護者が、その相談先について「ない」と回答している割合が高く、これらは実数としては少なくとも対応が必要であると思われる。

就学前の母親たちの育児不安や他児比較のように、学齢期の保護者であっても他の子どもと比較して気になることはあり、今回の調査では4～5割の保護者が回答していた。この他児比較をする保護者は、他の多くの設問でも否定的な回答をしており、子育ての悩みの背景に他児との比較があることが示された。

(3) 教育

学習と教育についても、子どもは授業を理解しており、家では親が子どもの勉強をみており、習い事も多くさせている。これらは、学校種別では私立学校に通わせている世帯、高所得世帯、父母の学歴階層が高い世帯ほどに高い割合を示していた。反対に、公立学校に通わせている世帯、低所得世帯、親の学歴が低い世帯では、子どもの習い事への評価にしても、「もっとお金をかけてあげたい」と回答している。

また、学校以外の塾や家庭教師の必要性につい

て、さらに実際に塾や家庭教師に通わせているかについては、全体的に必要性を感じているが、より公立学校に通わせている世帯の方が「必要」と考えており、塾などに通わせる割合も高い。私立学校に通わせている世帯の保護者は、私立学校だけで十分と考えているのかもしれない。子どもの将来の進学希望については、全体の9割近い保護者が「4年制大学卒業」を希望しており、条件別では私立学校に通わせている世帯、高所得世帯、親の学歴階層が高い世帯で、その割合は、より高くなっている。

これらの教育費の準備としての学資保険については、従来の調査では、所得階層が低い方が保険への加入率が低いという傾向があったが、本調査では、全体の所得水準が高いにも関わらず、その加入率は全体で半数を下回っていた。条件別では、私立学校、所得階層では年収2,000万円以上の世帯において「かけていない」が多く、学資保険に依らない方法で子どもの教育費の準備や拠出を行っていると思われる。

(4) 課題

学齢期の親についても、全般的に優等生な親の姿であり、子どもの環境の整え方など、意識的であれ無意識であれ、結果として子どもの発達や教育を考慮した親の関与を行っている。

その中で、とりわけ教育において、公立学校、共働き、低所得、親の学歴階層が低い世帯においては差が生じていた。港区内の周囲のレベルが高いだけに、その差は親としては心苦しく感じるであろう。

一方で恵まれた条件の子どもたちは、放課後の生活をみてもプライベートな生活圏で完結しており、地域行事をはじめとして、子どもたちの生活が「面」としては広がっていなかった。

学齢期の子育ては受験も関連して、全般的に競争原理におかれた子育て状況になりがちだが、それでも共働きや低所得といった大人の条件が、子どもの不利にならないように配慮していく必要があると思われる。それには、条件の不利な子どもへの対応だけでなく、条件の恵まれた子どもに対して、「自分の育つ場所としての地域」としての

認識を深めていくことも必要であろう。

3 第3調査（調査票Ⅲ）について

（1）回答者特性

第3調査は子どもたちへの調査であるが、親に対してフェイスシートだけを回答してもらっているので、その回答も含めて回答者特性を押さえておく。

調査の回答者の男女比では、小・中学生ともに、ほぼ半数ずつであった。

家族構成では、全体的に父母子世帯が多く、その中で、中学2年生世帯で母子世帯が1割、父子+祖父・母世帯が1割となっている。祖父母との同居世帯は居住年数が長い世帯に多くなっている。きょうだいの有無では、小学4年生世帯・中学2年生世帯ともに7割強が「いる」と回答している。親の働き方では、共働き世帯が4～5割である。

学校の種別では、小学校段階では公立が8割強、中学校段階では公立が5割強であり、共働き世帯で、公立学校が多くなっている。また公立学校では男子が多く、私立学校では女子が多くなっている。

（2）家庭生活と学校

子どもたちの生活をみると、親回答の第2調査と同様に、朝は起こしてもらうことが多いが、毎朝の食欲もあり、夕食も家族の誰かと食べている。小・中学生の比較では、中学生の方が夜更かしをしており、寝不足も感じているなど、やや生活は乱れてくるが、それでも全般的に良好な生活を送っている。さらに、家族でのレクリエーションも全体では「行っている」が多いが、学校種別や共働き、また子ども自身による「家庭の経済状況」により差が生じていた。

子どもの持ちモノについて、子ども自身から尋ねてみると、子ども部屋、ゲーム、パソコン、携帯電話は、中学生ほど本人専用が多くなっている。ここでも第2調査と同様に、子どもの発達段階や状況に応じて、「家族共用」と「個人専用」とで使い分けをして与えられている。その中でも、一人っ子の場合は、個人所有の場合が多くなっている。

た。また、子どもの主観的な「家庭の経済状況」と連動してモノの所有率にも差が生じていた。

その使用時間を尋ねているが、テレビやゲームの使用時間については、私立学校、「経済的豊か+普通」という条件にある子どもの方が短くなっていた。親からのゲームなどの使用時間の制限については、男子の方がゲームを長時間行っているためか制限を受けている。子どもの男女差では、他にも、パソコンは男子が、携帯は女子が個人所有として持っている割合が高かった。

学校では、小学生よりも中学生の方が、好きな科目も減ってきて、授業の理解度も下がり、授業が楽しくないという回答が増える。これらは、公立学校、経済的に困っているという認識、共働き、という条件で、より否定的な回答が高くなる傾向がある。

学校外の塾や習い事については、小学生の9割弱、中学生の6割が行っているが、特に公立中学校で多く通っており、生徒自身も学校以外に塾や家庭教師の学習がより必要だと感じている。これは第2調査で保護者に尋ねた場合も同様の結果となっている。しかし、自宅での学習時間では、私立学校の方が長時間化している。

（3）地域と友人・親子関係

子どもたちの放課後の生活をみると条件で対照的であり、公立学校に通っている子ども、共働き世帯、男子では、「家の中」で過ごすに加えて「公園」や「児童館・中高生プラザ」を利用していた。一方、私立小・中学校、専業主婦世帯、女子の場合は、「家の中」が中心で、公的な遊び場の利用が少なかった。

地域行事への参加についても、公立学校に通っている子どもや男子の方が、私立学校や女子よりも多く参加していた。

友だち関係では、信頼できる友だちは、小・中学生ともに9割を超えて「いる」と回答している。その友人の内実は、女子では「学校の友だち」で占められているが、男子は「学校の友だち」だけではなく「学校以外の友だち」も入っていた。さらに友人との関係では、女子では友人との関係が近く、「悩みごとを聞いてもらう」関係にあるが、

男子では、反対に「深刻な話はしない」と答えている。その結果、女子の方が「友だち関係に満足」しているながらも「友だち関係の困りごと」が「ある」と回答している。

いじめの目撃については、全体で、小学生・中学生ともに4割半が目撃している。

子どもたちの不安や心配事は、全体でも「授業や勉強」が3～5割と高いが、中でも、公立中学校に通っている子ども、経済的に困っている子どもで、より高くなっている。さらに、悩み事の内容で「いじめについての不安」「先生との関係」「家族との関係」の悩みについても差が生じている。これらの悩みを相談できる先生の存在は、全体で5～7割であるが、特に中学2年生の女子と小学4年生の共働き世帯の子どもで、その割合が低くなっている。

親子でのコミュニケーションについても、日常の会話は「よく話して」良好であるが、悩みの相談では4～6割が「あまり話をしない／ほとんど話をしない」としている。しかしこれは、子どもの発達段階からして、親に話しながらいない状況も生じてくるのであろう。また、生活全般の満足度についても、7～8割が満足しているものの、経済的に困っていると認識している子どもでは、満足していない割合が高くなっている。

(4) まとめと課題

全体的に、第1・2調査と同様に、家族が提供する豊かな環境のもと、子ども自身も大きな問題を抱え込むこともなく、家庭生活・学校生活・塾や習い事・友人との生活を過ごしている。また、中学生になると、親に悩みを話さなくなるなど、発達段階に沿った反応もみられる。その分、友人

に相談するなど、友人との距離が近くなりながらも、そこでの気遣いや緊張関係が、「友だち関係の困りごと」として具体的にあがってきていた。また「勉強や成績」については不安という形で見え隠れし、生活全般に「満足していない理由」にも「ただなんとなく」としてくすぶっている不満はみられた。こうした若者へ移行していく段階の子どもたちに対して、親以外の他者が関わりながら、その不満を溜め込まずにガス抜きしていけるような場を提供していくことも必要であろう。

今回、子どもたちに質問した調査結果でも、諸条件によって格差がみられた。第3調査での経済的指標は、子ども自身が「家庭が経済的に、豊か／普通／困っていると思っている」といった回答をもとにしており、世帯年収など具体的な数値に依っていないが、ある程度、実際の状況を反映している。第1～3調査全体を通して、親の働き方や、世帯の経済的な問題など、大人の状況が子どもの学校での生活や学習に影響をもたらしている現状には、何らかの対応が必要であると思われる。

また、今回の調査では子どもたち自身も親の対応でも、性差による違いが生じていた。第1・2調査での、ジェンダーフリーの状況と、一方で母親規範に縛られている状況とが、子どもたちでの性差と連続しているのかどうか、より総合的にみていく必要があると思われる。

最後に、「第2調査のまとめ」でも述べたが、単に生活に困窮している子どもへの対応だけではなく、生活が安定している子どもに対しても、「自らの育ちの場としての地域」の意義を子どもたち自身と一緒に考えていく機会を提供していくことも大切であろう。

調査票 I

みなとくこそだ かてい せいかつ かん
港区子育て家庭の生活に関する

ちようさ
アンケート調査〔就学前児童保護者〕

へいせい ねん がつ
平成25年5月

みなとくせいさくそうぞうほうけんきゆうじよ
港区政策創造研究所
みなとくきかくけいらいふ
(港区企画経営部)

【問合せ先】
港区政策創造研究所 (港区企画経営部企画課)
電話：03-3578-2111 (内線2567～9)
【所在地】
港区芝公園1-5-25
港区役所 4階

※ぜひ、このアンケートにご協力いただき、6月17日(月)までにご投函
くださいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

へいせい [平成25(2013)年5月1日現在でお答えください]
みなとくせいさくそうぞうほうけんきゆうじよ
※この調査票の中の「宛名のお子さん」とは、送られてきた封筒に記載のある
お子さんのことです。

1. ご回答者のごとについて、おたずねします。

問1. このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ)
※宛名のお子さんから見た関係です。

- 1. お父さん
- 2. お母さん
- 3. おじいさん
- 4. おばあさん
- 5. その他 ()

問2. 宛名のお子さんの年齢と性別を教えてください (○は1つ)。

歳 …… 1. 男 2. 女

問3. お住まいの地域はどこですか。

(町) 名 記入例：港区 芝 1 丁目
港区 丁目 (「番」「号」等は記入不要です)

問4. あなたは現住所 (現在のお住まい) におよそ何年間お住まいですか。

年くらい

問5. あなたがお住まいの住宅は次のどれですか (○は1つ)。

- 1. 持ち家 (一戸建て)
- 2. 持ち家 (分譲マンション・持ちビル)
- 3. 民間の賃貸住宅
- 4. 都営・区営住宅
- 5. 都市再生機構 (UR) 等の公的賃貸住宅
- 6. 社宅・公務員住宅
- 7. その他 ()

問6. 宛名のお子さんの父母の国籍は次のどれですか (○は1つ)。

(1) 父	1. 日本	2. 日本以外
(2) 母	1. 日本	2. 日本以外

問14. 宛名のお子さんの祖父の住まいについて教えてください。
1～3の当てはまる番号に○をつけてください。

(1)父方の親	1. 同居している 2. 同居していない→それはどこですか (1.区内、2.都内、3.都外) 3. 同居していない (死去など)
(2)母方の親	1. 同居している 2. 同居していない→それはどこですか (1.区内、2.都内、3.都外) 3. 同居していない (死去など)

問15. いま現在、お子さんの祖父からの援助はありますか (あてはまるものすべてに○)。

- 1. 金銭的援助
- 2. 子どもを預かるなどの援助
- 3. 住宅の提供
- 4. 食料など物での援助
- 5. 掃除・家事などの援助
- 6. その他 ()

問16. 祖父は、困ったことがあるときに、頼りになりますか (○は1つ)。
1. なる 2. ならない 3. 祖父はいい

問17. 祖父以外で、困ったことがあるときに頼りになる方がいますか (○は1つ)。
1. いる 2. いない

III. 宛名のお子さんの保護者のお仕事について、おたずねします。

問18. あなたの家庭は「共働き」(正社員・正職員以外も含む)ですか (○は1つ)。
1. 共働きである 2. 共働きではない

問7. 一緒に住んでいる家族は次のどれに近いですか (○は1つ)。

- 1. 父母+子
- 2. 父母+子+祖父・祖母
- 3. 父+子
- 4. 父+子+祖父・祖母
- 5. 母+子
- 6. 母+子+祖父・祖母
- 7. その他 ()

問8. 宛名のお子さんの父母の年齢について教えてください。
父 歳 母 歳 (平成25年5月1日現在でお答えください)

問9. お子さんの人数を教えてください。
人

問10. 宛名のお子さんはどこに通園していますか (○は1つ)。

- 1. 幼稚園
- 2. 保育園
- 3. 子ども園
- 4. その他 ()
- 5. 通園していない

問11. お子さん全員の中で健康に不安がある、あるいは障害のあるお子さんはいらっしゃいますか (○は1つ)。
1. いる 2. いない

問12. 宛名のお子さんの健康保険証の種類は次のどれですか (○は1つ)。

- 1. 国民健康保険
- 2. その他の健康保険
- 3. 加入していない
- 4. わからない

問13. 家族の中でお子さん以外に健康に不安がある、あるいは障害のある方はいらっしゃいますか (○は1つ)。
1. いる 2. いない

問19. 宛名のお子さんの父母の職業は次のどれですか。下の選択肢の中から該当する番号を記入してください。

1. 父 _____ 2. 母 _____

〈選択肢〉

1. 自営業・会社経営
2. 公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤労働者
3. 民間企業の常勤労働者
4. 臨時・パートなどの労働者
5. その他の職業 ()
6. 就労していない

問20. 働いている場合だけお答えください。宛名のお子さんの父母の平日の帰宅時間はおおよそ何時頃ですか。一番多い日でお答えください。

1. 父：午前・午後 _____ 時頃 2. 母：午前・午後 _____ 時頃

問21. 働いている場合だけお答えください。今の仕事は子育てとの両立がしやすいと思いますか（それぞれ○は1つ）。

(1) 父： 1. しやすいと思う 2. 思わない 3. わからない
 (2) 母： 1. しやすいと思う 2. 思わない 3. わからない

問22. 就労していない方におたずねします。現在、仕事についていない理由を教えてください（あてはまるものすべてに○）。

1. 子どもに十分に関われなくなる 2. 子どもを預ける所がない
 3. 家事ができなくなる 4. 夫・妻が反対する
 5. 仕事が見つけられない 6. かえってお金がかかると不安
 7. 病人などの世話・介護のため 8. 子どもを人に預けるのが不安
 9. 結局、仕事と育児を一人でやらなければならなくなる
 10. 自分が働かなくても生活できるから
 11. その他 ()

問23. 全ての方におたずねします。宛名のお子さんの父母が地域で参加している団体や集まりは何ですか。下の選択肢の中から該当する番号をすべて記入してください。

(1) 父 _____
 (2) 母 _____

〈選択肢〉

1. 趣味（お花・お茶・料理・手芸など）
2. 健康づくりの活動（ホ・ッ・ヨガなど）
3. PTAや学校、子育てに関する社会活動
4. ボランティア・NPO活動などの社会活動
5. 町会・自治会
6. その他
7. 参加していない

問24. 宛名のお子さんは、夕食を誰と食べますか（○は1つ）。

1. 家族そろって一緒に食べることが多い 2. 家族の誰かと一緒に食べることが多い
 3. 家族以外の保育者と食べることが多い 4. 子どもだけで食べることが多い

問25. この1年間に親子で旅行やキャンプなどに行きましたか（○は1つ）。

1. 行った 2. 行かなかった

問26. 白頃の子育てについて、次のどれに近いですか（○は1つ）。

1. 自分一人で子育てをしている
 2. 夫・妻と一緒に子育てをしている
 3. 父母や義父母にも助けられずに子育てをしている
 4. 友人や保育士たちに助けられて子育てをしている
 5. その他 ()

問27. 家族や親戚以外に、ふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人がいますか（○は1つ）。

1. たくさんいる 2. 数人いる 3. 1～2人いる 4. いない

問28. 家族や親戚以外に、ふだんお子さんを預けたり、預かったりするようなお付き合いをしている人はいますか (○は1つ)。

1. たくさんいる 2. 数名いる 3. 1~2名いる 4. いない

問29. あなたが頻繁のとき、お子さんの世話や、あなたの身の回りの世話は主にどなたに頼みますか (○は1つ)。

1. 同居の家族 2. 親戚 (別居の家族を含む)
 3. 保育園・幼稚園の友人 4. 3以外の子どもを通して知り合った友人
 5. 職場の人 6. 5以外のあなた自身の友人
 7. 民間のベビーシッターなどのサービス 8. こむすび、あいぼーなどのサービス
 9. その他 () 10. 誰もいない

問30. あなたは、お子さんをご近所ではかのお子さんと一緒に遊ばせることができますか (○は1つ)。

1. ほぼ毎日 2. 週に2・3回 3. 月に3・4回 4. ほとんどない

問31. 問30で1~3を選んだ方におたずねします。
 (1) きっかけは何でしたか (あてはまるものすべてに○)。

1. 子どもが生まれる前からのつき合 2. 両親学級やうさちゃんくらぶなどで親しくなった
 3. 産院や病院が一緒であった 4. 近所や公園などで、子どもを連れていたときに出会った
 5. 保育園や幼稚園を通して親しくな 6. 子ども家庭支援センター・子育てひろばなどで出会った
 7. その他 ()

(2) どのようなことを遊ばせますか (あてはまるものすべてに○)。

1. 公園などで、一緒に遊ばせる 2. だれかの家へ集まって、遊ばせる
 3. 買い物などに一緒に出かけ 4. グループ・サークルとして遊ばせる
 5. その他 ()

問32. 現在、お子さんのことで悩んでいることがありますか。悩みがある場合、相談先の有無もお答えください。

	悩み	相談先
(1) 保育園・幼稚園について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(2) 友達関係について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(3) 学習・進路について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(4) きょうだい関係について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(5) 発達について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(6) しつけについて	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(7) 病気や障害について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(8) その他 ()		→ 1. ない 2. ある

問33. 自分のお子さんを他の家のお子さんと比較して気になることがありますか (○は1つ)。

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. ない

問34. あなたは、ふだん次のようなことがありますか。

(1) イライラする	1. ない 2. ある
(2) 子どもを大声で怒る	1. ない 2. ある
(3) 子どもに衝動的に手をあげる	1. ない 2. ある
(4) 自分の子育てに不安を感じる	1. ない 2. ある

問35. あなたの子育てについて、だれに教えてもらったことが、役立っていますか (あてはまるものすべてに○)。

1. 自分の親	2. 自分の兄弟姉妹
3. 1・2以外の家族・親戚	4. 友人・知人
5. 保健師 (保健所の母親学級も含む)	6. 病院の看護師 (病院の母親学級も含む)
7. 保育園・幼稚園の先生	8. 子ども家庭支援センターや子育てひろばなどの職員
9. 中学・高校など学校での家庭科の授業	10. その他 ()
11. 教わったが役に立つことはなかった	12. 誰からも教わっていない

IV. 習い事について、おたずねします。

問36. 宛名のお子さんについて、習い事や通信教育などで、月にいくらかけていますか。ない場合は()の中に〇とご記入ください。

月に () 円くらい

問37. 問36の金額についてどのように思われますか (〇は1つ)。

1. もっとかかっている 2. 十分である 3. かけすぎだと思う

問38. お子さん全員について、習い事や通信教育などで、総計で月にいくらくらいかかっていますか。ない場合は()の中に〇とご記入ください。

月に () 円くらい

問39. あなたの世帯年収は税込みで次のどれにあてはまりますか (〇は1つ)。

1. 200万円未満
2. 200～300万円未満
3. 300～400万円未満
4. 400～500万円未満
5. 500～700万円未満
6. 700～1000万円未満
7. 1000～2000万円未満
8. 2000万円以上
9. わからない

問40. あなたは現在、お子さんの教育費のための保険をかけていますか (〇は1つ)。

1. かけている 2. 今後かける予定 3. かけていない 4. わからない

問41. 宛名のお子さんには、どの学校まで進学してほしいですか (〇は1つ)。

1. 中学校卒業
2. 高校卒業
3. 専門学校卒業
4. 短大卒業
5. 4年制大学卒業以上
6. わからない

問42. 宛名のお子さんの父母の学歴は次のどれですか。下の選択肢の中から該当する番号を記入してください。

1. 父 _____ 2. 母 _____

(選択肢)

1. 中学校卒業 2. 高校卒業 3. 専門学校卒業
4. 短大卒業 5. 4年制大学卒業以上 6. わからない

V. 子育てに関する意見や施策について、おたずねします。

問43. 今の子育てについて、あなたは次のどれに近いですか (〇は1つ)。

1. 子育てを十分に楽しんでいる
2. 子育てをまあまあ楽しんでいる
3. 子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない
4. 子育ては私には苦痛、とても楽しめない
5. 子育てなんて、そもそも楽しめるものではないと思う

問44. 子育てに関する意見について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。

	とてもそう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったく思わない
(1) 子どもが小さいうちは、母親が育児に専念すべきである	1	2	3	4	5
(2) 女性が仕事をしながら、家事・育児の負担を減らした上ですべきである	1	2	3	4	5
(3) 育児は、父母(男女)が対等にすべきである	1	2	3	4	5
(4) 子育てはできるだけ早く早くした方がいい	1	2	3	4	5
(5) 育児は子どもに自分の人生を犠牲にされるものしかたがない	1	2	3	4	5
(6) 子育ては地域の協力を得ながらやるべきである	1	2	3	4	5

問45. 最近様々な育児支援策がありますが、それらはあなたのためになっていると思いますか（○は1つ）。

1. 思う	2. 思わない	3. わからない
-------	---------	----------

問46. 港区で実施している以下の事業について、あてはまるものに○をつけてください（○はそれぞれ1つずつ）。

	よく利用する	利用する	利用しない	知っている	知らない
(1) 発達支援センター	1	2	3	4	4
(2) パースデイズデイ歯科健診(保健所)	1	2	3	4	4
(3) すくすく育児相談(保健所)	1	2	3	4	4
(4) 保育園で遊ぼう	1	2	3	4	4
(5) 未就学児の会	1	2	3	4	4
(6) 障害保健福祉センター子ども療育パオ	1	2	3	4	4
(7) 乳幼児一時預かり・子育てひろば	1	2	3	4	4
(8) 派遣型一時保育・育児サポーター	1	2	3	4	4
(9) 子ども家庭支援センター	1	2	3	4	4
(10) 児童館・子ども中高生プラザでの乳幼児事業	1	2	3	4	4
(11) みなとっこ(区立保育園での在宅子育て支援)	1	2	3	4	4
(12) 養育支援訪問(妊娠出産時ホームヘルプサービス)	1	2	3	4	4

問47. 問46の事業について、困ったことや利用しない理由をお書きください。

問48. 港区に対するご意見や、あなたの子育てに関する困りごとなどを、ご自由にお書きください。

VI. ここからは、宛名のお子さんのお母さんが回答してください。

問49. お母さんのこれまでの仕事の状況について教えてください。下記のお仕事をしていますか（それぞれ○は1つ）。

(1) 学校を卒業してから結婚するまで	1. 仕事をしていました	2. していません
(2) 結婚してから出産するまで(最初の結婚について)	1. 仕事をしていました	2. していません
(3) 最初の妊娠・出産の後	1. 仕事をしていました	2. していません

問50. 宛名のお父さんは、次の項目についてそれぞれどれにあてはまりますか。

	よくある	たまにある	どちらともえない	あまりない	まったくない
(1) 育児・子育てをする	1	2	3	4	5
(2) 家事をする	1	2	3	4	5
(3) 仕事が忙しい	1	2	3	4	5
(4) 子どもが好きだ	1	2	3	4	5
(5) 頼りになる	1	2	3	4	5
(6) 私の話を聞く	1	2	3	4	5
(7) 妊娠中、子どもの将来や子育てについて話し合った	1	2	3	4	5

問51. 宛名のお父さんに、あなたが今一番に望むことは何ですか（○は1つ）。

1. もっと子どもの面倒を見てほしい	2. もっと私の話を聞いてほしい
3. もう少し家事を手伝ってほしい	4. 育児参加より仕事に専念してほしい
5. 今のままで満足	6. もっと育児に対する考えを述べて欲しい
7. その他（ ）	

アンケートは以上で終了です。

この調査票は6月17日 月曜日までに、同封の返信用封筒に入れ、封をして投函してください。切手は不要です。ご協力ありがとうございます。

調査票Ⅱ

みなとくこそだ かてい せいかつ かん
港区子育て家庭の生活に関する

ちようさ
アンケート調査〔小学生全年・中学2年生保護者〕

へいせい ねん がつ
平成25年5月

みなとくせいさくそつぞうけんきゆうじよ
港区政策創造研究所
 みなとくきかくけいえいぶ
(港区企画経営部)

【問合せ先】
 みなとくせいさくそつぞうけんきゆうじよ
港区政策創造研究所 (港区企画経営部企画課)
 電話：03-3578-2111 (内線2567～9)
 【所在地】
 みなとくじほこうえん
港区芝公園1-5-25
 みなとくやくしよ
港区役所 4階

※ぜひ、このアンケートにご協力いただき、6月17日(月)までにご投函
 くださいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

へいせい [平成25(2013)年5月1日現在]でお答えください

※この調査票の中の「宛名のお子さん」とは、送られてきた封筒に記載のある
 お子さんのことです。

1 ご回答者のことについて、おたずねします。

問1. このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ)
 ※宛名のお子さんから見た関係です。

- | | |
|------------|------------|
| 1. お父さん | 2. お母さん |
| 3. おじいさん | 4. おばあさん |
| 5. 子の兄弟・姉妹 | 6. その他 () |

問2. (1) 宛名のお子さんの学年を教えてください (○は1つ)。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1. 小学1年 | 2. 小学2年 | 3. 小学3年 |
| 4. 小学4年 | 5. 小学5年 | 6. 小学6年 |
| 7. 中学2年 | | |

(2) 宛名のお子さんの性別を教えてください (○は1つ)。

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問3. お住まいの地域はどこですか。

(町 名)	記入例：港区 芝	1. 丁目
港区	丁目 (「番」「号」等は記入不要です)	

問4. あなたは現住所 (現在のお住まい) におよそ何年間お住まいですか。

年くらい

問5. 宛名のお子さんの父母の国籍は次のどれですか (○は1つ)。

(1)父	1. 日本	2. 日本以外
(2)母	1. 日本	2. 日本以外

問6. あなたがお住まいの住宅は次のどれですか (○は1つ)。

1. 持ち家 (一戸建て)	2. 持ち家 (分譲マンション・持ちビル)
3. 民間の賃貸住宅	4. 都営・区営住宅
5. 都市再生機構 (UR) 等の公的賃貸住宅	6. 社宅・公務員住宅
7. その他 ()	

問7. 一緒に住んでいる家族は次のどれに近いですか (○は1つ)。

1. 父母+子	2. 父母+子+祖父・祖母
3. 父+子	4. 父+子+祖父・祖母
5. 母+子	6. 母+子+祖父・祖母
7. その他 ()	

問8. 宛名のお子さんの父母の年齢について教えてください (平成25年5月1日現在でお答えください)

父 歳 母 歳	(平成25年5月1日現在でお答えください)
---------	-----------------------

問9. お子さんの人数を教えてください。

人

問10. お子さんの中で健康に不安がある、あるいは障害のあるお子さんはいらっしゃるでしょうか (○は1つ)。

1. いる	2. いない
-------	--------

問11. 宛名のお子さんの健康保険証の種類は次のどれですか (○は1つ)。

1. 国民健康保険	2. その他の健康保険
3. 加入していない	4. わからない

問12. 家族の中でお子さん以外に健康に不安がある、あるいは障害のある方はいらっしゃるでしょうか (○は1つ)。

1. いる	2. いない
-------	--------

問13. 宛名のお子さんの祖父母の住まいについて教えてください。

1～3の当てはまる番号に○をつけてください。

(1) 父方の親	1. 同居している	2. 同居していない→それはどこですか (1. 区内、2. 都内、3. 都外)
(2) 母方の親	1. 同居している	2. 同居していない→それはどこですか (1. 区内、2. 都内、3. 都外)
	3. 同居していない (死去など)	

問14. いま現在、お子さんの祖父母からの援助はありますか (あてはまるものすべてに○)。

1. 金銭的援助	2. 子どもを預かるなどの援助
3. 住宅の提供	4. 食料など物での援助
5. 掃除・家事などの援助	6. その他 ()

問15. 祖父母は、困ったことがあるときに、頼りになりますか (○は1つ)。

1. なる	2. ならない	3. 祖父母はいない
-------	---------	------------

II. お子さんのふだんの生活について、おたずねします。宛名のお子さんについてお答えください。

問16. 毎朝、自分で起きますか (○は1つ)。

1. ほとんど自分で起きる	2. たまに親が起す	3. たいてい親が起す
---------------	------------	-------------

問17. 朝食をとってから学校に行きますか (○は1つ)。

1. 毎日とってから行く	2. たまにとらないで行く	3. ほとんどとらない
--------------	---------------	-------------

問18. 毎日登校していますか (○は1つ)。

1. 登校している	2. 時々休むことがある	3. よく休むことがある
-----------	--------------	--------------

問19. 通っている学校はどちらですか (○は1つ)。

1. 公立の学校	2. 私立の学校
----------	----------

問20. 仲の良い友だちがいると思いますか (○は1つ)。

1. いると思う 2. いないと思う 3. わからない

問21. 宛名のお子さんは、学校で「いじめ」にあったことがあると思いますか (○は1つ)。

1. あると思う 2. ないと思う 3. わからない

問22. (1) あなたは、学校の対応に何か問題を感じたことがありますか (○は1つ)。

1. ある → 問23へ

(2) それは具体的にどのようなことですか。さしつかえなければ下の欄に記入してください。

問23. 宛名のお子さんは学校の授業を理解していると思いますか (○は1つ)。

1. よく理解している 2. 理解している
3. あまり理解できていない 4. 理解しているかわからない

問24. あなたは、宛名のお子さんに学習塾などでの勉強も必要だと思いますか (○は1つ)。

1. とても必要だと思う 2. 少し必要だと思う
3. あまり必要だと思わない 4. ほとんど必要だと思わない

問25. 家族が宛名のお子さんの勉強をみてあげることがありますか (○は1つ)。

1. よくある 2. たまにある 3. ほとんどない

問26. 宛名のお子さんを学習塾に行かせたり、家庭教師を頼んだりしていませんか (○は1つ)。

1. 学習塾のみ (通信教育含む) 2. 家庭教師のみ
3. 両方 4. いずれもさせていない

III. お子さんの放課後のようすについて、おたずねします。宛名のお子さんについてお答えください。

問27. 学校が終わった後、宛名のお子さんが何をしながら遊んでいるか知っていますか (○は1つ)。

1. よく知っている 2. 知っている
3. あまり知らない 4. ほとんど知らない

問28. 宛名のお子さんは、学校が終わった後、どこで遊ぶことが多いですか (○は1つ)。

1. 家の中 (友人宅を含む) 2. 学校 3. 児童館や中高生プラザ
4. 公園などの屋外 5. 繁華街 6. その他 ()

問29. 宛名のお子さんの遊びについても心配なことは何ですか (○は1つ)。

1. 遊ぶ場所 2. 遊ぶ時間 3. 遊び相手
4. 遊び方 5. 心配なことはない 6. その他 ()

問30. (1) 宛名のお子さんの「非行」について心配なことはありますか (○は1つ)。

1. ある → 問31へ

(2) それは具体的にどのようなことですか。さしつかえなければ下の欄に記入してください。

問31. (1)宛名のお子さんの「性」について心配なことはありますか(○は1つ)。

1. ある → 2. ない → 問32へ

(2)それは具体的にどのようなことですか。さしつかえなければ下の欄に記入してください。

空欄

問32. お子さんに1か月どのくらいのおこづかいをあげていますか(○は1つ)。

- 1. 1,000円未満
- 2. 1,000～3,000円未満
- 3. 3,000～5,000円未満
- 4. 5,000～10,000円未満
- 5. 10,000円以上
- 6. あげていない

問33. お子さんに学習以外の習いごとをさせていますか(あてはまるものすべてに○)。

- 1. スポーツ(水泳など)
- 2. 音楽(ピアノなど)
- 3. ダンス(バレエなど)
- 4. その他()
- 5. 習いごとはさせていない

問34. あなたは、お子さんを地域の活動などに参加させていますか(○は1つ)。

- 1. 参加させている
- 2. 参加させていない
- 3. そうした活動が地域にない
- 4. そうした活動を知らない

IV 教育費などのことについて、おたずねします。

問35. 宛名のお子さんについて、習い事や通信教育などで、月にいくらかけていますか。ない場合は()の中に0とご記入ください。

月に()円くらい

問36. 問35の金額についてどのように思われますか(○は1つ)。

- 1. もっとかけてあげたい
- 2. 十分である
- 3. かけすぎだと思う

問37. お子さん全員について、習い事や通信教育などで、総計で月にいくらかけていますか。ない場合は()の中に0とご記入ください。

月に()円くらい

問38. あなたの世帯年収は税込みで次のどれにあてはまりますか(○は1つ)。

- 1. 200万円未満
- 2. 200～300万円未満
- 3. 300～400万円未満
- 4. 400～500万円未満
- 5. 500～700万円未満
- 6. 700～1000万円未満
- 7. 1000～2000万円未満
- 8. 2000万円以上
- 9. わかからない

問39. あなたの家の生計を主に支えている方の職業は次のどれですか(○は1つ)。

- 1. 自営業・会社経営
- 2. 公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者
- 3. 民間企業の常勤的勤務者
- 4. 臨時・パートなどの勤務者
- 5. その他の職業()
- 6. 就労していない

問40. あなたの家庭は「共働き」(正社員・正職員以外も含む)ですか(○は1つ)。

- 1. 共働きである
- 2. 共働きではない

問41. お子さんには、どの学校まで進学してほしいですか (○は1つ)。
 1. 中学校卒業 2. 高校卒業 3. 専門学校卒業
 4. 短大卒業 5. 4年制大学卒業以上 6. わからない

問42. 宛名のお子さんの父母の学歴は次のどれですか。下の選択肢の中から該当する番号を記入してください。
 1. 父 _____ 2. 母 _____

〈選択肢〉
 1. 中学校卒業 2. 高校卒業 3. 専門学校卒業
 4. 短大卒業 5. 4年制大学卒業以上 6. わからない

問43. あなたは現在、お子さんの教育費のための保険をかけていますか (○は1つ)。
 1. かけている 2. 今後かける予定 3. かけていない 4. わからない

V. 子育てについて、おたずねします。宛名のお子さんについてお答えください。

問44. 現在、宛名のお子さんのことで悩んでいることがありますか。悩みがある場合、相談先の有無もお答えください。

	悩み	相談先
(1) 学校生活でのようすについて	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(2) 友達関係について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(3) 学習・進路について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(4) 発達について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(5) しつけについて	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(6) 病気や障害について	1. ない 2. ある	→ 1. ない 2. ある
(7) その他 ()	→ 1. ない 2. ある	

問45. 宛名のお子さんは、夕食を誰と食べますか (○は1つ)。
 1. 家族そろって一緒に食べることが多い 2. 家族の誰かと一緒に食べる場合が多い
 3. 一人で(子どもだけで)食べる場合が多い 4. その他 ()

問46. この1年間に親子で旅行やキャンプなどに行きましたか (○は1つ)。
 1. 行った 2. 行かなかった

問47. 宛名のお子さんには、専用の部屋がありますか (○は1つ)。
 1. ある 2. ない

問48. 宛名のお子さんは、次に挙げるものをもっていきますか (○はそれぞれ1つずつ)。

	本人専用のものを 持っている	本人専用はな かなく、家族で共用	使用させてい ない	いえ 家にない
(1) ゲーム機	1	2	3	4
(2) パソコン	1	2	3	4
(3) 携帯電話やスマートフォン	1	2	3	4
(4) テレビ	1	2	3	4

問49. (1) 宛名のお子さんには、テレビやゲームの時間を制限していますか (○は1つ)。
 1. 制限している 2. 特に制限はしていない 3. 使用させていない又は家にない

(2) 宛名のお子さんには、インターネットの閲覧について何か制限をしていますか (○は1つ)。

1. 制限している 2. 特に制限はしていない 3. 使用させていない又は家にない

問50. 宛名のお子さんは、その日の出来事や悩みごとをあなたに話すほうだと思いますか (○は1つ)。

1. とてもよく話をする	2. よく話をする
3. あまり話をしない	4. ほとんど話をしない

問51. あなたは、宛名のお子さんとどの日頃の会話は十分だと思えますか (○は1つ)。

1. そう思う 2. そうは思わない

問52. 宛名のお子さんの保護者は、PTA活動などに参加していますか (○は1つ)。

1. 積極的に参加している 2. 参加している
3. あまり参加していない(できない) 4. ほとんど参加していない(できない)

問53. 宛名のお子さんの保護者は、部活動や少年野球チームなどのお世話をしていますか (○は1つ)。

1. している 2. していない

問54. あなたは、学校の先生とよく話すほうですか (○は1つ)。

1. よく話す 2. あまり話さない

問55. (1) 家族や親戚以外に、ふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人がいますか (○は1つ)。

1. たくさんいる 2. 数名いる 3. 1～2名いる 4. いない

(2) あなたが、お子さんのことによく話すのは、主にどのような方ですか (○は1つ)。

1. PTA関係の人 2. 子どもの友だちの親
3. 同僚など職場関係の人 4. 近隣の人
5. それ以外のあなた自身の友人 6. その他 ()

問56. あなたは、自分のお子さんを他の家のお子さんと比較して気になることがありますか (○は1つ)。

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. ない

問57. お子さんのことで困ったことがあるとき、相談する人は誰ですか (あてはまるものすべてに○)。

1. 同居の家族 2. 親戚 (別居の家族を含む)
3. 子どもを通して知り合った友人 4. 職場の人
5. 4以外のあなた自身の友人 6. 学校の先生
7. 教育センターなどの公的な相談機関 8. 民間の相談機関
9. その他 () 10. 誰もいない

問58. 区に対するご意見や、あなたの子育てに関する困りごとなどを、ご自由に書きください。

アンケートは以上で終了です。この調査票は6月17日 月曜日までに、同封の返信用封筒に入れ、封をして投函してください。切手は不要です。ご協力ありがとうございます。

調査票Ⅲ

みなとこ せいにかつ かん
港区子どもの生活に関する
 ちょうさ
アンケート調査(小学4年生・中学2年生)

へいせい ねん がつ
平成25年5月

みなとこせいきさくぞうほうけんきゅうじよ
港区政策創造研究所
 みなとこきかくけいえいぶ
(港区企画経営部)

ほごしや みなさま
保護者の皆様へ
 ○本アンケート用紙は宛名のお子さん本人とその保護者の方に記載していただくものです。
 ○保護者の方は1ページ目を、2ページ以降は宛名のお子さんが記入してください。
 ※ぜひ、このアンケートにご協力いただき、6月17日(月)までにご投函くださいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

【問合せ先】
 みなとこせいきさくぞうほうけんきゅうじよ
港区政策創造研究所 (港区企画経営部企画課)
 でんわ 03-3578-2111 (内線2567~9)
【所在地】
 みなとこせいきさくぞうほうけん
港区芝公園1-5-25
 みなとこせいきさくぞうほうけん
港区役所 4階

ほごしや かに せいにかう
このページのみ保護者の方にご記入ください
 へいせい ねん がつ にちげんせい
[平成25(2013)年5月1日現在でお答えください]

F 1. お住まいの地域はどこですか。

まちの かい 名) 記入例: 港区 芝 1 丁目
 みなとこ 港区 ちょうめ 丁目 (「番」「号」等は記入不要)

F 2. あなたは現住所(現在のお住まい)におよそ何年間お住まいですか。

ねん くらゐ

F 3. あなたがお住まいの住宅は次のどれですか (○は1つ)。

1. 持ち家(一戸建て)
2. 持ち家(分譲マンション・持ちビル)
3. 民間の賃貸住宅
4. 都営・区営住宅
5. 都市再生機構(UＲ)等の公的賃貸住宅
6. 社宅・公務員住宅
7. その他()

F 4. 宛名のお子さん専用の部屋がありますか (○は1つ)。

1. ある
2. ない

F 5. 一緒に住んでいる家族は次のどれに近いですか (○は1つ)。

1. 父母+子
2. 父母+子+祖父+祖母
3. 父+子
4. 父+子+祖父+祖母
5. 母+子
6. 母+子+祖父+祖母
7. その他()

F 6. あなたの家の生計を主に支えている方の職業は次のどれですか (○は1つ)。

1. 自営業・会社経営
2. 公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者
3. 民間企業の常勤的勤務者
4. 臨時・パートなどの勤務者
5. その他の職業() 6. 就労していない

F 7. あなたの家庭は「共働き」(正社員・正職員以外も含む)ですか (○は1つ)。

1. 共働きである
2. 共働きではない

F 8. 宛名のお子さんの父の国籍は次のどれですか (○は1つ)。

- | | | |
|-------|-------|---------|
| (1) 父 | 1. 日本 | 2. 日本以外 |
| (2) 母 | 1. 日本 | 2. 日本以外 |

このページからは宛名のお子さんをご記入ください

平成25(2013)年5月1日現在でお答えください

1.はじめにあなた自身のことについておたずねします。

- 問1. あなたは何年生ですか (○は1つ)。
- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 小学校4年生 | 2. 中学校2年生 |
|-----------|-----------|
- 問2. あなたは男子ですか、女子ですか (○は1つ)。
- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|
- 問3. きょうだいはいいますか。
- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|
- 問4. あなたは朝自分でおきますか (○は1つ)。
- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1. ほとんど自分でおきる | 2. たまにおこしてもらう | 3. たいていおこしてもらう |
|---------------|---------------|----------------|
- 問5. あなたは朝、食欲(しょくよく)と感(かん)じる(こと)がありますか。
- | | | |
|---------|--------------|-----------|
| 1. 毎日ある | 2. たまにない日がある | 3. ない日が多い |
|---------|--------------|-----------|
- 問6. あなたは学校を休みたいと思う(こと)がありますか (○は1つ)。
- | | | |
|-----------|----------|---------|
| 1. ほとんどない | 2. たまにある | 3. よくある |
|-----------|----------|---------|
- 問7. 通(か)っている学校はどちらですか (○は1つ)。
- | | |
|----------|------------------|
| 1. 公立の学校 | 2. 私立(わたくしりつ)の学校 |
|----------|------------------|
- 問8. あなたは授業で好きな科目(か)がありますか (○は1つ)。
- | | | |
|-----------|--------------|-----------|
| 1. いくつもある | 2. ひとつくらいはある | 3. ほとんどない |
|-----------|--------------|-----------|
- 問9. あなたは授業の内容(じゆりやう)がわかりますか (○は1つ)。
- | | | |
|----------|---------|---------------|
| 1. よくわかる | 2. ふうふう | 3. わからないことが多い |
|----------|---------|---------------|

問10. あなたがだんだん受けている授業は楽しいですか (○は1つ)。

- | | |
|-------------|----------|
| 1. とても楽しい | 2. 楽しい |
| 3. あまり楽しくない | 4. 楽しくない |

問11. あなたはスポーツはできるほうだと思いますか (○は1つ)。

- | | | |
|----------|---------|-----------|
| 1. できるほう | 2. ふうふう | 3. できないほう |
|----------|---------|-----------|

問12. 中学生の方(かた)だけにお聞きします。

(1) あなたは部活動(ぶくわつ)に参加(とんか)していますか (○は1つ)。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 参加(とんか)している | 2. 参加(とんか)していない |
|----------------|-----------------|
- 問13へ

(2) あなたは部活動(ぶくわつ)が楽しいですか (○は1つ)。

- | | |
|-------------|----------|
| 1. とても楽しい | 2. 楽しい |
| 3. あまり楽しくない | 4. 楽しくない |

問13. (1) 信頼(しんらい)できる友(とも)だちはいますか (○は1つ)。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|
- 問14へ

(2) その中で最も(もっとも)信頼(しんらい)できる友(とも)だちは学校の友(とも)だちですか、それ以外の友(とも)だちですか (○は1つ)。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 学校の友(とも)だち | 2. 学校(がっこう)以外の友(とも)だち |
|---------------|-----------------------|

(3) その友(とも)だちと、どのようにに仲(な)良(よ)くなりましたか (あてはまるものすべてに○)。

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 近所(きんじよ)に住(す)んでいる | 2. 同じクラス |
| 3. 同じ塾(じゆく)や習(な)い事(こと)に通(か)っている | 4. 部活動(ぶくわつ)、クラブ活動(かぶつ)などが一緒(いっしょ) |
| 5. 友(とも)だちの紹介(しょうかい) | 6. 渋谷(しよや)のようなにぎやかなところ(ところ)で知り合(あ)った |
| 7. 親同(おやどうし)士の仲(な)が良い | 8. その他(ほか) |

問24. (1) あなたは現在、学習塾や習いごとに通っていますか (○は1つ)。

1. 通っている	2. 通っていない
→	→
	問25へ

(2) 1週間のうちで、塾や習いごとに行っているのは何日ですか。

____日

問25. あなたは学習塾などでの勉強も必要だと思えますか (○は1つ)。

1. とても必要だと思える	2. 少しは必要だと思える	3. あまり必要だと思わない	4. ほとんど必要だと思わない
---------------	---------------	----------------	-----------------

問26. 家族はあなたの勉強をみてくれることはありますか (○は1つ)。

1. よくある	2. たまにある	3. ほとんどない
---------	----------	-----------

問27. あなたは将来どの学校まで進学したいですか (○は1つ)。

1. 中学校	2. 高校
3. 専門学校(専門の技術を身に付ける学校)	4. 短大 (2年間の大学)
5. 大学 (4年間の大学)	6. わからない

V. 家庭での生活についておたずねします

問28. あなたは夕食をだれと食べますか (○は1つ)。

1. 家族そろって一緒に食べることが多い	2. 家族の誰かと一緒に食べる場合が多い
3. 一人で(子どもだけで)食べる場合が多い	

問29. この1年間で親子で旅行やキャンプなどに行きましたか (○は1つ)。

1. 行った	2. 行かなかった
--------	-----------

問30. あなたは、次のものをもっていますか (○はそれぞれ1つずつ)。

	自分専用のものをもっている	自分専用ではなく家族と使わない	家にはあるが使われてもらっていない	家にない
(1) ゲーム機	1	2	3	4
(2) パソコン	1	2	3	4
(3) 携帯電話やスマートフォン	1	2	3	4
(4) テレビ	1	2	3	4

問31. あなたはふだんテレビやゲームをどれくらい見ますか (○は1つ)。

1. あまり見ない(しない)	2. 1時間くらい	3. 2時間くらい
4. 3時間くらい	5. 4時間くらい	6. 5時間以上

問32. あなたはふだん勉強以外でインターネットをどれくらいしますか (○は1つ)。

1. あまりしない	2. 1時間くらい	3. 2時間くらい
4. 3時間くらい	5. 4時間くらい	6. 5時間以上

問33. あなたの家では、テレビやゲーム、インターネットをする時間が決められていますか (○は1つ)。

1. 決められている	2. 決められていない	3. 使っていない
------------	-------------	-----------

問34. あなたはふだん学校のある日は、自宅と学習塾の両方でどれくらい勉強しますか (○は1つ)。

1. あまりしない	2. 30分くらい	3. 1時間くらい
4. 2時間くらい	5. 3時間くらい	6. 4時間くらい
7. 5時間以上		

問35. あなたはふだん何をしているのが楽しいですか。

Blank box for answer to question 35.

問36. あなたはふだん学校の日は、何時ごろ寝ますか (○は1つ)。

1. 9時ごろ 2. 10時ごろ 3. 11時ごろ
4. 12時ごろ 5. 12時よりおそい

問37. あなたは毎日よくねむっていますか (○は1つ)。

1. よくねむっている 2. たまに寝不足になる
3. 寝不足が多い

問38. 親に学校や友だちのことについて話していますか (○は1つ)。

1. とてもよく話をする 2. よく話をする
3. あまり話をしない 4. ほとんど話をしない

問39. 親に悩みごとや心配ごとを話しますか (○は1つ)。

1. とてもよく話をする 2. よく話をする
3. あまり話をしない 4. ほとんど話をしない

問40. あなたはもっと親と話をしたいですか (○は1つ)。

1. もっと話をしたい 2. いまのまままでよい

問41. (1) 今の生活に満足していますか (○は1つ)。

1. 満足している 2. 満足していない
→ 問42へ

(2) 「2. 満足していない」と答えた方にうかがいます。それはどうしてですか (あてはまるものすべてに○)。

1. 親が自分に厳しい 2. ホットとできる場所がない
3. 家族と一緒に楽しむことがない 4. 親が自分を理解してくれない
5. 家がせまい 6. 家の周囲の環境が悪い
7. 家庭に争いごとがある 7. 欲しいものを買ってもらえない
8. きょうだいや家族との仲が良くない 9. ただなんとなく
10. その他 ()

問42. 困ったことについて一番相談のつてくれそうな人は誰ですか (あてはまる番号を3つまで○)。

1. お父さん 2. お母さん
3. おじいさんやおばあさん 4. きょうだい
5. 親戚の人 (おじいさん、おばあさん等) 6. 学校の先生
7. 塾や習い事の先生 8. 学校の友だち
9. 異性の友だち 10. 学校以外の場で付き合う友だち
11. そのような人はいない 12. その他 ()

問43. 月々のおこづかいはいくらもらっていますか。

1. もらっていない 2. もらっている 1か月 _____円

問44. 家庭の経済状況はどのくらいだと思いますか（○は1つ）。

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 豊かだと思ふ | 2. 普通 |
| 3. 困っていると思ふ | 4. わからない |

問45. あなたは親の仕事の内容を知っていますか（○は1つ）。

- | | | |
|------------|--------------|------------|
| 1. よく知っている | 2. だいたい知っている | 3. あまり知らない |
|------------|--------------|------------|

問46. あなたはふだん家の手伝いなどをしていますか（○は1つ）。

- | | | |
|---------|-------------|--------------|
| 1. している | 2. たまにはしている | 3. ほとんどしていない |
|---------|-------------|--------------|

問47. あなたが今、一番気になっていることや、大人に望むことは何ですか。何でも自由に書いてください。

アンケートはこれで終わりです。
このアンケートは6月17日（月曜日）までに、このアンケートと一緒に返信用の封筒に入れ、封をしてポストに入れてください。切手ははらわないでください。
ご協力ありがとうございました。

港区政策創造研究所の概要

1 設置目的

港区政策創造研究所は、各部門の個別情報の収集・分析等を踏まえ、横断的に課題を捉え総合的な政策研究を行い、各支援部・総合支所を支援することを目的とします。

2 設置日等

(1) 設置日

平成23年2月1日（火）

(2) 設置場所

本庁舎 4階

(3) 所長

明治学院大学社会学部 河合 克義 教授

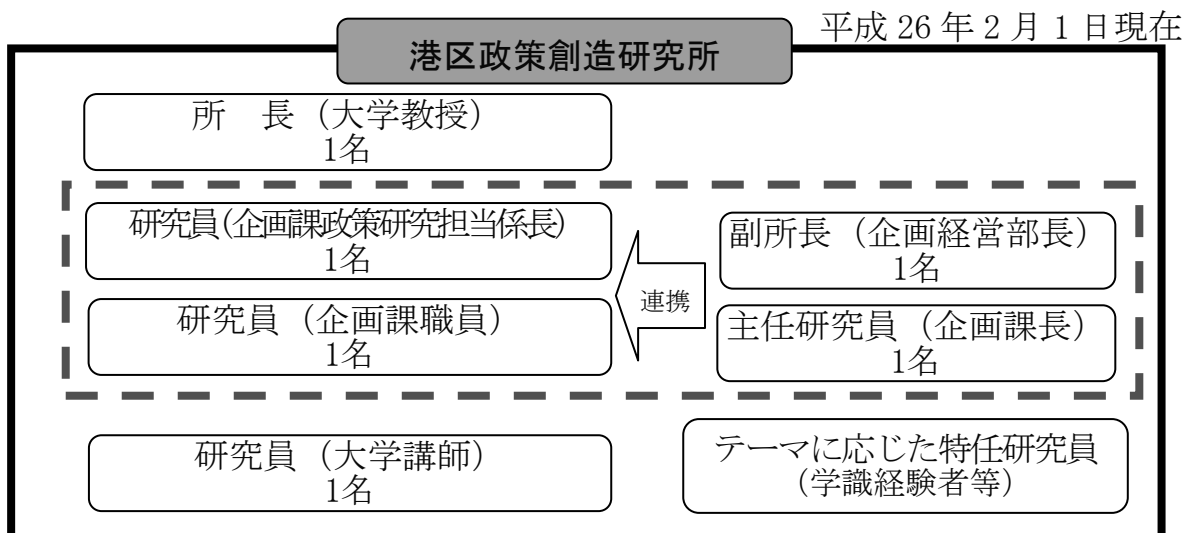
3 機能

研究所は、次の4つの機能を備えます。

機能	狙い
情報活用機能	区内で何が起きているのかを的確に把握
分析・予測機能	それが区民の生活に与える影響を予測
政策研究・形成機能	顕在化する課題を先取りし、迅速に対応
人材育成機能	流動的な時代に対応できる人材育成への貢献

4 体制

所長1名、副所長1名、研究員4名の合計6名で構成し、活動を行っています。



港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査関係者会議名簿
(平成26年2月1日現在)

河合 克義	港区政策創造研究所所長 (明治学院大学教授)
杉本 隆	港区政策創造研究所副所長 (企画経営部長)
新宮 弘章	港区政策創造研究所主任研究員 (企画経営部企画課長) (平成25年3月31日まで)
大澤 鉄也	港区政策創造研究所主任研究員 (企画経営部企画課長) (平成25年4月1日から)
大浦 昇	港区政策創造研究所研究員 (企画経営部企画課政策研究担当係長)
田頭 達也	港区政策創造研究所研究員 (企画経営部企画課政策研究担当) (平成25年3月31日まで)
新藤 直樹	港区政策創造研究所研究員 (企画経営部企画課政策研究担当) (平成25年4月1日から)
板倉 香子	港区政策創造研究所研究員 (明治学院大学非常勤講師)
岩田 美香	港区政策創造研究所特任研究員 (法政大学現代福祉学部教授)
平野 幸子	港区政策創造研究所特任研究員 (明治学院大学社会学部付属研究所ソーシャルワーカー)
猪俣 聖人	保健福祉支援部障害者福祉課長 (平成25年3月31日まで)
大竹 悦子	保健福祉支援部障害者福祉課長 (平成25年4月1日から)
西塚 至	みなと保健所健康推進課長
高橋 辰美	子ども家庭支援部子ども家庭課長 (平成25年3月31日まで)
櫻庭 靖之	子ども家庭支援部子ども家庭課長 (平成25年4月1日から)
太田 貴二	子ども家庭支援部保育担当課長
中島 博子	子ども家庭支援部子ども家庭支援センター所長 (平成25年3月31日まで)
保志 幸子	子ども家庭支援部子ども家庭支援センター所長 (平成25年4月1日から)
奥野 佳宏	教育委員会事務局庶務課長
山本 睦美	教育委員会事務局教育政策担当課長
白井 隆司	教育委員会事務局生涯学習推進課長
平田 英司	教育委員会事務局指導室長
吉田 久美	保健福祉支援部障害者福祉課発達障害者担当係長
石井 友子	みなと保健所健康推進課地域保健係副係長
駒井 永佳	子ども家庭支援部子ども家庭課子ども家庭係長
小野口 敬一	子ども家庭支援部子ども家庭課子ども政策担当係長
小原 淳	子ども家庭支援部子ども家庭課施設計画担当係長 (平成25年3月31日まで)
宮内 宏之	子ども家庭支援部子ども家庭課子ども政策担当係長 (平成25年4月1日から)
服部 由子	子ども家庭支援部子ども家庭支援センター相談担当係長
中山 勝	教育委員会事務局庶務課庶務係
吉益 晃夫	教育委員会事務局庶務課教育政策担当係長 (平成25年3月31日まで)
柴崎 早苗	教育委員会事務局庶務課教育政策担当係長 (平成25年4月1日から)
五十殿 康代	教育委員会事務局生涯学習推進課生涯学習係長
白石 亨	教育委員会事務局指導室統括指導主事 (平成25年3月31日まで)
瀧島 啓司	教育委員会事務局指導室統括指導主事 (平成25年4月1日から)

刊行物発行番号 25234-5811

港区における
子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査報告書

平成26年（2014年）2月発行
発行 港区政策創造研究所（港区企画経営部）
東京都港区芝公園1-5-25
電話 03-3578-2111（代表）